

か と う だ ひがし ばる

方保田東原遺跡 12

—都市計画(公共下水道)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成9年度 5工区・8工区

平成11年度 31工区

平成12年度 8工区

平成16年度 2工区 (第52次調査)

2009

熊本県 山鹿市教育委員会

かとうだひがしばる
方保田東原遺跡 12

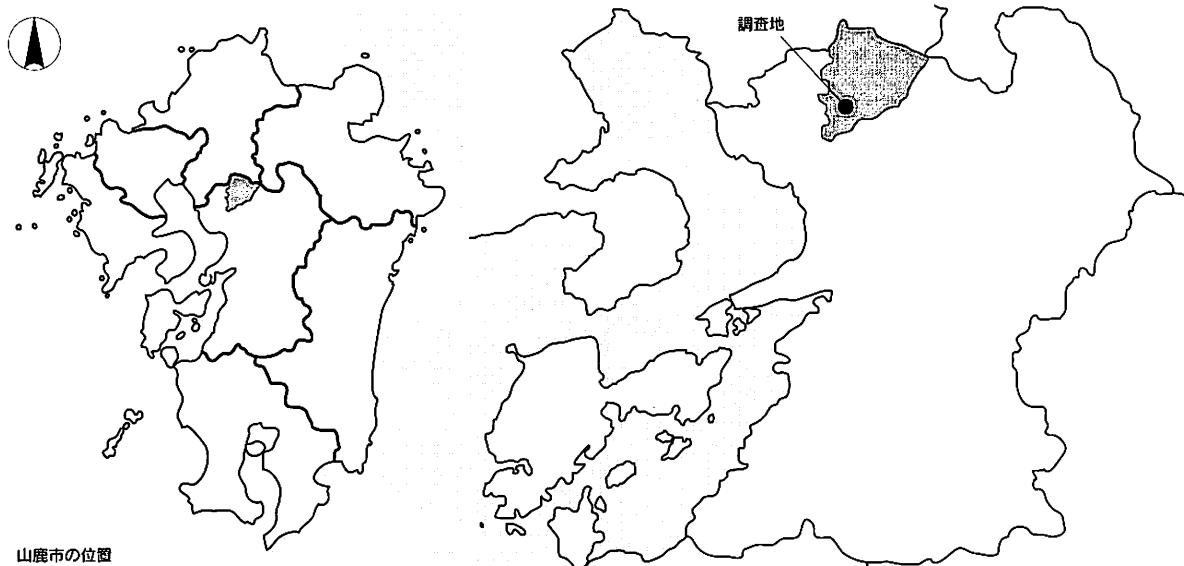
—都市計画(公共下水道)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成9年度 5工区・8工区

平成11年度 31工区

平成12年度 8工区

平成16年度 2工区 (第52次調査)



2009

熊本県 山鹿市教育委員会



1 調査地遠景（南から）



2 T-1 全景（北から）

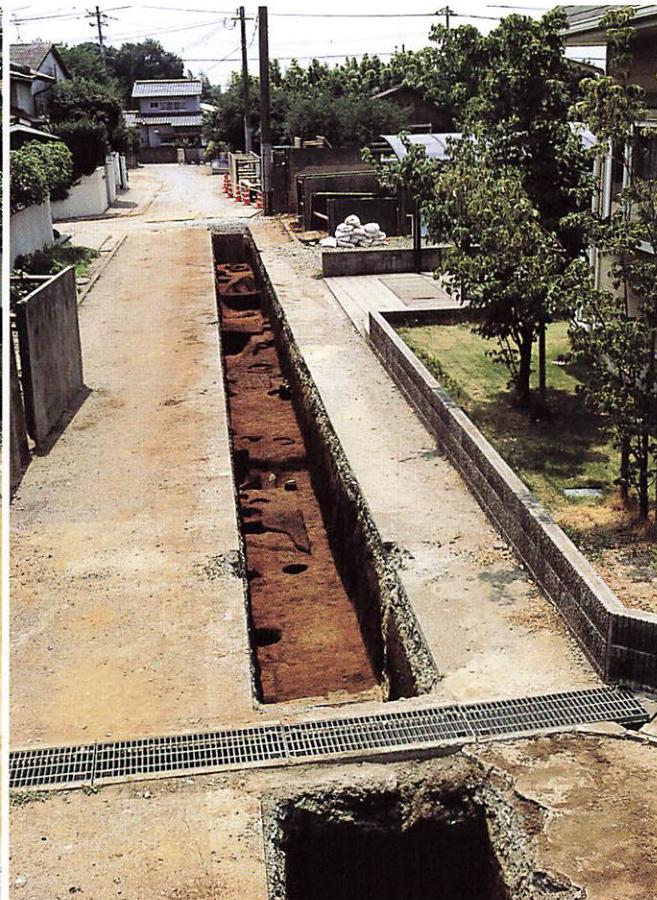


3 T-1 溝 SD-4 土器出土（南東から）

巻頭図版2 第52次調査



1 T-4 全景（南から）



2 T-4 全景（北から）



3 T-2 土坑 SK-67 出土遺物

序 文

方保田東原遺跡は、弥生時代の中九州を代表する大集落遺跡として、昭和60年に国の史跡として指定されました。その後も発掘調査によって多くの発見があったため、平成18年に周辺範囲が追加指定され、山鹿市教育委員会では遺跡の保護と活用を目的として調査や整備に取り組んでいるところです。

今回報告する方保田東原遺跡の発掘調査は、都市計画公共下水道事業に伴うもので、とくに平成16年度に実施した第52次調査では、貴重な資料が多く出土しました。この報告書が、市民の埋蔵文化財保護に対する認識と理解を深め、さらには学術研究の進展に少しでも寄与するならば幸甚に存じます。

なお、本調査を実施するにあたり、文化財保護に理解を頂き、多大な御協力を賜りました地元および関係諸氏に、深く感謝申し上げます。

平成21年3月31日

山鹿市教育委員会
教育長 杉本 作徳

例　　言

- 1 本書は、山鹿市環境部下水道課より依頼されて実施した下記の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
 1. 調査地 熊本県山鹿市方保田字東原地先
 2. 遺跡名 方保田東原（かとうだひがしばる）遺跡（熊本県遺跡番号208-179）
 3. 調査原因 都市計画（公共下水道）事業藤井污水枝線管渠築造工事
 4. 調査期間
平成9年度5工区 平成9年7月
平成9年度8工区 平成9年12月～平成10年1月
平成11年度31工区 平成11年11月～平成12年1月
平成12年度8工区 平成12年12月～平成13年1月
平成16年度2工区 平成16年6月～平成16年10月（第52次調査）
整理調査 平成16年10月～平成21年3月、出土文化財管理センター
- 2 第52次調査の遺構実測と基準点測量を株式会社九州文化財研究所に委託した。現地作業を山鹿市シルバー人材センターに委託した。
- 3 本書の執筆編集は、文化課職員の協力を得て宮崎が行なった。
- 4 調査で出土した遺物および作成した図面・写真等は、すべて山鹿市出土文化財管理センターで保管している（〒861-0382熊本県山鹿市方保田128番地・電話0968-46-5512）。

凡　　例

- 1 本書で用いた標高はT.P.（東京湾平均海面高度）である。平成9年度調査の方位は磁北である。平成16年度第52次調査の方位は世界測地系に基づく。
- 2 本書に掲載した地図は「山鹿市都市計画図1：2,500」平成14年、「山鹿市全図 1：25,000」平成16年の一部を調整したものである。
- 3 本書に掲載した遺構実測図の縮尺は1/50、遺物実測図の縮尺は土器1/4、鉄製品1/2を基本とする。各実測図にはスケールを付した。
- 4 遺構は検出順に番号をつけ、性格を現す記号をつけた。S D；溝、S H；竪穴住居、S K；土坑、S X；性格不明。
- 5 出土した赤色顔料付着土器の顔料については、ベンガラと水銀朱を肉眼で判断した。今後の理化学的な測定で結果が変更される可能性がある。

本文目次

序文	
例言	
目次	
第1章 調査の経過	
第1節 調査の経緯	1
第2節 位置と環境	1
第3節 調査の方法	5
①調査の体制	5
②調査の方法	5
第4節 調査の経過	6
第5節 法令等の手続き	7
第2章 第52次調査の成果	
第1節 調査区の位置 (第3図)	8
第2節 層序	8
第3節 遺構と遺物	8
① 1トレンチ	8
② 2トレンチ	8
③ 3トレンチ	16
④ 4トレンチ	17
⑤ 5トレンチ	25
⑥ 6トレンチ	44
⑦ 鉄製品	44
第3章 その他の調査	
第1節 調査の経緯	48
第2節 法令等の手続き	48
第3節 平成9年度調査	48
① 8工区	48
② 5工区	49
第4節 平成11年度調査	49
① 31工区	49
第5節 平成12年度調査	49
① 8工区	49
第6節 補遺;平成15年度調査の未報告資料	49
① 石杵 (第49次調査出土)	49
② 鉄製品 (第51次調査出土)	50
第4章 まとめ	
第1節 遺構	57
第2節 遺物	57

挿図目次

第1図	方保田東原遺跡の位置	1
第2図	調査区の位置	2
第3図	調査区の配置と周辺の調査	4
第4図	1トレンチ平断面①	9
第5図	1トレンチ平断面②	10
第6図	1トレンチ出土遺物①SD-1・SD-4	11
第7図	1トレンチ出土遺物②SD-4	12
第8図	1トレンチ出土遺物③SD-4	13
第9図	1トレンチ出土遺物④SD-4	14
第10図	1トレンチ出土遺物⑤SD-4	15
第11図	1トレンチ出土遺物⑥SD-4ほか	16
第12図	2トレンチ平断面①	18
第13図	2トレンチ平断面②	19
第14図	2トレンチ出土遺物①SH-7	20
第15図	2トレンチ出土遺物①SH-7ほか	21
第16図	3トレンチ平断面①	22
第17図	3トレンチ平断面②	23
第18図	3トレンチ出土遺物①	24
第19図	3トレンチ出土遺物②	25
第20図	4トレンチ平断面①	26
第21図	4トレンチ平断面②	27
第22図	4トレンチ出土遺物①SD-65ほか	28
第23図	4トレンチ出土遺物②SK-67	29
第24図	4トレンチ出土遺物③SK-67ほか	30
第25図	5トレンチ平断面①	31
第26図	5トレンチ平断面②	32
第27図	5トレンチ平断面③	33
第28図	5トレンチ出土遺物①	34
第29図	5トレンチ出土遺物②	35
第30図	5トレンチ出土遺物③SD-133	36
第31図	5トレンチ出土遺物④SD-133	37
第32図	5トレンチ出土遺物⑤SD-133	38
第33図	5トレンチ出土遺物⑥SD-133	39
第34図	5トレンチ出土遺物⑦SD-133ほか	40
第35図	5トレンチ出土遺物⑧SD-143	41
第36図	5トレンチ出土遺物⑨SD-143	42
第37図	5トレンチ出土遺物⑩SD-143	43
第38図	5トレンチ出土遺物⑪	44
第39図	6トレンチ平断面ほか	45
第40図	鉄製品①	46
第41図	鉄製品②	47
第42図	平成9年度8工区 調査区の配置	48
第43図	平成9年度8工区 平面①	51
第44図	平成9年度8工区 平面②	52
第45図	平成9年度8工区 出土遺物①	53
第46図	平成9年度8工区 出土遺物②	54
第47図	平成11年度31工区・西8工区出土遺物①	55
第48図	平成11年度西8工区出土遺物②・ 平成15年度出土遺物	56
第49図	第52次調査と周辺遺構の位置関係	58

表 目 次

表1 方保田東原遺跡 これまでの調査	3
表2 周辺の調査	4
表3 方保田東原遺跡 報告書一覧	4
表4 第52次調査のトレンチ	5

卷 頭 図 版

卷頭図版1 第52次調査	
1 調査地遠景（南から）	
2 T-1全景（北から）	
3 T-1溝SD-4土器出土（南東から）	
卷頭図版2 第52次調査	
1 T-4全景（南から）	
2 T-4全景（北から）	
3 T-2土坑SK-67出土遺物	

写 真 図 版

図版1 第52次調査1トレンチ（T-1）	
1. T-1全景（南から）	
2. T-1全景（北から）	
3. T-1南端検出（北から）	
4. T-1溝SD-1（北から）	
5. T-1溝SD-1完掘（北東から）	
6. T-1溝SD-1土器出土（北東から）	
図版2 第52次調査1トレンチ（T-1）溝SD-4	
1. T-1溝SD-4全景（南東から）	
2. T-1溝SD-4西壁（北東から）	
3. T-2溝SD-4遺物出土（南東から）	
図版3 第52次調査2トレンチ（T-2）	
1. T-2全景（南から）	
2. T-2全景（北から）	
3. T-2北端検出（南東から）	
4. T-2北端検出（北から）	
図版4 第52次調査2トレンチ（T-2）	
1. T-2土坑SK-6（北東から）	
2. T-2住居SH-7土器出土（北東から）	
3. T-2住居SH-7（北東から）	
4. T-2炉SK-204断面（北東から）	
図版5 第52次調査3トレンチ（T-3）	
1. T-3全景（東から）	
2. T-3全景（西から）	
3. T-3土坑SK-14断面（東から）	
4. T-3柱穴PIT-42～44検出（南東から）	
5. T-2土坑SK-24～25完掘（南東から）	
6. T-3作業風景	
図版6 第52次調査4トレンチ（T-4）	
1. T4-2全景（北から）	
2. T4-2全景（南から）	
3. T4-1完掘（南東から）	
4. T4-1西壁（南東から）	
5. T4-3完掘（南西から）	
6. T4-3土坑SK-92（南西から）	

図版7 第52次調査4トレンチ（T4-2）	
1. T4-2溝SD-65（北東から）手前が11mセクション	
2. T4-2溝SD-65（南西から）手前が7mセクション	
3. T4-2溝SD-65 11mセクション南壁（南西から）	
4. T4-2溝SD-65 7mセクション南壁（南西から）	
図版8 第52次調査4トレンチ（T4-2）	
1. T4-2土坑SK-67（南から）	
2. T4-2住居SH-68と炉（南東から）	
3. T4-2住居SH-61（北東から）	
4. T4-2住居SH-70東断面（南西から）	
図版9 第52次調査5トレンチ（T5-1・2）	
1. T5-2全景（西から）	
2. T5-2全景（東から）	
3. T5-2溝SD-114（北東から）	
4. T5-2溝SD-119（東から）	
5. T5-1全景（東から）	
6. T5-1検出作業（南西から）	
図版10 第52次調査5トレンチ（T5-3）	
1. T5-3全景（西から）	
2. T5-3全景（東から）	
3. T5-3土坑SK-132（北西から）	
4. T5-3溝SD-143（東から）	
5. T5-3溝SD-133（北西から）	
6. T5-3東端付近（東から）	
図版11 第52次調査6トレンチ（T-6）・立会	
1. T-6全景（東から）	
2. T-6南壁（北から）	
3. 248工区立会（南から）	
4. 248工区立会（北から）	
図版12 平成9年度8工区・5工区	
1. 8工区T-1溝（12.5m付近、西から）	
2. 8工区T-2柱穴（30m付近、東から）	
3. 8工区T-2 1号溝（68m付近、北から）	
4. 8工区T-1作業風景（東から）	
5. 5工区立坑掘削（132番地付近、南から）	
6. 5工区立坑掘削（110-2番地付近、南西から）	
図版13 平成11年度31工区	
1. 31工区検出作業（北側、南東から）	
2. 31工区検出（北側、南東から）	
3. 31工区溝（北側、南東から）	
4. 31工区検出作業（南側、北東から）	
図版14 第52次調査出土遺物（1トレンチ溝SD-1・SD-4）	
図版15 第52次調査出土遺物（1トレンチ溝SD-4）	
図版16 第52次調査出土遺物（1・2・3・4トレンチ）	
図版17 第52次調査出土遺物（5トレンチ溝SD-133・134）	
図版18 第52・49次調査出土遺物	
（赤色顔料付着土器・鉄器・石器）	

第1章 調査の経過

第1節 調査の経緯

方保田東原遺跡は昭和30年の発掘調査以後、断続的に調査が実施され、同47年の開発に先立つ市教委による調査成果などによって同60年に国史跡に指定された。山鹿市教育委員会では遺跡の重要性に鑑み、平成8年から同16年にかけて範囲確認調査・内容確認調査を行い、遺跡の範囲と内容の把握に努めてきた。平成18年にはこれらの成果に基づき、地権者の協力を得て史跡の追加指定を申請し、遺跡範囲は合計10万m²以上となっている。

平成16年度に遺跡範囲内において都市計画（公共下水道）事業が計画され、工事内容は埋蔵文化財に影響を及ぼすものであった。事業地区は周辺におけるこれまでの発掘調査成果から重要な遺構が存在することが推定されたため、下水道課と協議の結果、工事内容変更等の保存措置をとることができなかった。このため、やむを

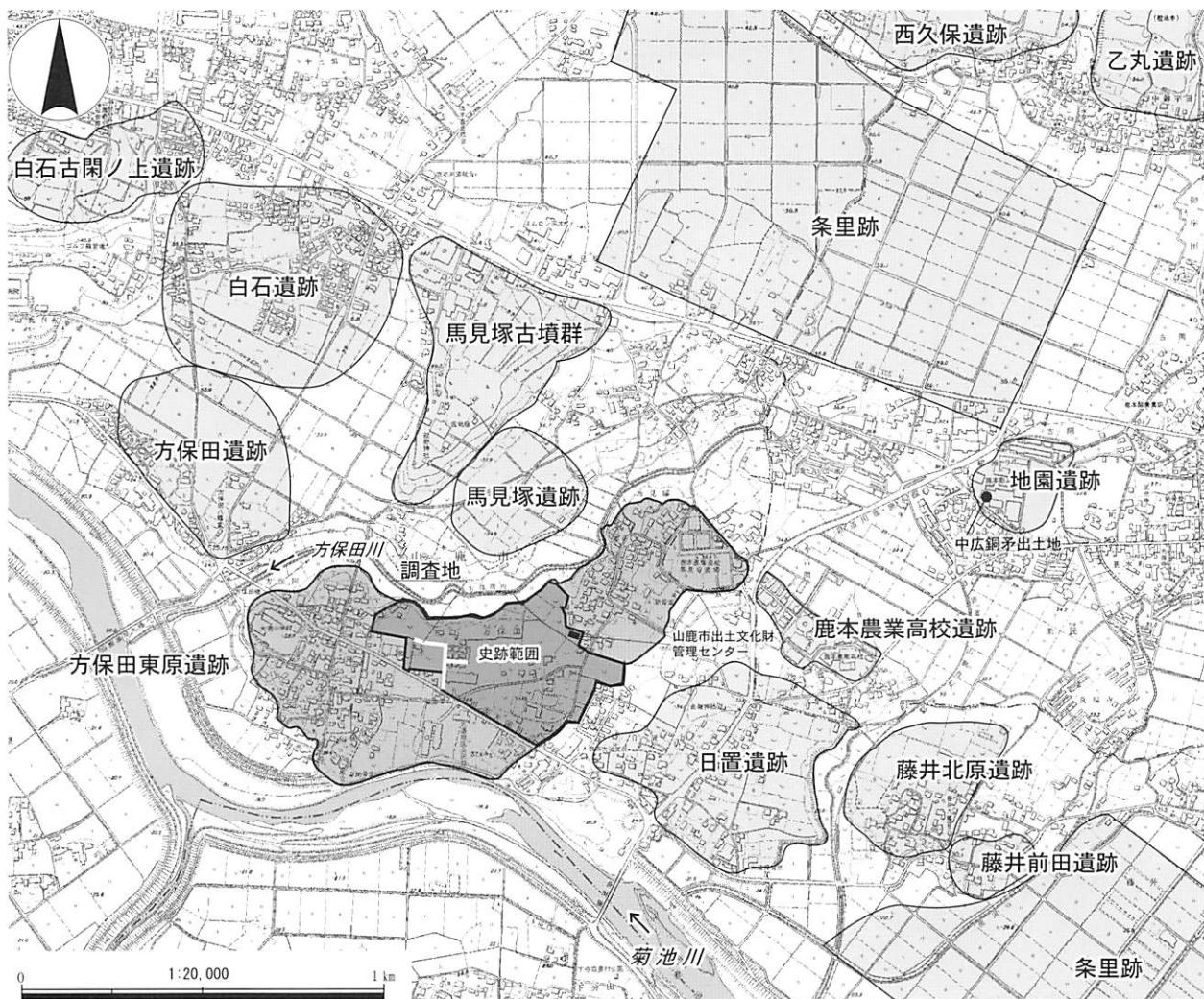
得ず山鹿市教育委員会によって発掘調査を実施し、記録保存することとなった。

また、平成9～12年度にも近接した地区で下水道事業が実施されており、その調査成果については第3章で述べる。以下はとくに言及のない限り、平成16年度に実施した第52次調査についての記述である。

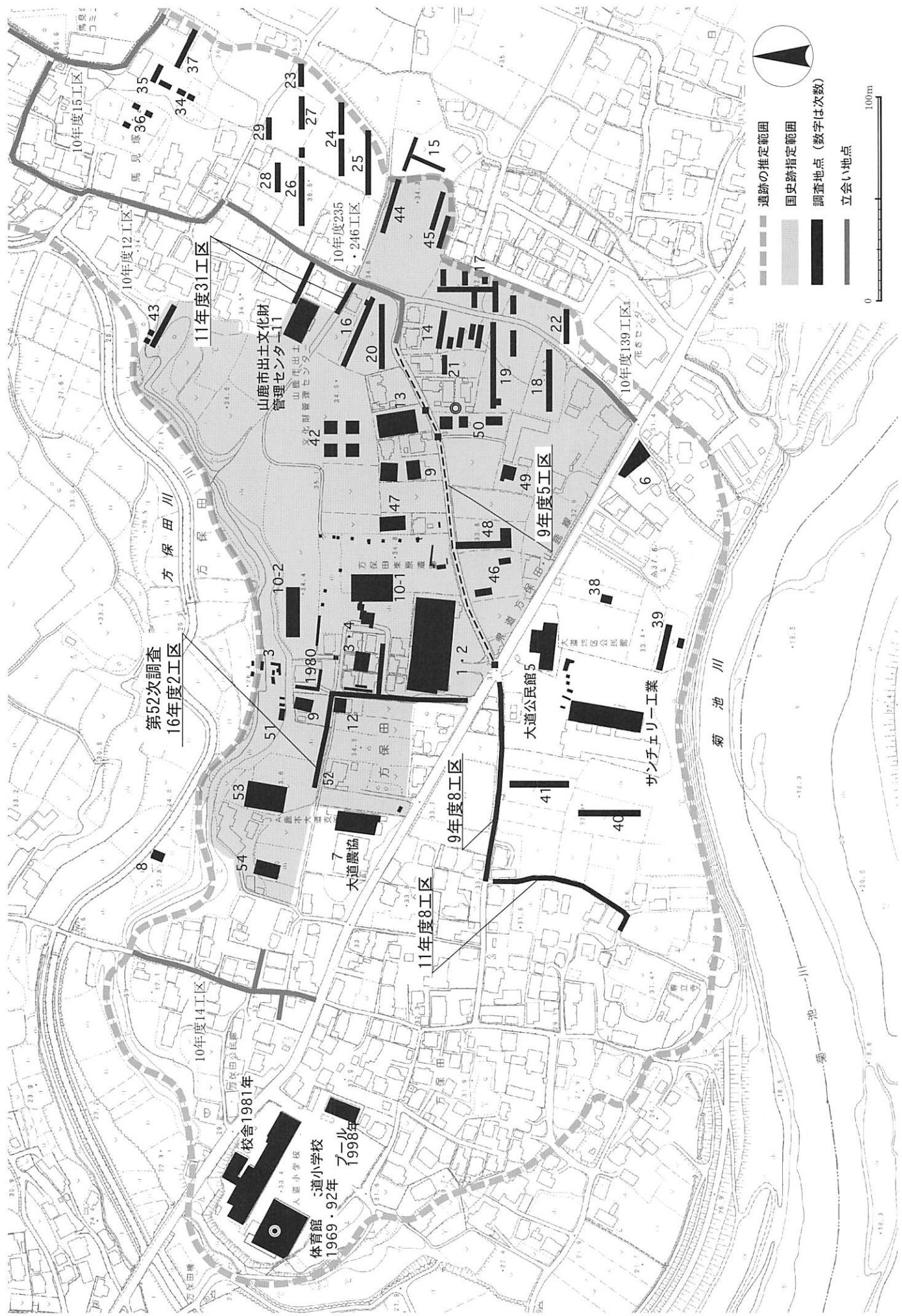
第2節 位置と環境

方保田東原遺跡は山鹿市の南部に位置し、阿蘇山中腹に発した菊池川の中流右岸の台地上に立地する（第1・2図）。菊池川およびその支流である方保田川によって形成された河岸段丘が、台地南北の縁辺をなす。台地上面はほぼ平坦で、一帯は住宅地・畠地として利用されている。

今回の調査地周辺では、数回の発掘調査が実施されている（第2・3・49図、表1・3）。南東では工場建設に伴う調査（第1・2次、1972・74年）があり、調査当初に巴形銅器が出土したことで遺跡の重要性が明らかとなった。個人住宅建設に伴う調査（第9・12次、1991・



第1図 方保田東原遺跡の位置

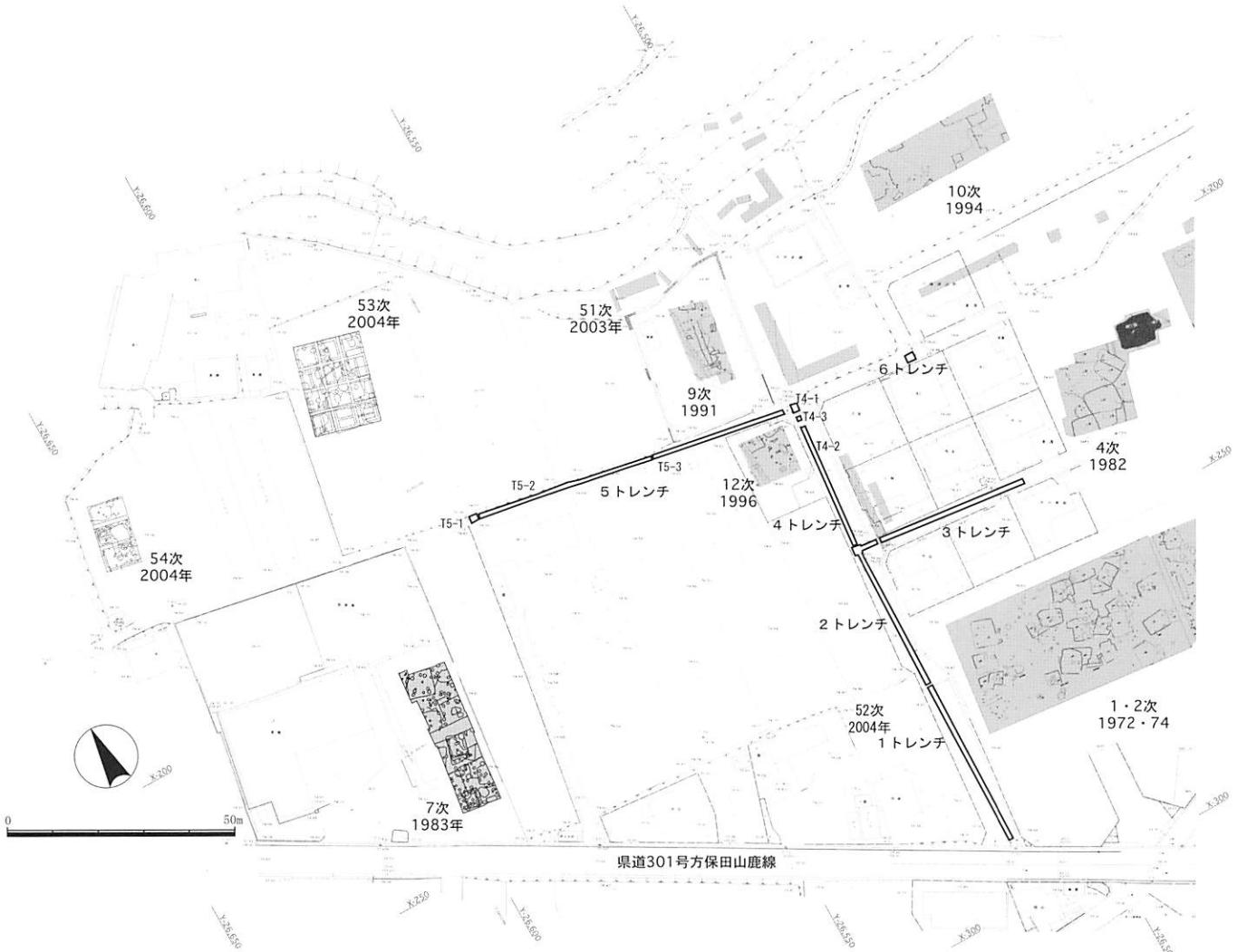


第2図 調査区の位置

年度	次数	地番	原因	主要遺構	主要遺物	報告書等	面積(m ²)
1955	S 30	57-1	個人住宅	住居、石棺		※山鹿高校調査	20
1966	41	塚の本137-1	畠造成	甕棺2・箱式石棺1		石人:8-2,1967	
1969	44	大道小	体育館	甕棺	丹塗長頸壺	考古学雑誌:69-1,1983	448
1971	46	一本杉302	畠造成	箱式石棺1		※鹿本高校調査	
1972	47		工場 試掘	住居、石棺		チブサン:27,1973	20
1972	47	1 87、91	工場 本調査	住居25	巴形銅器、銅鏡	方:2集,1982	1,080
1973	48	162	建物	石棺		※鹿本高校調査	
1974	49	2 91-1	工場	住居10、木棺蓋9、石棺蓋2、土坑墓、鍛冶遺構		方:2集,1982	513
1976	51	79-2	畠造成	石棺		※市教委調査	6
1980	55	32-1	個人住宅	住居	銅鏡	方:2集,1982	
1981	56	3 87-2ほか	宅地造成	住居32、溝10		方:2集,1982	558
1981	56	大道小	校舎	住居6、石棺2	舶載鏡	方:2:4集,1984	959
1982	57	4 87-2ほか	遺構確認	住居9、土器溜め	小型仿製鏡	方:2集,1982	154
1982	57	5 155-3	大道公民館	住居24、溝3		方:2:5集,1984	551
1983	58	6 168-1	倉庫	住居		※市教委調査	201
1984	59	7 63	農協	住居19、溝1	石庖丁形鉄器	方:3:7集,1987	290
1990	H 2	8 1554	遺構確認	水田	墨書き土器	市内遺跡:11集,1991	141
		186-1	工場	住居16、溝5	銅鏡	方:11:8集,2009	1,041
1991	3	9 32-2ほか	個人住宅	住居14、溝3	銅鏡2	市内遺跡:12集,1992	405
1992	4	大道小	体育館	住居2、溝2、甕棺13	舶載鏡片	方:7:2集,2006	1,227
1994	6	10 91-14ほか	遺構確認	住居20、道路3	銅鏡・石杵	※市教委調査	910
1995	7	11 128	管理センター	住居3、溝8、方形周溝墓1		方:9:6集,2008	435
1996	8	12 84-3	個人住宅	住居2、溝1、土坑2	鉄器多数	方:IV:14集,2001	100
		13 119	範囲確認	住居20、土坑13	小型仿製鏡2、棒状石杵	方:IV:14集,2001	516
		14 135	範囲確認	住居、溝		方:IV:14集,2001	141
		15 274-1	範囲確認	溝		方:IV:14集,2001	94
1997	9	16 131	範囲確認	住居5、溝3、土坑2、道路2		方:IV:14集,2001	138
		17 268	範囲確認	住居10、溝8、道路6	畿内系長頸壺	方:IV:14集,2001	257
		18 141	範囲確認	住居7、溝4、石棺2	臼玉、舶載鏡片	方:IV:14集,2001	104
		19 138	範囲確認	住居5、溝7、円墳周溝	力牛貝殻	方:IV:14集,2001	240
		20 132	範囲確認	住居1、溝1、道路1		方:IV:14集,2001	100
		21 136-1	範囲確認	溝2		方:IV:14集,2001	74
		22 267	範囲確認	住居2、道路2、溝2		方:IV:14集,2001	90
			下水道工事	溝、土坑		本書 ※5工区・8工区	
1998	10	23 813	範囲確認	溝1		方:IV:14集,2001	52
		24 814	範囲確認	住居6、溝3、土坑1		方:IV:14集,2001	164
		25 816/817	範囲確認	住居6、溝1		方:IV:14集,2001	98
		26 820	範囲確認	住居1、溝1、土坑1		方:IV:14集,2001	44
		27 821	範囲確認	住居		方:IV:14集,2001	52
		28 824-2	範囲確認	土坑3		方:IV:14集,2001	51
		29 825	範囲確認	溝2、土坑1		方:IV:14集,2001	117
		大道小	ブル	搅乱多し	家形土器、舶載鏡片	方:7:2集,2006	720
1999	11	30 881	範囲確認	溝		方:IV:14集,2001	32
		31 888	範囲確認	なし		方:IV:14集,2001	12
		32 893	範囲確認	なし		方:IV:14集,2001	8
		33 1019	範囲確認	なし		方:IV:14集,2001	6
		34 932-1	範囲確認	住居1		方:IV:14集,2001	12
		35 932-2	範囲確認	土坑3		方:IV:14集,2001	16
		36 932-4	範囲確認	なし		方:IV:14集,2001	12
		37 831	範囲確認	溝4、土坑2		方:IV:14集,2001	60
		38 177-2	範囲確認	住居1		方:IV:14集,2001	6
		39 220	範囲確認	溝4、土坑2		方:IV:14集,2001	50
			下水道工事	溝、土坑		本書 ※31工区	
2000	12	40 209	範囲確認	住居4、溝5、土坑8	小型仿製鏡、銅鏡、鉄釣針	方:IV:14集,2001	200
		41 196-1	範囲確認	溝1、土坑1、道路1	鐸形土製品	方:IV:14集,2001	100
			下水道工事	溝、土坑		本書 ※8工区	
2001	13	42 120-1	内容確認	住居36、溝2、土坑13	銅鏡、印形土製品、滑石勾玉	方:5:17集,2004	400
		43 6	内容確認	溝2	石杵	方:5:17集,2004	170
		44 273	内容確認	住居3、溝1、土坑11	L字状石杵	方:5:17集,2004	100
		45 269-2	内容確認	住居4、溝3、土坑3	銅鏡	方:5:17集,2004	100
2002	14	46 151	内容確認	住居4、溝2、木棺蓋6	家形土器?片、鉄ヤリガンナ	方:8:4集,2007	250
		47 110-2	内容確認	住居18、土坑1、溝19	仿製鏡、石杵、赤色顔料土器多数	方:8:4集,2007	300
		48 148	内容確認	住居11、土坑2、溝10	鐸形土製品、絵画土器	方:8:4集,2007	270
2003	15	49 146	内容確認	住居14、溝1、土坑8、主体部	赤彩石棺片、竹管文二重口縁壺	方:8:4集,2007	123
		50 137-1	内容確認	住居12、溝1、土坑18、甕棺	銅鏡	方:8:4集,2007	215
		51 30・33	内容確認	溝2		方:8:4集,2007	38
2004	16	52 87-6ほか	下水道工事	住居11、溝11、土坑13		本書	271
		53 35	内容確認	住居9、溝1、土坑2		方:10:7集,2008	300
		54 41-1	内容確認	住居4、甕棺1		方:10:7集,2008	120

表1 方保田東原遺跡 これまでの調査

調査面積合計(m²) 15,280.5



第3図 調査区の配置と周辺の調査

調査次数 (地番)	調査年度	調査原因・目的	調査成果	掲載報告書
1・2次(87番地ほか)	1972・74	工場建設	住居、土坑。巴形銅器。	市博報告第2集、1982
7次(63番地)	1984	農協建設	住居、溝。石包丁形鉄製品。	市博報告第7集、1987
9次(32-2番地ほか)	1991	個人住宅建設	住居、溝。	市博報告第12集、1992
12次(84-3番地)	1996	個人住宅建設	住居、溝。鉄器多数。	市博報告第14集、2001
51次(30番地ほか)	2003	遺跡内容確認	溝。	文化財報告第4集、2007
53・54次(35番地ほか)	2004	遺跡内容確認	住居、溝。	文化財報告第7集、2008

表2 周辺の調査

書名	シリーズ名・番号	発行年	内容
方保田東原遺跡	山鹿市立博物館調査報告書第2集	1982	昭和47・49・56年度(1~3次)範囲確認
方保田東原遺跡(2)	山鹿市立博物館調査報告書第3・4集	1984	昭和56・57年度(5次)小学校・公民館建設
方保田東原遺跡(3)	山鹿市立博物館調査報告書第7集	1987	昭和59年度(7次)事務所建設
市内遺跡確認調査報告書	山鹿市立博物館調査報告書第11集	1991	平成2年度(8次)水田遺構確認
市内遺跡確認調査	山鹿市立博物館調査報告書第12集	1992	平成3年度(9次)個人住宅建設
方保田東原遺跡IV	山鹿市文化財調査報告書第14集	2001	平成8~12年度(13~41次)範囲確認
方保田東原遺跡(5)	山鹿市文化財調査報告書第17集	2004	平成13年度(42~45次)内容確認
方保田東原遺跡(6)	山鹿市文化財調査報告書第18集	2005	平成14年度(46~48次)調査概要
方保田東原遺跡(7)	山鹿市文化財調査報告書第2集	2006	平成4・10年度 小学校体育館・プール改築
方保田東原遺跡(8)	山鹿市文化財調査報告書第4集	2007	平成14・15年度(46~51次)内容確認
方保田東原遺跡(9)	山鹿市文化財調査報告書第6集	2008	平成7年度(11次)文化財管理センター建設
方保田東原遺跡10	山鹿市文化財調査報告書第7集	2008	平成16年度(53・54次)遺跡内容確認
方保田東原遺跡11	山鹿市文化財調査報告書第8集	2009	平成2年度 工場建設

表3 方保田東原遺跡 報告書一覧

96年)では南から北に伸びる溝が検出され、今回の調査でも同一の遺構(5トレンチ溝SD-143)を検出した。この溝は台地北縁近くまで達していることが内容確認調査(第51次、2003年)で確認できている。

なお、遺跡における地理的・歴史的環境およびこれまでの調査内容の詳細については、既刊報告書を参照されたい(表2)。

第3節 調査の方法

①調査の体制

主 体 山鹿市教育委員会
責 任 者 中原哲也(教育長、平成12年9月30日まで)、田中 宏(同、平成21年2月28日まで)、杉本作徳(同、3月1日から)

(1) 発掘調査

事 務 局 池田幸一(教育次長)
隈 昭志(博物館長)、中村幸史郎(同首席研究員兼文化財調査係長)、山口健剛、宮崎 歩(調査担当)
作 業 員 山鹿市シルバー人材センター
井口計介、岩本正美、佐藤昭三、築島節子、平尾トシ子、平尾直孝、堀 京之助、若杉敬子
事業担当 渕上富雄(環境部下水道課長)、古江直美(同事業係長)、竹熊博文
施工担当 竹下建設

(2) 整理作業

事 務 局 八木田達博(教育部長)
木村理郎(文化課長)
中村幸史郎(同審議員兼文化財係長)
山口健剛、宮崎 歩(調査担当)
作 業 員 前田軍治(教育委員会嘱託、平成18年3月31日まで)、野満彩子(同、4月1日から)、大森よう子、城 葉子、森 みつよ、山口美智子、芋生よしや

②調査の方法

対象地のアスファルト除去・表土掘削は工事業者による。工期の都合上、調査員が包含層の状態を確認しながら遺構面まで重機で掘り下げた。その後作業員によって遺構面を清掃し、遺構を検出して検出状況写真を撮影した。平面で完全に検出できない遺構は、サブトレンチを掘削し

て断面でも確認した。遺構番号は検出順に設定し、性格を推定して記号をつけた。整理段階で新しく設定した番号もある(2トレンチの201~205)。

工事の掘削は南から北へ、西から東へと進められた。遺物取り上げ等に際して調査区の南もしくは西端を基準とした簡易的座標を設定した。この距離は調査区における位置を表示するため、遺構番号とともに遺物の取り上げラベルなどに「○m地点」として記入している。

工事範囲のみを調査対象としたため、調査区の幅員は1m程度と狭小で、検出遺構の全体が把握できず、充分な遺構検出が困難であった。土坑と溝など遺構の性格は推測で判断したものも多い。また、写真撮影に際しても光線やアンガルなどが制限されることがしばしばであった。

地表面は南から北に高くなるのに対して、遺構面はほぼ水平であった(第2章第2節)。このため地表から遺構面までの深さは次第に深くなり、調査終盤の4・5トレンチを掘削する頃には8月から9月にかけての残暑の時期を深さ1.5m近いトレンチの底で作業することとなり、熱中症や脱水症状防止のため、こまめな休憩や水分補給を心がけた。さらに、夜間照明や転落防止のフェンスを設置して安全対策とした。

遺構は電子平板により図化し、標高を記録した。検出中に包含層から出土するなど遺構に伴わない遺物は地区と層位を確認して取り上げ、石器や鉄器などの特殊な遺物は出土地点と標高を記録して取り上げた。遺構写真は調査員がカラーリバーサル・モノクロフィルムを使用して撮影した。撮影は35mmフィルムカメラを基本に、補助用としてデジタルカメラ、全体写真用として中型カメラを使用した。

今回の調査で出土した遺物の量は、内法54×34×15cmのコンテナで45箱、重量は528.85kgである。遺物量が多いのは溝で、1トレンチのSD-4(65.3kg)、5トレンチSD-133(197.11kg)・

トレンチ 名 称	工区 名 称	延長 (m)	作業員 (人)	延日数 (日)	遺物量 (kg)
1	253南	35	35	6	85.9
2	253北	36.5	40	6	40.98
3	252	39	30	6	42.66
4-1	M-3	2	2	1	1
4-2・3	251	33.5	40	6	66.94
5-1	M3-1	1.5	2	1	0.98
5-2	247西	23.5	20	4	14.26
5-3	247東	50	64	8	274.25
6	M2	2	2	1	1.88
合 計		223	235	39	528.85

表4 第52次調査のトレンチ

SD-143 (34.02kg) が際立つ。5トレンチの二つの溝だけでも全遺物量の43.7%を占めている。

整理調査はこれらの遺物をすべて水洗・乾燥して取り上げ単位（主にビニール袋ごと）で台帳を作成した※1。その中から調査員が遺物を選別し、遺構の時期を示すものや特徴的なものを中心に注記した後、接合・復元した。実測は作業員が中心に行い、適宜担当者が確認した。鉄器については担当者も実測した。遺物実測図は印刷仕上がりの二倍サイズに縮小し、ロットリングペンでトレースした。遺構実測図は担当者がデジタルトレースした。遺物写真は担当者が撮影した。整理作業の終了した全ての遺物や実測図・写真類は、出土文化財管理センターで保管している。

第4節 調査の経過

6/14（快晴）現場開始、機材搬入。T-1：重機掘削、36mまで。舗装と碎石で15cm。南端と北端に遺構残存。古墳から古代の包含層。中央付近は水道管で大きく搅乱される。

6/15（曇後晴）T-1：北端、溝SD-1、土器。出土状況、溝断面撮影。他の遺構はどれも浅い。南端、黒褐色土の包含層。幅3m程度の溝か。

6/16（晴後曇）T-1：南端、溝SD-4掘削。鉄器2点出土。現地表面より120cm、丸底甕など出土しはじめる。T-2：重機掘削、一部搅乱されるが残存状態良好。検出写真撮影。

6/17（晴後曇）T-1：南端、溝SD-4掘削。鉄器1点出土。土器出土状況撮影。南側から投棄された様相。GL-160cmで底部、ほぼ平坦。南端、溝SD-1完掘状況撮影。T-2：遺構検出、掘削。北端に住居らしき遺構。南端に土坑か？土器だまり。

6/18（晴後曇）T-1：溝SD-4南岸、搅乱でやや不明瞭。全景撮影、南北両端と溝中心。T-2：遺構掘削。南端土坑SK-1、土器取り上げ。中央の土坑SK-6、深い。南端SX-5、鉄器2点。

6/21（曇時々雨）台風6号接近のため現場中止。

6/22（曇時々晴）T-2：掘削。T-1：測量待機。南端柱穴P-7・8、中央土坑SK-6、完掘写真撮影。北端SX-5より鉄器5点。

6/23（晴時々曇）T-2：掘削、清掃。全景写真撮影。北端SX-5、掘削土をふるいにかけるが、特に出土せず。全面にシート掛け、養生。

6/25（曇時々雨）降雨のため現場作業休止。

実測委託業者の九州文化財研究所と打ち合わせ。

6/28（曇後晴）T-1・2：排水、泥あげ。シ-

トのおかげで崩落箇所ほとんどなし。SD-4土器とりあげ、掘削。T-3：重機掘削。80cmで地山の茶褐色土。包含層に古代の土器多し、包含層に遺構面があるはずだが判別できない。

6/29（晴後曇）T-1：SD-4土器とりあげ、掘削。ほぼ完了。溝の底部は平坦。平面図。T-2：北端遺構掘削。切り合い多く、複雑。T-3：遺構検出。包含層、古墳末から古代の土器。

6/30（快晴）T-1：西壁断面図。T-2：北端遺構掘削。床に切られる溝か。T-3：遺構検出。検出状況撮影。掘削開始。

7/1（快晴）T-1：西壁断面図実測、完成。T-2：北端遺構掘削。完掘写真撮影。西壁断面図実測開始。T-3：遺構検出、掘削。西端に焼土を含む土坑SK-14。小規模な遺構が中心。

7/2（曇後快晴）T-1：SD-1, 4の断面の土器取り上げ。T-2：北端遺構掘削。平面図、西壁断面図。T-3：遺構掘削。柱穴や土坑。鉄器3点。

7/5（曇後晴）T-2：一部の掘削、平面図補足。T-3：遺構掘削、完掘写真。遺構断面3箇所。

7/6～7/7（晴後曇）気温35℃。T-3：一部の遺構掘削。北壁断面図実測。

7/8～9（曇一時雨）T-3：現地にて平面図校正、一部柱穴の再測。現場引渡し。

7/16（晴時々曇）T-4-1：重機掘削。遺構検出。検出写真撮影。断面写真撮影。遺構掘削。完掘写真撮影。明日実測の予定。

7/20（曇後晴）T-4-2：重機掘削。遺構検出。南端で遺構面まで80cm、北端で130cmとやや浅い。南端付近で包含層から古墳時代の土器多量に出土。

7/21（曇後晴）酷暑。T-4-2：遺構検出。検出写真撮影。南端付近、溝と住居の切り合い。SK-67土器だまり出土状況撮影。赤彩文様あり。

7/22（曇時々晴）炎暑。T-4-2：遺構検出。掘削。土器だまり取り上げ。SD-65サブトレンチ断面撮影、実測。各遺構より鉄器など出土。

7/23（晴）暑い。T-4-2：遺構掘削。SD-65掘削。SH-68掘削。

7/26（晴後曇一時雨）T-4-2：遺構掘削。清掃、完掘写真撮影。

7/27（晴後曇）T-4-2：セクション掘削。鉄器取り上げ。断面実測開始。T-4-3：土器取り上げ。土坑上面に甕と白粘土。完掘写真撮影。

7/28（晴）T-4-2・3：平・断面図実測。完了区間146.0m (50%)、作業員累計146人 (48%)。

7/30（晴）T-4-2・3：平・断面図校正。調査区西壁SK-67の掘削。工程打ち合わせ。

8/3（曇時々晴）暑い。T-5-1：重機掘削。遺構検出。住居？、土坑、柱穴。若干の遺物出土。

完掘写真撮影。

8/4 (曇後晴後雨) T5-1 : 平・断面図実測。

8/6 (晴) T5-2 : 重機掘削。遺構検出。住居、土坑、柱穴。若干の遺物出土。検出写真撮影。

8/9 (晴後雷雨) T5-2 : 遺構検出。住居、土坑、柱穴。遺構掘削、午後より大雷雨、退避。排水と復旧に追われ、掘削に至らず。

8/10 (晴時々曇) T5-2 : 遺構掘削、SD-114 (かなり規模が大きいが遺物は極少量)。午後より曇って雷も鳴るが雨は降らない。南壁実測開始。

8/11 (晴) T5-2 : 遺構掘削。SD-114、SD-1

19清掃、完掘写真撮影。南壁および平面図実測。

8/12 (晴) T5-2 : 遺構平面図の校正。工事掘削開始。山鹿の夏本番、お盆と灯籠祭。

8/18 (晴後曇) T5-3 : 重機掘削、延長50m。溝など幅の広い遺構が多い。土器なども多量に出土。遺構検出中に包含層から鉄器4点、土製紡錘車1点(完形)が出土。

8/19 (曇時々雨) 台風接近で現場中止。強風。

8/20 (曇後雨後晴) T5-3 : 西半部を中心遺構掘削。SK-127より炭と焼土、不明土製品。SK-130よりスプーン形土製品。SD-133より鉄器11点。

8/23 (曇時々晴) T5-3 : 増員、遺構掘削。SK-127、炭と焼土を取り上げて掘削。SK-132完掘、写真撮影。SD-133、多量の土器、鉄器6点出土。

8/24 (曇時々晴) T5-3 : 遺構掘削。完掘写真撮影。SD-127、SK-130、ピット群、東端。SD-133、220cmまで掘削。ほぼ完形の鉄製手鎌。

8/25 (晴時々曇) T5-3 : 遺構掘削、全景写真撮影。鹿本都市文化財保護委員連絡協議会(鹿文協)の自主研修来訪。

8/26 (晴時々曇) T5-3 : 実測開始。昨夕の雷雨で調査区内部に泥が落ち、断面もかなり荒れる。

8/27 (晴) T5-3 : 平面図実測。SD-134北壁の土器取り上げ。西側に偏って出土。柱穴にマムシ。台風対策でフェンスを固定。

9/14 (晴後曇) 暑。T6-1 : 重機掘削。遺構検出。住居?、土坑、柱穴。完掘写真撮影。

9/15 (晴後曇) T6-1 : 実測。南・東断面および平面図。終了、引渡し。

9/30 (晴) 立会い: 249、250工区。120cmで包含層までの掘削。土器若干出土。249工区・M1(東端部分)と250工区西半部分には遺構があるようだ。250工区で鉄器1点。

10/6 (晴) 立会い: 248工区。70~100cm、包含層までの掘削。遺物少量。現地調査終了。

第5節 法令等の手続き

今回の調査における文化財保護法等の法令に基づく手続きは以下のとおりである。

発掘届(57条3) ; 16/5/20山下P2-34号

発掘調査通知(58条2) ; 16/6/14山博M8-25号→16/6/30教文第983号

調査結果通知; 16/10/8 山博M8-43号

発見届・保管証; 16/10/8 山博M8-44号

埋蔵物監査通知; 16/11/19教文第2140号

譲与申請; 17/6/1 山文M8-20号

文化財譲与通知; 17/6/22教文第788号

第1章注

※1 今回は整理作業で取上げ単位ごとに遺物台帳を作成した際、重量を計測した。時期や器種を分類していない計測であるが、遺物の出土量を定量的に把握する手段としては有効である。これまで方保田東原遺跡は遺物量が多いと言われていた。今回のように300m²未満の小規模な調査でも完掘すれば0.5トン以上の遺物が出土したこと、これが明確になった。また、これまでの調査で出土した遺物2,000箱は果たしてどれほどの総重量なのか、収蔵庫(出土文化財管理センター3階)の耐震強度が心配である。

第2章 第52次調査の成果

第1節 調査区の位置（第3図）

調査地点は遺跡の中央付近に所在する市道内であり、遺跡を東西に横断する県道301号方保田山鹿線の北にあたる。周辺には住宅と畠が混在する。事業は住宅から県道301号の地下にある既存下水管に接続する枝線の布設工事である。

第2節 層序

今回の調査における遺構検出面はおおむね平坦で34.0m付近にあり、北側の5トレンチではやや低く33.6m付近であった。これに対して現地表面は北から南の県道に向けて低くなる地形となっていた。調査は工事にあわせて県道付近から開始して北に向けて進行したため、1トレンチでは現地表下0.3mの掘削で遺構面に至ったが、次第に検出面まで深くなり、北側の5トレンチでは現地表下1.5mにもなった。1・2トレンチを中心に、水道管等による搅乱も多く見られた。

調査区全体の層序は周辺の調査事例と同様であった。すなわち、包含層・遺構埋土は暗褐色から黒褐色を呈する粘質土であり、両者の色調は極めて類似していて判断が難しかった※1。地山は砂礫を含む粘質土で黄茶色から明褐色を呈し、やや締まりがある。

遺構面上部で古墳時代・古代の遺物がまとまって出土した地点があることから、包含層として掘削した層にも当該時期の遺構が存在した可能性があるものの、この面では検出できなかった。工期・調査区面積等の原因もあるが、今後向上すべき技術的な課題の一つである。

第3節 遺構と遺物

①1トレンチ (T-1) 第4~11図、図版1・2

県道北に位置する南北方向の調査区。下水道事業の名称では253工区（マンホール4～既存マンホール）の南半にあたる。今回の調査では最も南側に位置し、遺構検出面の標高は33.2m付近とやや低い。調査区の北端近く（30～35m地点）で大規模な溝SD-4を検出し、ここから多量の土器が出土した。調査区の大部分（8～31m地点）は水道管の掘削による搅乱で破壊されており、南北両端でのみ遺構を検出した。また、SD-4の南では重機掘削の際に掘りすぎてしまい、

断面でのみ確認できた遺構（25～30m地点）もある。SD-1の北（5～10m地点）とSD-4の北（35～38m地点）には浅く不定形の落ち込みが数箇所見られるが、いずれも人為的な遺構ではないようである。

SD-1（第4図、図版1）

調査対象地南端（3～4m地点）に位置する。調査区にはほぼ直交する方向のため、長さ1m程度を検出したにとどまる。幅0.8m、底面は凹凸があって平坦ではない。検出面の標高は33.2m、深さ0.4m。埋土から古墳時代の土器が出土した（6図1～3、図版14）。

SD-4（第5図、図版1～2）

調査区北端（30～35m地点）に位置する。調査区に対して斜め方向で検出したため、全体の幅を計測できないが、溝肩のラインを延長して推定すると幅3.0m程度である。断面は逆台形で南側には段がある。底面は平坦で幅1.5m程度。検出面の標高は34.0m、深さ1.1m。方向や規模などから、北の5トレンチSD143、南の第5次調査3号溝と接続する可能性がある（第49図参照）。多量の遺物が出土、南の下層に多かった（6～11図、図版14～16）。出土土器の総重量は65.3kgで、今回の調査では5トレンチSD-133に次ぐ量である。壺・甕には波状文を施したものがある（6図5、7図1、9図6）が、文様はいずれも浅い。完形の石錐（11図18、図版18-4）は花崗岩円礫の周囲に溝を彫って縄掛けとしている。

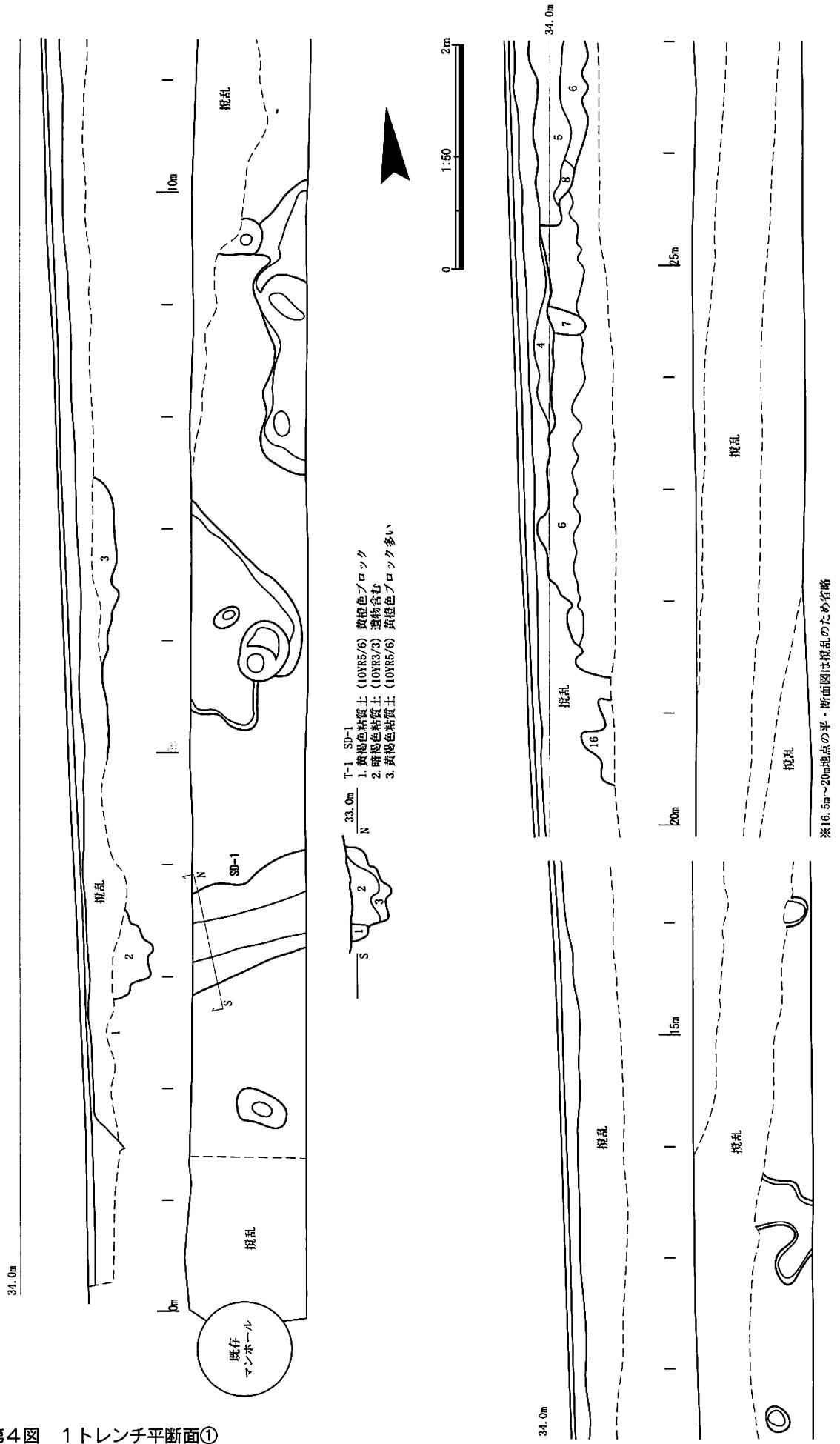
②2トレンチ (T-2) 第12~15図、図版3・4

1トレンチの北に位置する南北方向の調査区。下水道事業の名称では253工区の北半にあたる。マンホール部分（M4）で東西方向の3トレンチ、南北方向の4トレンチと接続する。南（1～17m地点）で水道管による搅乱が見られる。遺構検出面の標高は34.0m付近。

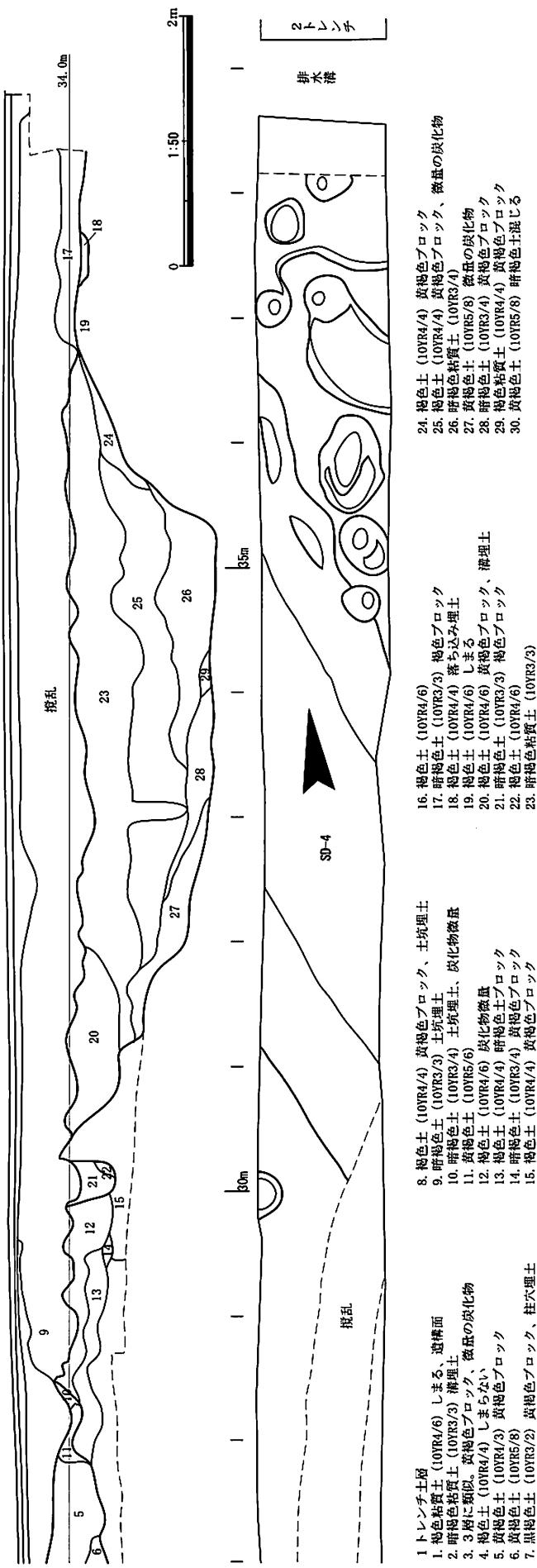
（1）住居

SH-7（第12図、図版4-2・3）

調査区の南端（1～3.5m地点）に位置する。方向は調査区と直交する。一部が水道管によって破壊される。長さ3.0m、深さ0.5m、検出面の標高は34.0～34.1m付近。内部から遺物がまとめて出土した（14図1～15図6、図版16）。南に柱穴（PIT-7）がある。壺（14図2）は肩部に櫛状工具で波状文を施し、一周させる。甕（14図5～8、15図1）には長胴脚台付きもある。



第4図 1トレンチ平断面①



第5図 1トレンチ平断面②

SH-16 (第13図)

北端のマンホール部分 (31m地点) に位置する。このトレンチではごく一部を検出したのみで、北のトレンチ 4-2 で隅を確認した (20図)。長さ4.5m、深さ0.3~0.4m。柱穴PIT-60・77は住居内に位置するが、上層から掘り込まれた遺構である。遺物なし。

SH-203 (第12図)

SK-6の南 (9~12m地点) に位置する。深さ0.05mとごく浅い。長さ4.4m。北の壁を平面で検出できなかつたため、長さは断面による。遺物なし。

SH-205 (第13図、図版3-3・4)

調査区北端 (31~33m地点)、マンホール部分に位置する。SD-15に掘り込まれる。遺物なし。検出面の標高は33.95m付近。深さ0.2m、南はやや深く0.4m。狭い範囲に多くの遺構が切りあつたため十分に検出できていない。PIT-17はこの住居に伴う。柱穴から口縁部小片 (15図12) が出土。

(2) 溝

SD-15 (第13図)

北端のマンホール部分 (30.5m地点) に位置する。SH-205を掘り込む。幅0.4m、深さ0.3m。断面は逆台形で底部は平坦。現地調査でSX-5としていた番号を変更した。狭い範囲だが鉄製品が7点出土した (40図4~10)。ヤリガンナ基部と鏃のほかは小片である。土器は縄文土器片および土製円盤の一部 (15図11・12)。

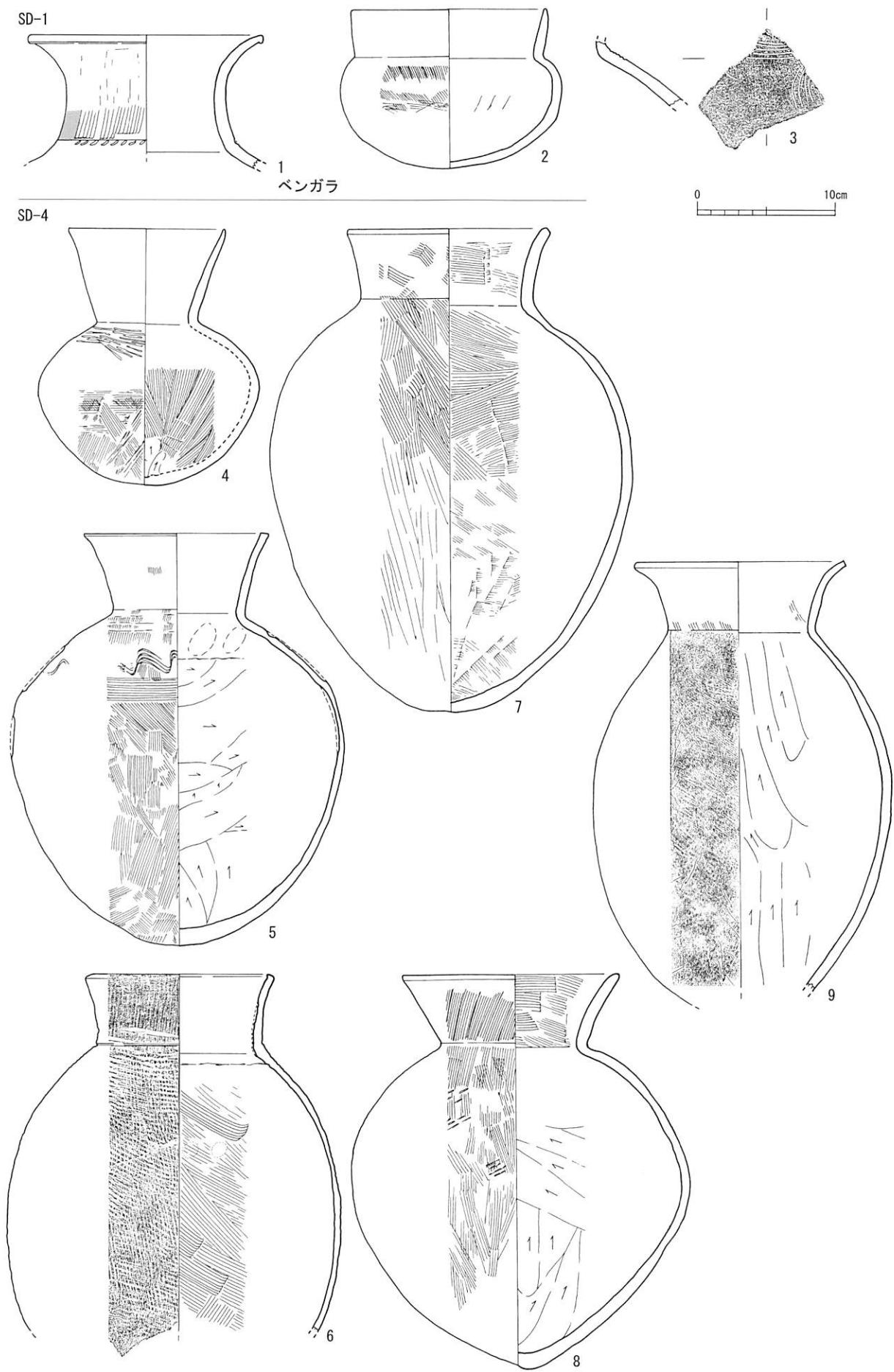
SD-201・202 (第12図)

SH-7北側に位置する二本の溝。どちらも方向は調査区と直交する。溝SD-201 (4m地点) は幅0.7m、深さ0.3m。溝SD-202 (8m地点) は幅0.95m、深さ0.2m。東に隣接する第1次調査地では延長が確認されていない。ともに遺物なし。

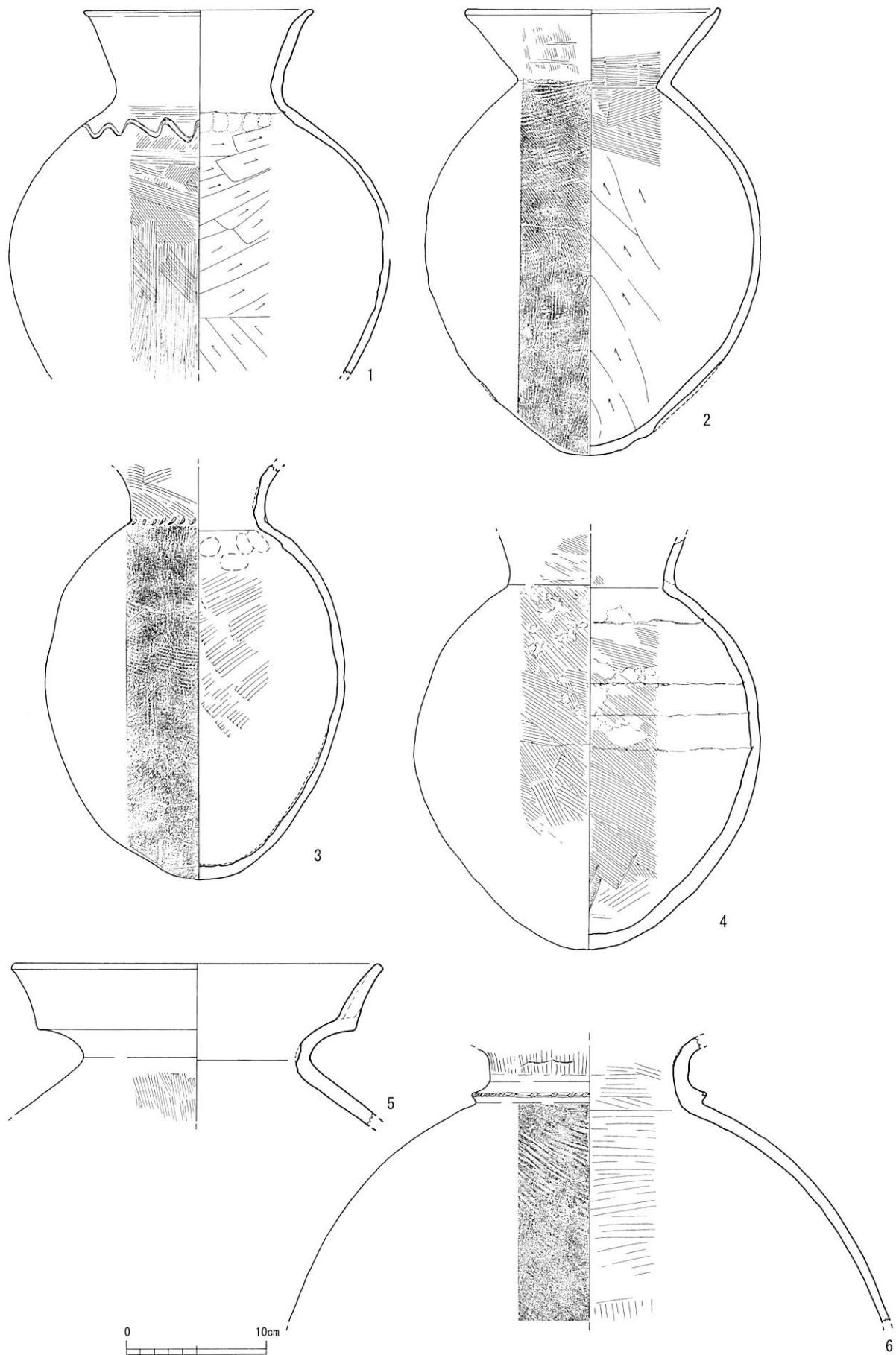
(3) 土坑

SK-6 (第12図、図版4-1)

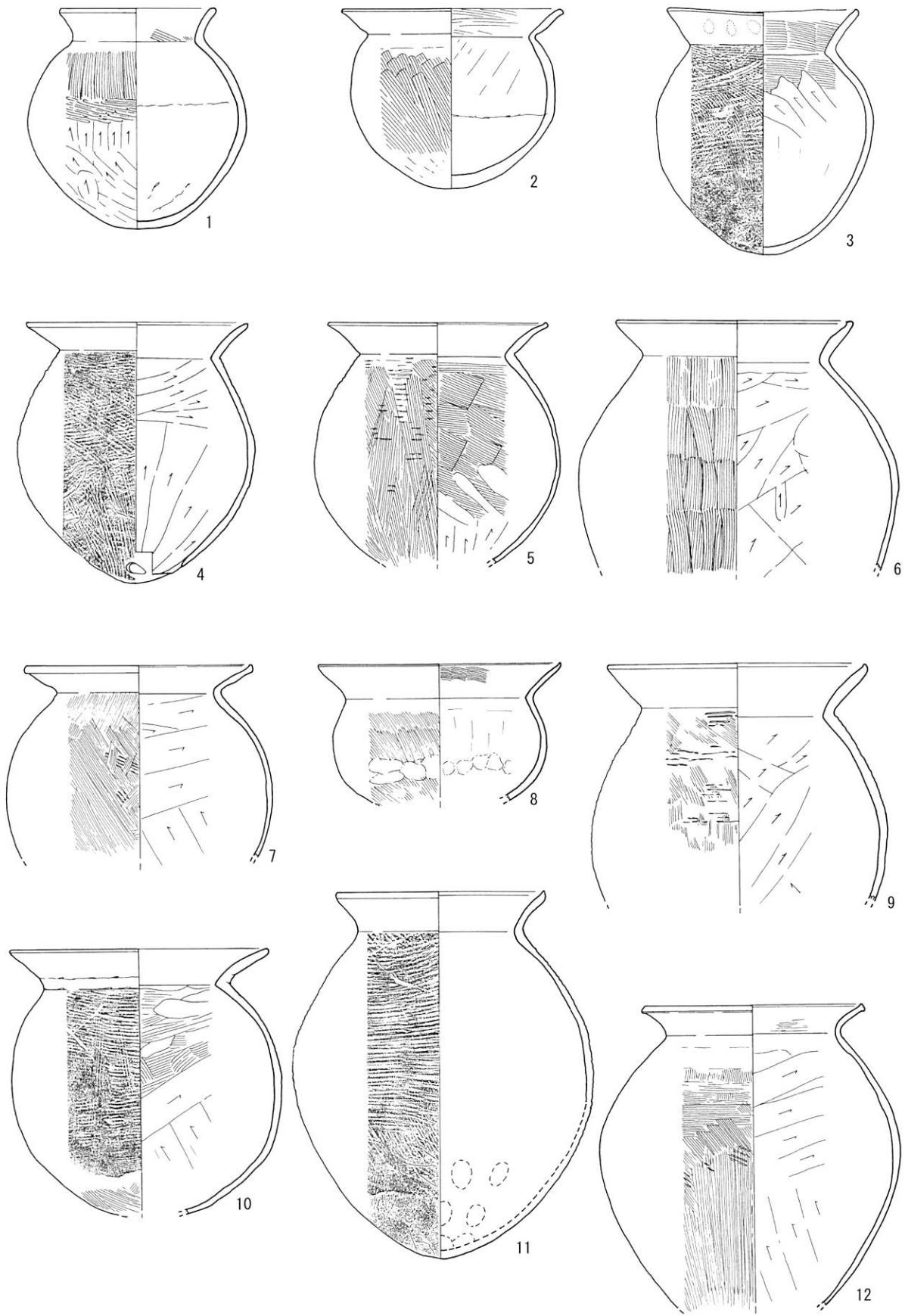
調査区の中央 (15~16m地点) に位置する。検出面の標高は34.1m付近。深さ1.2mと深いが、完掘後も湧水がなく埋土も水性堆積を示さないことから、井戸ではないようである。遺跡内ではこれまでの調査でも明確な井戸を確認しておらず、水は河川を利用したのか。上層で短頸壺 (15図10) が出土。



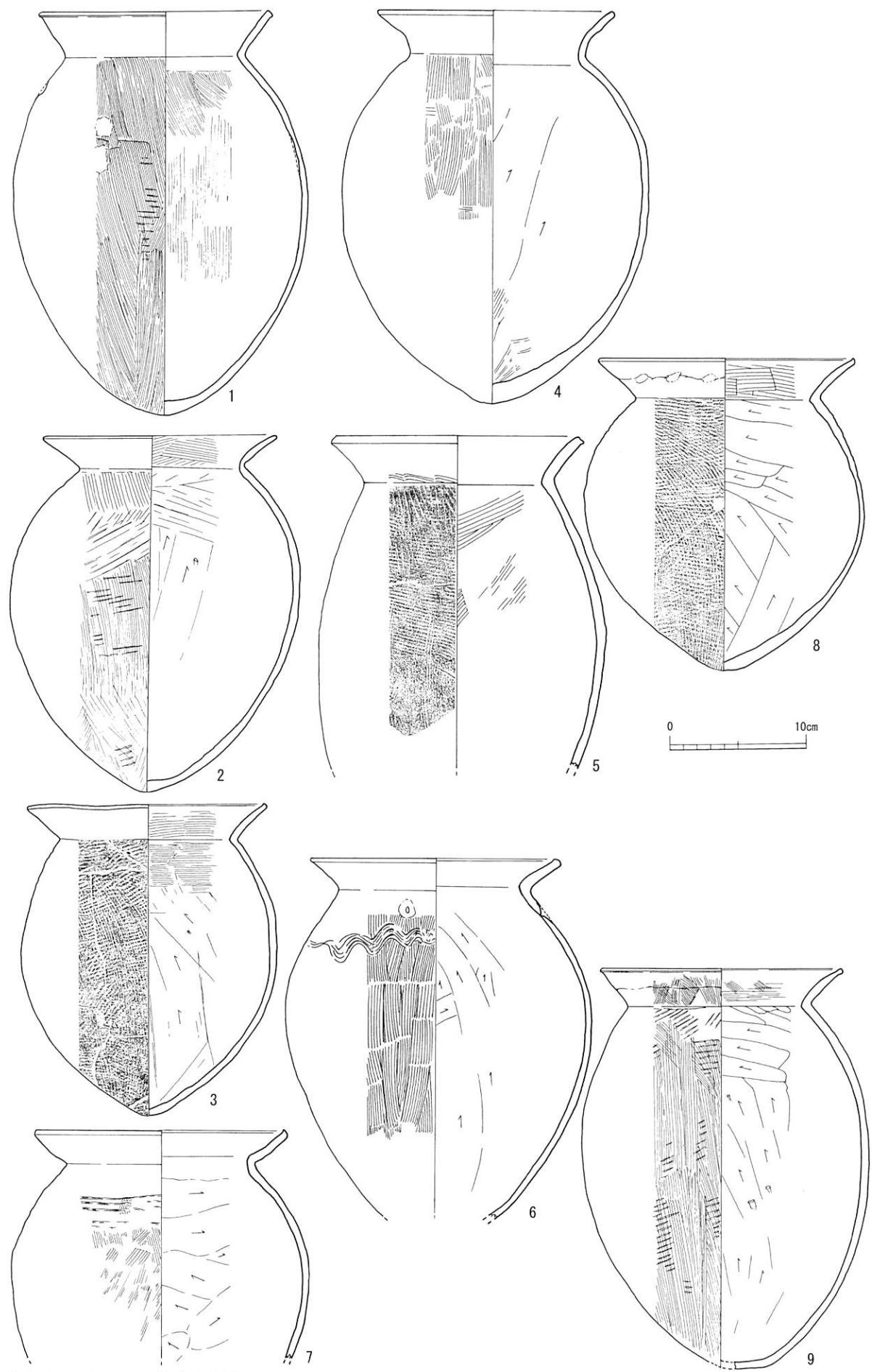
第6図 1トレンチ出土遺物①SD-1・SD-4



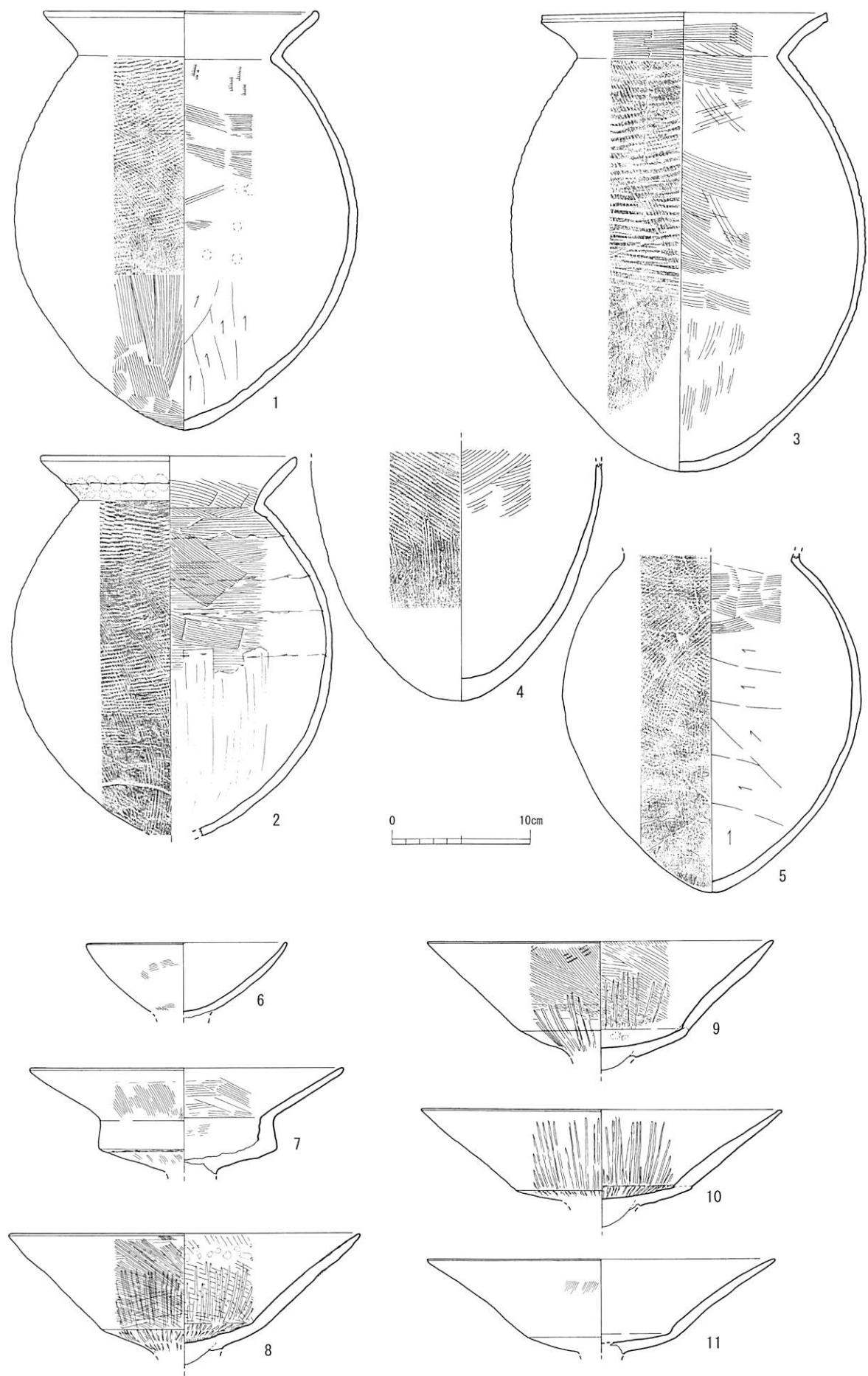
第7図 1トレンチ出土遺物②SD-4



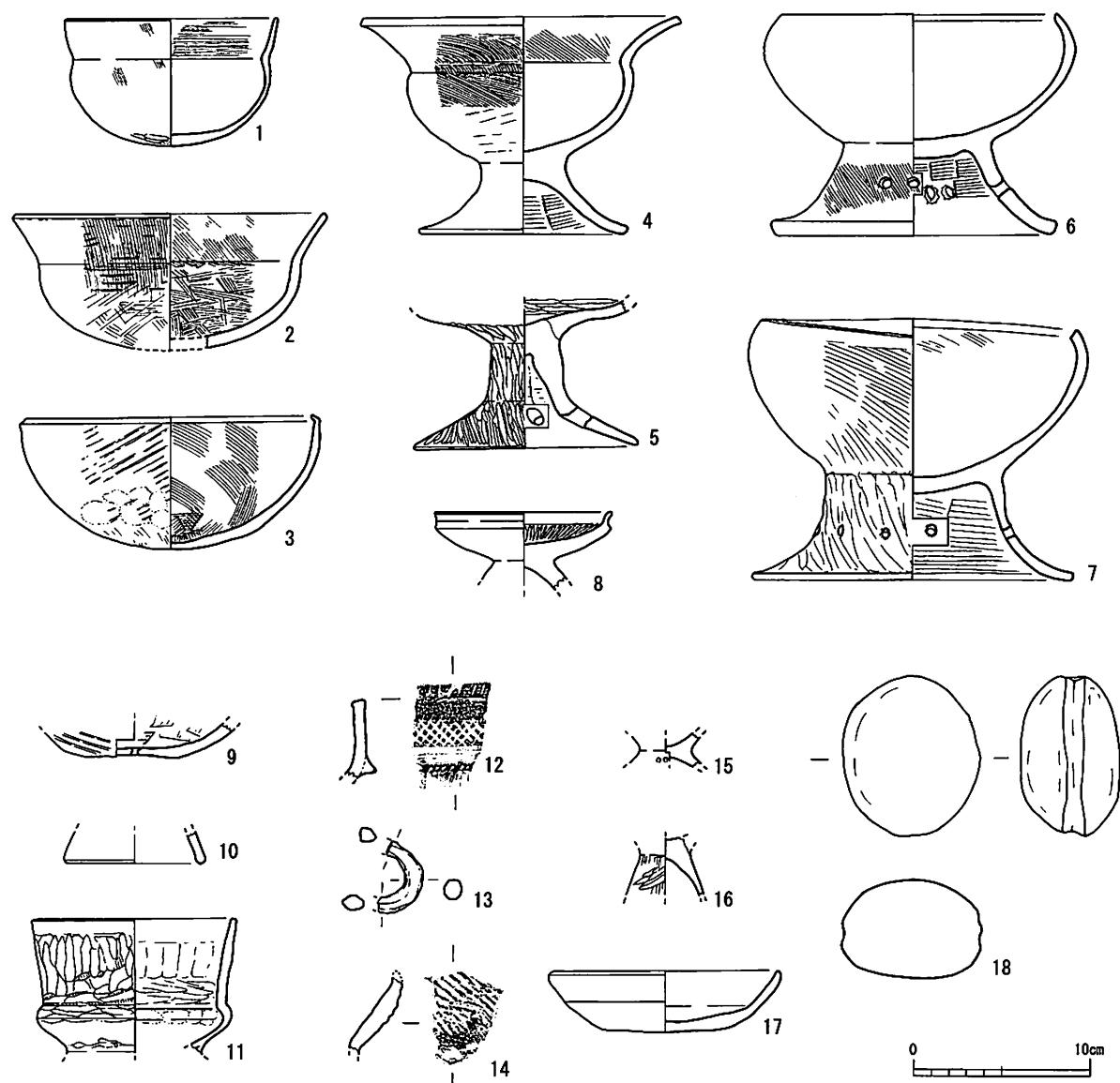
第8図 1トレンチ出土遺物③SD-4



第9図 1トレンチ出土遺物④SD-4



第10図 1トレンチ出土遺物⑤SD-4



第11図 1トレンチ出土遺物⑥SD-4ほか

(4) 不明遺構

SX-204 (第13図、図版4-4)

調査区の北 (28m地点) に位置する。幅0.35mの楕円形で一部を検出した。深さ0.2m、埋土は焼土と炭化物からなる。南側 (23m地点) では深さ0.4mの掘り込みがあり、住居の南壁と考えたが北側の立ち上がりを検出できなかったので、SX-204が住居内の炉か不明。遺物なし。

③3トレンチ (T-3) 第16~19図、図版5

2トレンチの北東・4トレンチの南東に位置する東西方向の調査区。下水道事業の名称では252工区 (M4~M4-1) にあたる。数箇所で水道管による搅乱が見られる。直径・深さとも0.3~0.4m程度の柱穴/土坑状を呈する浅い遺構が多く、その埋土は茶褐色を基調とする明るい

色調であった。遺物が出土した遺構はわずかであったが、埋土の様相から見て、このトレンチの遺構は他と異なり古代が中心であったと考えている。遺構検出面の標高は34.0m付近。マンホール部分（M 4）の西端を基準の0 mとした。

（1）土壠

SK-14（第16図、図版5-3）

調査区西（7m地点）に位置する。長さ0.7m、幅0.5mの楕円形で深さ0.18m。検出面の標高は34.0m。焼土と炭化物の多い埋土（16図断面2層）の上に黒褐色粘質土（断面1層）が円形に堆積し、検出時は同心円状に見えた。このため炉と考えたが周囲の土は熱を受けていない。炉とすればごく短期間の使用か。遺物なし。

SK-19（第16図）

調査区西端（8.5m地点）が溝状に低くなっている部分に位置する。直径0.35×0.4m、深さ0.45m。甕脚台（第18図1）が出土。

SK-24・25（第16図、図版5-5）

14～16m地点の北壁付近で切りあう遺構。SK-24（直径1.05×0.65m以上、深さ0.35m）はPIT-26に、SK-25（直径1.3×0.3m以上、深さ0.3m）はPIT-27に、それぞれ掘り込まれる。SK-24から甕口縁と脚台（第18図3・4）、SK-25から古代の鉢（18図5）が出土。

SK-29（第16図）

16m地点。直径0.6×0.35m、深さ0.27m。小型のジョッキ形土器（第18図6）が出土。

SK-31（第16図）

18m地点で南壁にかかる。東の一部が搅乱により破壊される。深さ0.25m。高杯口縁（第18図7）などが出土。

SK-33（第16図）

21m地点の南壁。長さ0.9m。須恵器甕（第18図9）は水挽き口クロ整形で器壁がごく薄い。ヘラ記号上端がわずかに残る。

SK-35（第16図）

24m地点の北壁内。直径0.45×0.15m以上。深さ0.5m。土器、砥石が出土。砥石（第18図12）は三面を使用している。

SK-37（第16図）

26m地点に位置する不定形の遺構。深さ0.05

mとごく浅い。地形か。甕の上半部（第18図15）が出土。

SK-47（第17図）

調査区東端（35.5m地点）。直径0.55×0.7m、深さ0.45m。一部が南壁にかかる。土師器甕と須恵器高杯（第18図18・19）が出土。

（2）柱穴

PIT-22（第16図）

13m地点。直径0.45m程度、大部分は南壁内。古代の土師器鉢（第18図2）が出土。

PIT-34（第16図）

22m地点。直径0.25×0.35m、深さ0.16m。口縁小片（18図10）。

PIT-39（第16図）

28.5m地点。直径0.4×0.45m、深さ0.2m。口縁部小片（第18図11）。

PIT-42・43・44（第17図、図版5-4）

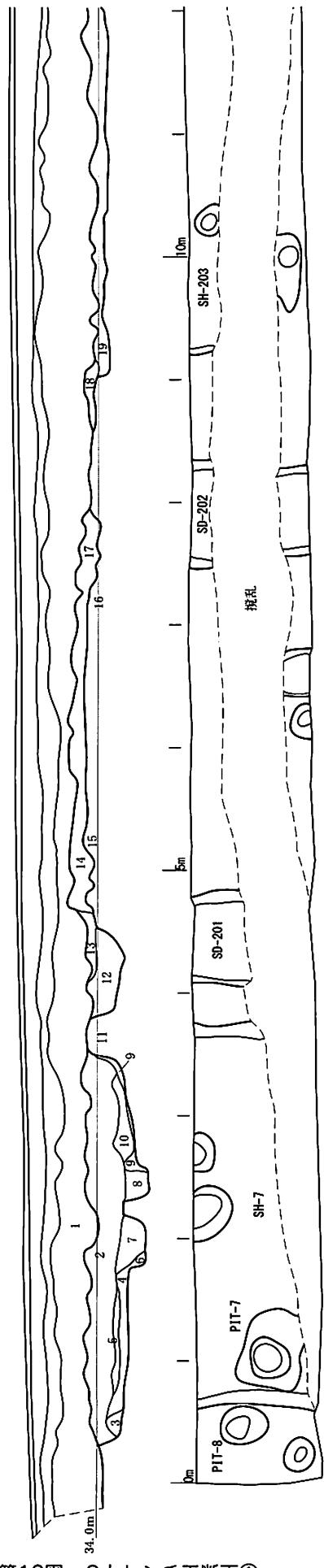
調査区の中央付近（31m地点）で近接し切りあう遺構。PIT-42（直径0.35m、深さ0.5m）は東のPIT-43（直径0.3×0.35m、深さ0.2m）に掘り込まれる。その東のPIT-44（直径0.45m、深さ0.4m）は独立している。PIT-42から小孔の貫通した土製玉（第18図16）、PIT-44から高杯脚部（第18図17）。PIT-43は遺物なし。

PIT-49・50（第17図）

調査区東端（37.5m地点）で切りあう遺構。南のPIT-50（直径0.4×0.95m、深さ0.3m）はPIT-49（直径0.5×0.85m、深さ0.56m）に掘り込まれているが、掘り込んでいる遺構はごく一部を検出したのみで調査区外へ続き、全体が不明である。PIT-49から甕口縁・高杯脚部（第18図20・21）。高杯脚部の透かしはごく一部が残るのみだが、三角形か。PIT-50から古代の鉢（第18図22）、これを掘り込む南の遺構から古代の甕口縁（第18図23）。遺構の前後関係と遺物の時期が整合的でないが、PIT-49遺物は埋没段階の混入であろう。

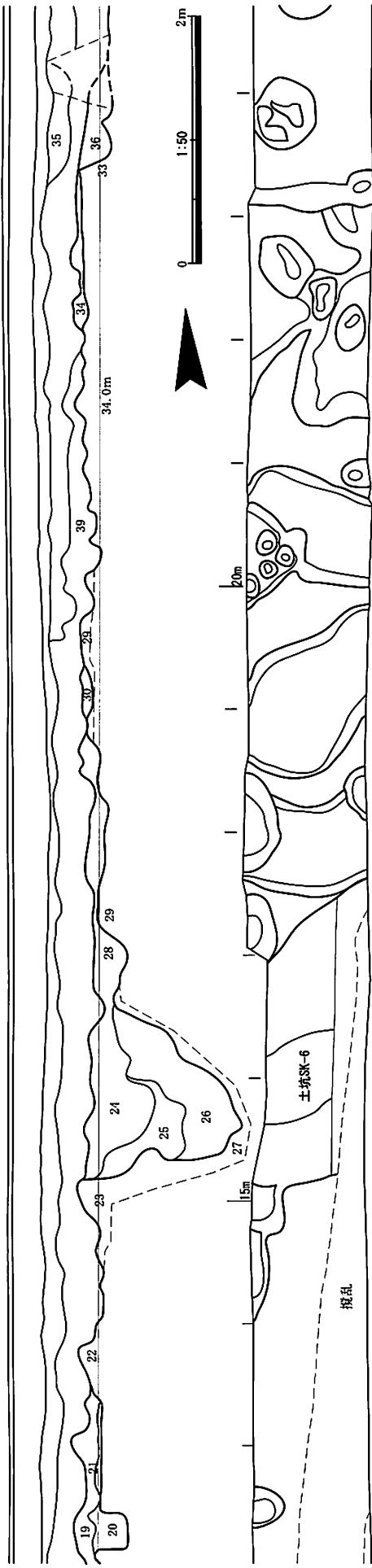
④4トレンチ(T-4)第20～24図、図版6～8

2トレンチの北に位置する南北方向の調査区。下水道事業の名称では251工区（M 4～M 3）にあたる。工程上、北端のマンホール（M 3）が先に掘削されたためこの部分をT 4-1、その



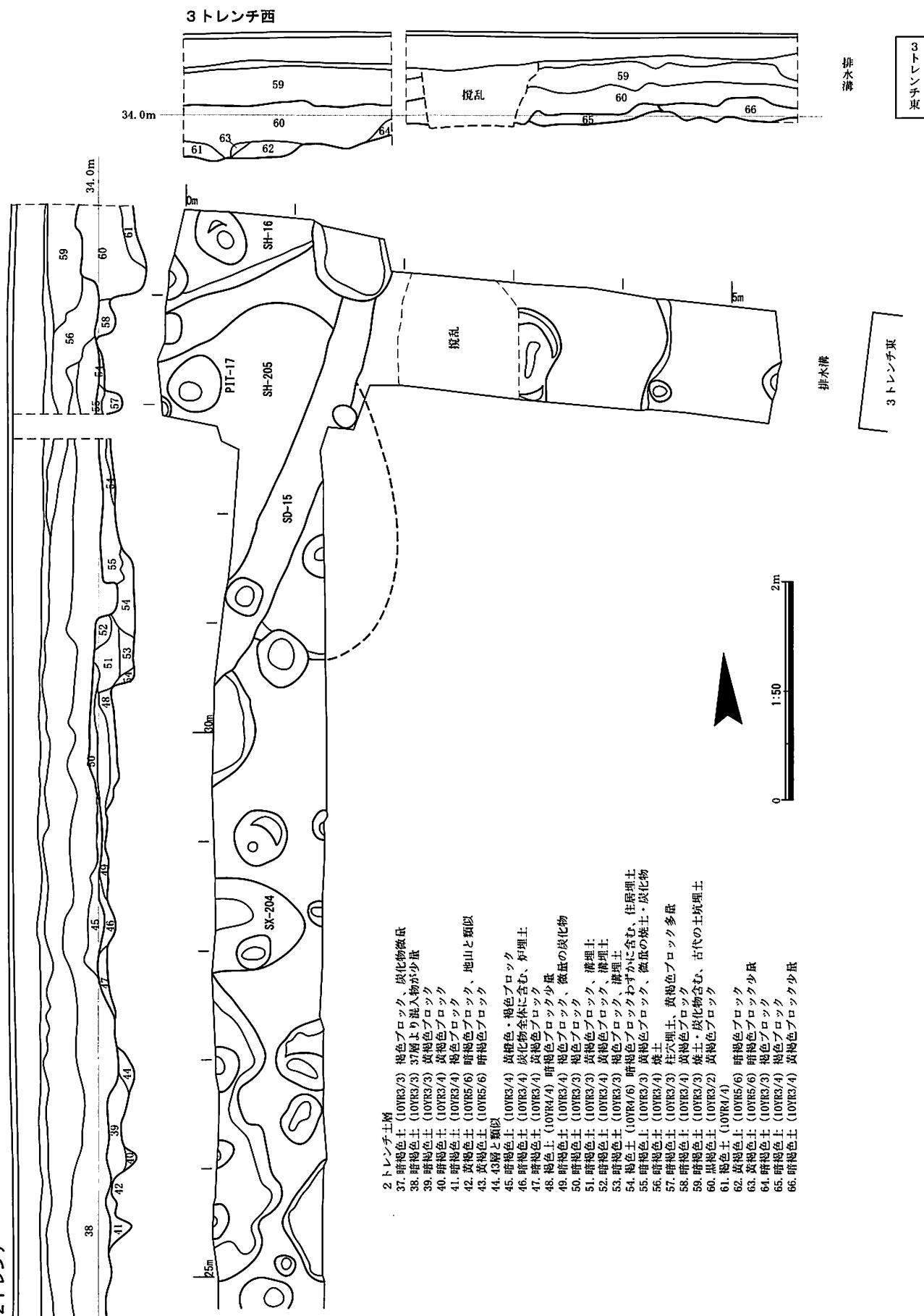
第12図 2 アレンチ断面①

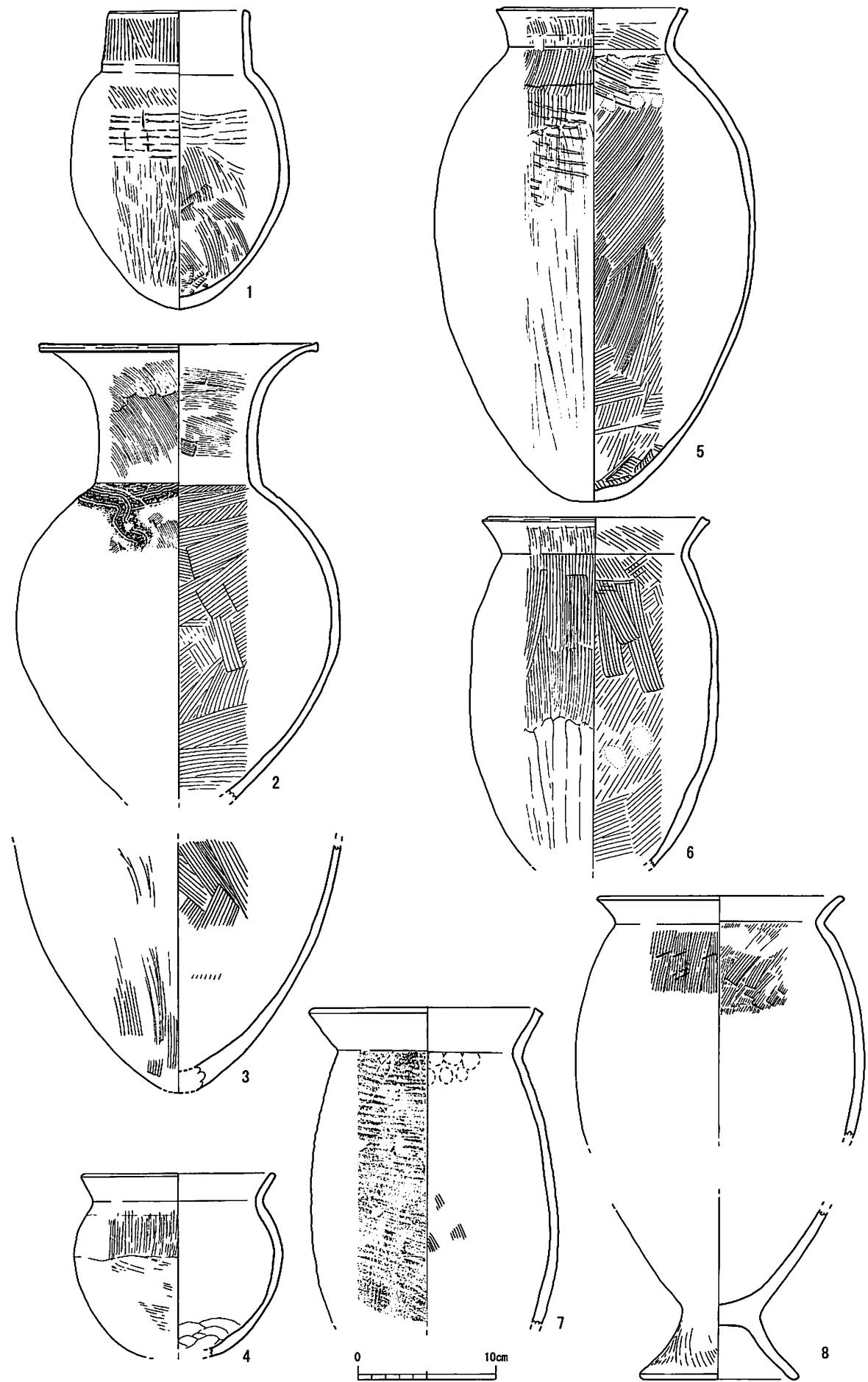
- 2 アレンチ土層
1. 搾取
 2. 暗褐色土 (10YR3/3) 住居堆土、堆土・炭化物
 3. 暗褐色土 (10YR4/4) 黄褐色ブロック、微量の炭化物
 4. 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色ブロック
 5. 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色ブロック、炭化物微量
 6. 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色ブロック
 7. 暗褐色土 (10YR3/3) 柱穴堆土、柱穴堆土・炭化物ブロック
 8. 暗褐色土 (10YR3/3) 柱穴堆土、黄褐色ブロック
 9. 暗褐色土 (10YR4/4) 柱穴堆土
 10. 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色ブロック、微量の炭化物
 11. 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色ブロック、微量の炭化物・堆土
 12. 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色ブロック、炭化物微量
 13. 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色ブロック、堆土
 14. 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色ブロック、堆土
 15. 暗褐色土 (10YR4/4) 暗褐色ブロック
 16. 暗褐色土 (10YR4/6) 黄褐色ブロック
 17. 暗褐色土 (10YR3/3) 柱穴堆土、暗褐色ブロック
 18. 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色ブロック、微量の炭化物
 19. 暗褐色土 (10YR4/6) 暗褐色土 (10YR3/4) 柱穴堆土上、黄褐色ブロック
 20. 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色ブロック
 21. 暗褐色土 (10YR4/6) 16号と類似
 22. 暗褐色土 (10YR5/6) セトと暗褐色ブロック
 23. 暗褐色土 (10YR4/4)
 24. 暗褐色土 (10YR3/3) 土坑堆土、黄褐色ブロック
 25. 暗褐色土 (10YR4/4) 黄褐色ブロック、炭化物微量
 26. 暗褐色土 (10YR4/6) 黄褐色ブロック
 27. 暗褐色土 (10YR5/6) 地山と類似
 28. 暗褐色土 (10YR3/3) 暗褐色ブロック、炭化物微量
 29. 暗褐色土 (10YR4/6) 暗褐色ブロック微量
 30. 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色ブロック
 31. 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色ブロック
 32. 暗褐色土 (10YR3/4) 塩土、炭化物微量
 33. 暗褐色土 (10YR4/4) 29号と類似
 34. 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色ブロック、堆土微量
 35. 暗褐色土 (10YR3/3) 塩土微量
 36. 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色ブロック微量



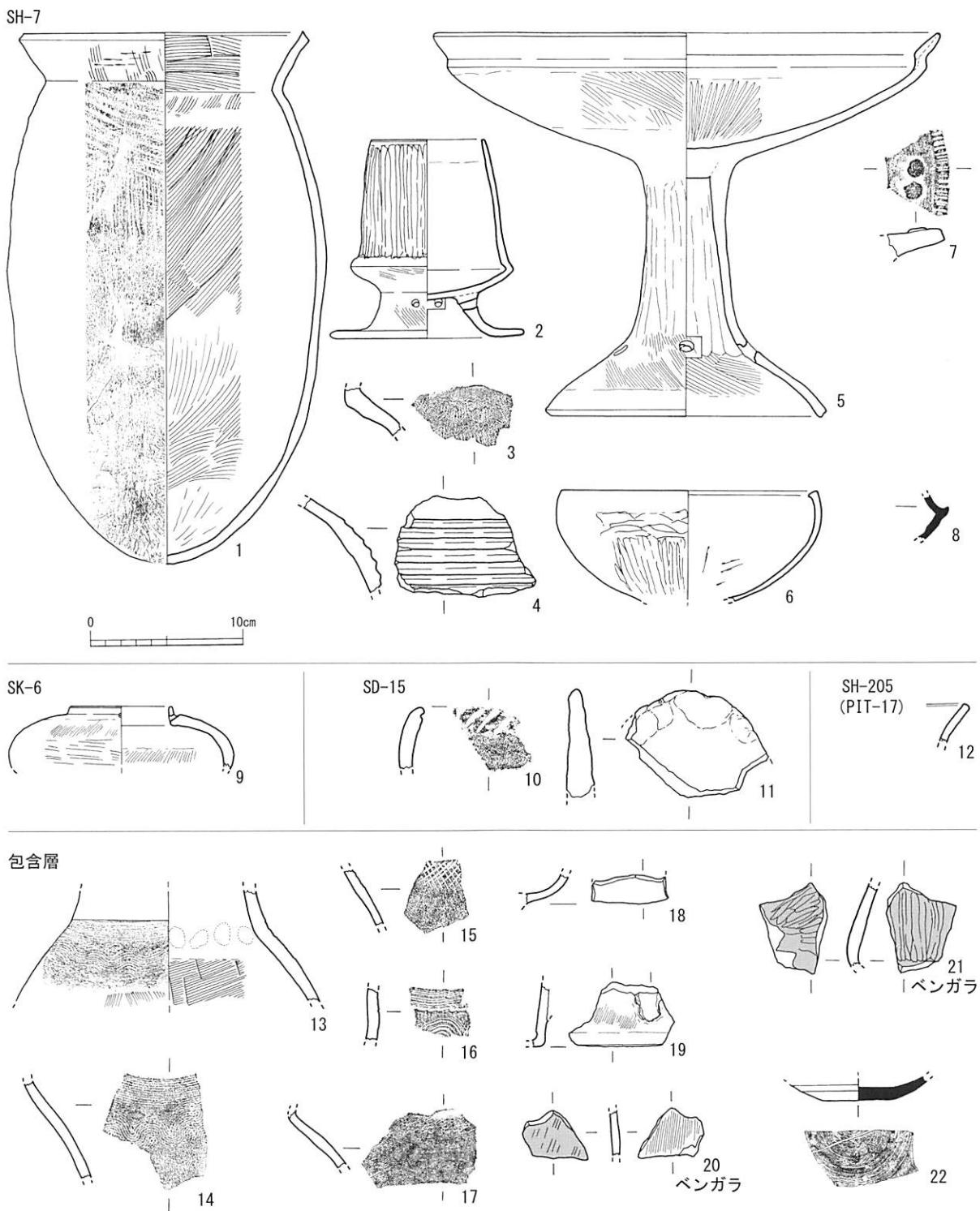
第2トレンチ

第13図 2トレンチ平面面②





第14図 2トレンチ出土遺物①SH-7



第15図 2トレンチ出土遺物①SH-7ほか

南をT4-2、その間の排水管で区切られた部分をT4-3とした。遺構検出面の標高は南側で34.0m付近、北は33.6mとやや低い。T4-2南側は排水溝が設置されていたため2トレンチと接続することができなかった。トレンチの南端を基準の0mとした。

(1) 住居

SH-64 (第20図)

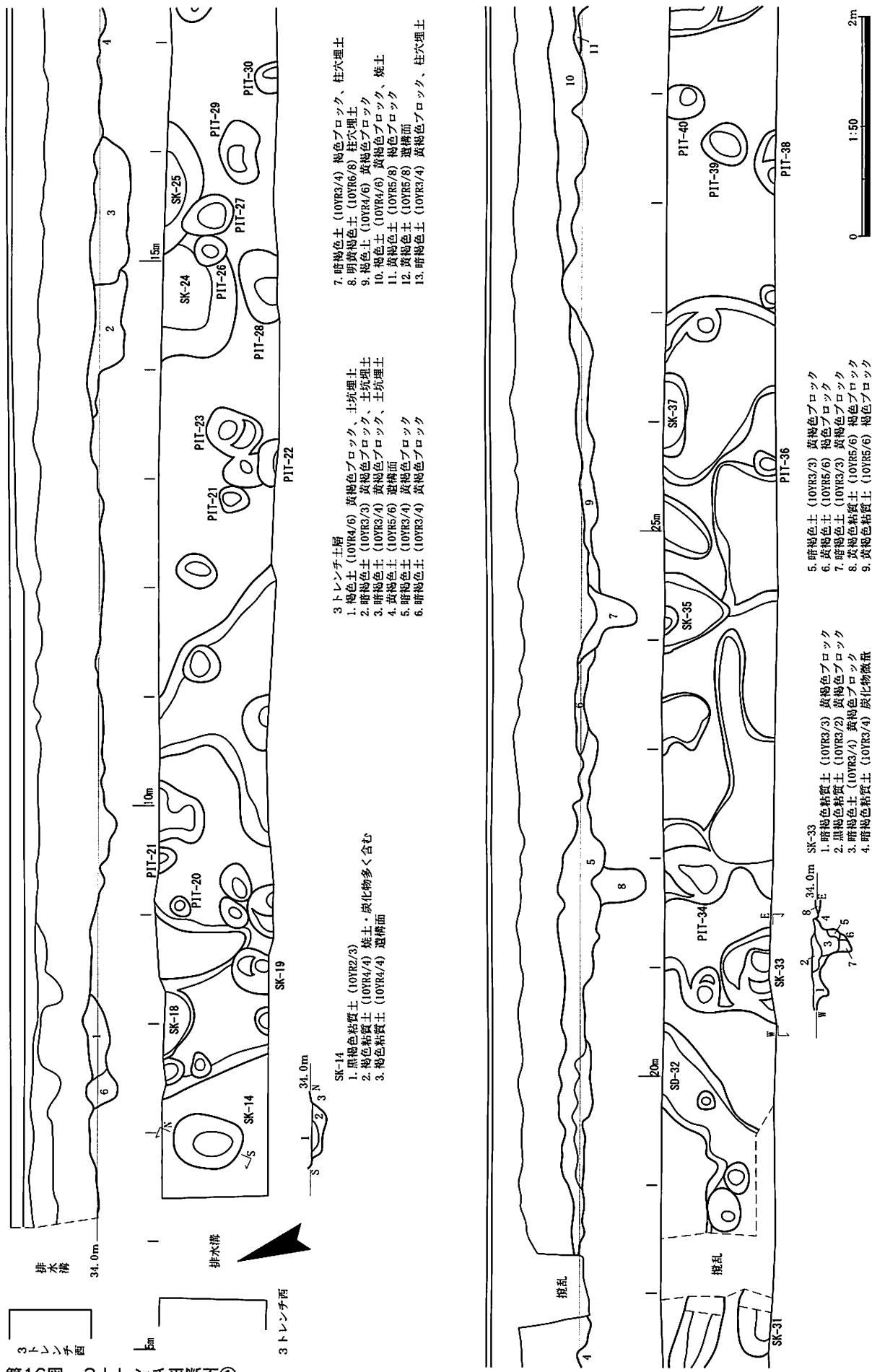
溝SD-65の南 (4~6m地点) に位置する。隅のごく一部を検出したのみである。遺物なし。

SH-66 (第20図)

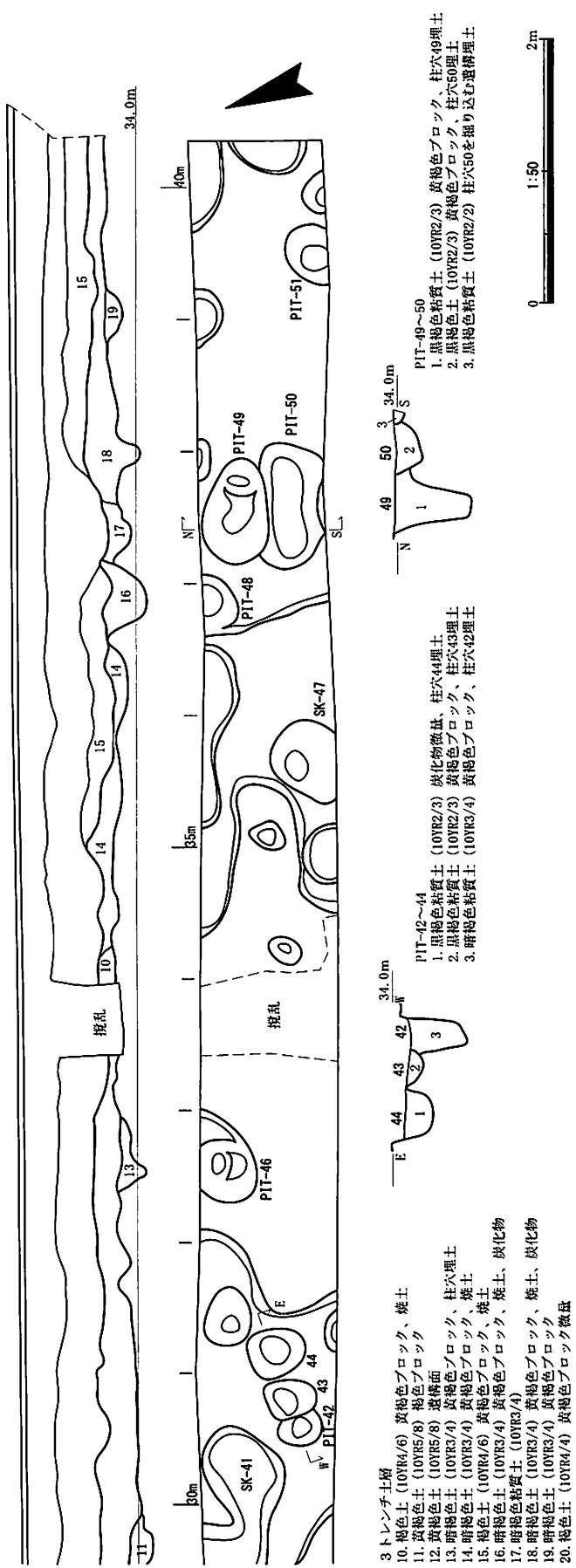
溝SD-65の北 (13~17m地点) に位置し、溝に一部を掘り込まれる。長さ3.8m、深さ0.2m。中央付近 (15.5m地点) に炉の規模と埋土。炉の南は当初溝SD-66として掘削していた。この部分から石包丁 (24図31)・鉄器 (40図17・18) が出土。赤色顔料付着土器 (22図11) の顔料は朱か。

SH-68 (第20・21図、図版8-2)

調査区北 (20.5~24m地点) に位置。長さ3.



第16図 3トレンチ平面面①



第17図 3トレンチ平面面②

6 m、深さ 0.3 m。南が一部深い (SK-82)。長さ・幅とともに 0.7 m、深さ 0.15 m の範囲に焼土と炭化物の集中する範囲がある。形状は不定形で住居の中央付近にあたる。明確な掘り込みはないが、炉か。遺物はごくわずかで、赤色顔料付着土器がある (22図12)。

SH-70 (第21図)

調査区北端（27.5 m 地点）に位置。深さ 0.4 m。北は排水溝があるため掘削できず、北に接するトレンチ 4-3 で検出した土坑 SK-92 に至る。SH-70 と SK-92 で出土した土器は相互に接合したので、本来は同じ遺構である。

SH-70の南端からT4-3の北端までは長さ3.8m。埋土はさらに北側のT4-1でも同様の堆積であるが、T4-1までの長さは6.7mにもなるので住居の規模としては大きすぎる。この間のどこかが北壁となるのであろう。遺物は甕、高杯がある(24図5・6)。甕はSK-92の上面に伏せられた状態で出土し、その下に白粘土塊があった(図版6-6)。意図的な埋納か。

(2) 溝

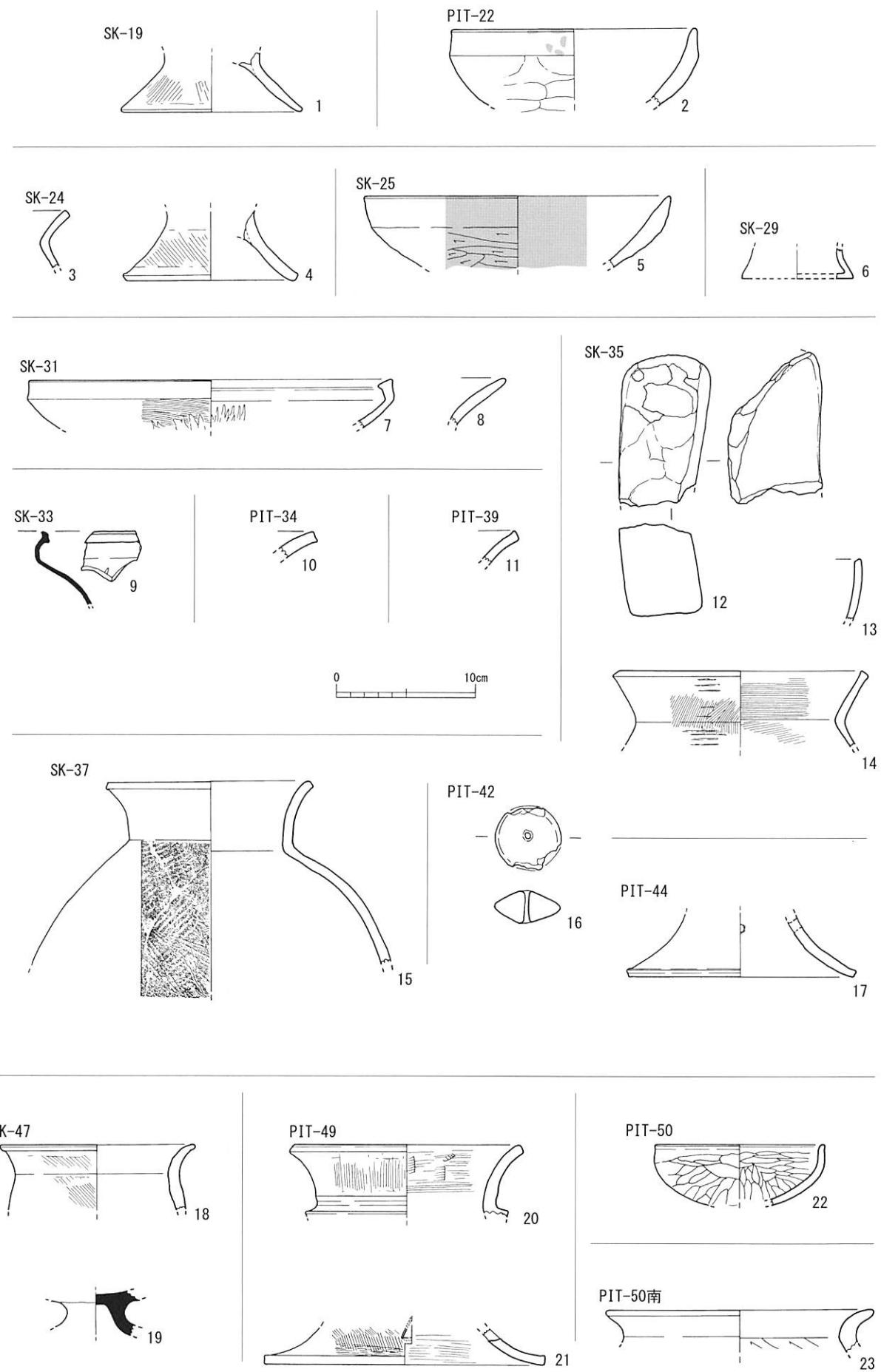
SD-65 (第20図、図版7)

調査区南（3.5～15.5m地点）に位置する。調査区に対して斜め方向で、長さ12m程度を検出した。推定幅1.5m、深さは0.5m。検出面の標高は34.1m、底面はほぼ平坦である。二箇所に断面実測用のベルトを設定したが、北側ベルト付近で底が深くなる部分（0.45×1.3m以上、深さ0.15m）があった。埋土は自然堆積で、人為的な埋め戻しを示す様相は見られず、徐々に埋まったのであろう。底部の標高は南端付近が33.493m、中央付近が33.469m、北端付近が33.441mとわずかに北が低い。遺物は土器（22図1～10）・鉄器（40図16・17）がある。

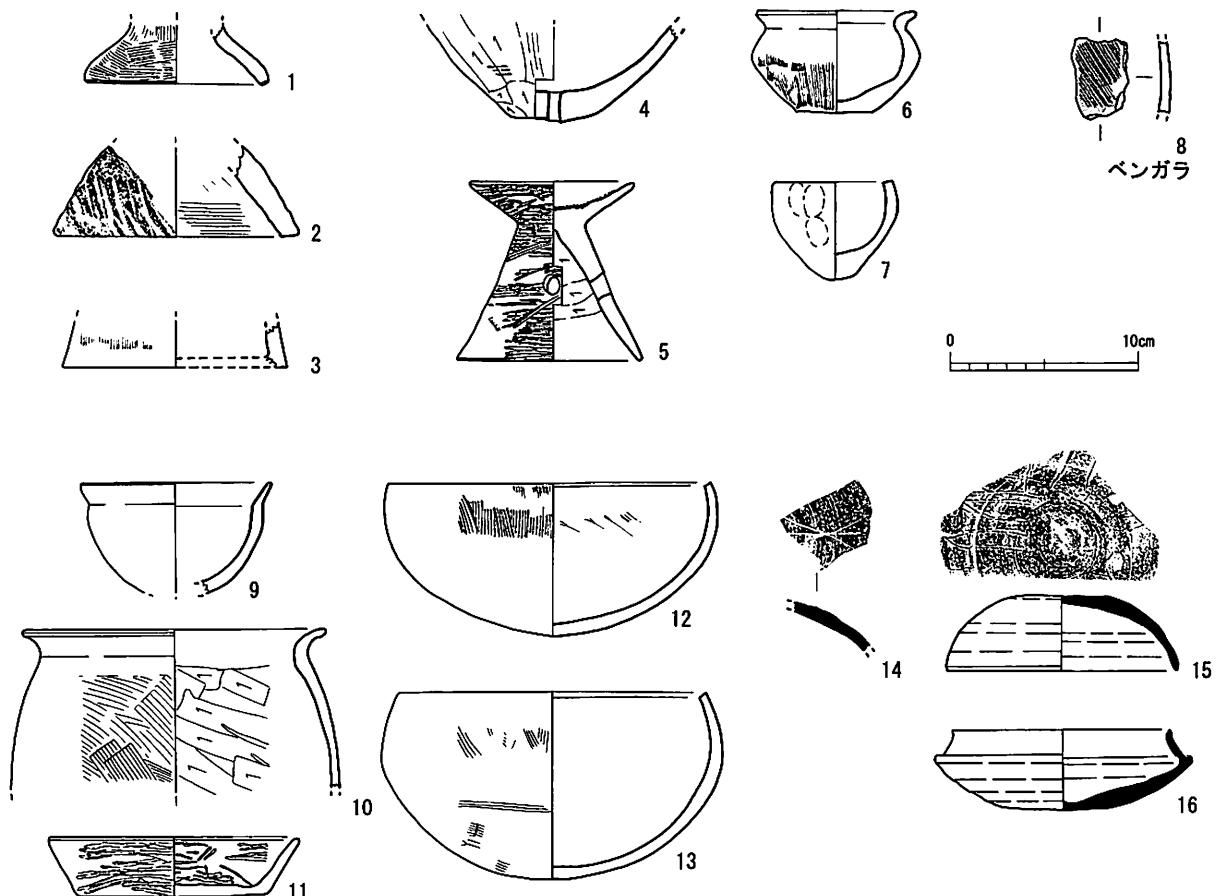
(3) 土坑

SK-67 (第20図、図版8-1)

SH-66の北側（16.5～19m地点）に位置し、一部が重複する。検出中に土器が集中して出土した。検出作業を繰り返したが、遺構の輪郭を捉えることができなかった。仮に土坑としておく。出土地点の標高は33.95m付近でSH-66埋土より上にあたり、住居埋没後に形成された遺構である。壺（22図13～24図4、図版16）には櫛描文や帶状の赤色顔料塗布で加飾した個体がある。口縁が「く」字状に折れる複合口縁壺（22図18・19）は北～東九州に多い器形である。



第18図 3トレンチ出土遺物①



第19図 3トレンチ出土遺物②

(4) 柱穴

PIT-90 (第20図)

SD-65の北 (17m地点) に位置し、東壁にかかる。直径0.5×0.2m以上、深さ0.2m。赤色顔料付着土器 (第24図4) が出土。

⑤5トレンチ(T-5)第25~38図、図版9・10

4トレンチの西に位置する東西方向の調査区。下水道事業の名称では247工区 (M3-1~M3) にあたる。工程上、西端のマンホール (M3-1) が先に掘削されたためこの部分をT5-1、その東をT5-2・T5-3とした。各トレンチの間は排水溝が設置されていたため連続して調査区を設定できなかった。東端は4トレンチ (T4-1) に近いが、ここでも排水溝のため接続できなかった。

遺構検出面の標高は33.2~33.5m付近。壁の断面を見ると検出面の上から掘り込んでいる遺構が何箇所かあり、複数の遺構面が所在したようだが、検出できなかった。掘削を開始したT5-1西端を基準の0mとした。

(1) 住居

SH-120 (第25図)

21~23m地点でごく一部を検出し、SD-119の東縁を掘り込む。隅が直角的であることから住居とした。壺底部 (28図29) が出土。

SH-142 (第27図)

56.5~60m地点。長さ3.5m以上、深さ0.2m。東をSD-143に掘り込まれる。遺物なし。

SH-144 (第27図)

T5-3 東端近く (67~70m地点)。深さ0.1m。西の輪郭が直線的なことから住居としたが、東は不規則な形状である。

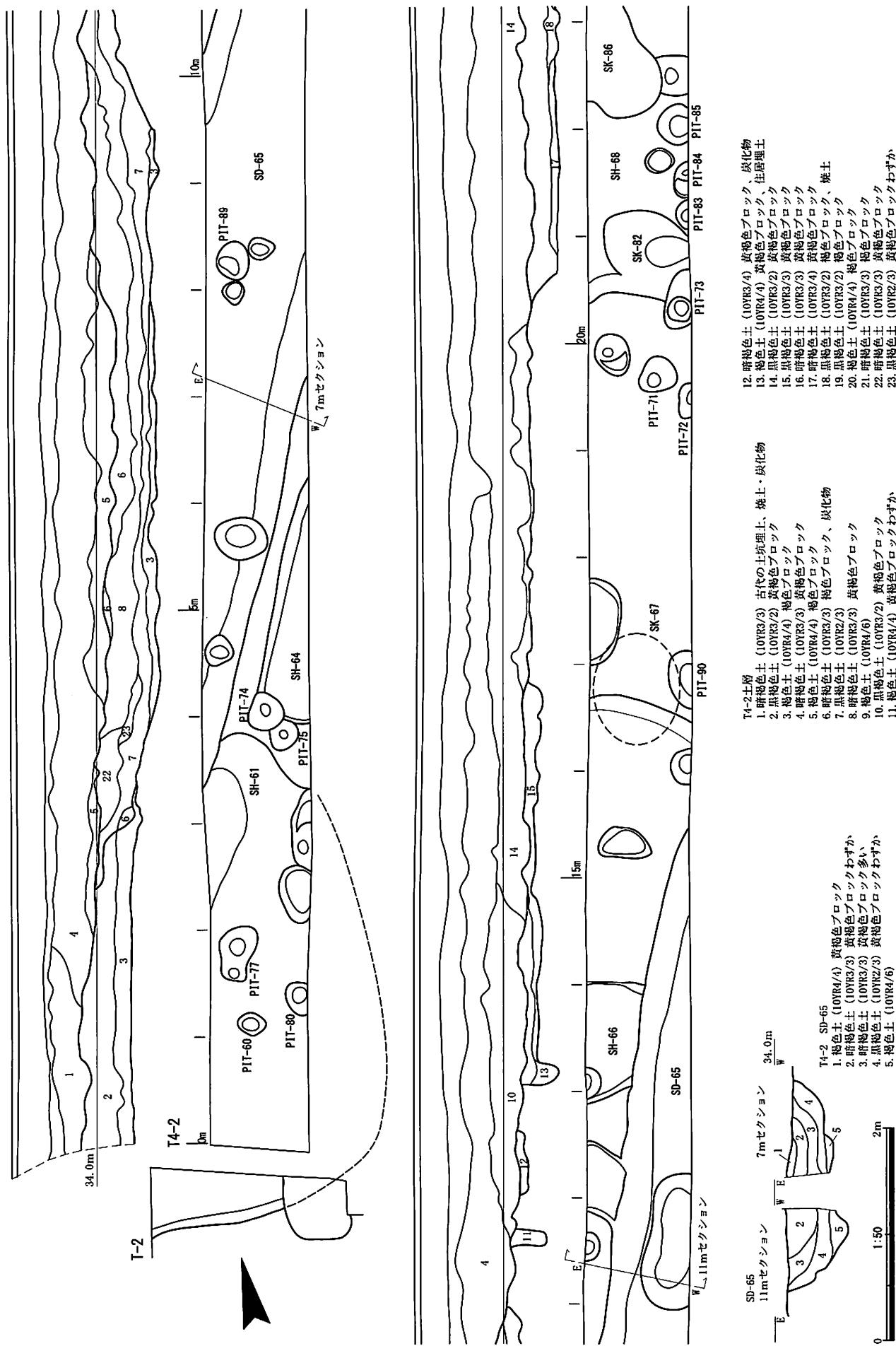
(2) 溝

SD-114 (第25図、図版9-3)

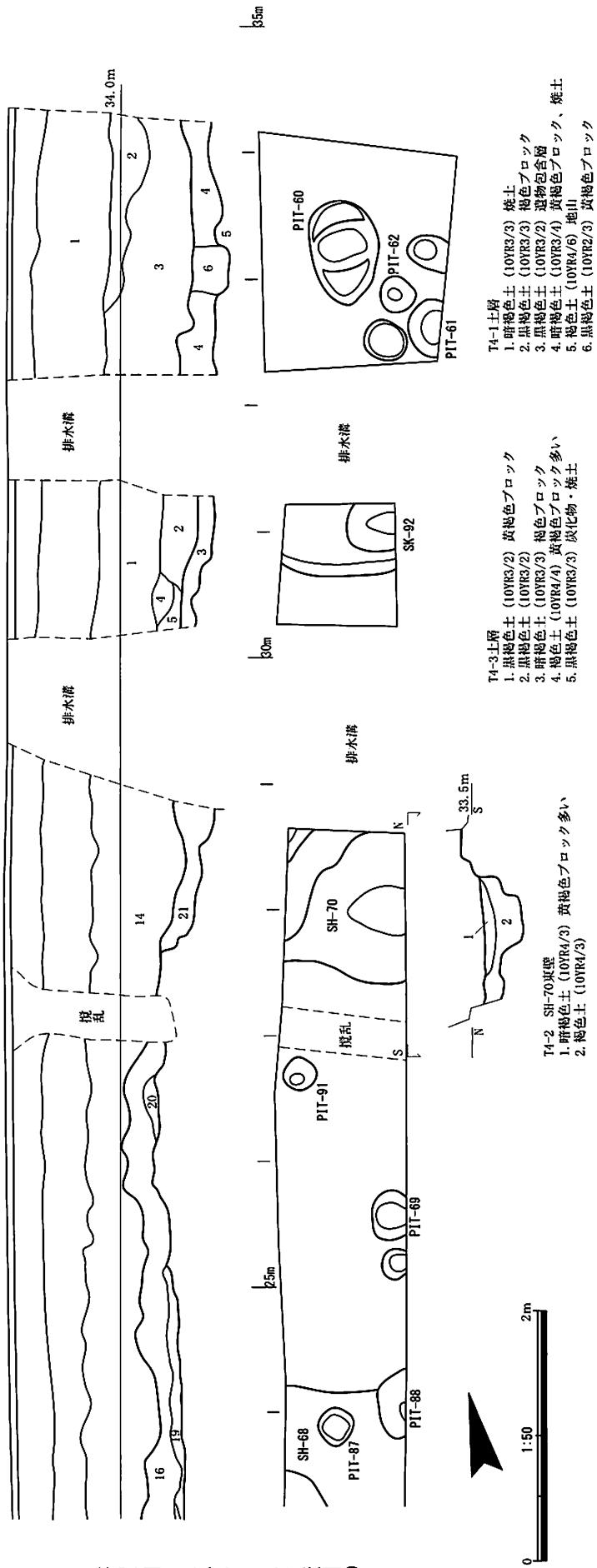
13.5~17m地点。西北でSK-113を掘り込み、東南でSK-115に掘り込まれる。幅3.4~3.6m、深さ0.6m。方向はほぼ南北で調査区に対して直交する。断面は逆台形で底面は東西方向に平坦。南壁ではさらに深くなる。甕、鉢など (28図9~22) が出土。壺肩部 (28図18) は外面に小動物 (ネズミ) が爪をかけたような痕跡が残る。

SD-119 (第25図、図版9-4)

19~21m地点にあり、方向は南北で調査区に直交する。北東でSH-120に掘り込まれる。幅2.0m、深さ1.1m。断面は逆台形で底面は平坦。底部近くの埋土に焼土が集中する範囲があった (25図南壁断面32層)。底部の標高は32.5m。規模の割に遺物は少なく、小片ばかりであった (28図23~28)。



第20図 4トレーナー断面①



第21図 4トレンチ平断面②

SD-127 (第26図)

T5-3 西端 (26~28.5m 地点)。幅2.5m、深さ0.8m。方向は南北で調査区に直交する。断面は逆台形で底面は平坦。上面埋土の一部に白色粘土が集中する範囲がある (26図南壁断面1層)。底部の標高は32.55m。遺物はそれほど多くない (29図1~11)。轍の羽口 (29図10) は完形、両端に煤が付着する。不明土製品 (29図11) は粘土紐の一端にタタキ痕が残り、焼成されている。

SD-133 (第26図、図版10-5)

37.5~42m地点。幅4.6m、深さ1.6m。方向は南北で調査区に直交する。断面は逆台形で底面は平坦。埋土の堆積は単位が大きく、ブロック状の混入物も多い。東方向から的人為的な埋め戻しか。東西両岸の数箇所に段がある。底部の標高は32.03m。

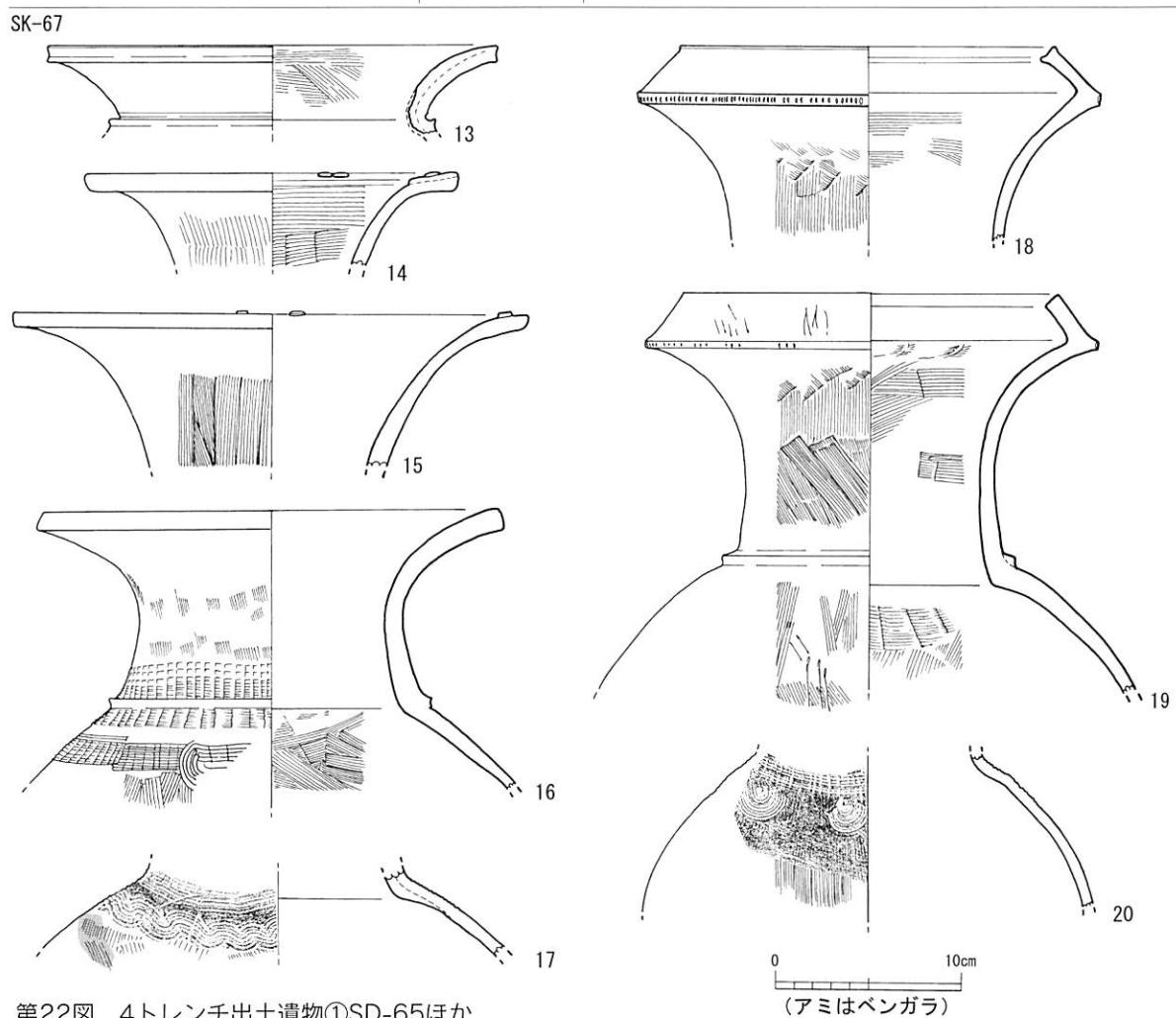
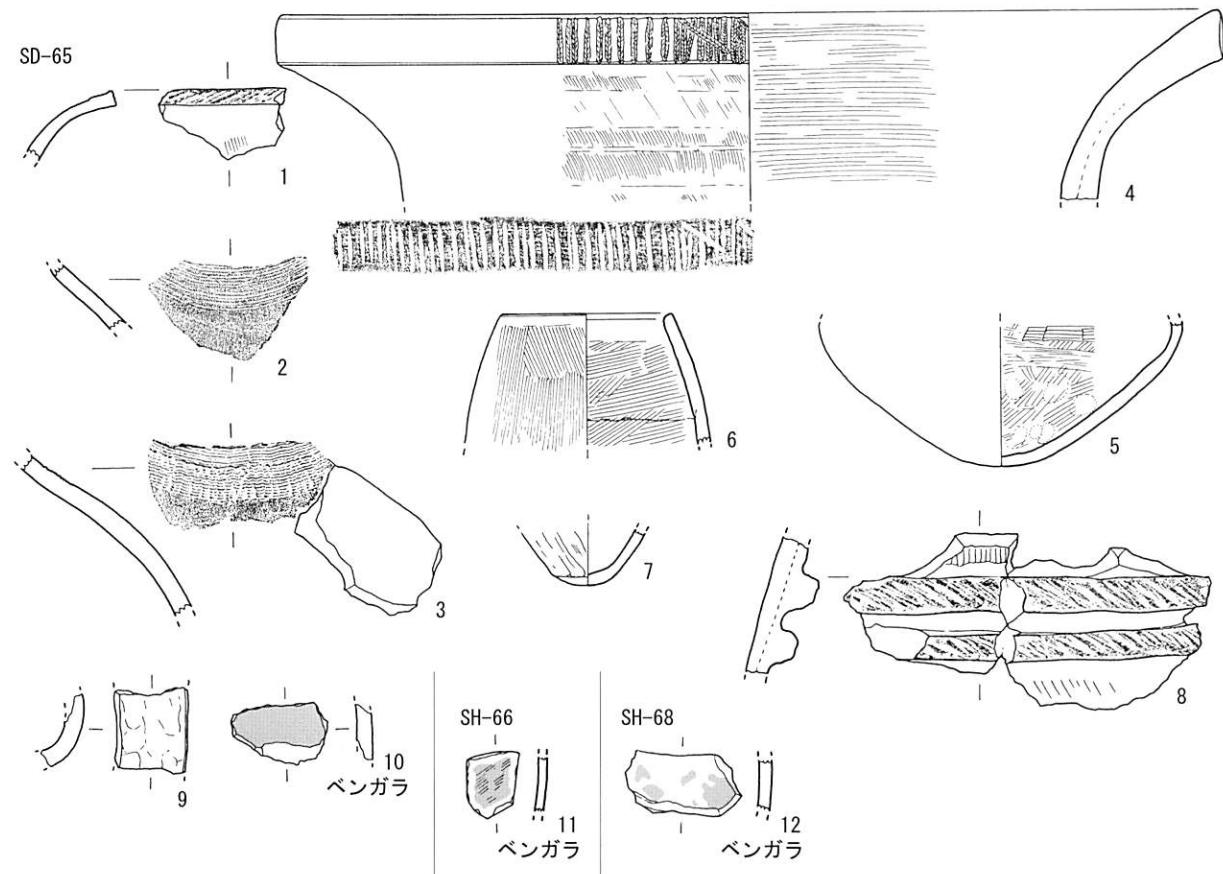
この遺構からは大量の土器が出土した（30～34図、図版17）。遺構検出段階から底部まで途切れず遺物が出土し、掘削中は埋土より土器片が多い印象であった。出土遺物の重量は今回の調査で最も重く、197.11kg。遺物総重量の37.2%にあたる。鉄器（41図9～20）の出土量も他の遺構より多いが、遺物の総量で比較すると突出しているわけではない。壺（30・31図）は頸部に刺突や櫛描文を施すものがあり、さらにベンガラで赤彩するもの（30図16）もある。甕（32図）は長胴で脚台がつくものと丸底のものがある。片口（33図7）は平面楕円形の器形。脚台のつく鉢（33図12）は体部内面全体にベンガラが付着しており、赤色顔料容器として使用されたものか。高杯脚（33図5、図版17）は体部が欠損してから全体に熱を受け、赤く変色している。輪羽口として転用されたものか。

SD-143 (第27図、図版10-4)

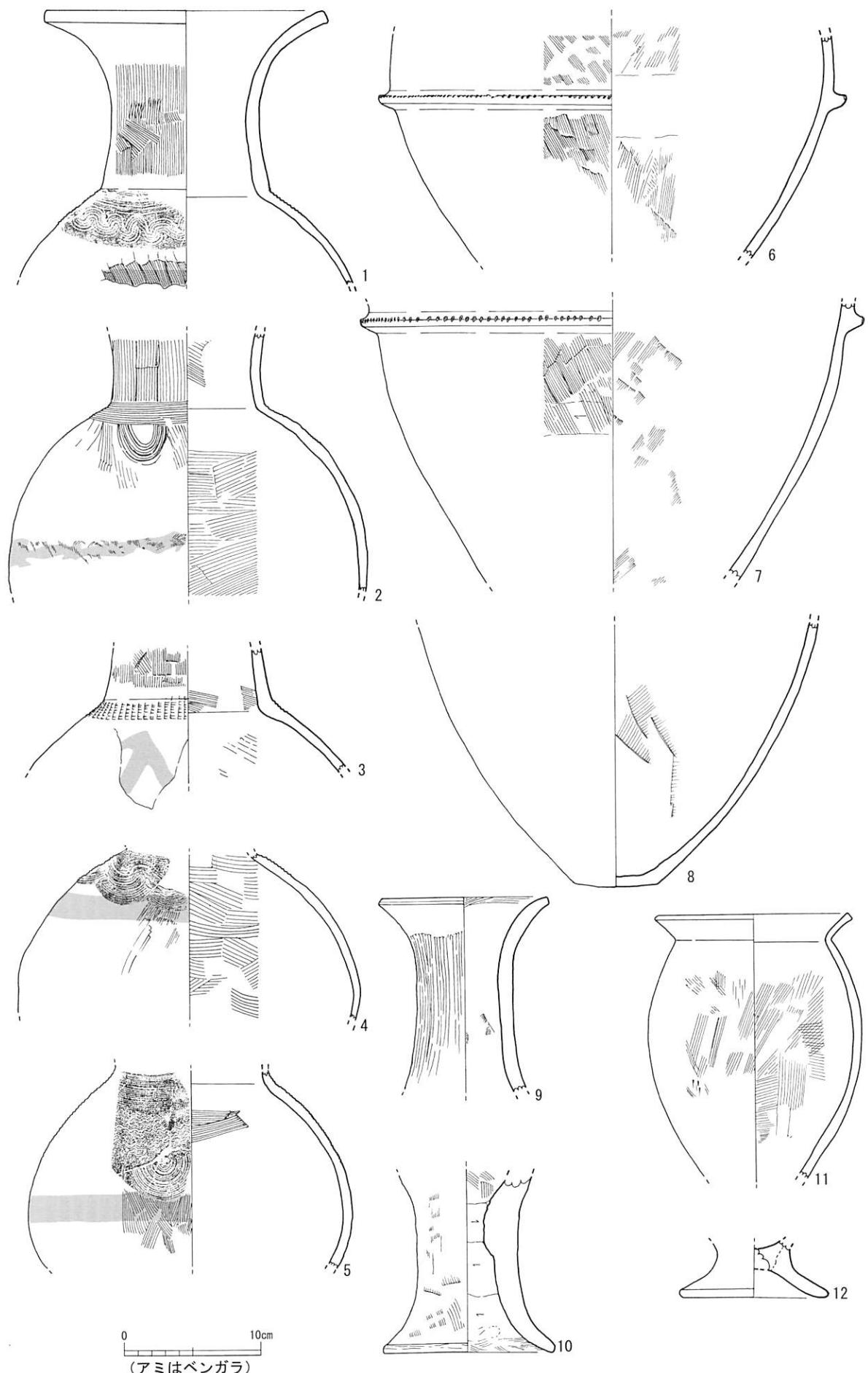
60~64m地点でSH-142を掘り込む。幅4.0m、深さ0.9m、底部の標高32.5m。方向は南北で調査区に直交する。

今回の調査地点（市道）の南北両側で個人住宅建設に伴う発掘調査が実施され、溝の延長が検出されている（第1章第2節・49図参照）。北側は第9次調査2号溝、南は第12次調査の溝である。なお、さらに南の1トレンチSD-4と接続する可能性がある。1トレンチの東に隣接する第1・2次調査地点では溝延長方向と微妙に位置がずれており、該当する遺構は検出されていない。

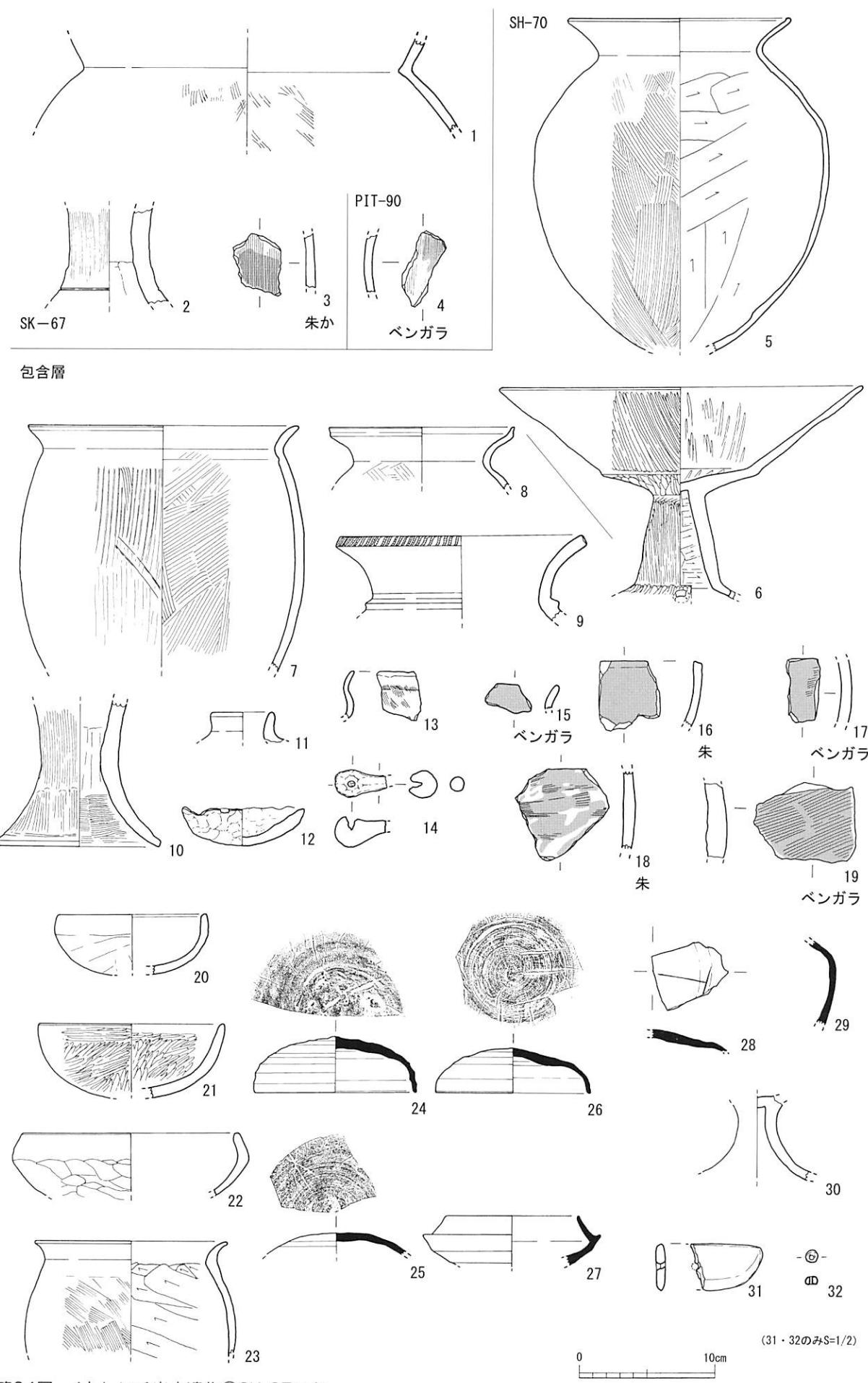
SD-133ほどではないが、この遺構も遺物の量



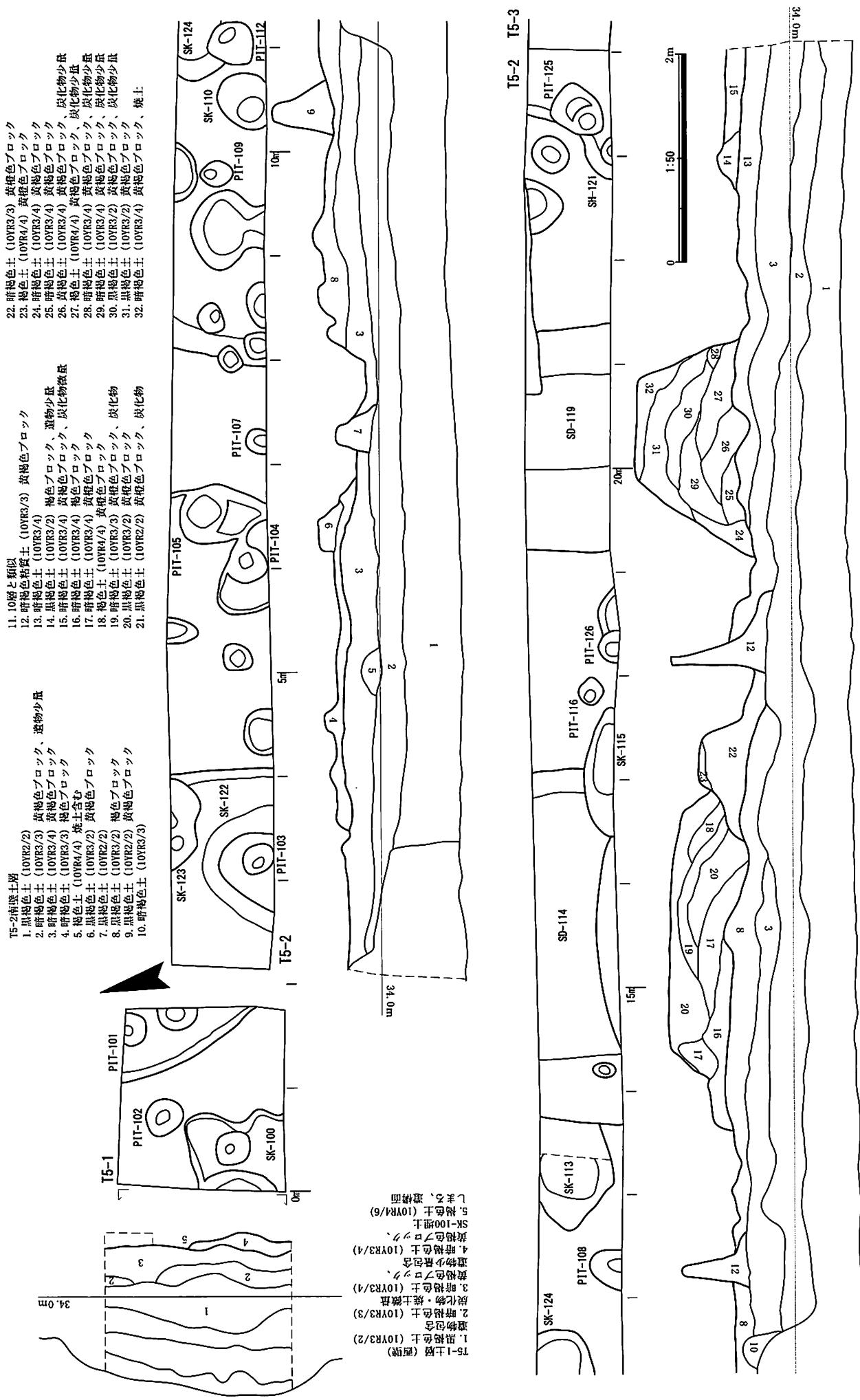
第22図 4トレンチ出土遺物①SD-65ほか



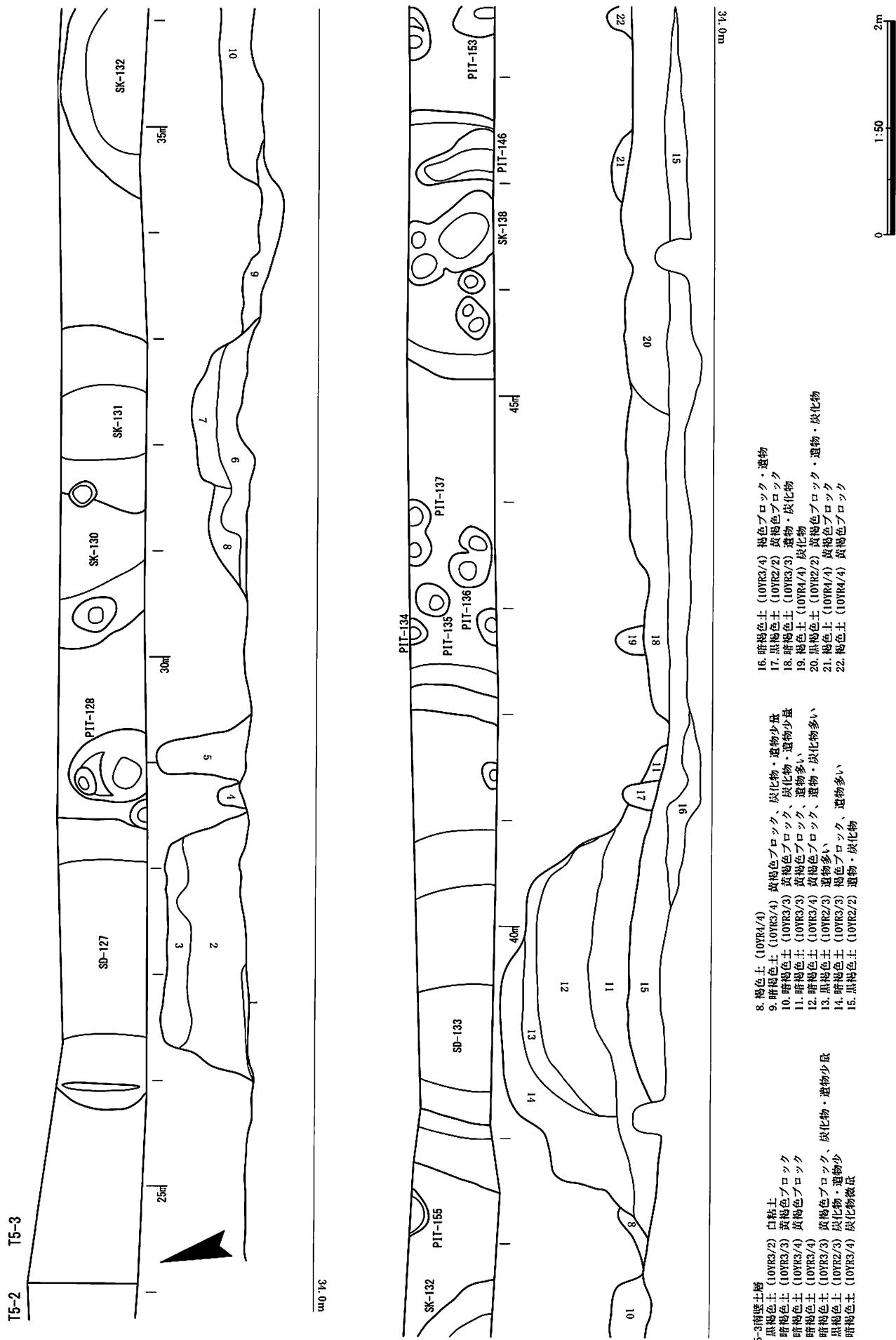
第23図 4トレンチ出土遺物②SK-67



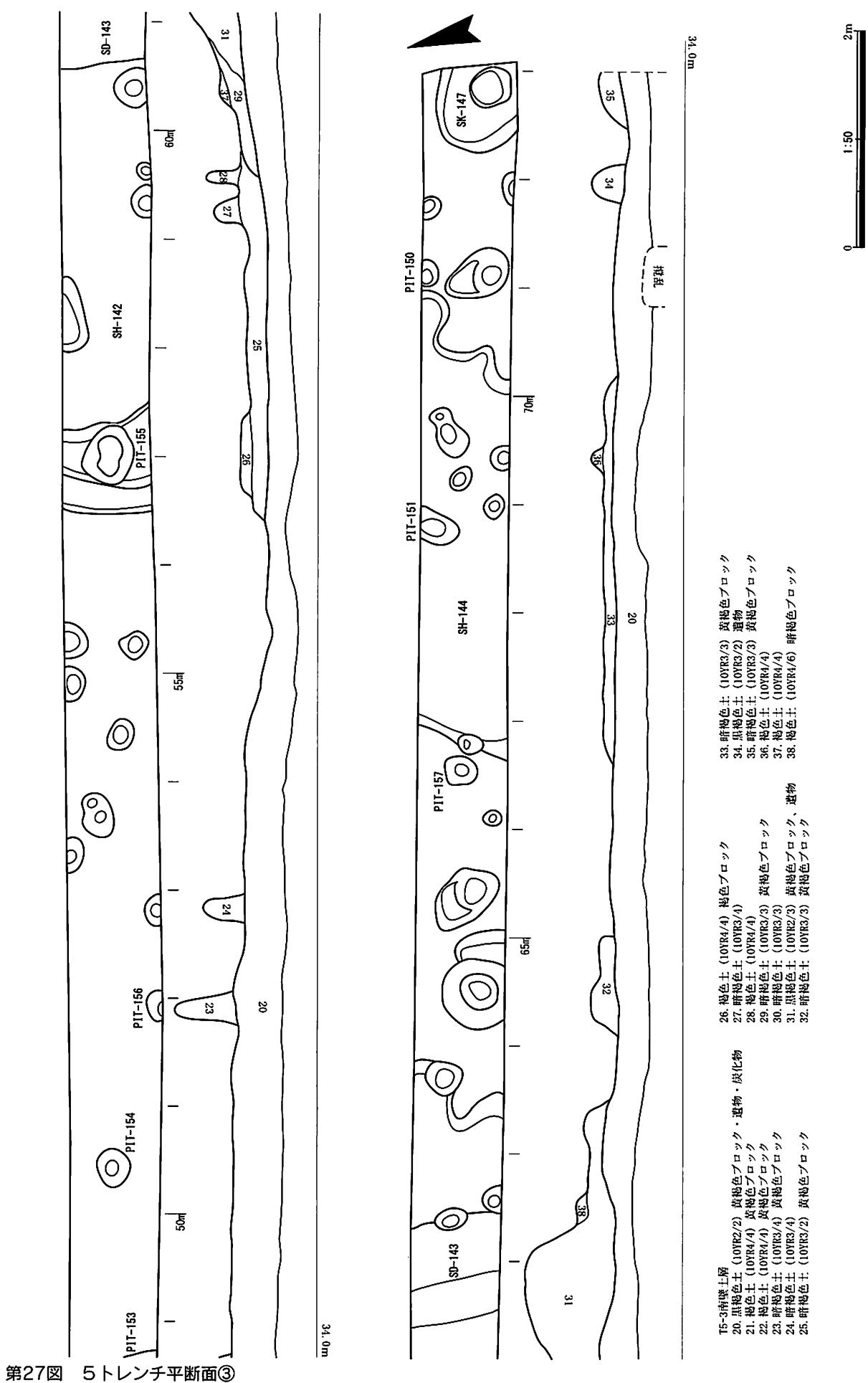
第24図 4トレンチ出土遺物③SK-67ほか

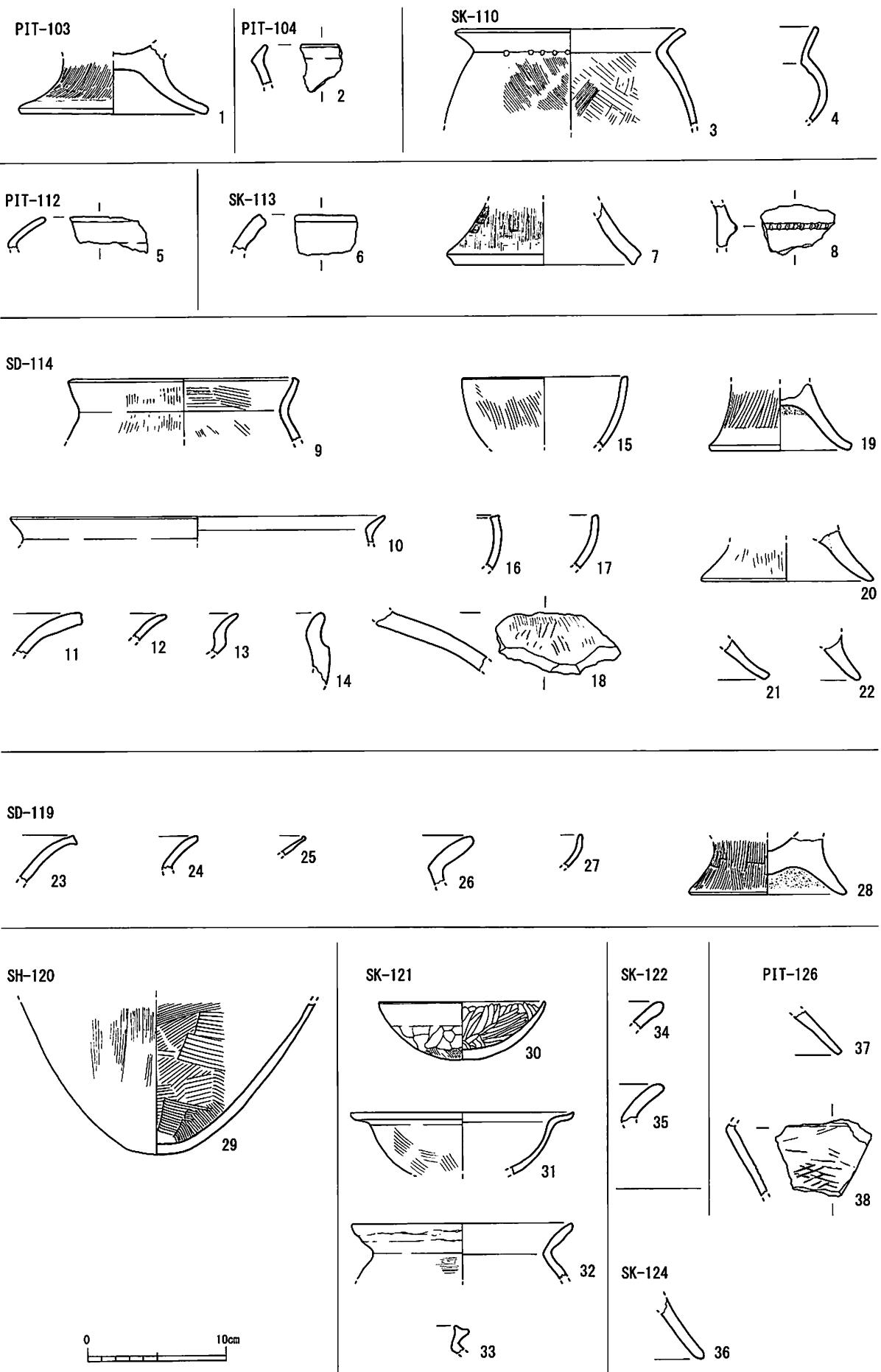


第25図 5トレンチ平断面①



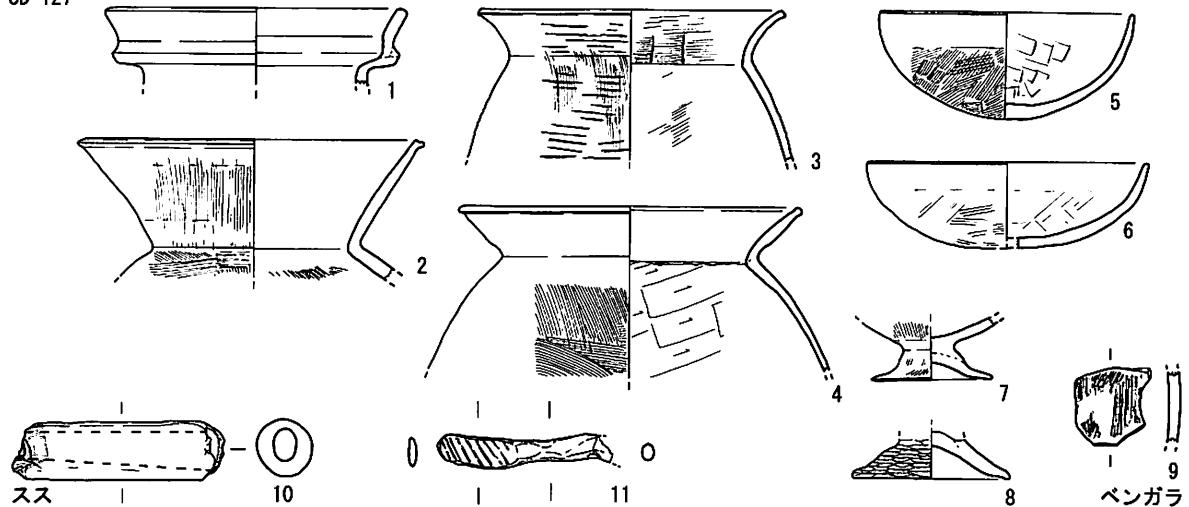
第26図 5 アレンチ平断面②



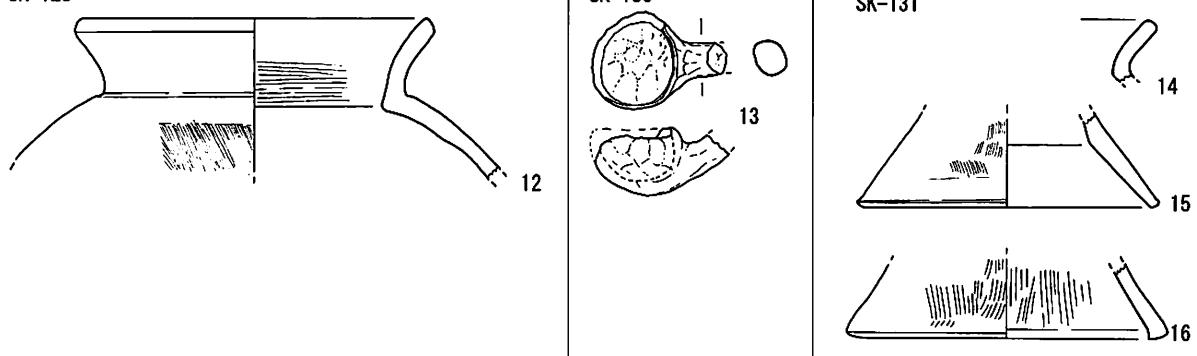


第28図 5トレンチ出土遺物①

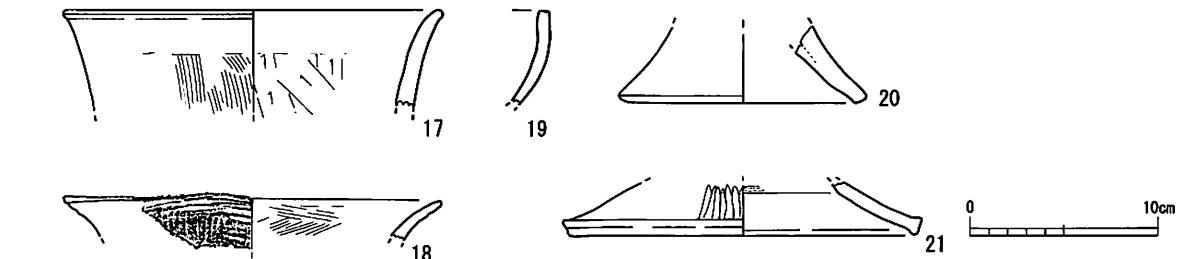
SD-127



SK-128



SK-132



第29図 5トレンチ出土遺物②

が多い（35図1～37図16）。SD-143出土遺物の総重量は34.02kg。遺物は上・下層に分けて取り上げたが相互で接合する個体もあったため、一括して報告する。大型壺（35図9）は底部以外ほぼ完形に復元できる。高さ68cm、口縁部直径24cm、体部最大径45.8cm。頸部と体部中央に突帯を貼り付け斜格子文を刻む。壺には頸部に刺突文を施すもの（36図8・9・15）と波状文を施すもの（36図16）がある。

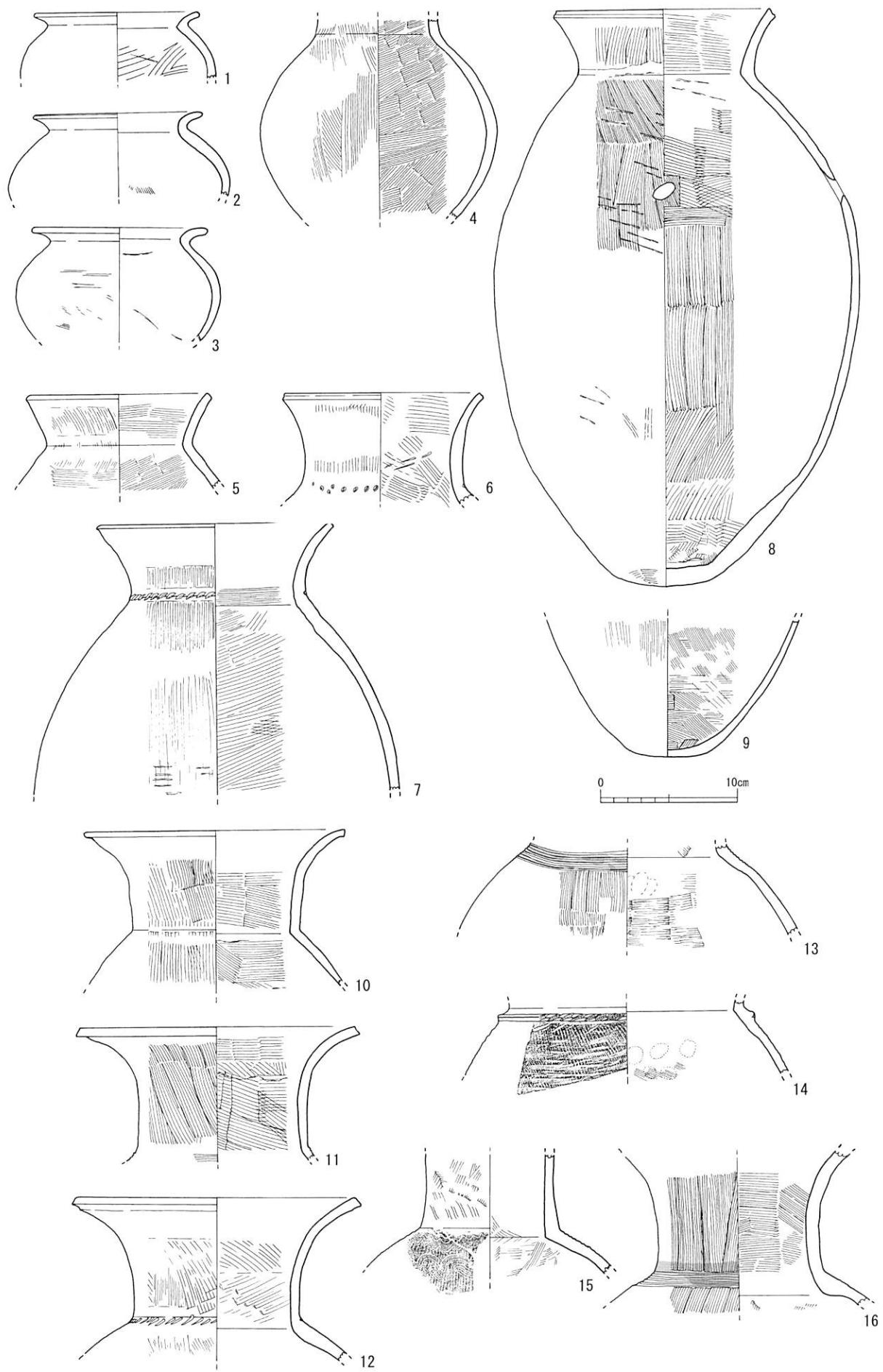
石剣の基部（37図13）は弥生時代中期の遺物が混入したものか。方保田東原遺跡では初例。山鹿市内では梅迫と金屋塚で出土例がある※2。近隣の玉名市でも、壺棺内から出土している※3。

石錐（37図16、図版18-4）は円盤状の石材両端に刻み目を入れて縄掛けとする。片面に煤状の黒色物質が付着する。黒色物質は模様のような隙間があり、縛り付けた縄の痕跡と思われるが、どのような使用方法で付着したのか不明。

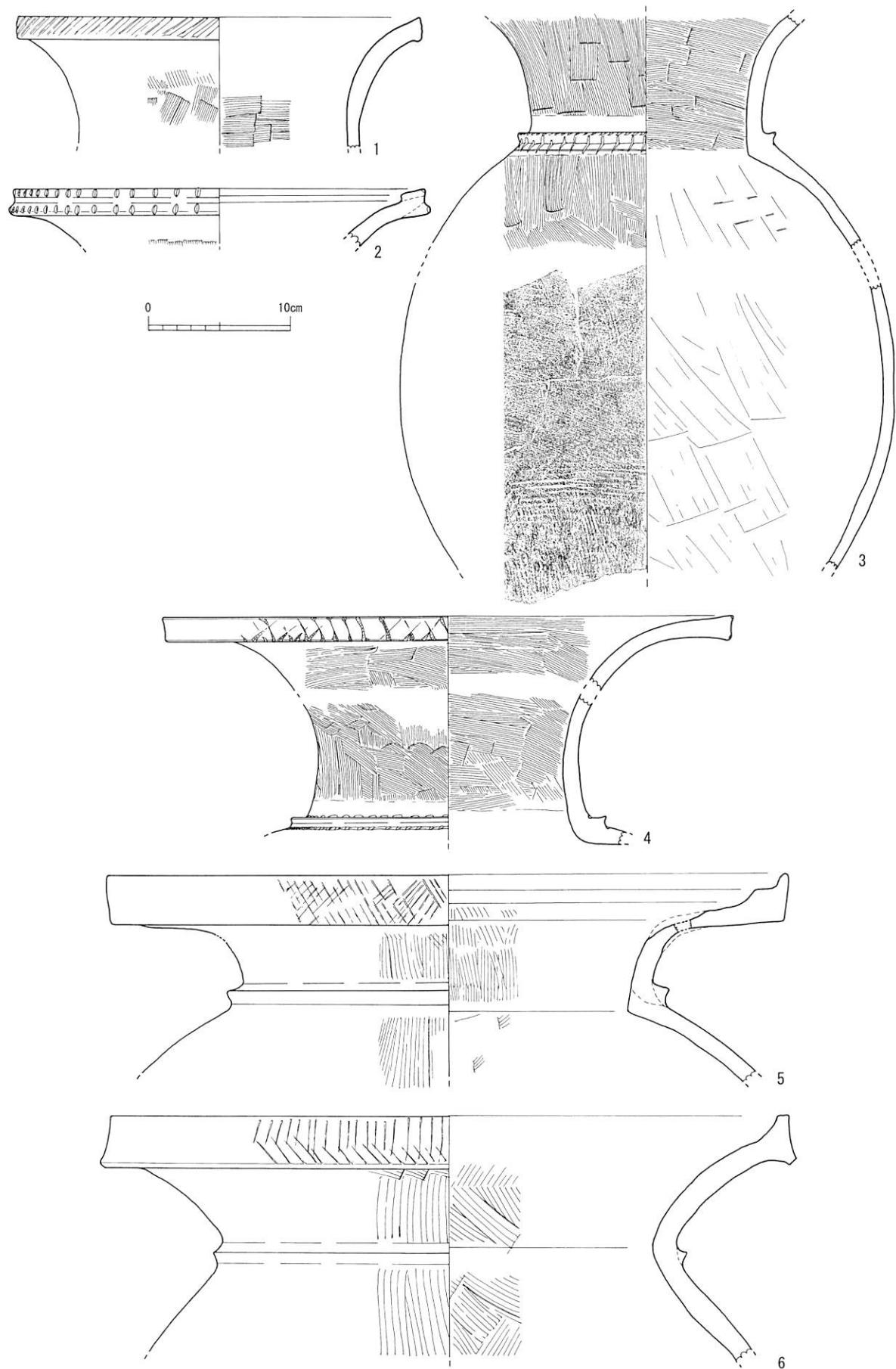
（3）土坑

SK-100（第25図、図版9-5）

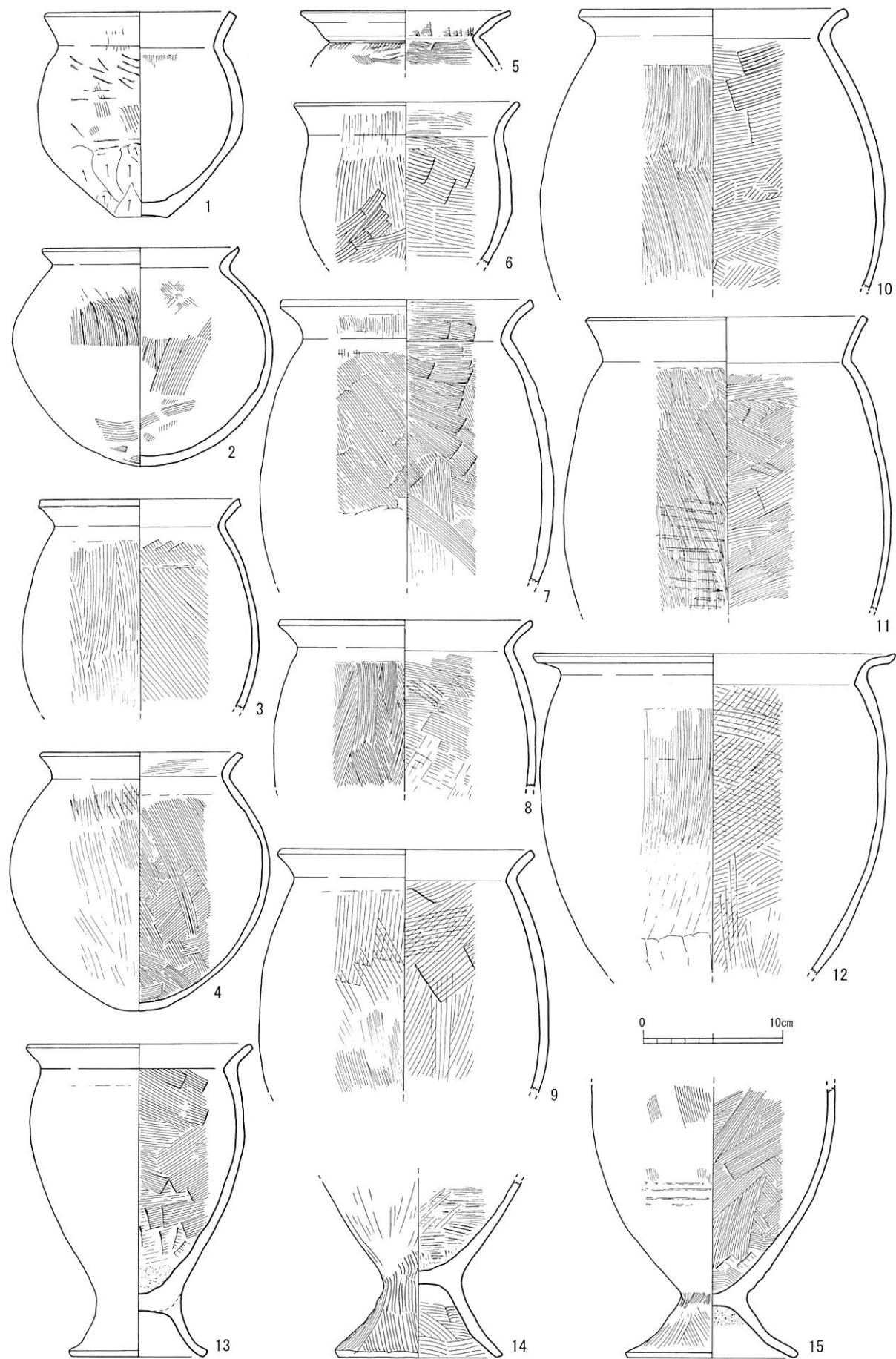
T5-1西端（0.5m地点）に位置する。南と東の壁にかかる。深さ0.08m。一部が柱穴状に深くなる。埋土から土器が出土。いずれも実測できない小片であったが、古墳時代前期の壺を含む。



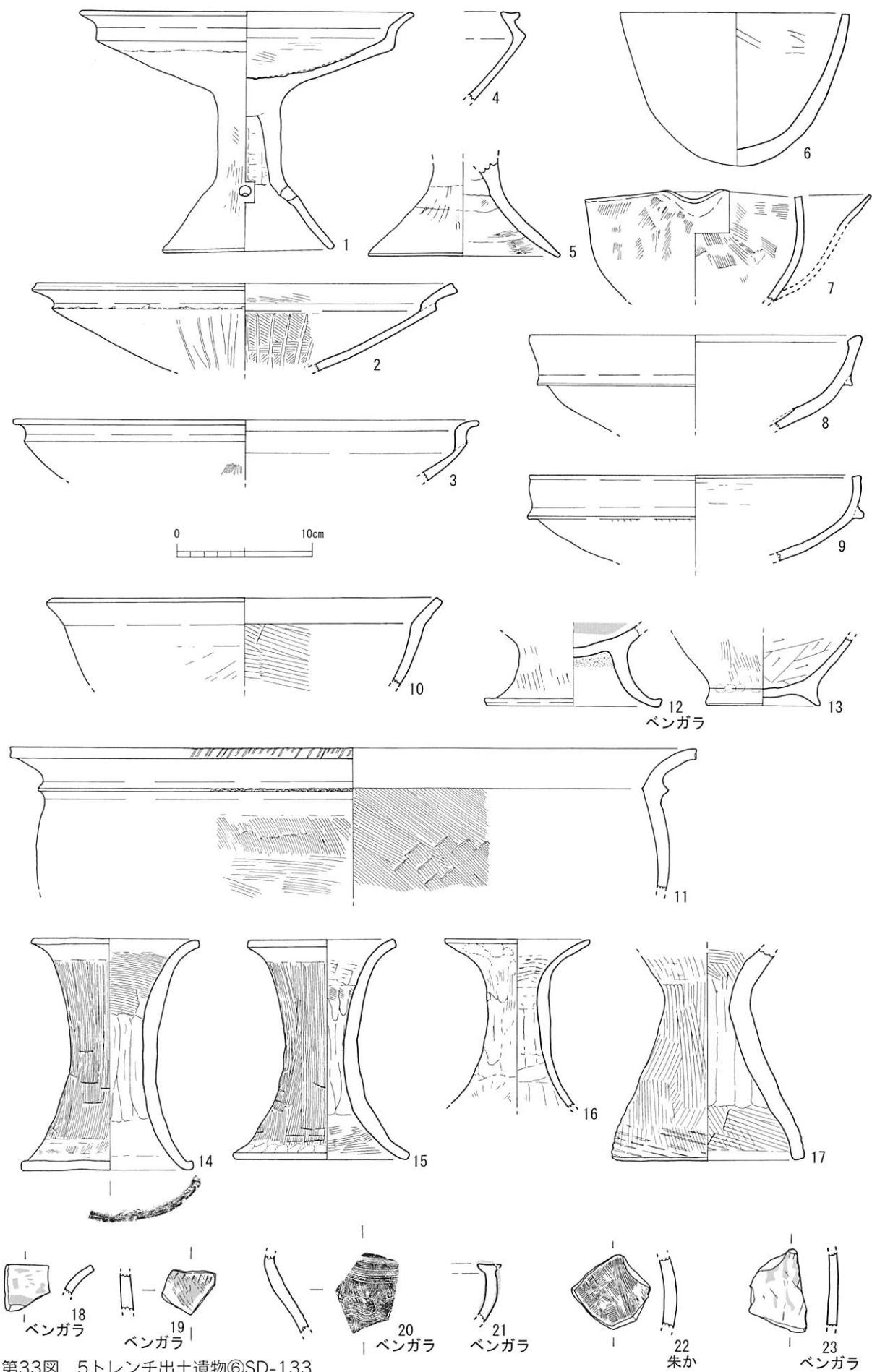
第30図 5トレンチ出土遺物③SD-133



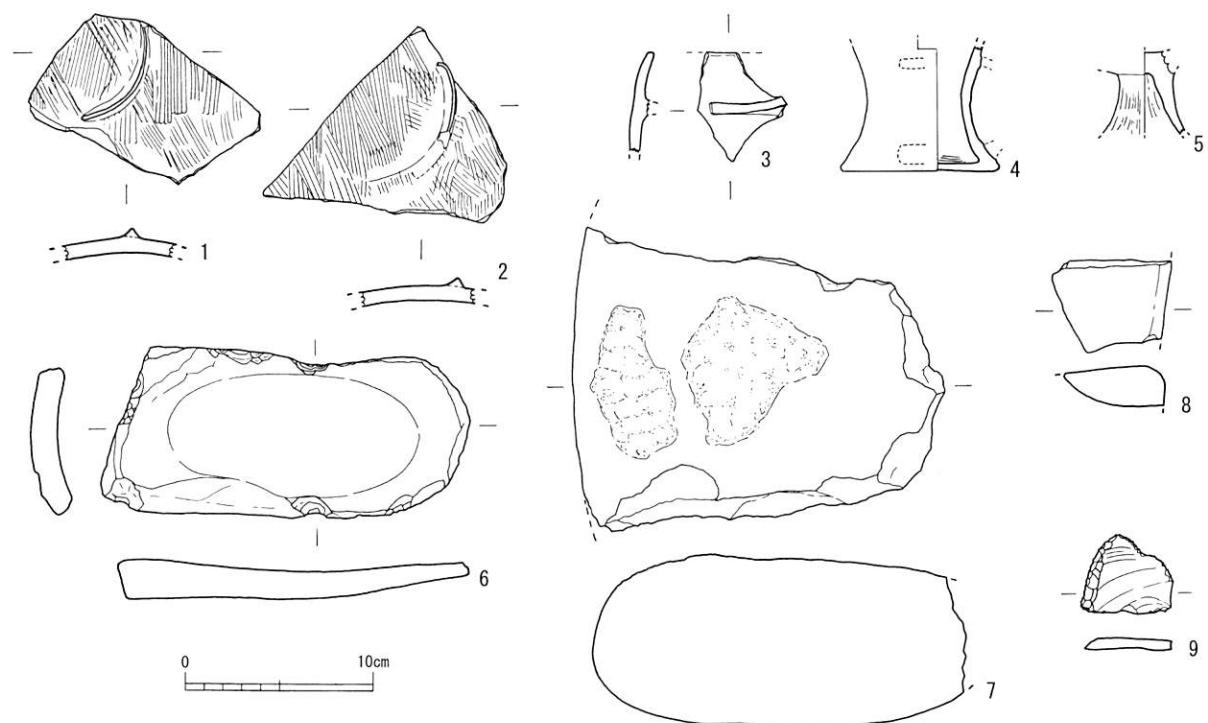
第31図 5トレンチ出土遺物④SD-133



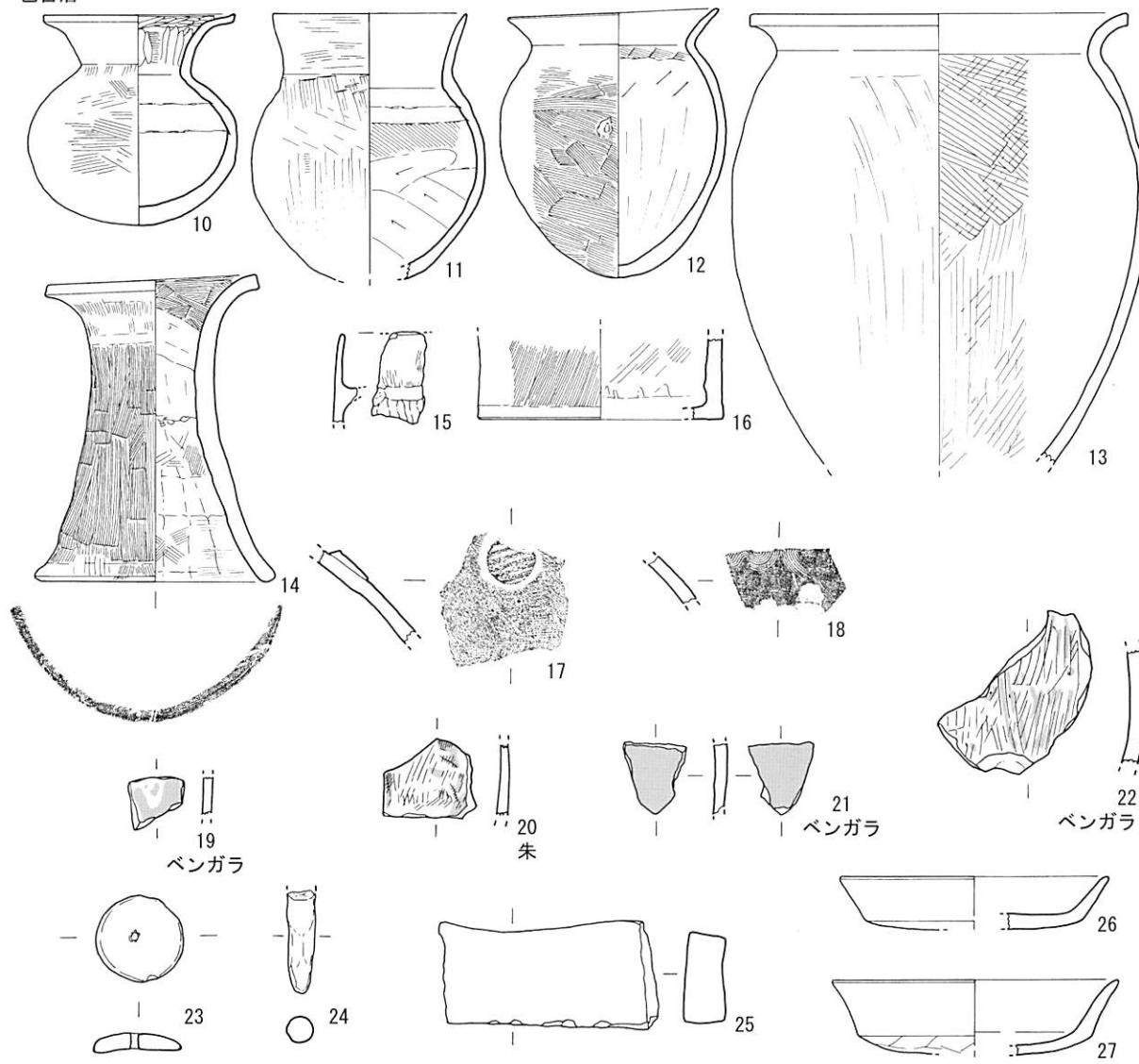
第32図 5トレンチ出土遺物⑤SD-133



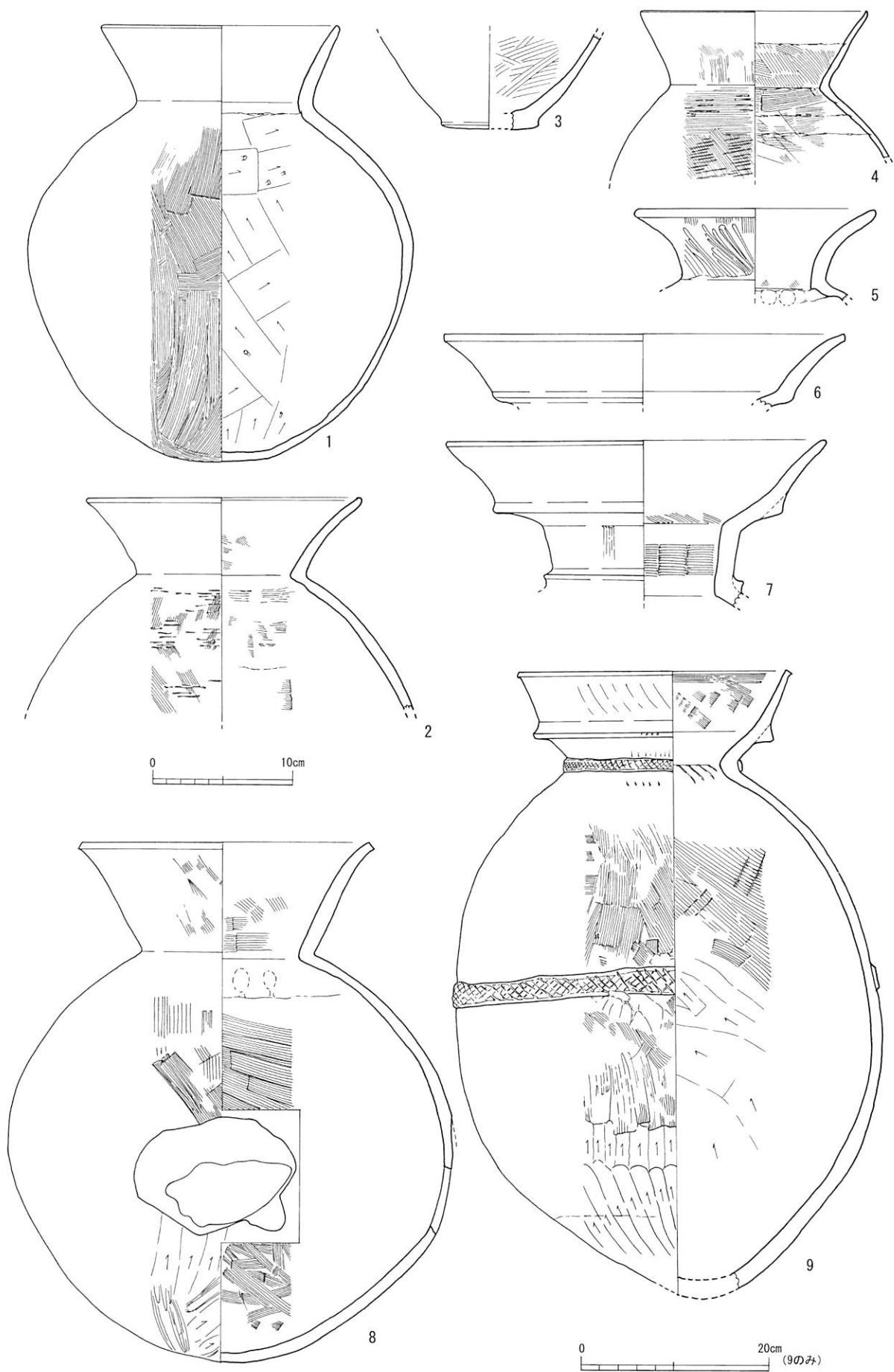
第33図 5トレンチ出土遺物⑥SD-133



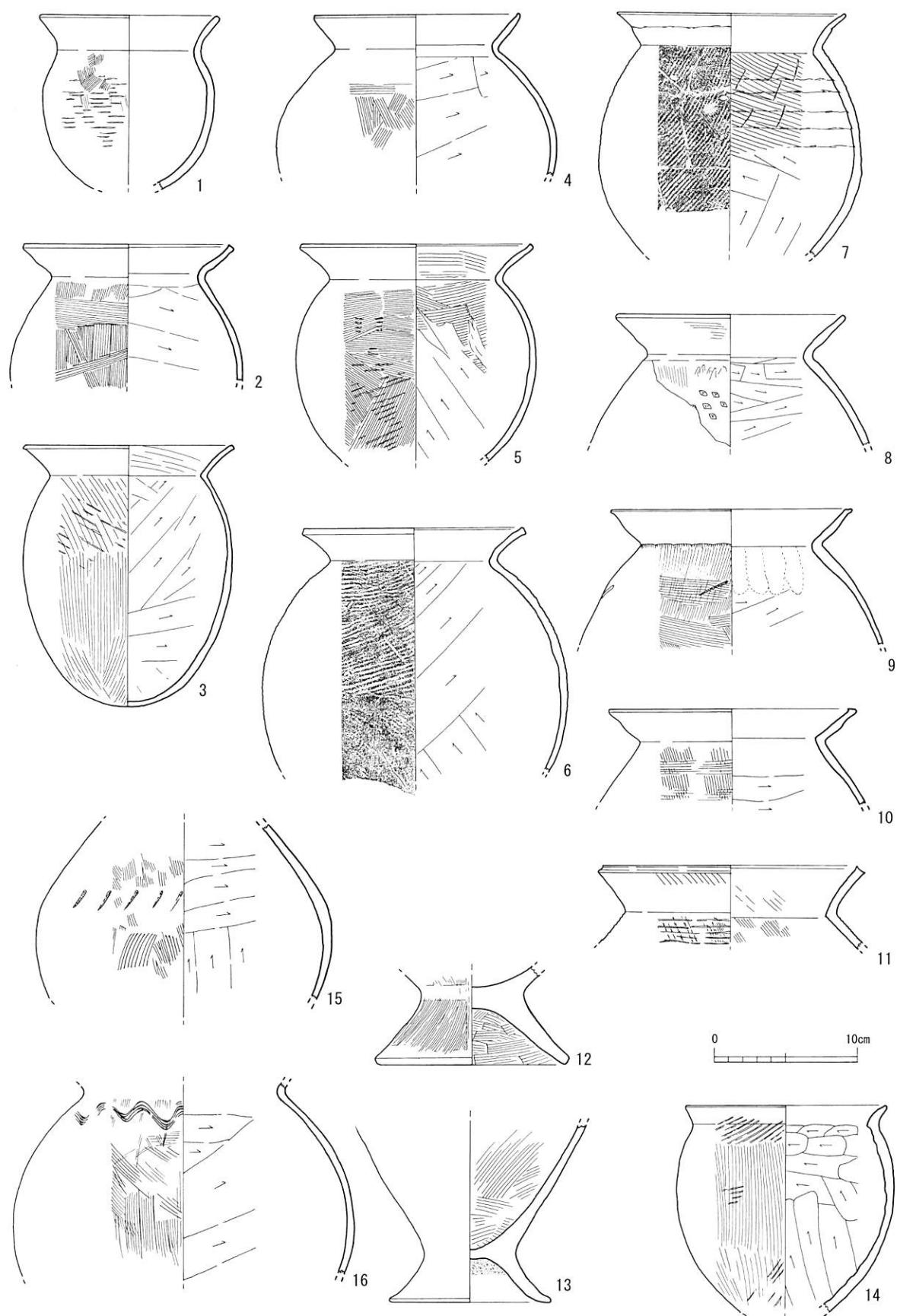
包含層



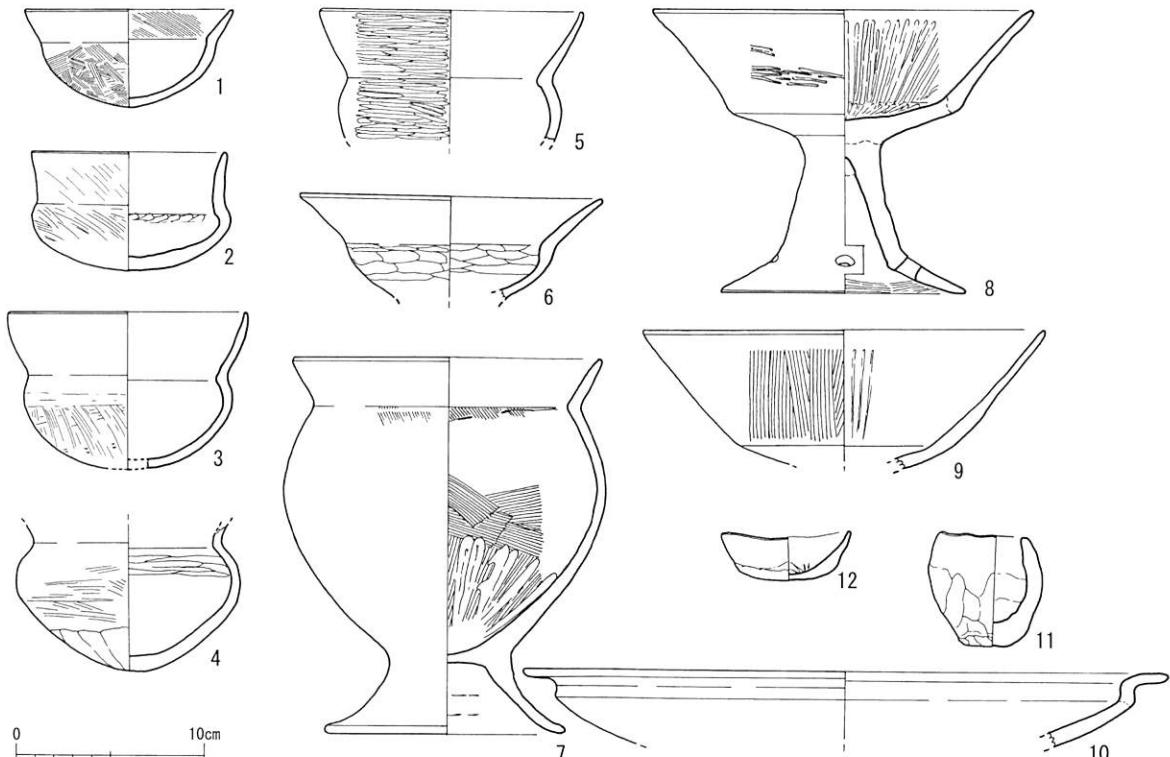
第34図 5トレンチ出土遺物⑦SD-133ほか



第35図 5トレンチ出土遺物⑧SD-143



第36図 5トレンチ出土遺物⑨SD-143



第37図 5トレンチ出土遺物①SD-143

SK-113 (第25図)

溝SD-114の西 (13m地点) に位置し、東側を溝に掘り込まれる。直径0.75×1.1m以上、深さ0.3m。脚台など (28図6~8) が出土。

SK-124 (第25図)

11m地点で北壁にかかる。PIT-112に掘り込まれる。直径1.0×0.55m以上、深さ0.18m。脚台小片 (28図36) が出土。

SK-131 (第26図)

31.5~33m地点にあり、直径1.5m、深さ0.35m。西のSK-130 (直径1.5m以上、深さ0.3m) を掘り込む。埋没はSK-130・131が同時。SK-132より新しい。脚台など (29図14~16) が出土。

SK-132 (第26図、図版10-3)

SK-131の東 (34~37m地点)。平面が直径2.2mの円形とすると、三分の一程度を検出した

ことになる。深さ0.4m。壺口縁など (29図17~19) 出土。

SK-147 (第27図)

T 5-3 東端 (73m地点)。直径0.8m程度で中央が柱穴状に深い (直径0.35×0.4m、深さ0.1m)。遺物なし。

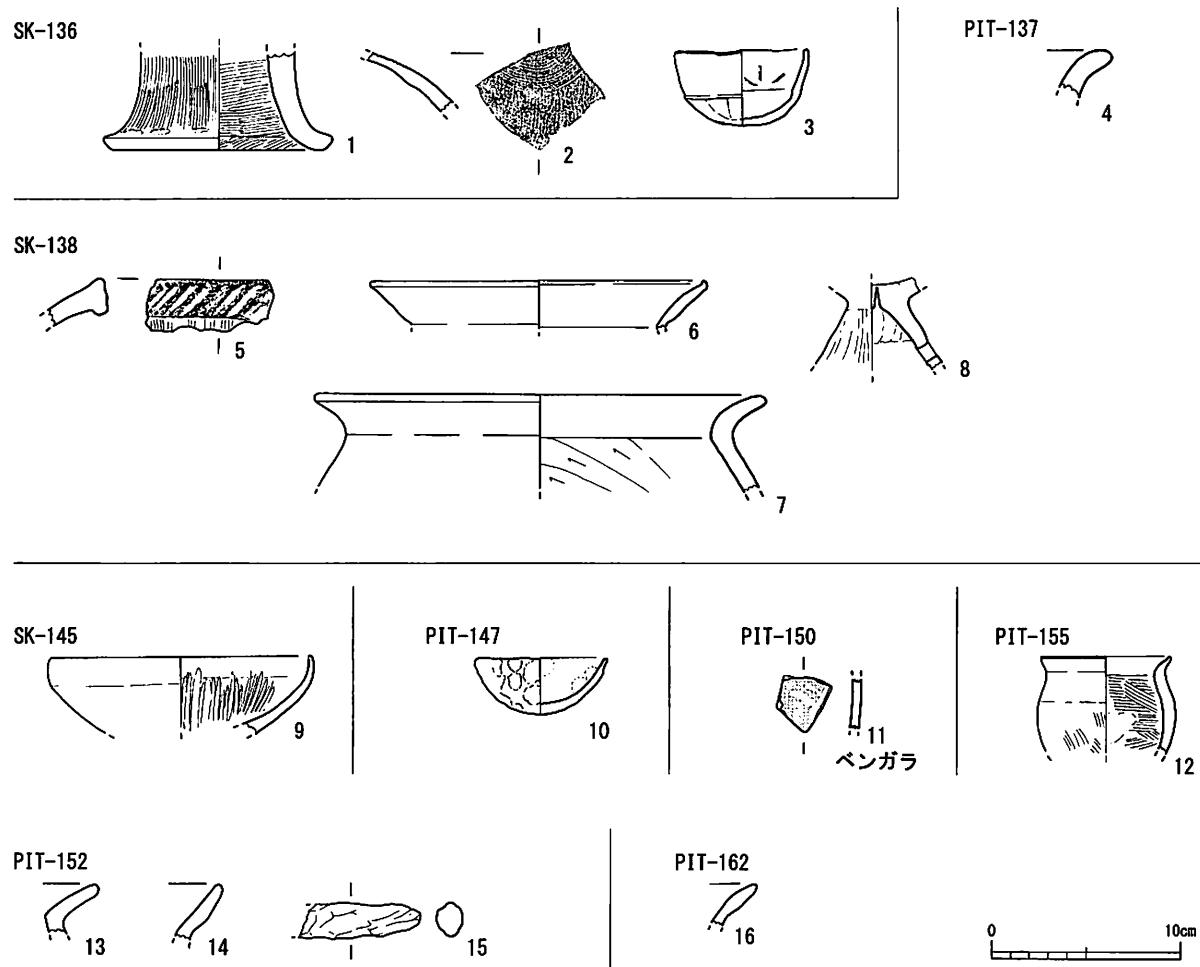
(4) 柱穴

PIT-103 (第25図)

T 5-2 西端 (3m地点)。溝SD-122の北にある。直径0.3m、深さ0.33m。甕脚台 (28図1)。

PIT-112 (第25図)

11m地点でSK-124を掘り込む。直径0.4×0.45m、深さ0.8mと深い。口縁小片 (28図5) が出土。



第38図 5トレンチ出土遺物⑪

PIT-126 (第25図)

18m付近の南壁。直径0.3m、深さ0.67m。土器は小片のみ(28図37・38)。

PIT-155 (第26図)

SD-133の西(37m地点)、北壁にかかる。遺物なし。

⑥6トレンチ(T-6) 第39図、図版11

5トレンチの東に位置するマンホール部分のみの調査区。下水道事業の名称はM-2。調査範囲は1.8m×2.0mと狭い。SK-161の南で硬化面を検出したので、トレンチは住居内部に位置するものか。遺構検出面の標高は33.5~33.6m付近。

マンホールは掘削が深いが、ここに接続する下水管(248~250工区)は掘削が浅く包含層に達しないため、この部分は工事立会で対応して発掘調査を実施していない(図版11-3・4)。立会ではマンホールに接続する部分で包含層が掘削され、若干の遺物が出土した(39図7~12)。

PIT-160 直径0.45m、深さ0.4m。壺底部(3図1)が出土。

SK-161 直径0.4×0.75m、深さ0.57m。壺口縁(39図2)が出土。

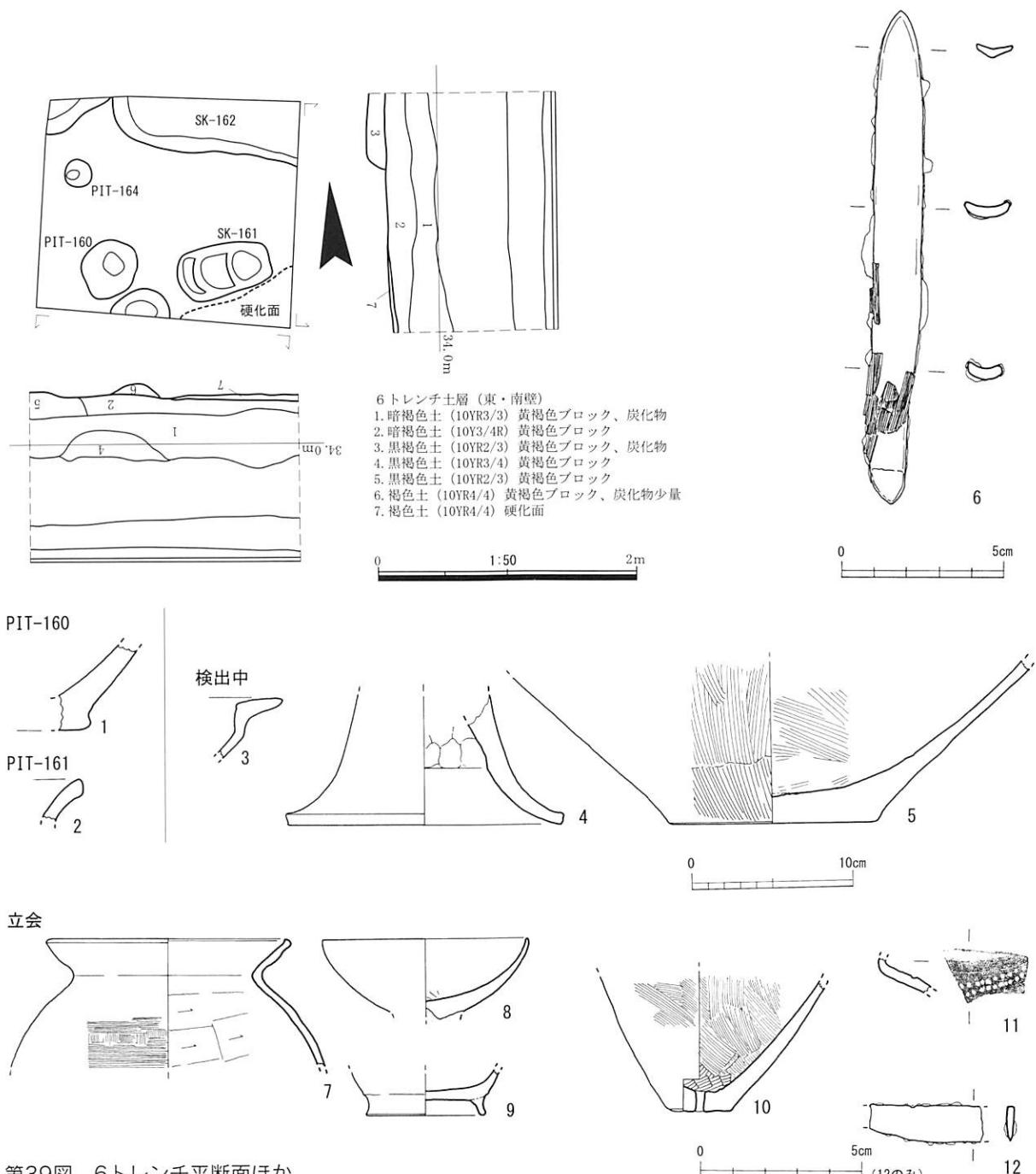
SK-162 一部を検出。深さ0.2m。北壁近くで完形に近いヤリガンナ(39図6)が出土。端部に木片が付着しているが、柄の断片か。

⑦鉄製品 第40~41図、図版18

今回の調査では56点(181.7g)の鉄製品が出土した。図版では実測可能なものをトレンチ・遺構ごとにまとめて掲載している。周辺調査での出土事例と同様、製品が少なくほとんどは鉄片とも呼ぶべき小片である。これらは整形工程で切断された残片であろう。鉄製品加工にともなう遺構や、この工程に関連するような遺構は検出していない(わずかに輪羽口が2点ある)ので、近接地(南東の第1次調査地区周辺など)で加工作業が行われていたと考えている。

1トレンチSD-4からはやややがんだ刀子(40図1)、完形の鎌(40図2)が出土。2トレンチSD-15からはヤリガンナ基部(40図3)、鎌(40図4)と小片が出土。手鎌片(40図17)は4トレンチSH-66から出土。

出土量が多いのは5トレンチのSD-133で、19点(137.7g)ある(この遺構からは土器も



第39図 6トレンチ平断面ほか

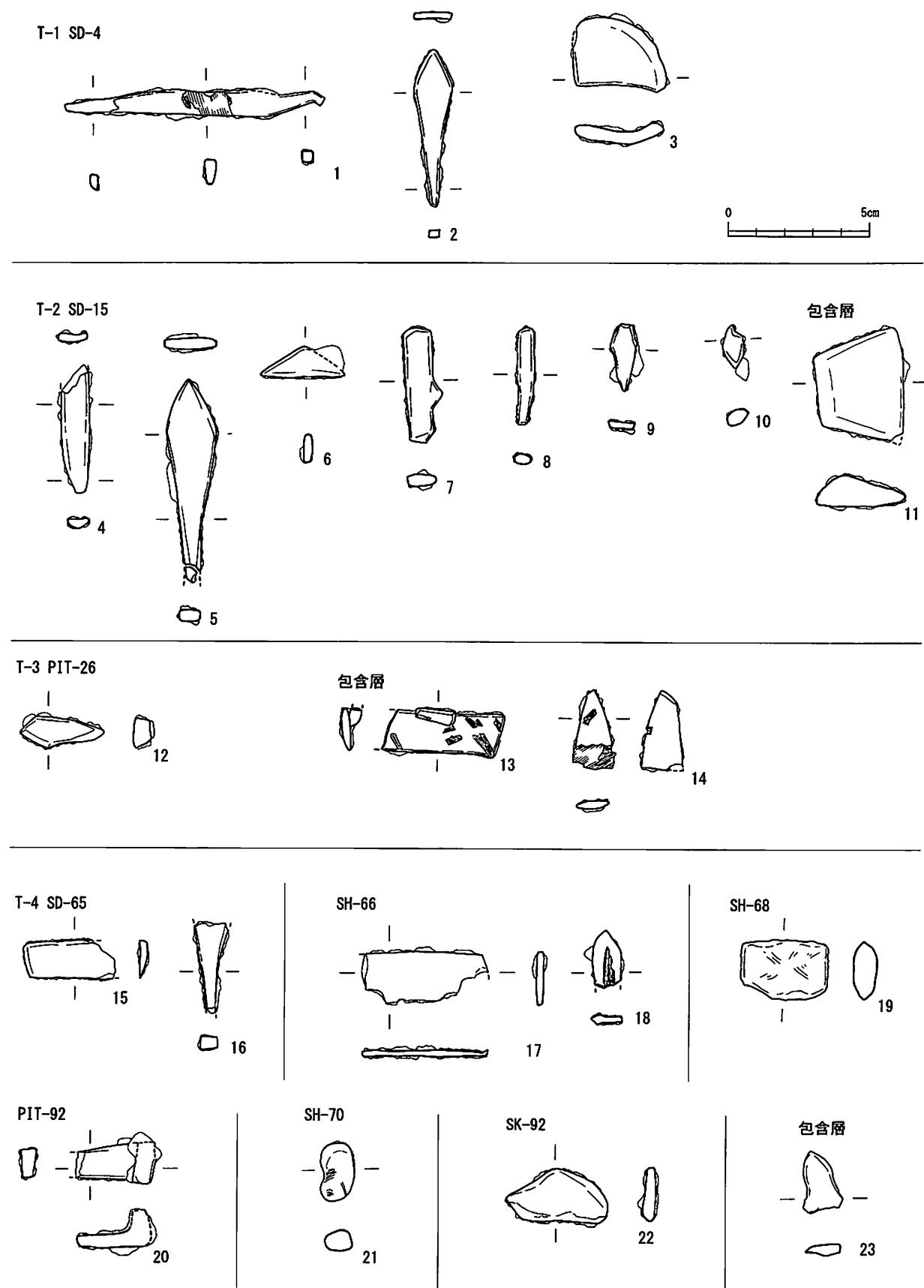
大量に出土しており、鉄製品だけが多いわけではない）。刀子先端（41図1～3）や鎌（41図5・6）などは破損しているが、手鎌（41図4）はほぼ完形。細い棒状品（41図7・8）は錐か。土器口縁に張り付いた鉄片（41図15）は埋没後の付着であろう。

第2章注

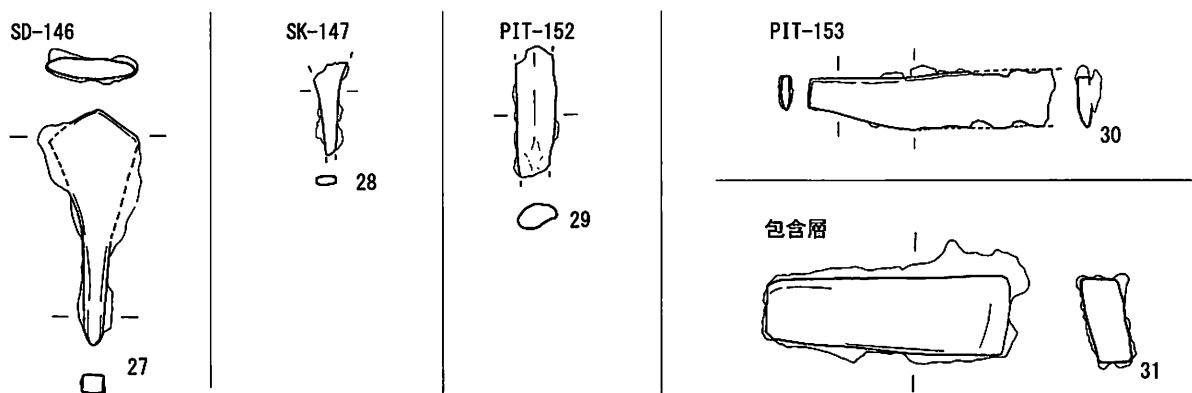
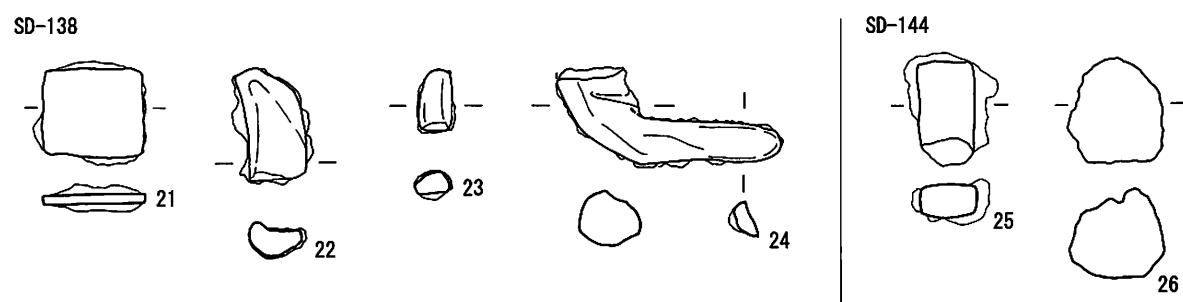
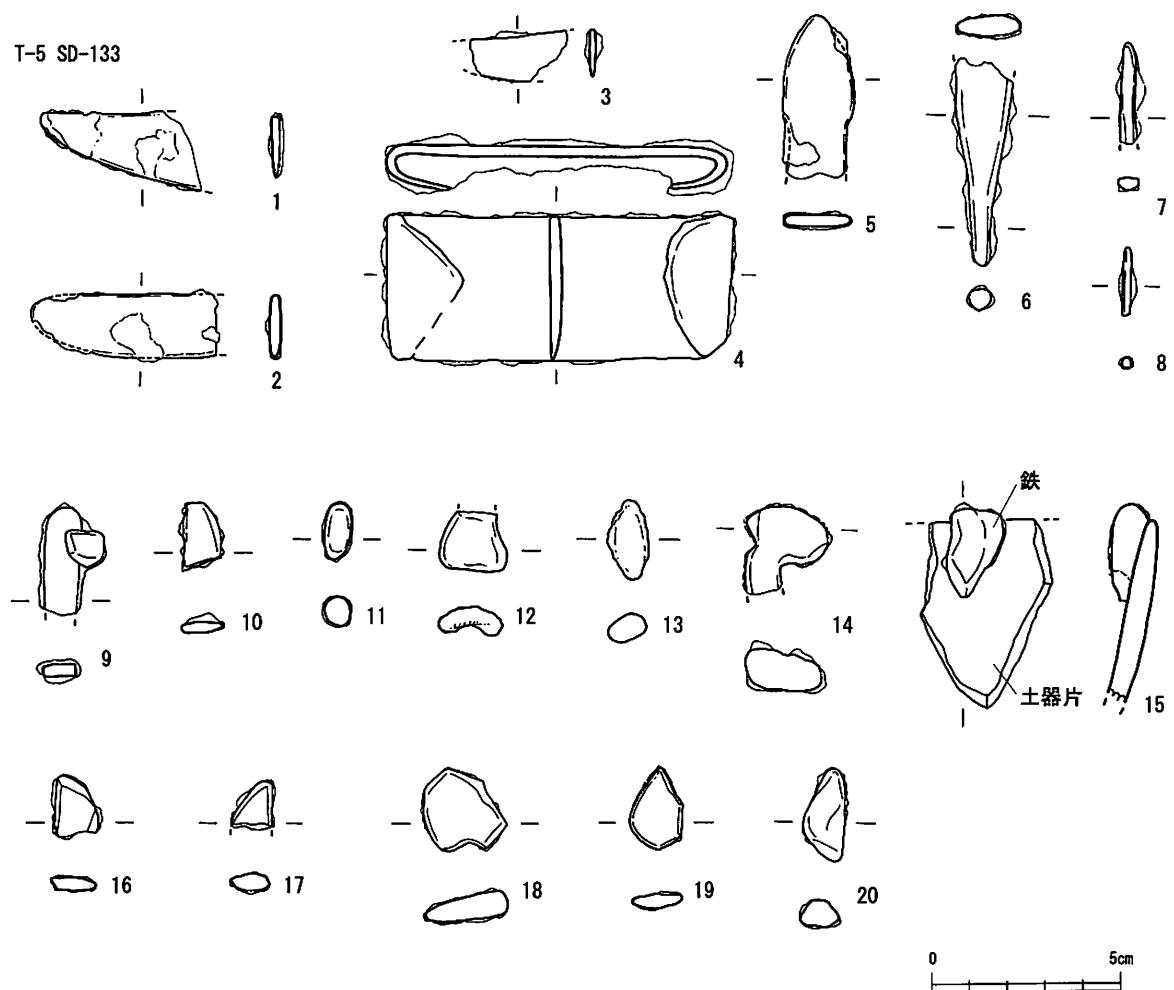
※1 土層の判断については文化庁の調査官から「見分ける難しさはAクラス」とのコメントをいただいたことがある。黄茶色系を呈する地山まで掘削すると明瞭に区別できるが、往々にして掘りすぎている。

※2 石剣の市内出土例は①梅迫遺跡では包含層などから3点出土。山鹿市文化財調査報告書第16集『梅迫遺跡』2004、P.55（第49図、図版16）を参照。②金屋塚（昭和30年代、前田軍治氏表採）隈昭志「金屋塚の沿革」『チブサン』第14号、熊本県立鹿本高等学校考古学部1965を参照。なお、金屋塚の資料は所在不明となっている。

※3 東南大門遺跡では中期の甕棺から4点出土。玉名市文化財調査報告第8集『東南大門遺跡』玉名市教委2000、P.35（Fig25）を参照。



第40図 鉄製品①



第41図 鉄製品②

第3章 その他の調査

第1節 調査の経緯

前章で述べた平成16年度以前にも、平成9～12年度に方保田東原遺跡で下水道事業が実施されている（2図）。この年度では対象地の道路幅員が狭小であったため、道路を通行止めにして掘削後管渠を設置し、埋め戻すという手順で工事が実施された。工事期間中は周辺に迂回路が設定できず、発掘調査の実施によって工期が延長された場合に地域住民の生活に影響を及ぼすことが想定された。このことから、本格的な発掘調査ではなく、専門職員の立会調査で対応することとなった。

迂回路を設定できた事業区間については遺構実測図を作成したが、それ以外の区間では実測・写真撮影などの十分な記録が残せなかった。以下では遺構・遺物が出土した地点について、写真と図面などに基づき記述する。

第2節 法令等の手続き

本章で述べる調査の文化財保護法等の法令に基づく手続きは以下のとおりである。

①9年度8工区

発掘届（57条3）；9/12/9山下P2-132号
→9/12/9山教文M8-56号
→9/12/18教文第1529号

②9年度5工区

発掘届 (57条3) ; 9/5/13山下P 2-28号
→ 9/5/29山教文M 8-12号→9/6/9教文第390号

③11年度31丁目

登録番号 (57条3) : 11/10/1 山下P2-151号

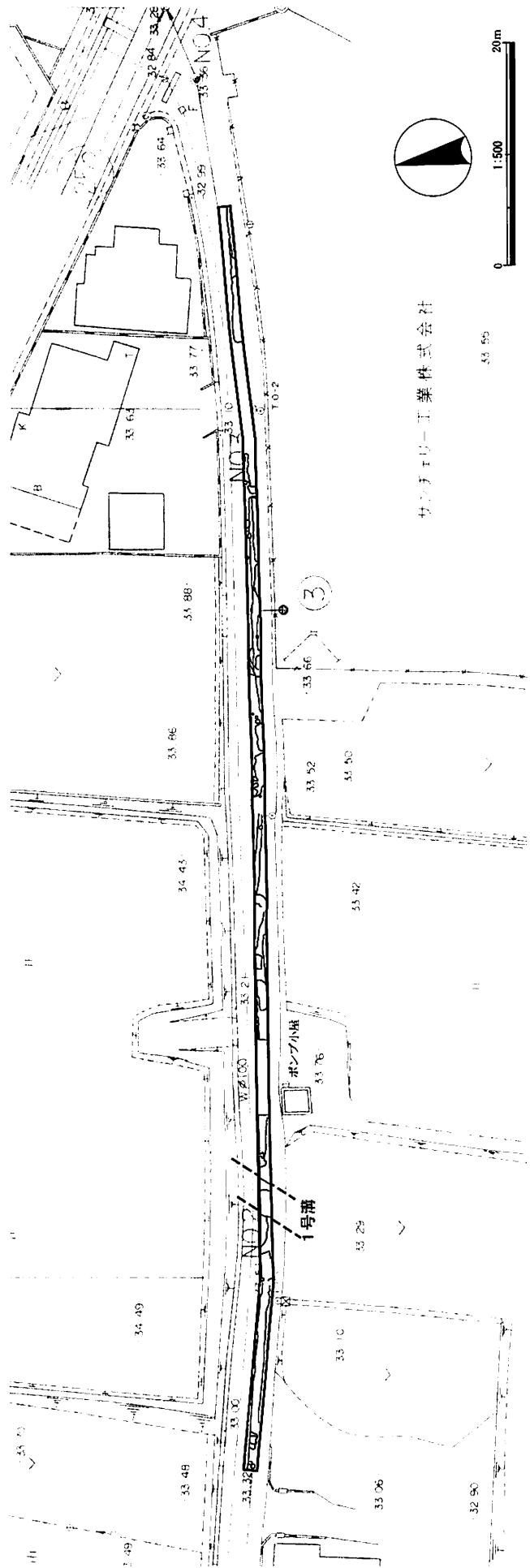
完結語（87集8）

発掘届 (57条3) ; 12/11/1 山下P2-121号
→ 12/11/2 山教文M8-73号
→ 12/11/8 教文第1205号

第3節 平成9年度調査

①8丁目 (第42~44図、図版12)

平成9年度8工区は、県道301号から南西方に向の本村（ほんむら）集落内に至る市道にあたる。対象地の南東には工場（サンチェリー工業）があり、平成2年に発掘調査が実施されている※1。8工区では迂回路の設定により工期が延長できたため、遺構実測図が作成された。工程上の理由からか平面図は3回に分けて実測されているが、



第42図 平成9年度8工区 調査区の配置

相互の図面が接合するのか判然としない。T-1・2・3として掲載する。

調査範囲は幅1.1m、長さ113mである。全体で溝、土坑などの遺構を検出した。市道の北東延長部分では第48次調査（1トレンチ1号溝）および第50次調査（1グリッド3区溝）において、現在の市道とほぼ重複する位置で道路状遺構が検出されている。道路状遺構は中世城郭（遺跡西部の大通小学校付近に所在した方保田城）に関連すると推定されている※2が、今回の調査ではこの遺構の南西延長は把握できていない。

1号溝は調査区の西半付近（T-2の66～69.5m地点）に位置する。方向は北東から南西で調査区に対してやや斜めである。幅3.4m、深さ0.7m、溝の東斜面は二段掘りになっている。溝からは壺、甕、高杯などの遺物が出土した（45～46図、図版12-3）。

器種不明土器（46図1・2）は口縁もしくは算盤玉状体部の破片。二点あって胎土は類似するが微妙に形態が異なり、別個体である。端部をつまみ出し、キザミを施している。これまでの調査で類例がなく、在地の器形ではない。遺構外出土遺物のうち、赤色顔料付着土器（46図17）は内外面にベンガラと見られる赤色顔料が付着。土玉（46図18）は小孔が貫通する。

②5工区（図版12-5・6）

平成9年度5工区は、県道301号から北東に伸びる市道地下に位置する。文化財保護および地質上の理由から推進工法（線状に開掘せず、垂直に掘削した立坑で下水管を接続する工法）によって施工された。2箇所の立坑部分で遺物が出土しているが、遺構の内容は不明である。また、県道に位置する立坑で溝の断面が確認された。第5次調査3号溝の北延長か。遺物は壺、甕、器台など（46図22～26）がある。

第4節 平成11年度調査

①31工区（図版13）

平成11年度31工区は、遺跡中央付近に所在する山鹿市出土文化財管理センターをはさんだ南北両側に位置する。ともに迂回路を設定できず、工期も短かったため十分な記録を残すことができなかった。南側では土坑などが検出されている。北側では文化財管理センター建設に伴う第11次調査（平成7年）で出土した方形遺構の延長と見られる溝の一部を検出している。遺物は少量で壺、甕脚台など（47図1～9）がある。

第5節 平成12年度調査

①8工区

平成12年度8工区は遺跡南西にあたり、9年度8工区の西南部に位置する。この地区でも迂回路が設定できなかったため、図や写真などの記録を残せていない。工事に際して区間ごとに採取された遺物はあったものの、出土遺構の内容については不明である。

ここでは4～5区（1623番地付近）において溝が検出され、まとまった遺物が出土している。調査時のメモによると、溝は北東から南西方向に向かい、現地表面から1.3mで検出、深さ0.65m。二段掘りで底は平坦であった。調査地東側では第40次調査において同時期の溝（3区3号溝）が検出されている※3。この溝は東西方向をとり、北側にのみテラスがある。幅2.86m、深さ0.98～1.2m。規模や形態がやや異なるので、これらの遺構が接続するか不明である。

また、東側の畠（1618番地）では多量の土器片が採取されており、周辺にも多くの遺構が存在することが伺える。

溝の遺物には壺、甕、高杯など（47図10～16）がある。壺（47図10）は口縁外面にハケ状工具による刺突で山形文を巡らせる。高杯（47図15）は白川流域の形態。以下は一括（遺構外出土）遺物（47図17～48図13）である。器台（48図10）は8～9区出土、脚部の小片だが長方形透かしを施す。福岡南部や佐賀平野に見られる器形である。

第6節 補遺；平成15年度調査の未報告資料

平成15年度調査で出土し、報告書に掲載していないかった遺物を紹介する※4。

①石杵（第49次調査出土）

石杵（48図14、図版18-4）は第49次調査B-1区で出土した。礫が集中する範囲があり、検出作業中に「礫群」として一括で取り上げた石材のうちの1点である。このため詳細な位置やレベルは不明。「礫群」をさらに検出・掘削したところ、この遺構は古墳時代円墳（復元直径17.9m）の埋葬主体（1号土坑）であると推定された※5。検出中の出土であるため、石杵がこの遺構に伴わない可能性が高い。

石杵はわずかに曲る自然石の末端に使用面がある。使用面はカーブがあり平坦でなく、往復運動でついた摩擦痕が見られる。使用面以外の

全体はわずかに赤変しており、熱を受けたものか。

石杵頂部に若干の敲叩痕が見られるが、全体の形態は原石に近く、ほとんど加工されていないようである。頂部近くにごく少量のベンガラが付着している。肉眼では摩擦面に赤色顔料は見られない。長さ13.1cm、重さ1.16kg。両手でしっかりと握り締め、上半身も使った動作が必要な大きさ・重さである※6。

②鉄製品（第51次調査出土）

鉄製品は5点（48図15～19）あり、全て完成品ではない。主に溝から出土した※7。整形段階で断ち落とされた断片か、加工前の素材である。いずれも厚みがあり、持つとずっしりとした鉄の重みがある。

第3章注

※1 『方保田東原遺跡11』所収。

※2 『方保田東原遺跡(8)』P.107を参照。

※3 『方保田東原遺跡IV』P.332・第393図を参照。

※4 『方保田東原遺跡(8)』所収。

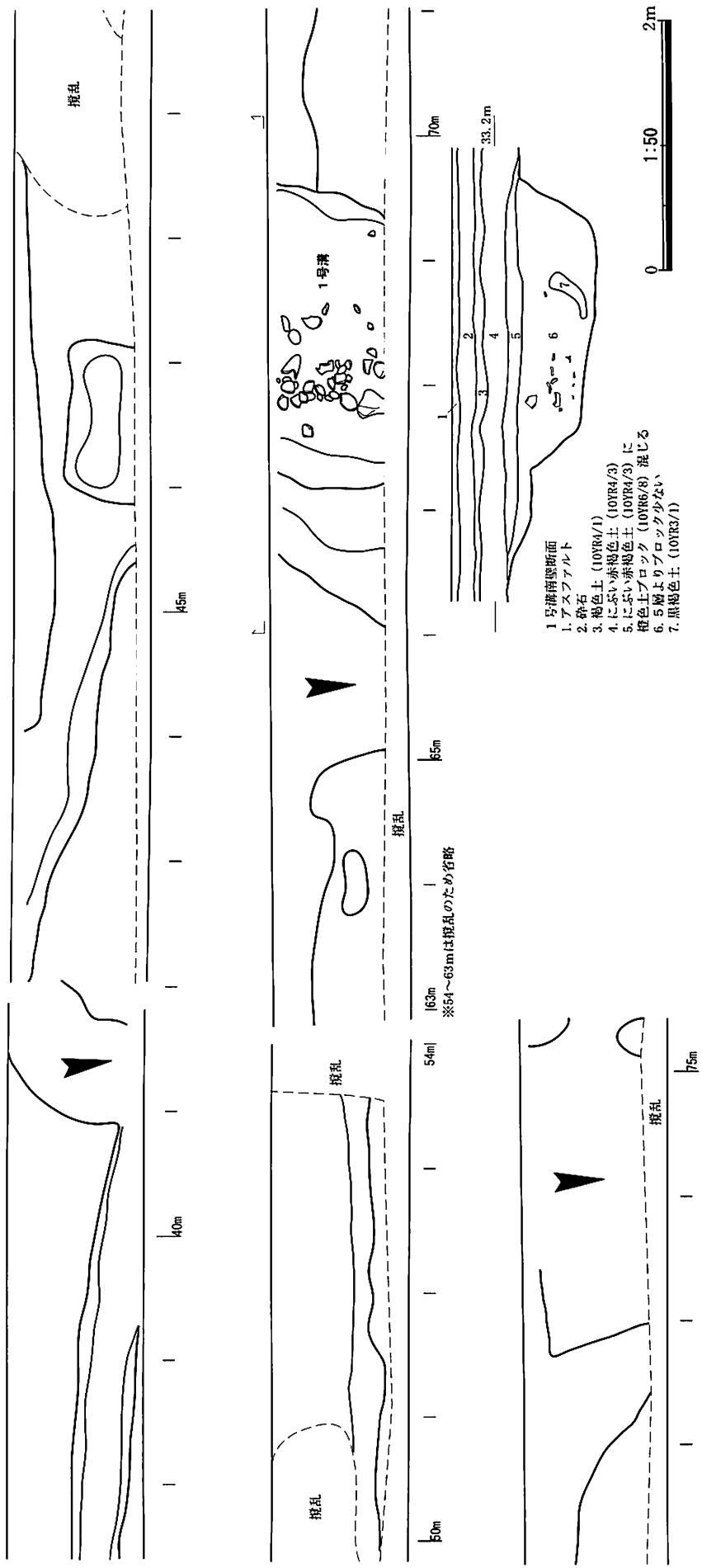
※5 『方保田東原遺跡(8)』P.83・図版23を参照。

※6 実測は阿南亨氏(菊池市教育委員会)による。

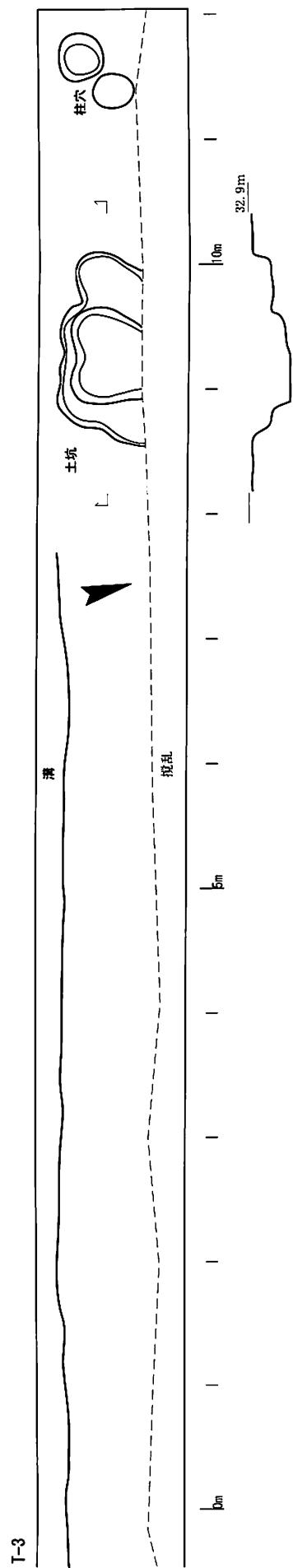
※7 『方保田東原遺跡(8)』P.108・図版32を参照。



第43図 平成9年度8工区 平面①



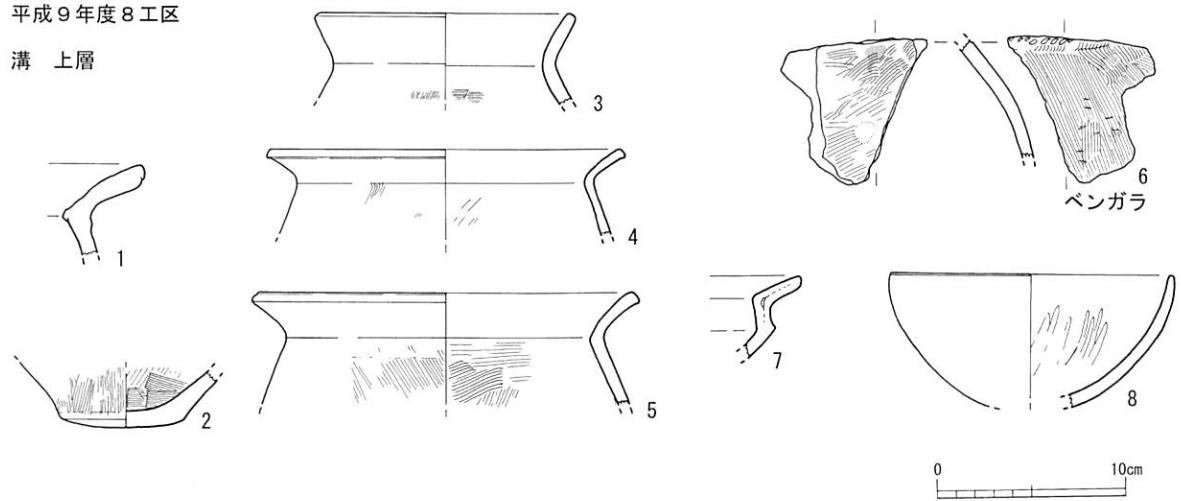
第44図 平成9年度8工区 平面②



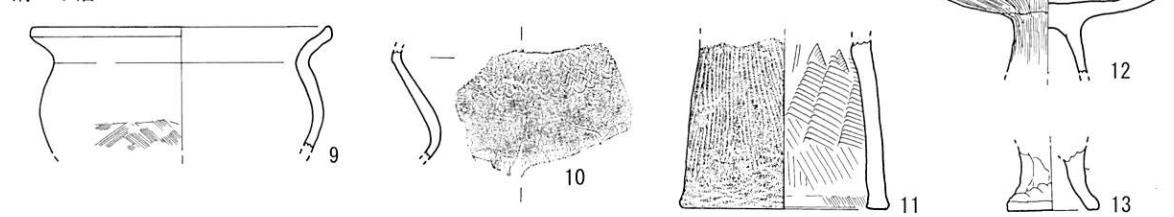
T-3

平成9年度8工区

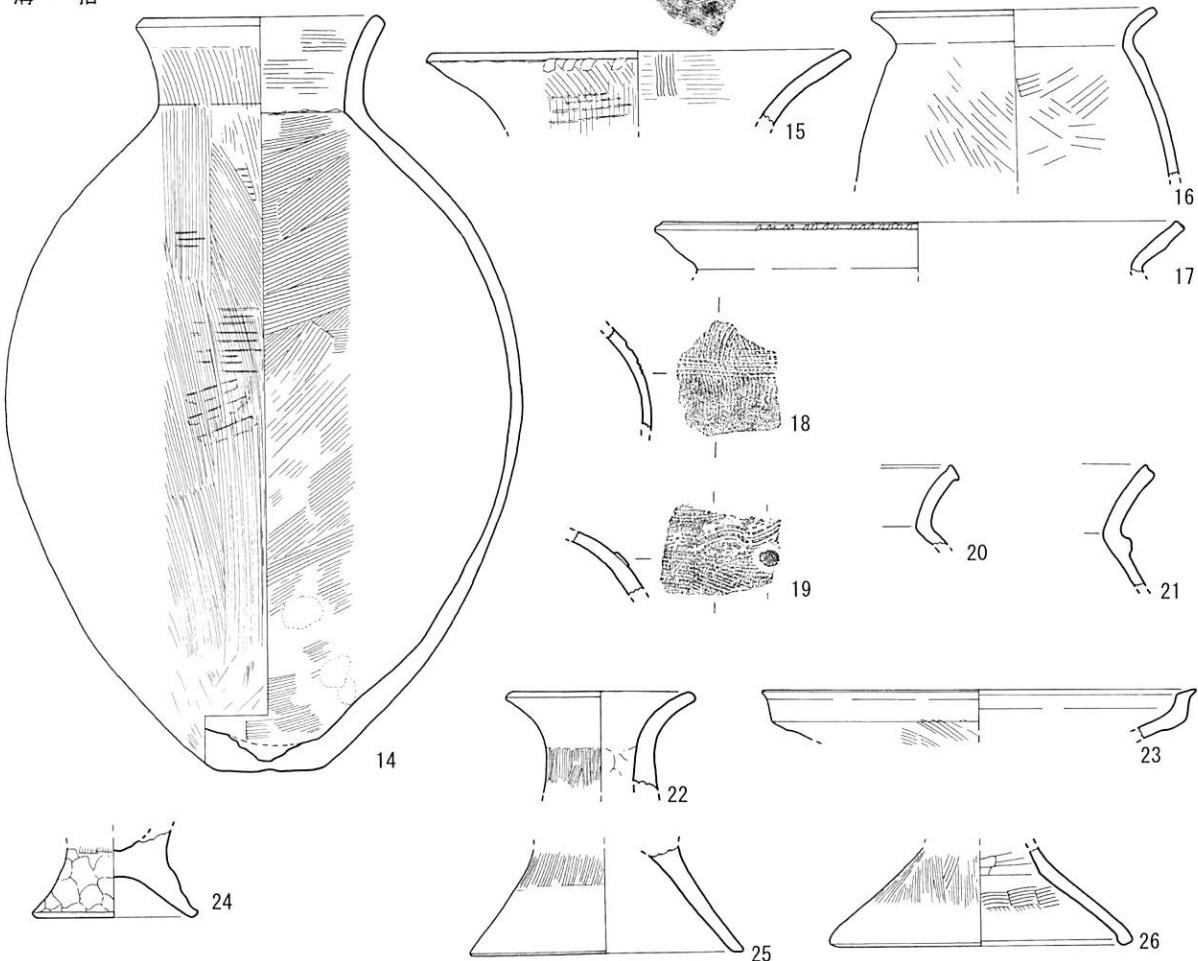
溝 上層



溝 下層



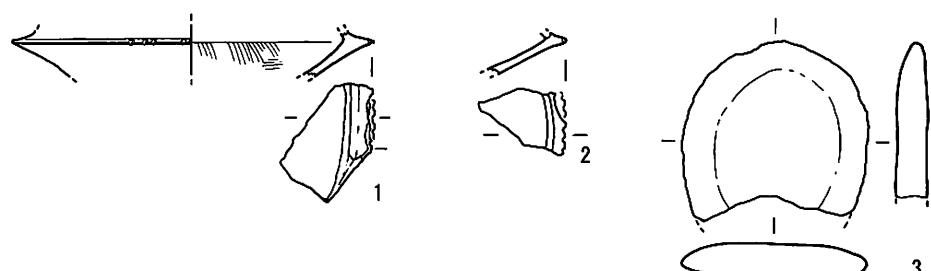
溝 一括



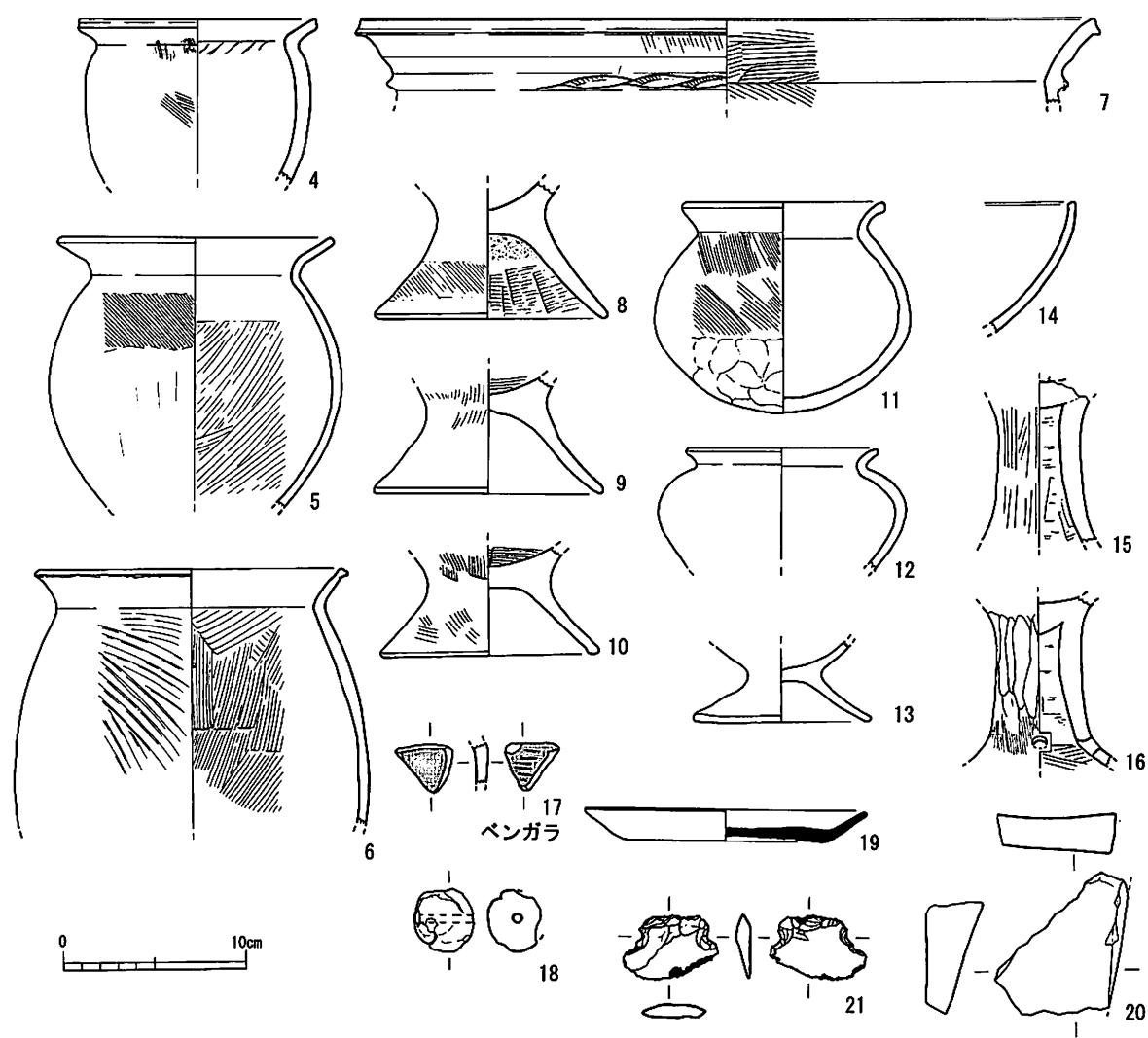
第45図 平成9年度8工区 出土遺物①

平成9年度8工区

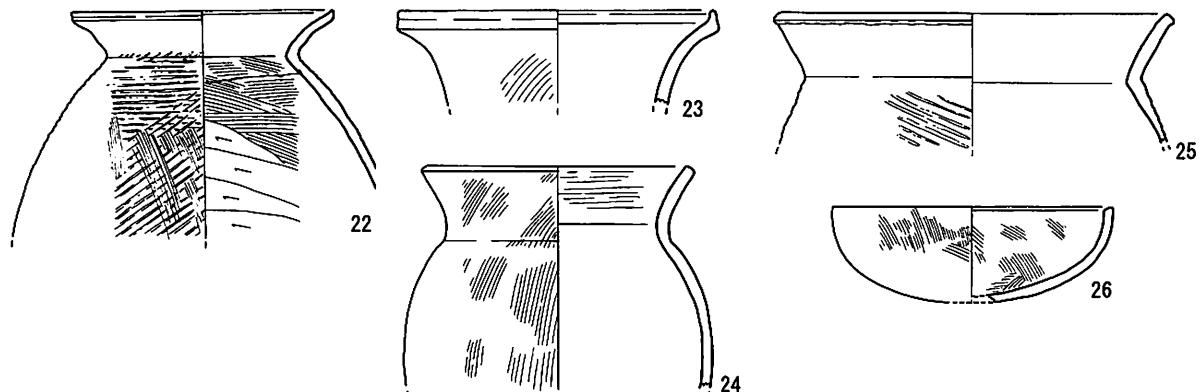
溝一括



包含層

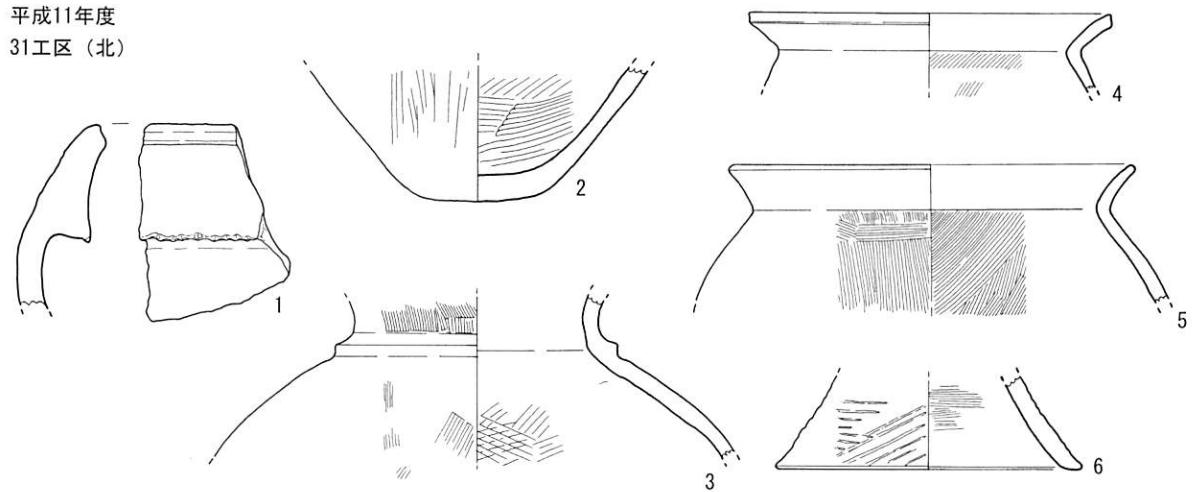


平成9年度5工区

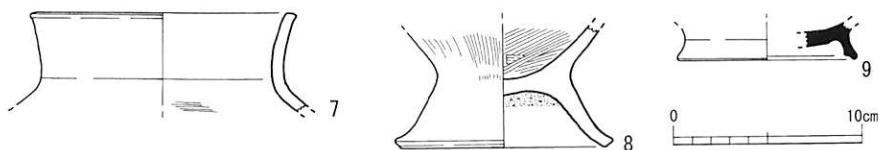


第46図 平成9年度8工区 出土遺物②

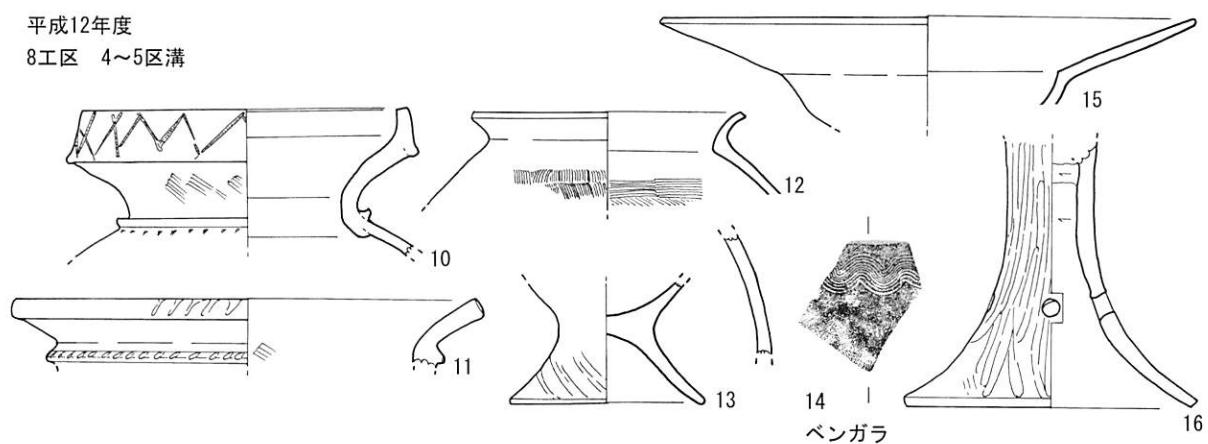
平成11年度
31工区（北）



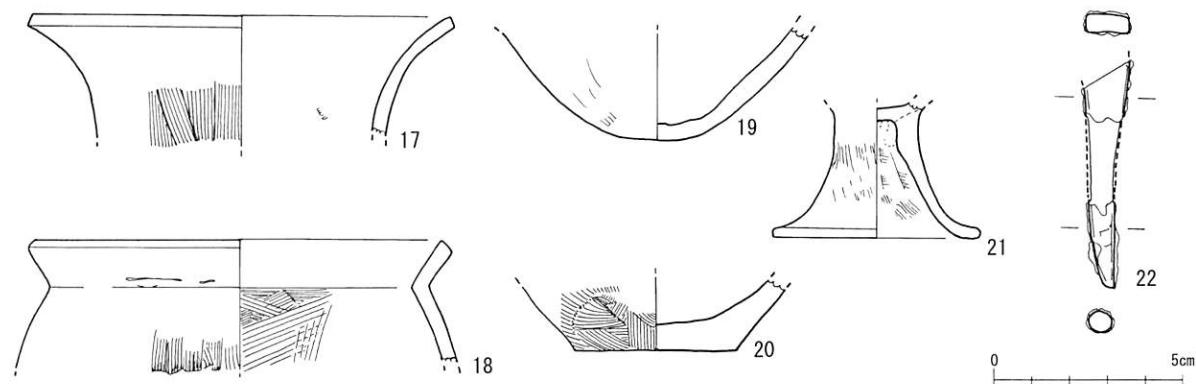
平成11年度
31工区（南）



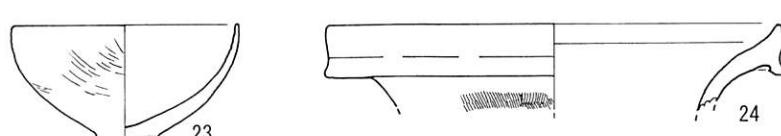
平成12年度
8工区 4~5区溝



8工区 5~6区

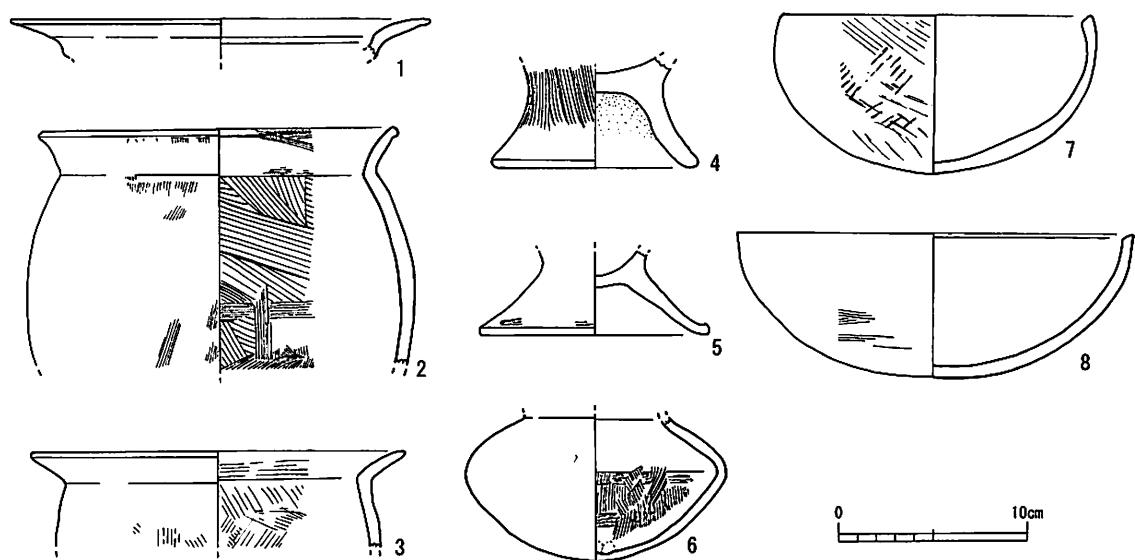


8工区
6~7区

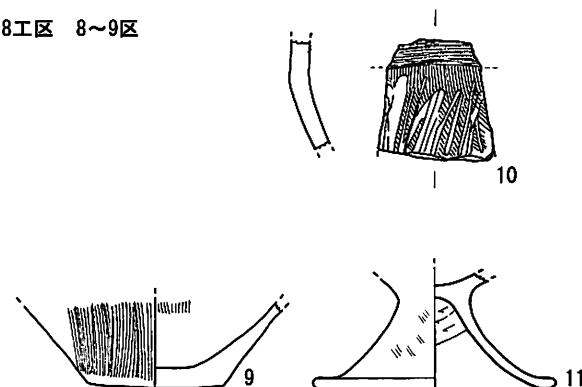


第47図 平成11年度31工区・西8工区出土遺物①

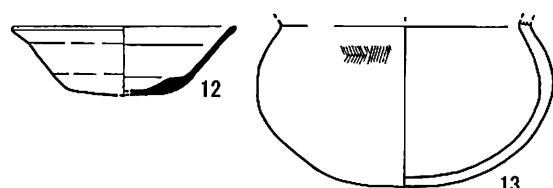
8工区 7~8区



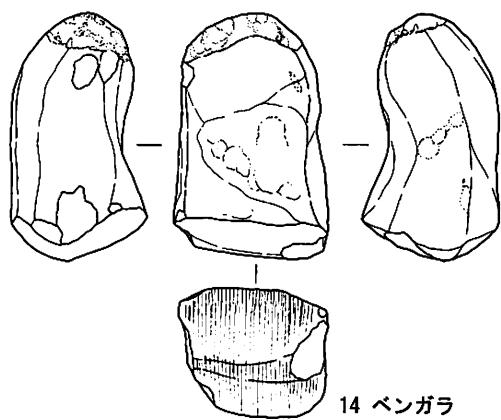
8工区 8~9区



9~10区

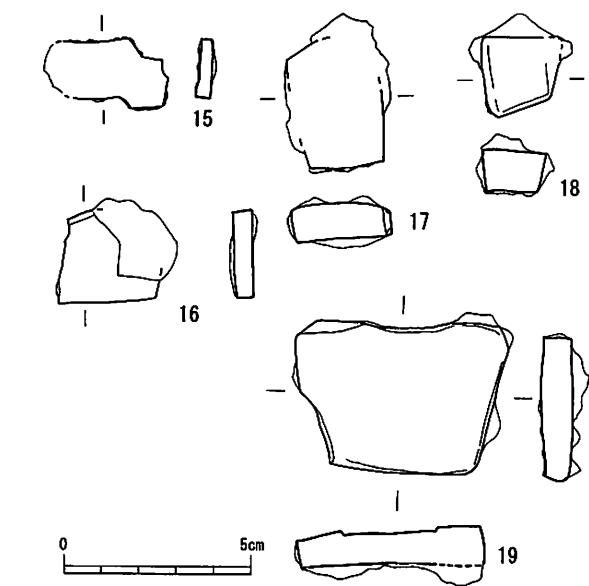


平成15年度 第49次調査出土



14 ベンガラ

平成15年度 第51次調査出土



第48図 平成11年度西8工区出土遺物②・平成15年度出土遺物

第4章 まとめ

第2章で報告した第52次調査では、方保田東原遺跡の中心地付近に縦横のトレンチを細く長く掘削したことになり、多くの遺構・遺物が出土した。幅1m程度の狭いトレンチであったので遺構の判断には悩まされ、調査地南部（1・2トレンチ）では搅乱による破壊部分も多かった。このため遺構の性格や分布については推測による点も多いが、調査中に気づいたことを記してまとめとする。

第1節 遺構

検出した遺構・遺物の時期や種類はこれまでと大差ない。時期は弥生時代後期から古墳時代初頭が中心で、その前後（弥生中期・古墳から古代にかけて）も若干ある。中世以降の遺物は包含層からもほとんど出土していない。検出した遺構の種類は住居、溝、土坑、柱穴である。井戸がないのはこの遺跡の特徴でもある。

住居はごく一部を検出したものを含めて11棟ある。調査区北部（T4-2）を中心に7棟と多い。明確なカマドをもつものはなかった。炉の可能性の高い遺構SX-204（T4-2）もあり、これは住居に伴うものか。住居の時期を示す遺物は乏しく、利用や廃絶の様相もよくわからない。

溝は調査地北側の5トレンチで多い。断面形態は逆台形で幅広く深いものが、方向は台地北縁に向かう南北方向が主であった。第52次調査の北西に位置する第53・54次調査では今回の調査地東側一帯と比較すると住居などの遺構密度が低いので、これらの溝で遺跡内部の地区利用が区分されていた可能性がある。

東西方向の溝がほとんどないのはこれまでの調査と同様であった。東西方向の溝は、SD-201・202（T-2）の小規模な2本のみである。調査区南端のSD-1（T-1）は北東～南西方向をとり、これらの方向とややずれている。

SD-133（T5-3）は溝のごくごく一部を掘削したにすぎないが、重さにして200kgにも達する膨大な土器が出土した。溝全体ではどれだけの遺物量なのか、その遺物を作りだし廃棄した人間の活動はどのようなものであったのだろうか。また、この溝は北の台地北縁まで続くことは前述した。南のSD-4（T-1）から県道（平成9年度5工区の立坑）を経て、第5次調査3号溝まで接続する可能性もある。その場合は長さが200m以上になり、遺跡内を区画する以上の役

割を想定すべきであろう。

柱穴は調査地北半部に多かった。古代の柱穴も含まれているが、調査範囲の制限から掘立柱建物を復元するには至っていない。柱痕を確認した柱穴はごくわずかでPIT-26（T-3）程度であった。

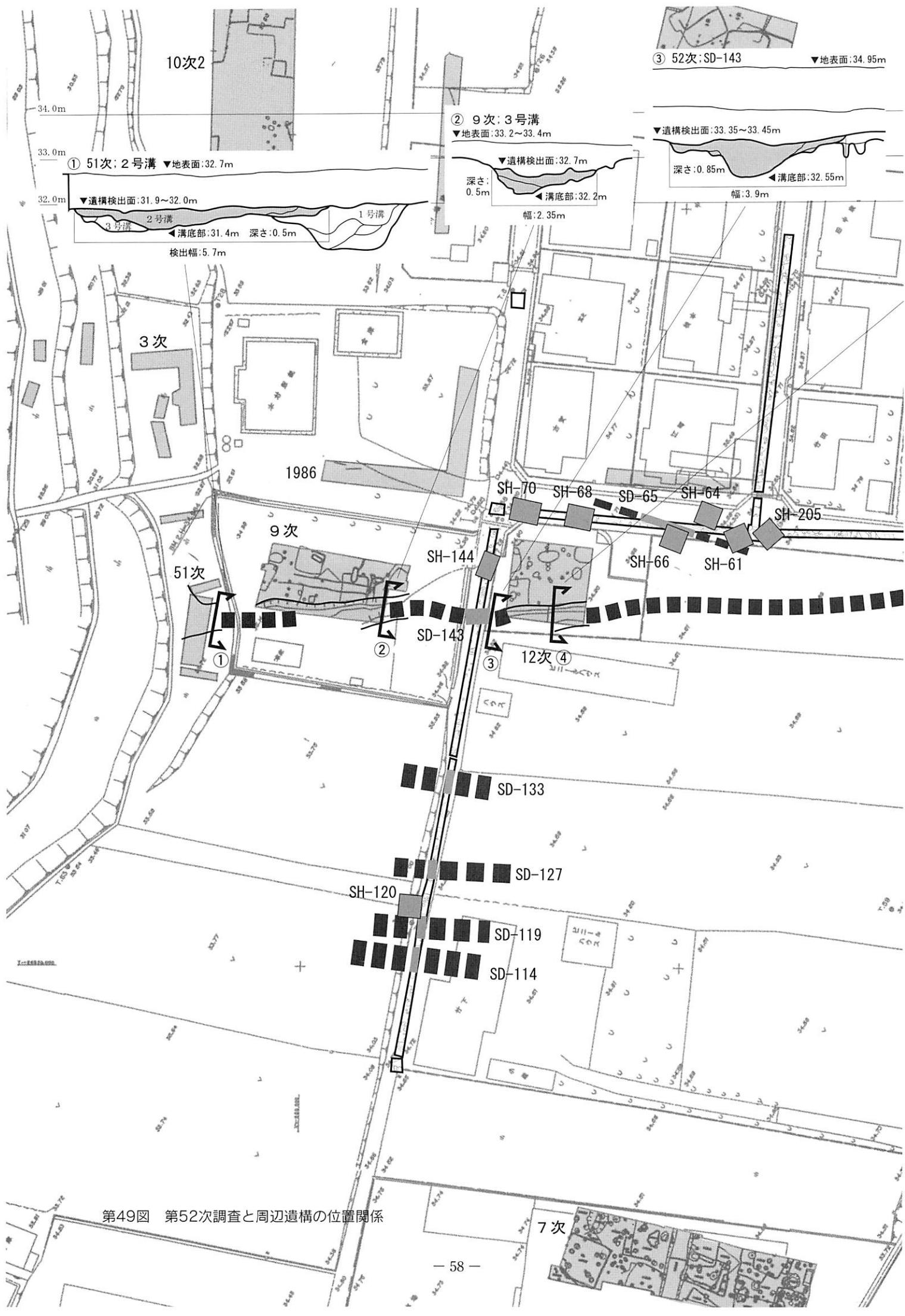
第2節 遺物

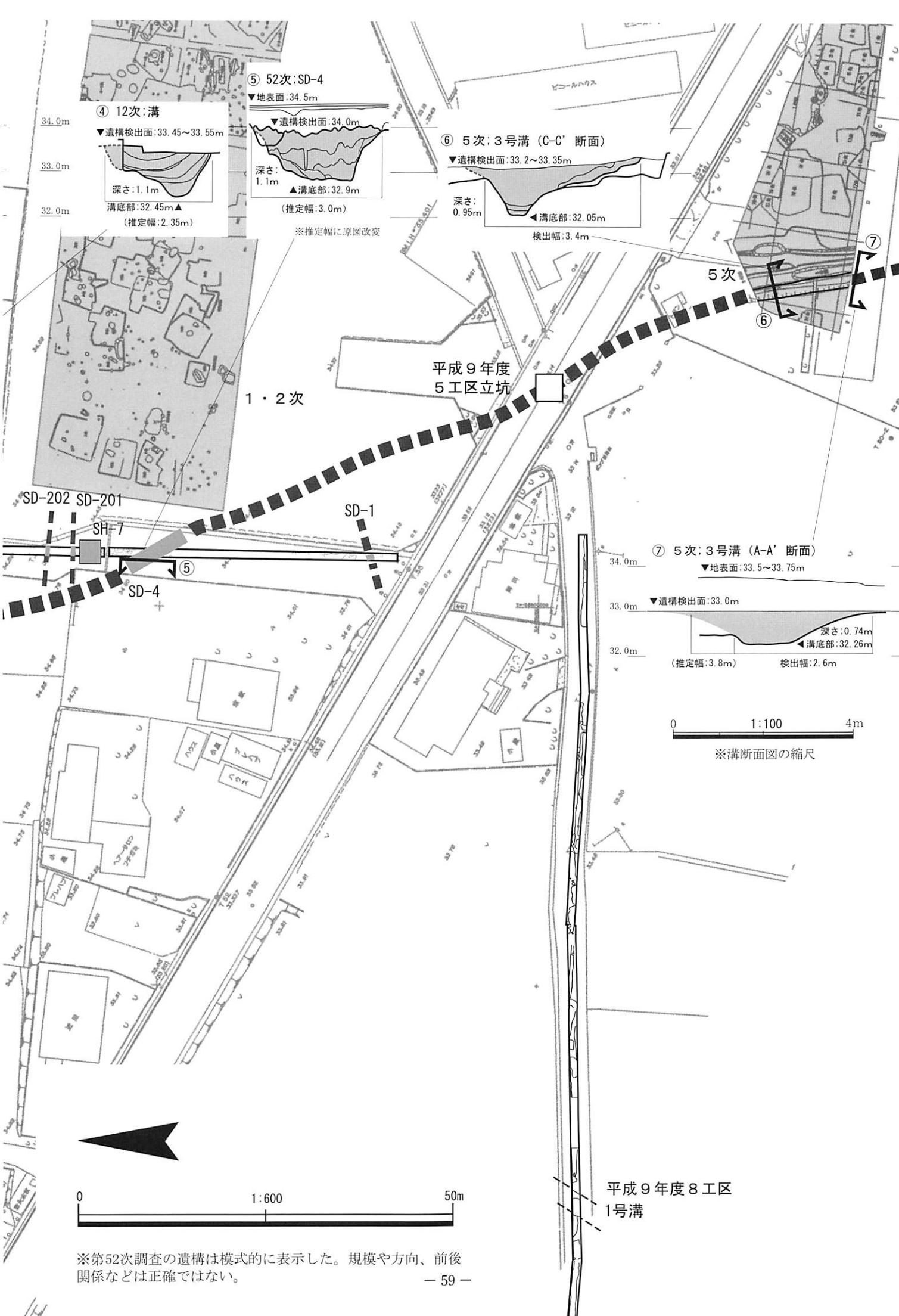
遺物の種類は土器、鉄製品、石製品がある。青銅製品は出土しなかった。4トレンチの包含層からガラス製小玉が一点（24図32）出土しているが、古墳時代中期以降のものであろう。

土器はほとんどが在地産で、まれに搬入品がある。SK-67（T4-2）の「く」字状の複合口縁壺（22・23図）は北部九州から東九州に多い。長方形透かしのある器台（48図10、平成12年度8工区7～8区出土）は佐賀や福岡南部など有明海北部で見られる器形である※1。遺跡の盛期である弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけては、列島全体でヒト・モノの移動が活発であったとされている。県内各地の集落遺跡でも遠隔地から搬入された遺物が出土していることから、搬入品の存在だけでこの遺跡の特異性を強調することはできない。今後は搬入品とした遺物について、産地など詳細な調査が必要である。

土器には内外面に赤色顔料が付着した小片がある。今回の調査では23点（ベンガラ21点、水銀朱2点）が出土した。顔料容器らしき鉢（SD-133出土、33図12）も1点ある。鉢の内面に多く見られ、外面は煤が付着している。これらは装飾文様として意図的に塗布したものではなく、赤色顔料の精製に伴うものと考えられている※2。これまでの調査では、赤色顔料付着土器は第52次調査地の東150mに位置する第47次調査（110-2番地）で最も多く56点が出土している。第47次調査では弥生時代後期終末の住居に伴って顔料破碎用と考えられる石杵も出土していることから、この周辺が顔料精製に深く関係する地区であることが想定されている※3。今回の調査で出土した赤色顔料付着土器も、このような精製活動に伴って生じ、廃棄されたのであろう。現在は赤色顔料の種類についてほとんどを肉眼で判断しているが、今後は理化学的な分析が必要である。

鉄製品については第3章で述べた。製品が乏しく非製品が主体であることから、鉄製品の生産加工に伴う遺物であることが推定できる。明確な鍛冶関連遺構は検出していないが、関連す





る遺物として5トレンチから出土した輔羽口が2点ある。小型の完形品（SD-127出土、29図10）と高杯脚部の転用品（SD-133出土、33図5、図版17）である。

石製品の出土量は鉄製品に反比例するようになり少々で、砥石が中心である。石錐には二種類あって、球状の石材に溝を巡らせるもの（T-1, SD-4出土、11図18、図版18-4、472g）と、円盤状の石材に刻み目を入れて縄掛けにするもの（T-5-3, SD-143出土、37図16、図版18-4、100.4g）がある。遺跡ではこれまでの調査でも各種の石錐や土錐が出土しており、鉄製釣針も見つかっている※4。貴重なタンパク質獲得のため、河川漁労に向かう人々の姿が目に浮かぶ。重量の違いは対象とする魚種か漁場の違いを示すものであろう。

方保田東原遺跡では、これまでの調査で出土した遺構や遺物の膨大な蓄積がある。今回の調査成果の歴史的意義を明らかにするため、これまでの成果と合わせた総合的な考察と検討が必要だが、果たせていない。総合的検討は今後の遺跡保存と活用のためにも必要不可欠な作業である。この作業が実行できるような体制整備と共に、今後の課題としておく。

第4章注

※1 長方形透かしのある器台は、市内では蒲生上の原遺跡11号住居で出土している。熊本県文化財調査報告第158集『蒲生・上の原遺跡』県教委1996、P.101を参照。

※2 赤色顔料の精製については、市毛 熨『新版朱の考古学』雄山閣1998、P.136~138を参照。

※3 第47次調査出土の赤色顔料付着土器については、『方保田東原遺跡（8）』P.54~59を参照。

※4 鉄製釣針は第40次調査（209番地）の包含層出土。『方保田東原遺跡IV』P.356（422図7、図版15-5）を参照。

遺物觀察表

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外面調整		内面調整		備考	図No.番号	
									上部から記入	上部から記入	上部から記入	上部から記入			
6図 1	T-1 SD-1	119	壺	口縁 - 頸部	(16.7)	不明	[に]ぶい[黄]色	良好	ナデ-ナデ-ハケ-刻目-ナデ	ナデ	無	無	外面一部に赤色顔料付 蒼頭部に刺突文巡る	1 1	
6図 2	T-1 SD-1	129	鉢	ほぼ完形	13.5	11.5	浅黄色	良好	ナデ-ハケ-ナデ	ナデ	無	有	内面全体に焼付着	2 1	
6図 3	T-1 SD-1	144	壺 肩部	不明	不明	[に]ぶい[黄]色	良好	ナデ-ハケ-後一部に線刻	ナデ-ハケ	有	無	頭部に6条の沈線、肩部にも一部残る	1 2		
6図 4	T-1 SD-4	72	小型丸底壺	完形	10.8	18.5	10YR8/2	良	ナデ-ミガキ-ハケ	ナデ-ハケ-ヘラケズリ	有	無	波状文	26 1	
6図 5	T-1 SD-4	106	壺	口縁 - 底部	12.4	29.8	10YR8/2	良好	ハケ後ナデ-波状文-ハケ	ナデ-指押さえ-ヘラケズリ	有	無	頭部外面に工具の当った痕が全周器壁薄く、軽量	21 1	
6図 6	T-1 SD-4	49	壺	口縁 - 胴部	12.5	不明	10YR7/3	良	ナデ-ハケ-タタキ後ハケ	ナデ-剥離の為不明瞭-ハケ	有	有	頭部外面に工具の当った痕が全周器壁薄く、軽量	29 1	
6図 7	T-1 SD-4	107	壺	口縁 - 底部	13.5	35.0	10YR8/4	良好	ナデ-ハケ-ナデ	ハケ-ナデ	有	無	波状文	23 1	
6図 8	T-1 SD-4	149	壺	ほぼ完形	14.0	28.7	10YR8/3	良好	ナデ-ハケ	ハケ-ナデ-ヘラケズリ	有	無	波状文	37 1	
6図 9	T-1 SD-4	57	壺	口縁 - 胴部	14.5	不明	10YR8/3	良	ナデ-ハケ-ハケ後タタキ-ナデ	ナデ-ハケ-ナデ-ヘラケズリ	有	無	口縁部内外面共に剥離が著しい	24 1	
7図 1	T-1 SD-4	137	壺	口縁 - 胴部	16.2	不明	[に]ぶい[黄]色	良好	ナデ-ハケ-後波状文-ハケ	ナデ-指押さえ後ナデ-ヘラケズリ	無	有	櫛状工具による無い波状文全周	30 1	
7図 2	T-1 SD-4	108	壺	ほぼ完形	17.2	31.8	7.5YR8/6	良	ナデ-ナデ-ハケ-タタキ	ナデ-ハケ-ナデ-ヘラケズリ	有	無	長胴の壺	22 1	
7図 3	T-1 SD-4	78	壺	頭部 - 底部	(不明)	不明	2.5YR7/6	良好	ナデ-ハケ-後タタキ後ハケ-粗いハケ-刻目-ハケ-	ナデ-指押さえ-ハケ-ナデ-ヘラケズリ	有	無	長胴の壺	25 1	
7図 4	T-1 SD-4	71	壺	頭部 - 底部	不明	不明	10YR7/4	不良	ハケ後ナデ-ハケ	ナデ-剥離の為不明瞭-ナデ-ハケ-ナデ	有	無	口縁部内外面共に剥離が著しい	28 1	
7図 5	T-1 SD-4	141	壺	口縁 - 肩部	(25.8)	不明	[に]ぶい[黄]色	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ-ヘラケズリ-ハケ	有	無	口縁部内外面に焼付着	20 4	
7図 6	T-1 SD-4	109	壺	頭部 - 胴部	(不明)	不明	[に]ぶい[黄]色	良	ハケ後一部へラ描-ナデ後刻目-ナデ-タタキ後ハケ	粗いハケ	無	無	二重口縁の接合面が強調著しく	27 1	
7図 7	T-1 SD-4	40	壺	完形	10.0	15.2	5YR7/4	良	ナデ-ハケ-タタキ-ヘラケズリ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ	有	無	粘土の縫目が見られる	19 2	
8図 2	T-1 SD-4	44	甕	ほぼ完形	15.0	12.6	7.5YR6/2	やや良	ナデ-ハケ-ナデ	ハケ	有	無	内面全体に黒変	7 2	
8図 3	T-1 SD-4	83	甕	完形	13.1	17.3	[に]ぶい[黄]色	良好	指押さえ後ナデ-タタキ後ハケ-ナデ	ハケ-ヘラケズリ-ナデ	無	有	外面部内面に焼付着、内面底部も焼付着	9 2	
8図 4	T-1 SD-4	36	甕	完形	14.7	18.2	10YR8/2	良	ナデ-タタキ後ハケ-ハケ	ナデ-ハケ-ヘラケズリ	有	無	胴部下位に穿孔	19 1	
8図 5	T-1 SD-4	95	甕	口縁 - 胴部	(15.1)	不明	[に]ぶい[黄]色	良好	ナデ-タタキ後ハケ-ハケ	ナデ-ハケ-ハケ後-ナデ-ヘラケズリ	有	無	外面部内面に焼付着、内面底部も焼付着	7 1	
8図 6	T-1 SD-4	11	甕	口縁 - 胴部	15.4	不明	灰白色	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	有	胴半分摩滅	13 1	
8図 7	T-1 SD-4	-	甕	口縁 - 胴部	(15.6)	不明	10YR8/2	良	[に]ぶい[黄]色	ナデ-ハケ-タタキ後ハケ-ハケ	ナデ-ハケズリ	無	有	外面部内面に焼付着、内面底部も焼付着	9 1
8図 8	T-1 SD-4	鉢	口縁 - 胴部	(17.0)	不明	5YR6/6	精良	ナデ-ハケ後ナデ	ハケ-ナデ-指押さえ	ナデ-ハケ	無	有	外面部内面に焼付着、内面底部も焼付着	35 2	
8図 9	T-1 SD-4	17	甕	口縁 - 胴部	17.5	不明	灰白色	良	ナデ-タタキ後ハケ	ナデ-ハケズリ	無	無	外面部内面に焼付着、内面底部も焼付着	12 1	

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外面調整		内面調整		黒斑	煤	備考	図No.	番号
									上部から記入	上部から記入	上部から記入	上部から記入					
8図 10 T-1 SD-4	76 (土師器)	甕	口縁 - 胎部	17.9	19.0	10YR7/2	良	良	ナデ-タタキ後ハケ-ハケ	ナデ-ハケ後ナデ-ヘラケズリ	無	有	胴部下より底部にかけて外側剥離	11	2		
8図 11 T-1 SD-4	104	甕	口縁 - 底部	14.0	25.8	7.5YR6/2	良好	良	ナデ-タタキ-ナデ-ハケ	ナデ-ナデ-指押さえ	有	有	器壁薄く軽量	18	1		
8図 12 T-1 SD-4	64	甕	口縁 - 胎部	15.1	不明	10YR8/2	良	良	ナデ-ハケ-タタキ	ナデ-ハケ-ナデ-ヘラケズリ	有	有	下方は被熱により赤変も多量付着	8	1		
9図 1 T-1 SD-4	105	甕	口縁 - 底部	(16.3)	29.6	10YR8/2	良好	良好	ナデ-ハケ-タタキ後ハケ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ	無	有	外側全体に焼成、底部は被熱により赤変	3	1		
9図 2 T-1 SD-4	15	甕	口縁 - 底部	16.8	26.7	10YR7/4	良好	良好	ナデ-ハケ-タタキ後ハケ	ナデ-ハケ-ヘラケズリ-ナデ	有	無		10	1		
9図 3 T-1 SD-4	60 (土師器)	甕	口縁 - ほぼ完形	17.2	22.8	7.5YR6/2	良	良	ナデ-タタキ後ハケ-ハケ	ナデ-ハケ-ヘラケズリ	無	有		11	1		
9図 4 T-1 SD-4	50	甕	口縁 - 底部	(17.0)	29.0	10YR8/2	良	良	ナデ-タタキ後ハケ-ナデ	ナデ-ヘラケズリ-ハケ	有	有	片面だけ煤多量付着	16	1		
9図 5 T-1 SD-4	26	甕	口縁 - 胎部	17.0	不明	7.5YR8/2	良	良	ハケ後ナデ-ハケ-タタキ後ハケ	ハケ後ナデ	有	有	吹き零れ跡あり	5	1		
9図 6 T-1 SD-4	24	甕	口縁 - 胎部	17.3	不明	10YR8/2	良	良	ナデ-ハケ-ナデ-ハケ-ナデ	ナデ-ヘラケズリ	無	有	全体に煤付着	17	1		
9図 7 T-1 SD-4	111	甕	口縁 - 胎部	(17.8)	不明	7.5YR7/3	良	良	ナデ-波状文-ハケ-ナデ	ナデ-波状文-ハケ	無	有	全体に貫通していない穿孔らしき穴があり	14	1		
9図 8 T-1 SD-4	110	甕	ほぼ完形	18.4	22.4	7.5YR3/1	良	良	ナデ-沈線3-4本-ハケ	ナデ-ヘラケズリ	無	有	波状文	10	2		
9図 9 T-1 SD-4	67	甕	ほぼ完形	17.3	29.5	10YR8/3	良	良	ナデ-タタキ後ハケ	ハケ-ヘラケズリ	無	有	外側全体に煤付着、内面底部も黒変	3	2		
10図 1 T-1 SD-4	30	甕	口縁 - 底部	19.0	30.0	10YR8/2	良好	良好	ナデ-ハケ-タタキ後ハケ-ハケ	ナデ-ヘラケズリ	無	有	外側全体に煤付着、内面底部も黒変	15	1		
10図 2 T-1 SD-4	22	甕	口縁 - 胎部	18.1	不明	10YR8/2	良	良好	指押さえ後ナデ-タタキ後ハラケズリ	ハケ後上部ナデ-消し-ハケ-ハラケズリ	有	有	外側底部内面に焦げ跡	6	1		
10図 3 T-1 SD-4	29	甕	ほぼ完形	20.0	33.0	10YR8/2	良好	良好	ナデ-ハケ-後タタキ-ハケ-ハケ	ハケ-後タタキ-ハケ-ハケ	無	有	外側全体に煤付着	4	1		
10図 4 T-1 SD-4	28	甕	胎部 - 底部	不明	10YR8/2	良	良	良	タタキ-ハケ-ナデ	ハケ-ナデ	無	有	外側全体に煤付着	14	2		
10図 5 T-1 SD-4	-	甕	頭部 - 底部	(不明)	不明	10YR8/3	良	良	タタキ後ハケ-ハケ	ナデ-ハケ-ヘラケズリ	無	有	外側全体に煤付着	38	1		
10図 6 T-1 SD-4	58	高坏	坏部	14.3	不明	10YR6/4	精良	良好	ナデ-ハケ後ナデ	ナデ	有	無		35	3		
10図 7 T-1 SD-4	81	高坏	坏部	(22.4)	不明	10YR7/3	良	良好	ナデ-ハケ-ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-底部剥離	有	有	全体に剥離が著しい人為的か	32	2		
10図 8 T-1 SD-4	54	高坏	坏部	25.0	不明	7.5YR6/6	良	良好	ナデ-ハケ-ハラミガキ-ハラミガキ	ナデ-ハケ-ハラミガキ-ハラミガキ	有	有	内外側でハケ工具原体が異なる	31	2		
10図 9 T-1 SD-4	82	高坏	坏部	24.8	不明	7.5YR7/4	良	良好	ナデ-タタキ後ハケ-ハケ	ナデ-ハケ-後ハラミガキ	有	無		31	3		
10図 10 T-1 SD-4	1	高坏	坏部	25.6	不明	5YR7/6	良好	良好	ナデ-ナデ後ハラミガキ	ナデ後ハラミガキ-ハラミガキ	無	無	全体にやや摩滅	31	1		
10図 11 T-1 SD-4	112	高坏	坏部	(25.0)	不明	10YR8/3	良	良好	ナデ-ハケ後ナデ-ナデ	ナデ	無	無	全体にやや摩滅	32	1		
11図 1 T-1 SD-4	136	小型丸底鉢	口縁 - 底部	(12.0)	7.2	5YR7/6	精良	良好	ハケ後ナデ-不明瞭-ハラミガキ	ハケ-ナデ	無	無		36	1		

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外部調整		内部調整		備考	図No.番号	
									上部から記入	上部から記入	上部から記入	黒斑			
11図 2 T-1 SD-4	55 鉢	口縁 - 脊部	(17.4)	推定	橙色	7.7	5YR7/6	良好	ナデ-ハケ後ナデ-タタキ後 ハケ	ナデ-ハケ後ナデ-タタキ後 ハケ	ナデ-ハケ後ナデ-タタキ後 ハケ	有	無	34 1	
11図 3 T-1 SD-4	48 鉢	ほぼ完形	16.1	7.5	5YR5/4	良好	ナデ-タタキ-指押さえ-ヘラ ケアリ	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ-ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ-ナデ-ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ-ナデ-ナデ-ハケ	有	無	35 1	
11図 4 T-1 SD-4	9 高坏	ほぼ完形	17.2	12.2	10YR7/3	良好	ナデ-ハケ後ナデ-ハケ-ハケ 後ナデ	ナデ-ハケ-ナデ-ナデ-ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ-ナデ-ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ-ナデ-ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ-ナデ-ナデ-ハケ	有	無	33 2	
11図 5 T-1 SD-4	56 高坏	底部 - 脚部	底	12.6	不明	浅黄橙色	良	良好	ヘラミガキ-ハケ後ヘラミガキ ナデ	ヘラミガキ-ハケ後ヘラミガキ ナデ	ヘラミガキ-ハケ後ヘラミガキ ナデ	無	無	34 2	
11図 6 T-1 SD-4	25 高坏	口縁 - 脚部	(15.5)	12.5	7.5YR8/3	良	良	摩滅している為不明瞭-ハケ ナデ	摩滅している為不明瞭-ハケ ナデ	摩滅している為不明瞭-ハケ ナデ	有	無	2個一组の穿孔が3ヶ所 二次的な焼成か、脚部全体に赤変	32 3	
11図 7 T-1 SD-4	66 高坏	ほぼ完形	17.7	13.7	2.5YR6/6	やや良	ナデ-ハケ-ヘラケアリ	ナデ-ハケ-ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ-ハケ	無	無	2個一组の穿孔4ヶ所	33 1
11図 8 T-1 SD-4	18 器台	体部	上	9.9	不明	橙色	精良	良好	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	35 2	
11図 9 T-1 G-4	133 脇	底部	不明	暗灰色	N/3	良	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	有	底部中央に直径5mmの焼成前穿孔	36 2
11図 10 T-1 SD-4	150 二ニチュア土器	鉢部	不明	10YR7/3	にぶい黄橙色	良	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	有	丁寧な仕上がり	20 3
11図 11 T-1 G-4	113 合付鉢	鉢部	(11.0)	不明	7.5YR8/3	良	ナデ-ハケ後ヘラミガキ ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	丁寧な仕上がり	39 2
11図 12 T-1 G-4	116 壺	口縁部	不明	10YR8/2	にぶい黄橙色	良	ナデ-ハラミガキナデ-ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	上下判然とせず、器台が合付鉢	20 3
11図 13 T-1 G-4	126 把手	把手	不明	10YR6/4	にぶい黄褐色	良	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	丁寧な仕上がり	39 1
11図 14 T-1 G-4	126 深鉢 (縄文土器)	胴部	不明	10YR5/3	にぶい黄褐色	良	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	口縁部外表面突出部にヘラによる刻目文	39 1
11図 15 T-1 SD-4	114 二ニチュア土器	底部	不明	10YR7/3	にぶい黄橙色	良	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	丁寧な仕上がり	39 1
11図 16 T-1 SD-4	150 二ニチュア土器	底部 - 脚部	不明	7.5YR7/3	にぶい黄橙色	良	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	脚台に2個一组の穿孔1ヶ所、台付鉢	20 1
11図 17 T-1 G-4	114 (土師器)	口縁 - 底部	(12.8)	3.5	7.5YR5/6	良	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	丁寧な仕上がり	20 2
14図 1 T-2 SH-7	159 薬	ほぼ完形	9.0	21.4	10YR8/3	良好	良好	ナデ-ハケ-ナデ-ハケ- タタキ-ハラ	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ-ハケ- タタキ-ハラ	ナデ-ハケ	有	無	口縁部が直立した小型の甕	42 2
14図 2 T-2 SH-7	182 壺	口縁 - 脊部	(19.8)	不明	10YR8/2	良	ナデ-ハケ-ハラ	ナデ-ハケ-ハラ	ナデ-ハケ-ハラ	ナデ-ハケ-ハラ	ナデ-ハケ-ハラ	有	有	46 1	
14図 3 T-2 SH-7	181 薬	脚部 - 底部	不明	浅黄橙色	10YR8/3	良好	ナデ-ハケ-ハラ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	有	45 1	
14図 4 T-2 SH-7	163 薬	口縁 - 脊部	(13.4)	不明	にぶい橙色	良	ナデ-ハケ-ハラ	ナデ-ハケ-ハラ	ナデ-ハラミガキ	ナデ-ハラミガキ	ナデ-ハラミガキ	有	有	41 2	
14図 5 T-2 SH-7	157 壺	口縁 - 底部	(12.2)	35.4	7.5YR6/4	良	ナデ-ハケ-ハラ	ナデ-ハケ-ハラ	ナデ-ハラミガキ	ナデ-ハラミガキ	ナデ-ハラミガキ	有	有	49 1	
14図 6 T-2 SH-7	162 薬	口縁 - 脊部	(15.4)	不明	7.5YR4/2	良	ナデ-ハケ-ハラ	ナデ-ハケ-ハラ	ナデ-ハラミガキ	ナデ-ハラミガキ	ナデ-ハラミガキ	無	有	煤が付着し剥離、壊として使用か	49 1
14図 7 T-2 SH-7	164 薬	口縁 - 脊部	16.0	不明	2.5YR8/1	良好	ナデ-タタキ-ハラ	ナデ-タタキ-ハラ	ナデ-ハラミガキ	ナデ-ハラミガキ	ナデ-ハラミガキ	無	有	全体に煤付着	41 1
14図 8 T-2 SH-7	166 薬	底部 - 脚部	不明	不明	10YR8/2	良好	ナデ-ハラ	ナデ-ハラ	ナデ-ハラ	ナデ-ハラ	ナデ-ハラ	無	無	42 1	
	167													51 2	

図版番号	構造名	袋番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外面調整		内部調整		備考	図No.	番号	
									上部から記入	上部から記入	黒斑	煤				
15図 1	T-2 SH-7	162	甕	口縁 - 底部	18.0	34.6	7.5YR8/3	良好	ナデ-タタキ後ハケ	ハケ	無	有		40	1	
15図 2	T-2 SH-7	160	高坏	口縁 - 底部	(7.2)	12.9	にぶい黄橙色 10YR7/4	良	不良	ヘラミガキ-ナデ-ハケ-ナデ	ナデ-指押さえ	有	無	2個一組の穿孔3ヶ所	43	1
15図 3	T-2 SH-7	157	壺	肩部	不明	不明	にぶい黄橙色 10YR7/3	良	良好	櫛描波状文	指押さえ後ナデ	無	無		44	2
15図 4	T-2 SH-7	157	壺	肩部	不明	不明	にぶい黄橙色 7.5YR7/4	良	良	ナデ-凸線文	指押さえ	無	無	穿孔4個	44	1
15図 5	T-2 SH-7	182	高坏	口縁 - 底部	(33.6)	25	にぶい黄橙色 10YR7/2	良	良	ナデ-ハケ-ヘラミガキ-ハケ	ナデ-ヘラミガキ-ヘラ調整-ハケ	有	有		47	1
15図 6	T-2 SH-7	160	鉢	口縁 - 胎部	(16.6)	不明	にぶい黄橙色 10YR7/3	良	良	ナデ-ヘラミガキ	ナデ-ヘラ調整後ナデ	有	無	口縁内面に貼付円文	43	2
15図 7	T-2 SH-7	158	壺	口縁部	不明	不明	にぶい黄橙色 10YR7/3	良	良好	刺突文-ナデ-ハケ	ハケ後貼付円文	無	無		48	3
15図 8	T-2 SH-7	157	(須恵器) 环身	胎部	不明	不明	灰色 5Y4/1	精良	良好	ナデ	ナデ	無	無		44	3
15図 9	T-2 SK-6	165	壺	口縁 - 肩部	(6.6)	不明	橙色 2.5YR6/8	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	無		48	1
15図 10	T-2 SD-15	175	(縄文土器) 深鉢	口縁部	不明	不明	褐灰色 7.5YR4/1	不良	不良	刻目-ヘラミガキ	ヘラミガキ	無	無		50	4
15図 11	T-2 SD-15	175	粘土板	破片	不明	不明	にぶい黄橙色 10YR7/3	良	良好	指調整	-	無	無		50	3
15図 12	T-2 P-17	228	甕	口縁部	不明	不明	にぶい黄橙色 5YR6/4	良	良好	ナデ-ハケ	ハケ	有	有		59	1
15図 13	T-2	155	壺	頭部 - 肩部	不明	不明	にぶい黄橙色 10YR7/4	良	良好	ナデ-櫛描文-ハケ	指押さえ後ナデ-ハケ	無	無		52	1
15図 14	T-2	154	壺	肩部	不明	不明	にぶい黄橙色 7.5YR7/4	良	不良	櫛描文-ハケ	ナデ	無	無		52	2
15図 15	T-2 G1~2	171	壺	胎部	不明	不明	にぶい黄橙色 10YR6/3	良	良好	斜格子文-ナデ-ハケ	ハケ	無	無		48	4
15図 16	T-2	154	壺	破片	不明	不明	浅黄橙色 10YR8/3	良	良好	櫛描文	ナデ	無	無		52	4
15図 17	T-2 1G	182	壺	肩部	不明	不明	明赤褐色 2.5YR5/8	良	良好	櫛描波状文-ヘラミガキ	指押さえ後ナデ	無	無		48	2
15図 18	T-2	152	ジョッキ	把手	不明	不明	浅黄橙色 10YR8/3	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ	無	無		48	6
15図 19	T-2	152	ジョッキ	底部	不明	不明	浅黄橙色 10YR8/3	良	良好	ハケ-ナデ	ハケ-ナデ	無	無		48	5
15図 20	T-2	168	甕	破片	不明	不明	浅黄橙色 10YR8/3	良	良好	ハケ	ハケ	無	無	内面にヘンガラ付着	50	2
15図 21	T-2 G-1	156	長頸壺	頭部	不明	不明	赤褐色 2.5YR4/6	良	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ	無	無	全面にヘンガラ付着	50	1
15図 22	T-2	154	(須恵器) 脚台付	底部	不明	不明	灰色 N6/	精良	良好	ナデ	ナデ	無	無	ヘラ記号「」	52	3
18図 1	T-3 SK-19	216	甕	脚台付	底(12.2)	不明	灰黄褐色 10YR6/2	良	良好	ナデ-ハケ後ナデ	ナデ	無	有		56	1
18図 2	T-3 P-22	243	鉢	口縁 - 胎部	(17.2)	不明	灰黄褐色 10YR5/2	良	良	ナデ-ヘラクス!	ナデ	無	無	口縁部外面に一部赤色顔料付着	59	2

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口徑()復元	器高	胎土	焼成	外部調整		内面調整		上部から記入	黒斑	煤	備考	図No.番号
									上部から記入	上部から記入	内面から記入	内面から記入					
18図 3	T-3 SK-24	217	甕	口縁 - 頸部	不明	不明	灰黄褐色	良	良好	ハケ後ナデ-ハケ	ハケ	無	無	40	1		
18図 4	T-3 SK-24	257	脚台付甕	脚部	不明	灰黄褐色	良	良好	ナデ-ハケ後ナデ	ナデ	無	無	43	1			
18図 5	T-3 SK-25	218	鉢	口縁 - 脊部	(21.6)	不明	明赤褐色	良	良好	ナデ-ヘラケスリ	ナデ	有	無	内外面に赤色顔料塗布	44	2	
18図 6	T-3 SK-29	221	ジョッキ	底部	不明	2.5YR5/6	良	良好	ナデ-ヘラケスリ	ナデ	無	無	小型	44	1		
18図 7	T-3 P-31 検出中	232	高杯	口縁 - 脊部	(25.8)	不明	灰色	良	良好	ナデ-ハケ-ヘラミガキ	ナデ-ヘラミガキ	有	無		47	1	
18図 8	T-3 P-31 検出中	232	壺	口縁部	不明	不明	10YR4/1 にぶい黄色	良	良好	ナデ-ハラミガキ	ナデ-ヘラミガキ	有	無		43	2	
18図 9	T-3 P-33	247	壺	口縁 - 肩部	不明	灰	精良	良好	ナデ	ナデ	無	無	肩部にヘラ描き	48	3		
18図 10	T-3 P-34	248	壺	口縁部	不明	不明	浅黄橙色	良	良好	ハケ	ナデ	無	無		44	3	
18図 11	T-3 P-39	235	壺	口縁部	不明	不明	にぶい黄色	良	良好	ハケ	ナデ	無	無		48	1	
18図 13 上層	T-3 P-35	249	鉢	口縁部	不明	不明	にぶい黄色	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハラ	有	無		50	4	
18図 14	T-3 SK-35	266	甕	口縁 - 頸部	(17.2)	不明	にぶい黄色	良	良好	ナデ-タタキ後ハケ	ナデ-ハラ	無	有		50	3	
18図 15	T-3 SK-37	225	壺	口縁 - 脊部	14.0	不明	にぶい黄色	良	良	ナデ-タタキ後ハケ	ナデ	有	無		59	1	
18図 16	T-3 P-42	261	土製紡錘	破片	4.8×2.2	不明	にぶい黄色	良	良好	指ナデ	-	有	無		52	1	
18図 17	T-3 P-44	253	台付鉢	脚部	(15.8)	不明	にぶい橙色	良	良好	ハケ-ナデ	ナデ	無	無	穿孔1個	52	2	
18図 18	T-3 SK-47	227	甕 (古代)	口縁 - 頸部	(13.6)	不明	橙色	精良	良好	ナデ-ハケ後ナデ-ハケ	ナデ-ヘラケスリ	無	無		48	4	
18図 19	T-3 SK-47	227	(須恵器)	底部 - 脚部	不明	不明	灰黄色	精良	良好	ナデ	ナデ	無	無		52	4	
18図 20	T-3 P-49	240	壺	口縁 - 頸部	(16.2)	不明	灰白色	良	良好	ナデ-ハケ後ナデ-ナデ	ハケ-ナデ	有	無	方形か三角形の透かし孔一部あり	48	6	
18図 21	T-3 P-49	240	台付鉢	脚部	(19.8)	不明	にぶい黄色	良	良好	ハケ	ハケ	有	無		48	2	
18図 22	T-3 P-50	242	鉢	口縁 - 脊部	(12.0)	不明	にぶい橙色	良	良好	ナデ-ヘラミガキ	ヘラミガキ	無	有	内面に煤付着	48	5	
18図 23	T-3 P-50 南遺構	264 187	甕	口縁部	(18.8)	不明	にぶい橙色	良	良好	ナデ-ハラケスリ	ナデ-ヘラケスリ	有	無		50	2	
19図 1	T-3 G-1	190	器台	脚部	不明	7.5YR6/4 底(9.0)	にぶい橙色	良	良好	ハケ	ナデ-ヘラミガキ	有	無	底面に刺突	50	1	
19図 2	T-3 重機掘削中	194	器台	脚部	不明	7.5YR7/4 底(11.0)	にぶい橙色	良	良好	タタキ	ハケ	無	無	タタキの溝が深い	52	3	
19図 3	T-3 1G	217	ジョッキ	底部	不明	7.5YR7/3 底(12.0)	にぶい橙色	良好	良好	ハケ-ナデ-ナデ	ナデ	無	無		56	1	
19図 4	T-3 2G	203	甕	底部	不明	明赤褐色	良	良	ヘラケスリ	ヘラケスリ	無	無		59	2		

図版番号	構造名	袋番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外面部調整		内面部調整		黒斑	煤	備考	図No.番号	
									上部から記入	上部から記入	上部から記入	上部から記入					
19回 5	T-3 2G	203	器台	口縁 - 底部	(8.5)	9.5	2.5YR6/6	良好	ナデ-ハケ-ミガキ-ハケ-ミガキ	ナデ-ハラケスリ-ナデ	無	無	穿孔3箇所		55	2	
19回 6	T-3 1G	201	ミニチュア 甕	口縁 - 底部	(7.0)	5.4	10YR8/2	良好	ナデ-ハケ	ナデ	有	無	底部外面にもハケ調整		54	1	
19回 7	T-3 1G	-	ミニチュア 鉢	口縁 - 底部	(5.3)	5.1	浅黄橙色	良好	ナデ-指ナデ	指ナデ	無	無			54	2	
19回 8	T-3 包含層	234	壺	胴部	不明	不明	10YR8/4	良	良好	ハケ	有	無	内面にベンガラ付着		63	3	
19回 9	T-3 2G	203	鉢	口縁 - 胴部	(9.5)	不明	10YR8/3	良	良	ナデ-剥離	ナデ	無	無	外面は全体に剥離		55	1
19回 10	T-3 1G	198	甕	口縁 - 胴部	(15.8)	不明	にぶい橙色 7.5YR6/4	精良	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハラケスリ	有	無			62	1
19回 11	T-3 重機掘削中	193	(土師器)	ほぼ完形	12.5	3.2	橙色 5YR7/6	良	良好	ナデ後ヘラミガキ	ナデ-ヘラミガキ	有	無	内面の角は左回りでヘラケスリ調整		53	3
19回 12	T-3 3G	196	鉢	口縁 - 底部	16.5	8.0	10YR8/2	良	良	ハケ-ナデ	ナデ	無	有			57	2
19回 13	T-3 3G	226	鉢	口縁 - 底部	(15.5)	9.8	にぶい橙色 2.5YR6/3	良	良	ナデ-ハケ	ナデ	無	有			57	3
19回 14	T-3 1G	197	环蓋 (須恵器)	胴部	不明	不明	黄灰色 2.5YR5/1	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	ヘラ記号「*」		62	3
19回 15	T-3 1G	198	环蓋 (須恵器)	口縁 - 底部	(11.5)	4.0	灰色 5Y6/1	精良	良好	ナデ-回転ヘラケスリ	ナデ	有	無	ヘラ記号「III III III」		54	4
19回 16	T-3 1G	187	环身 (須恵器)	口縁 - 底部	(11.0)	4.2	明青灰色 10B.G 7/1	精良	良好	ナデ	ナデ	無	無			54	5
22回 1	T4-2 SD-65	375	壺	口縁部	不明	不明	灰白色	良	良好	刺突文-ナデ-ハケ	ナデ	無	無	口縁部内面端に段差		68	1
22回 2	T4-2 SD-65	375	壺	肩部	不明	不明	にぶい黄橙色 10YR8/2	良	良好	ハケ	ナデ-ハケ	無	無			68	2
22回 3	T4-2 SD-65	375	壺	肩部	不明	不明	にぶい黄橙色 10YR7/2	良	良好	ハケ	ナデ-ハケ	有	無			68	3
22回 4	T4-2 SD-65	379	壺	口縁 - 頸部	(49.4)	不明	にぶい黄橙色 10YR7/3	良	良好	刺突文刻目-ハケ後ナデ	ナデ-ハケ	無	無			66	1
22回 5	T4-2 SD-65	408	壺	胴部 - 底部	不明	不明	にぶい黄橙色 10YR7/4	良	良好	ナデ	指押さえ後ハケ-ナデ	無	無			66	2
22回 6	T4-2 SD-65	370	無頭壺	口縁 - 胴部	(9.8)	不明	灰色 N4/	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	有	無			64	1
22回 7	T4-2 SD-65	408	ミニチュア 鉢	胴部 - 底部	不明	不明	暗灰色 N3/	良	良好	ヘラ調整	指調整	有	無			65	2
22回 8	T4-2 SD-65	408	壺	胴部	不明	不明	にぶい黄橙色 10YR5/3	良	不良	ナデ-ハケ 突縫あり	ハケ	無	無	内面剥離		65	1
22回 9	T4-2 SD-65	405	ジョッキ	把手	不明	不明	にぶい黄橙色 10YR7/2	良	良好	ナデ	ナデ	有	無			64	2
22回 10	T4-2 SD-65	406	ベンガラ付着 土器	破片	不明	不明	褐灰色 10YR4/6	良	不良	ハケ	ヘラミガキ	無	無	内面にベンガラ付着		64	3
22回 11	T4-2 SD-65	-	甕	胴部	不明	不明	灰褐色 5YR3/2	良	良好	ハケ	ハケ	無	有	ベンガラ付着		167	2
22回 12	T4-2 SD-65	-	甕	胴部	不明	不明	黒褐色 10YR3/2	良	良好	ハケ	ナデ	無	有	ベンガラ付着		167	3

図版番号	遺構名	線番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外面調整		内部調整		備考	図No.番号
									上部から記入	上部から記入	上部から記入	上部から記入		
22図 13 T4-2 SK67	413	294	壺	口縁 - 頸部	(23.6)	不明	褐灰色	良	良	ナデ	ナデ	無	無	69 1
22図 14 T4-2 SK67	336	壺	口縁 - 頸部	(20.0)	不明	灰白色	良好	良好	ナデ-ナデ-ハケ	ナデ-円形浮文貼付-ナデ	有	無	口縁部に2個の円形浮文貼付	79 1
22図 15 T4-2 SK67	322	壺	口縁 - 肩部	(27.2)	不明	にぶい黄橙色	良好	良好	ナデ-ナデ-ハケ	円形浮文貼付-ナデ	無	無	円形浮文貼付1個	80 2
22図 16 T4-2 SK67	415	壺	口縁 - 肩部	(24.4)	不明	10YR7/3	良	良好	ナデ-ナテ後ハケ-廉状文	廉状文-波状文	無	無		77 1
22図 17 T4-2 SK67	413	壺	頸部 - 肩部	(不明)	不明	10YR5/2	良	良	直線文-波状文-ハケ	ナデ	無	無	肩部に帯状のベンガラ付着	80 1
22図 18 T4-2 SK67	414	壺	口縁 - 頸部	(20.0)	不明	浅黄橙色	良	良好	ナデ-刻目-指押さえ-ハケ	ナデ-ハケ	有	無	刻目を持つ二重口縁臺	79 2
22図 19 T4-2 SK67	344	壺	口縁 - 肩部	(20.0)	不明	浅黄橙色	良好	良好	ナデ-刻目-ナデ-ハケ-ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ	無	無	口縁部、肩部にツメ跡があり	78 1
22図 20 T4-2 SK67	361	壺	肩部 - 胎部	(19.5)	不明	10YR8/3	良	良好	廉状文-輪描文-ハケ	ナデ	無	無		81 1
23図 1 T4-2 SK67	-	壺	口縁 - 肩部	(19.5)	不明	10YR7/2	良	良	ナデ-ナテ-ハケ	ナデ	無	無	胴部に帯状の赤色顔料塗布	74 1
23図 2 T4-2 SK67	337	壺	頸部 - 胎部	(不明)	不明	10YR8/2	良	良好	ハケ-輪描文-ハケ-ハケ	ハケ-ナデ-ハケ	無	無	6cm間隔で半円状の輪描文	76 1
23図 3 T4-2 SK67	365	壺	頸部 - 肩部	(不明)	不明	10YR7/2	良	良好	ハケ-輪描廉状文-ナデ	ナデ-ハケ	無	無	胴部上外器面に幅約1cm帯状の赤彩	75 1
23図 4 T4-2 SK67	320	壺	胎部	(不明)	不明	2.5YR8/2	良	良好	廉状文-輪描波状文-タキ後ナデ	ハケ	無	無	胴部上外器面に幅約2cm帯状の赤彩	75 2
23図 5 T4-2 SK67	344	壺	肩部 - 胎部	(不明)	不明	10YR7/2	良	良好	輪描直線文-ハケ	ナデ-ハケ	有	無	胴部上外器面に幅約2cm帯状の赤彩	81 2
23図 6 T4-2 SK67	413	甕棺	胎部	不明	不明	2.5YR8/2	良	良好	ハケ-刻目-ハケ-ナデ	ハケ-ナデ-ハケ	無	無	胴部に帯状の赤彩	73 1
23図 7 T4-2 SK67	5	甕棺	胎部	不明	不明	7.5YR8/2	良好	良好	刻目-ハケ-ヘラケズリ-ナデ	ハケ	無	無		72 1
23図 8 T4-2 SK67	352	壺	胎部 - 底部	(不明)	不明	2.5YR8/2	良	良好	摩滅している為不明瞭	ハケ-ナデ	無	無		77 2
23図 9 T4-2 SK67	351	器台	体部上	(12.0)	不明	10YR8/3	良好	良好	ナデ-ハケ	ハケ-ナデ-ハケ	無	無		82 1
23図 10 T4-2 SK67	354	器台	体部中 - 下	(12.0)	不明	浅黄橙色	良	良	ハケ-ヘラケズリ後ナデ-ハケ	ハケ-ヘラケズリ後ナデ-ハケ	有	無	剥離が激しい	82 2
23図 11 T4-2 SK67	37	甕	口縁 - 胎部	(13.8)	不明	10YR8/2	良	良好	ナデ-ハケ-ナデ	ナデ-ハケ-ナデ	有	無	砂がむ	71 1
23図 12 T4-2 SK67	7	甕	脚部	(10.0)	不明	にぶい黄橙色	良	良好	ナデ	ナデ	有	無		71 3
24図 1 T4-2 SK67	57	鉢	頸部 - 肩部	不明	不明	10YR8/3	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	有	無		71 2
24図 2 T4-2 SK67	413	高环か	脚部	不明	不明	7.5YR8/4	良	良好	ハケ-沈縞-ナデ	未調整ナデ	無	無	脚部に沈線一本	70 1
24図 3 T4-2 SK67	-	不明	破片	不明	不明	10YR6/2	良	良好	ハケ	ハケ	有	無	内面に水銀朱か	70 2
24図 4 T4-2 P-90	396	壺	頭部	不明	にぶい黄橙色	良	良好	ハケ	ナデ	無	無	無	外面上にベンガラ付着	70 3

図版番号	構造名	袋番号	器種	部位	口径()	器高()	胎土	焼成	外部調整		内面調整		備考	図No.番号	
									上部から記入	黒斑	上部から記入	黒斑			
24図 5	T4-2 SH-70	403	甕	口縁 - 胎部	15.7	不明	灰白色	良好	ナデ-ハケ	ナデ-指押さえ-ヘラケズリ	無	有	全体に媒付着	67 1	
24図 6	T4-2 SH-70	1	高杯	口縁 - 脚部	(26.2)	不明	にぶい黄橙色	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ-ヘラ調整-ナデ	有	無	裾部に穿孔4個	89 1	
24図 7	T4-2 3G	298	甕	口縁 - 胎部	(19.8)	不明	褐灰色	良好	ナデ-ハケ-ナデ	ナデ-ハケ後ナデ-ハケ	無	有		87 3	
24図 8	T4-2 南端	278	(古代)	口縁 - 肩部	(13.4)	不明	5YR7/6	良好	ナデ-ヘラ調整後ハケ	ナデ	無	有		83 4	
24図 9	T4-2 2G	280	壺	口縁 - 頸部	(17.8)	不明	7.5YR5/4	良好	刻目-ナデ	ナデ	有	無		85 1	
24図 10	重機掘削中	417	器台	脚部	底(11.6)	不明	10YR7/2	良好	良好	ナデ-ハケ-ナデ	ナデ	無	無		88 1
24図 11	T4-2	373	小型壺	口縁 - 頸部	(4.4)	不明	にぶい橙色	良好	ナデ	ナデ	無	無		88 4	
24図 12	T4-2 南端	281	手づくね鉢	完形	8.9	2.8	5YR6/6	良好	指押さえ	指押さえ	無	無		85 2	
24図 13	T4-2	373	小型鉢	口縁 - 胎部	不明	不明	浅黄橙色	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	無		88 5	
24図 14	T4-2 SK-67	365	匙状土製品	破片	不明	不明	7.5YR6/6	良好	指調整	-	無	無		88 3	
24図 15	T4-1 検出中	-	甕	口縁部	不明	不明	にぶい黄橙色	良好	ナデ	ナデ	無	無	ベンガラ付着	167 1	
24図 16	T4-3	418	鉢	破片	不明	不明	灰白色	良好	ナデ-ハケ	ナデ	有	無	内面朱付着	89 2	
24図 17	T4-2 1G	295	不明	破片	不明	不明	にぶい黄橙色	良好	ハケ	ハケ	無	無	ベンガラ付着	88 2	
24図 18	重機掘削中	-	甕	胎部	不明	不明	黄灰褐色	良好	ナデ	ハケ	無	有	朱付着	167 4	
24図 19	T4-2 3G	298	壺	胎部	不明	不明	にぶい黄橙色	良好	ハケ	ハケ	無	無	外面上ベンガラ付着	87 4	
24図 20	T4-2 南端	278	(古代)	口縁 - 体部	(10.8)	不明	5YR7/4	精良	ナデ-ヘラケズリ	ナデ	有	無		83 1	
24図 21	T4-2 南端	278	(古代)	口縁 - 体部	(13.4)	不明	7.5YR6/4	良	ヘラミガキ	ヘラケズリ	無	無		83 2	
24図 22	T4-2 南端	278	(古代)	口縁 - 体部	(15.2)	不明	5YR6/6	精良	ナデ-ヘラミガキ	ナデ	有	無		83 3	
24図 23	重機掘削中	284	(古代)	口縁 - 胎部	(14.0)	不明	7.5YR7/4	良	ナデ-ハケ	ナデ-ヘラケズリ	無	無		87 1	
24図 24	T4-2 南端	282	(骨器)	口縁 - 底部	(11.8)	4.1	灰色	良好	ナデ	ナデ	無	無	ヘラ記号「1」	84 3	
24図 25	T4-2 南端	282	(骨器)	底部	不明	不明	灰黄褐色	良好	ナデ	ナデ	無	無	ヘラ記号「*」	84 4	
24図 26	T4-2 南端	282	(骨器)	口縁 - 底部	(11.2)	3.3	灰オリ-ブ色	良好	ナデ	ナデ	無	無	ヘラ記号「II」	84 2	
24図 27	T4-2 南端	282	(骨器)	口縁 - 体部	(9.8)	不明	灰黄褐色	精良	ナデ	ナデ	無	無		84 1	
24図 28	重機掘削中	284	(骨器)	破片	不明	灰色	精良	良好	ナデ	ナデ	無	無	ヘラ記号「T」	86 1	

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口径 ()復元	器高	胎土	焼成	外部調整		内部調整		備考
									上部から記入	上部から記入	黒斑	煤	
24図 29	T4-2 南端	281	小型壺 (須恵器)	胸部	不明	にぶい黄橙色	精良	良好	ナデ	ナデ	無	無	85 3
24図 30	T4-2 重機掘削中	284	高杯	脚部	不明	不明 5YR7/6	精良	良好	摩滅している為不明瞭	摩滅している為不明瞭	無	無	87 2
28図 1	T5-2 P-103	449	脚台付甕	脚部	不明 底(13.0)	にぶい黄橙色	良好	良好	ハケ-ナデ	ナデ	無	無	96 1
28図 2	T5-2 P-104	438	ミニチュア 甕	口縁-頸部	不明	にぶい黄橙色	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	96 2
28図 3	T5-2 SK-110	461	甕	口縁-胸部	(15.8)	不明 2.5YR6/1	良好	良好	ナデ-刺突文	ナデ-ハケ	有	無	94 1
28図 4	T5-2 SK-110	461	鉢	口縁-胸部	不明	にぶい黄橙色	良	良好	ハケ後ナデ-ハケ	ハケ-ナデ-ハケ	有	無	94 2
28図 5	T5-2 P-112	453	甕	口縁部	不明	にぶい黄橙色	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	96 3
28図 6	T5-2 SK-113	454	壺	口縁部	不明	不明 10YR8/3	良好	良好	ナデ	ナデ	無	無	96 4
28図 7	T5-2 SK-113	454	高杯	脚部	不明 底(12.8)	不明 10YR7/2	良	良好	ハケ-ナデ	ナデ	無	無	96 6
28図 8	T5-2 SD-114	464	甕	口縁-頸部	(15.8)	不明 暗灰色	良	良好	ナデ-划目	ナデ-ハケ	無	無	96 5
28図 9	T5-2 SD-114	464	高杯	口縁-頸部	(15.8)	不明 黒褐色	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	有	有	92 4
28図 10	T5-2 SD-114	455	高杯	口縁-頸部	(26.8)	不明 灰白色	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	91 6
28図 11	T5-2 SD-114	455	壺	口縁部	不明	不明 浅黄橙色	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ	無	無	91 2
28図 12	T5-2 SD-114	442	甕	口縁部	不明	不明 にぶい黄橙色	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	92 2
28図 13	T5-2 SD-114	455	高杯	口縁部	不明	不明 浅黄橙色	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	91 7
28図 14	T5-2 SD-114	455	(古代)	甕	不明	不明 暗灰色	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ	有	無	91 3
28図 15	T5-2 SD-114	455	鉢	口縁-体部	(11.8)	不明 にぶい黄橙色	良好	良好	ナデ-ハケ	ナデ	無	無	91 5
28図 16	T5-2 SD-114	464	鉢	口縁部	不明	不明 2.5YR6/6	良	良好	ナデ-ハラミガキ	ナデ-ハラミガキ	無	無	92 7
28図 17	T5-2 SD-114	442	鉢	口縁部	不明	不明 にぶい黄橙色	良	良好	ナデ	ナデ	有	無	92 3
28図 18	T5-2 SD-114	455	壺	肩部	不明	不明 10YR7/2	良	良好	ハケ-ナデ	ハケ-ナデ	無	無	91 4
28図 19	T5-2 SD-114	464	脚台付甕	脚部	不明 底(10.0)	不明 5YR6/6	良	良好	ハケ-ナデ	砂型-ナデ	有	無	92 5
28図 20	T5-2 SD-114	455	脚台付甕	脚部	不明 底 12.1	灰黄褐色 10YR6/2	良	良好	ハケ後ナデ	ナデ	有	無	91 1
28図 21	T5-2 SD-114	464	合付鉢	脚部	不明	にぶい橙色 7.5YR7/4	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	92 6
28図 22	T5-2 SD-114	442	脚台付甕	脚部	不明	にぶい橙色 2.5YR6/3	良	良好	ハケ-ナデ	砂型-ナデ	無	無	92 1

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部 位	口徑()復元	器高	胎土	焼成	外面調整		内部調整		黒斑	煤	備 考	図No.	番号
									上部から記入	下部から記入	上部から記入	下部から記入					
28図 23	T5-2 SD-119 最下層	472	壺	口縁部	不明	不明	5YR6/8 [にぶい黄橙色]	良	良好	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	有	無	93	4
28図 24	T5-2 SD-119	456	甕	口縁部	不明	不明	10YR7/2 [にぶい黄橙色]	良	良好	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	93	3
28図 25	T5-2 SD-119	443	甕	口縁部	不明	不明	灰白色 10YR8/2	良	良好	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	93	5
28図 26	T5-2 SD-119	456	甕	口縁・頸部	不明	不明	灰褐色 7.5YR5/2 [にぶい黄橙色]	良	良好	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	有	93	2
28図 27	T5-2 SD-119 サブレ	443	器台か	口縁部	不明	不明	10YR7/3 [にぶい黄橙色]	良	良好	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	93	6
28図 28	T5-2 SD-119	468	脚台付甕	脚部	不明	不明	10YR7/4 [にぶい黄橙色]	良	良好	ナケ	ナデ-秘型-ナデ	ナケ	ナケ	有	無	93	1
28図 29	T5-2 SH-120	469	壺	胴部-底部	不明	不明	10YR7/2 [にぶい黄橙色]	良	良好	ナケ-ナデ	ナケ	ナケ	ナケ	有	無	94	3
28図 30	T5-3 SK-121	480	鉢	口縁-底部	(11.8)	4.2	10YR7/3 [にぶい黄橙色]	良	良好	ナデ-ミガキ-ナケ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	106	3
28図 31	T5-3 SK-121	480	鉢	口縁-体部	(15.8)	不明	浅黄橙色 7.5YR8/4	良	良好	ナデ-ナケ	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	106	4
28図 32	T5-3 SK-121	480	甕	口縁・頸部	(17.8)	不明	灰白色 10YR8/2	良	良好	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	有	無	106	1
28図 33	T5-3 SK-121	480	壺	口縁・頸部	不明	不明	黒褐色 5YR2/1	良	不良	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	有	有	106	2
28図 34	T5-2 SK-122	459	甕	口縁部	不明	不明	10YR7/4 [にぶい黄橙色]	良	良好	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	95	2
28図 35	T5-2 SK-122	459	甕	口縁部	不明	不明	黒褐色 10YR3/1	良	良好	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	有	95	1
28図 36	T5-2 SK-124	463	脚台付甕	脚部	不明	不明	10YR7/3 [にぶい黄橙色]	良	良好	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	95	3
28図 37	T5-2 P-126	470	合付鉢	脚部	不明	不明	7.5YR7/4 [にぶい黄橙色]	良	良好	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	96	8
28図 38	T5-2 P-126	470	甕	肩部	不明	不明	7.5YR2/1 [にぶい黄橙色]	良	良好	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	有	96	7
29図 1	SD-127中層	511	壺	口縁・頸部	(15.0)	不明	浅黄橙色 10YR8/3	良	良好	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	99	1
29図 2	SD-127上層	510	壺	口縁・頸部	17.5	不明	浅黄橙色 10YR8/3	良	良好	ナデ-ナケ後ナデ-ナケ	ナデ-ナケ	ナデ-ナケ	ナデ-ナケ	無	有	97	1
29図 3	SD-127中層	511	甕	口縁・肩部	(16.0)	不明	10YR7/2 [にぶい黄橙色]	良	良好	ナデ-タキ後ナデ-タタキ	ナデ-タタキ	ナデ-タタキ	ナデ-タタキ	無	無	99	2
29図 4	SD-127上層	510	甕	口縁・頸部	(17.9)	不明	橙色 7.5YR7/6	良	良好	ナデ-ナケ	ナデ-ナケ	ナデ-ナケ	ナデ-ナケ	ナデ-ラケスリ	有	97	2
29図 5	SD-127上層	480	鉢	口縁-底部	13.3	5.7	10YR7/3 [にぶい黄橙色]	良	良好	ナデ-ナケ	ナデ-ナケ	ナデ-ナケ	ナデ-ナケ	ナデ-ラ調整	有	98	3
29図 6	SD-127上層	480	鉢	口縁-体部	(4.8)	4.5	2.5YR6/6 [にぶい黄橙色]	良	良好	ナデ-ナケ-ヘラ	ナデ-ナケ-ヘラ	ナデ-ナケ-ヘラ	ナデ-ナケ-ヘラ	無	無	98	2
29図 7	SD-127上層	480	合付鉢	底部-脚部	底(6.4)	不明	浅黄橙色 7.5YR8/3	良	良好	ナケ-ナケ後ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	有	無	98	1
29図 8	SD-127上層	510	合付鉢	脚部	底 8.3	不明	10YR7/3 [にぶい黄橙色]	良	良好	ヘラミガキ	ナデ	ナデ	ナデ	有	無	97	3

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口徑 ()復元	器高	胎土	焼成	外面調整		内部調整		黒斑	煤	備	考	図No.	番号
									上部から記入	上部から記入	上部から記入	上部から記入						
29図 9	T5-3 SD-127中層	511	甕	胸部	不明	灰白色	良好	ハケ	ハケ	無	有	ベンガラ付着	168	1				
29図 10	T5-3 SD-127中層	511	輪羽口 完形	11.3×3.0	-	5YR7/6	良好	ナデ	-	無	有		99	3				
29図 11	T5-3 SD-127中層	-	土製品 破片	不明	にぶい黄橙色	良好	タキ-ナデ	-	無	無	重さ7.5g		157	4				
29図 12	T5-3 SK-128	499	壺	口縁-肩部	(18.2)	不明	5YR6/6	良好	ナデ	ハケ-ナデ	有	無		100	1			
29図 13	T5-3 SK-130	495	匙状土製品 破片	不明	にぶい黄橙色	良好	指調整		有	無	指調整後工具で刺突		100	2				
29図 14	T5-3 SK-131	496	壺	口縁部	不明	7.5YR7/3	良好	ナデ	ナデ	有	無		101	1				
29図 15	T5-3 SK-131	496	合付鉢 脚部	不明 (15.2)	不明	10YR5/1	良好	ハケ-ナデ	ハラケズリナデ	有	無		101	2				
29図 16	T5-3 SK-131	496	合付鉢 脚部	不明 (15.2)	不明	10YR8/2	良好	ハケ-ナデ	ハケ-ナデ	無	無		101	3				
29図 17	T5-3 SK-132	497	甕	口縁部	(19.8)	不明	黒色 N2/	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハラケズリ	有	無	魏か	102	1			
29図 18	T5-3 SK-132	497	甕	口縁部	(19.6)	不明	にぶい褐色	良好	タキ	ハケ	有	無		102	4			
29図 19	T5-3 SK-132	497	鉢	口縁部	不明	にぶい黄橙色	良好	ナデ-ハケ-ナデ	ナデ	無	無		102	5				
29図 20	T5-3 SK-132	497	脚台付甕 脚部	不明 (12.0)	不明	10YR7/3	良好	ナデ	ナデ	有	無		102	3				
29図 21	T5-3 SK-132	497	高环	脚部	不明 (18.2)	不明	灰黄褐色 10YR5/2	精良	良好	ハラミガキ-ナデ	ハケ-ナデ	有	無	口縁部か	102	2		
30図 1	T5-3 SD-133	515	小型壺	口縁-胸部	(11.0)	不明	にぶい褐色	良好	ナデ	ナデ-ハケ	無	有		138	2			
30図 2	T5-3 SD-133	524	小型壺	口縁-胸部	(12.4)	不明	灰色 N4/	良	ナデ	ナデ-ハケ	無	有		138	4			
30図 3	T5-3 SD-133	515	小型壺	口縁-胸部	(11.0)	不明	淡黄色 5YR6/4	良	ナデ-ナデ-ハケ	ナデ	有	有		138	3			
30図 4	T5-3 SD-133	520	壺	頭部-胸部	不明	にぶい黄橙色	良好	ナデ-ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ-ハケ	有	有		123	1				
30図 5	T5-3 SD-133	515	壺	口縁-胸部	(12.8)	不明	10YR8/2	良	ナデ-ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ-ハケ	有	有		123	2			
30図 6	T5-3 SD-133	522	壺	口縁-頭部	13.5	不明	にぶい褐色	良好	ナデ-ナデ-ナデ-刺突文	ナデ-ハケ	有	無	浅い刺突文が全周	133	2			
30図 7	T5-3 SD-133	524	壺	口縁-胸部	16.7	不明	浅黄褐色 2.5YR7/3	良好	ナデ-ハケ-ナデ-後刻目 ナデ-タキ	ナデ-ハケ	有	無		126	1			
30図 8	T5-3 SD-133	574	壺	完形	15.5	41.8	灰白色 10YR8/2	良好	ナデ-ハケ-タキ後ハケ ハケ	ナデ-ハケ	有	無	胸部上位に穿孔1個	128	1			
30図 9	T5-3 SD-133	520	壺	胸部-底部	不明	不明	浅黄褐色 10YR8/3	良好	ハケ-ナデ	ハケ	有	無		127	2			
30図 10	T5-3 SD-133	519	壺	口縁-肩部	(19.0)	不明	灰白色 2.5YR8/1	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	無		133	1			
30図 11	T5-3 SD-133	513	壺	口縁-頭部	19.5	不明	淡黄色 2.5YR8/3	良好	ナデ-ハケ-ナデ-描描直線文	ナデ-ハケ	無	無		131	1			

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外面調整		内部調整		黒斑	煤	備考	図No.番号
									上部から記入	上部から記入	上部から記入	上部から記入				
30図 12	T5-3 SD-133	520	壺	口縁-肩部	(20.0)	不明	10YR7/4 [にぶい黄橙色]	良好	ナデ-ハケ-ナデ後刻目-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ-ハケ	無	無	127	1		
30図 13	T5-3 SD-133	515	壺	肩部-胴部	(不明)	不明	10YR7/4 [にぶい黄橙色]	良好	柳描直線文-ハケ	ハケ-ナデ-指押さえ-ハケ	無	無	131	2	外面の直線文に赤色顔料付着	
30図 14	T5-3 SD-133	513	甕	頭部-胴部	(不明)	不明	10YR8/3 [にぶい黄橙色]	良好	ナデ-タキ後ハケ	ナデ-指押さえ後-ハケ	無	有	121	2	頭部に刻目	
30図 15	T5-3 SD-133	515	壺	頭部-肩部	(不明)	不明	2.5YR8/2 [にぶい黄橙色]	良好	ナデ-ハケ-輪描波状文	ナデ-ハケ-ハケ	無	無	134	2		
30図 16	T5-3 SD-133	513	壺	頭部-肩部	(不明)	不明	7.5YR7/3 [にぶい黄橙色]	良好	ナデ-タキ後ハケ	ハケ-ナデ-ハケ	有	無	134	1	外面頭部から肩部にかけてベンガラ付着	
31図 1	T5-3 SD-133	512	壺	口縁-頸部	(28.0)	不明	10YR8/2 [灰白色]	良好	ナデ-ハケ-輪描直線文-ハケ	ナデ-ハケ-ハケ	無	無	132	1		
31図 2	T5-3 SD-133	513	壺	口縁部	(28.5)	不明	10YR7/2 [にぶい黄橙色]	良好	ナデ-ハケ-刺突-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ	無	無	132	2		
31図 3	T5-3 SD-133	512	壺	頭部-胴部	不明	不明	10YR7/3 [にぶい黄橙色]	良好	ナデ-ハデ後刻目-ハケ- タキ後ハケ	ハケ-ナデ後刻目-ハケ- タキ後ハケ	有	有	125	1		
31図 4	T5-3 SD-133	512	壺	口縁-頸部	(39.6)	不明	5YR6/6 [橙色]	良好	ナデ-後斜呂子文-ハケ- ナデ後刻目	ナデ-後斜呂子文-ハケ- ナデ	有	無	124	1		
31図 5	T5-3 SD-133	512	壺	口縁-肩部	(47.0)	不明	5YR6/6 [橙色]	良	ナデ-による斜格子文-ハケ	ナデ-ナデ-ハケ-ハケ	無	有	129	1		
31図 6	T5-3 SD-133	513	壺	口縁-肩部	(48.0)	不明	5YR7/6 [灰白色]	良	ナデ-ハケ-刻目-ハケ	ナデ-ナデ-ハケ-ナデ-ハケ	無	無	130	1		
32図 1	T5-3 SD-133	519	甕	口縁-底部	(12.8)	14.8	10YR8/2 [灰白色]	良好	ナデ-タタキ後ハケ- ハラケズイ	ナデ-ナデ-ハケ-ハケ	無	有	122	1		
32図 2	T5-3 SD-133	520	甕	ほぼ完形	13.5	15.7	10YR8/2 [灰白色]	良好	ナデ-ハケ-ナデ-ハケ	ナデ-ナデ-ハケ-ナデ-ハケ	有	無	122	2		
32図 3	T5-3 SD-133	513	甕	口縁-胴部	(14.2)	不明	5YR6/4 [橙色]	良	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ後ナデ-ハケ	有	有	114	2		
32図 4	T5-3 SD-133	519	甕	口縁-底部	(14.0)	18.4	5YR6/6 [橙色]	良好	ナデ-ハケ後ナデ-ナデ	ハケ-ナデ-ハケ	有	無	116	1		
32図 5	T5-3 SD-133	512	甕	口縁-肩部	14.9	不明	7.5YR8/2 [灰褐色]	良	ナデ-タキ後ハケ	ハケ後ナデ-ハケ	有	有	119	2		
32図 6	T5-3 SD-133	514	甕	口縁-胴部	(15.8)	不明	7.5YR6/2 [にぶい黄橙色]	良	ナデ-ハケ	ハケ	有	無	116	2	古代か	
32図 7	T5-3 SD-133	519	甕	口縁-胴部	(17.6)	不明	10YR8/3 [浅黄橙色]	良	ナデ-ハケ後ナデ-ハケ-ナデ	ハケ	有	有	120	2		
32図 8	T5-3 SD-133	512	甕	口縁-胴部	(18.0)	不明	10YR7/3 [にぶい黄橙色]	良	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	有	有	115	2		
32図 9	T5-3 SD-133	519	甕	口縁-胴部	(18.0)	不明	褐灰色 10YR6/1	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	有	無	119	3		
32図 10	T5-3 SD-133	512	甕	口縁-胴部	(18.7)	不明	浅黄橙色 10YR8/4	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	有	有	115	1		
32図 11	T5-3 SD-133	520	甕	口縁-胴部	(19.4)	不明	にぶい橙色 7.5YR7/3	良	ナデ-ハケ-タタキ後ハケ	ナデ-ハケ	有	有	114	1	外面全体に煤付着	
32図 12	T5-3 SD-133中層	513	(古代)	口縁-胴部	(25.8)	不明	黒褐色 10YR3/1	良	ナデ-ハケ後ナデ-ハケ-ヘラ	ナデ-ハケ	有	有	120	1		
32図 13	T5-3 SD-133	520	脚台付甕	口縁-底部	(15.8)	22.4	5YR3/1	良	ナデ	ナデ-ハケ-指調整-ナデ	無	有	117	1	外面上半に多量の煤付着	

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	上面から記入	内面調整	上部から記入	黒斑	煤	備考	図No.	番号	
32図 14	T5-3中層	514	脚台付甕	脚部	不明	11.4	不明	にぶい黄橙色	ハケ-ナデ	ハケ-ハケ-指調整	有	有	118	3			
32図 15	T5-3 SD-133	521	脚台付甕	脚部	不明	11.9	不明	10YR7/4 橙色	良	ハケ-タキ-ハケ-ナデ	ハケ-砂型-ナデ	無	有	外面上半に多量の煤付着	117	2	
33図 1	T5-3 SD-133	514	高坏	口縁-底部	24.1	17.5	にぶい黄橙色	良	ナデ-ハケ後ナデ-ナデ	ナデ-ハケ後ナデ-ナデ	穿孔4個				135	1	
33図 2	T5-3 SD-133	523	高坏	口縁-坏部	(30.4)	不明	10YR7/2 浅黄橙色	良	ナデ-ナデ後ハケ	ハケ後ナデ-ハケ後ミガキ	有	無			135	2	
33図 3	T5-3 SD-133	518	高坏	口縁-坏部	(33.8)	不明	10YR8/3 浅黄橙色	良	ナデ-ハケ	ナデ	有	無			136	1	
33図 4	T5-3 SD-133	518	高坏	口縁-坏部	不明	不明	10YR8/2 灰白色	良	ナデ	ナデ	無	無			136	3	
33図 5	T5-3 SD-133	520	脚付鉢	脚部	不明	10YR8/2 底(13.0)	良	ナデ	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	無	繖羽口として利用か		139	2	
33図 6	T5-3 SD-133	513	鉢	口縁-底部	15.5	11.0	にぶい黄橙色	良	10YR8/2 灰白色	ハケ-ハラケズリ	ハケ-ナデ	有	有			138	1
33図 7	T5-3 SD-133	514	片口	口縁-体部	15.0~20.8	不明	10YR8/2 灰白色	良	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ-ハケ-ナデ	ナデ-ハケ-ナデ-ハケ-ナデ	有	有			139	1
33図 8	T5-3 SD-133	519	合付鉢	口縁-体部	(24.0)	不明	にぶい黄橙色	良	10YR7/4 灰白色	ナデ-ナデ-ハケ	ナデ-ハケ後ナデ	有	無	坏部に突縁1本		137	2
33図 9	T5-3 SD-133	519	合付鉢	口縁-体部	(24.0)	不明	10YR8/2 灰白色	良	ナデ	ハケ後ナデ	無	無	坏部に突縁1本		137	1	
33図 10	T5-3 SD-133	518	鉢	口縁-体部	(33.8)	不明	10YR8/2 灰白色	良	ナデ	ハケ-ナデ	有	無			136	2	
33図 11	T5-3 SD-133	516	甕	口縁-胴部	(50.0)	不明	10YR7/1 灰白色	良	ナデ	ナデ-ハケ	無	無			121	1	
33図 12	T5-3 SD-133	519	脚台付甕	底部-脚部	不明	10YR7/1 底(12.1)	良	ナデ-砂型-ナデ	ハケ後ナデ-ナデ	ナデ-砂型-ナデ	有	無	内面底部にベンガラ付着		119	1	
33図 13	T5-3 SD-133	578	壺	脚部-底部	不明	2.5YR6/6 褐色	良	10YR7/1 灰白色	ナデ-ハケ-ナデ	ナデ-ハケ-指調整-ナデ	有	無			123	3	
33図 14	T5-3 SD-133	522	器台	口縁-底部	12.0	17.1	10YR8/2 にぶい黄橙色	良	ナデ-ハケ-ナデ	ナデ-ハケ-指調整-ナデ	無	無	底面に布目の痕		140	2	
33図 15	T5-3 SD-133	515	器台	口縁-底部	(9.6)	16.1	10YR7/2 浅黄橙色	良	ナデ-ハケ-指押さえ-ナデ	ナデ-ハケ後ナデ-ハケ後ナデ	無	無			140	4	
33図 16	T5-3 SD-133	515	器台	口縁-頸部	(10.6)	不明	10YR8/3 灰白色	良	ナデ	ナデ-ハケ後ナデ-ナデ	有	無	断面が三層の粘土板を重ねたものか		141	1	
33図 17	T5-3 SD-133	512	器台	頸部-底部	不明	10YR8/2 底(13.3)	良	ハケ後ナデ-ハケ-タタキ後ハケ	ハケ-ナデ-ハケ-ナデ	ナデ-ハケ後ナデ-ナデ	有	無			140	3	
33図 18	T5-3 SD-133	133	甕	口縁-部	不明	不明	10YR8/2 灰白色	良	ナデ	ナデ	無	有	ベンガラ付着		168	5	
33図 19	T5-3 SD-133	523	壺	脚部	不明	不明	10YR8/3 浅黄橙色	良	ナデ-刻目	ヘラケズリ	無	無	外面上に赤色顔料付着		143	2	
33図 20	T5-3 SD-133	514	壺	肩部	不明	不明	10YR8/2 にぶい橙色	良	ナデ	ナデ-直線文-ハケ-描波状文	無	無	外面上に赤色顔料付着		143	1	
33図 21	T5-3 SD-133	518	鉢	口縁-体部	不明	不明	7.5YR6/4 黒色	良	ナデ	ナデ	無	無	外面上に赤色顔料付着		140	1	
33図 22	T5-3 SD-133	133	甕	脚部	不明	不明	10YR8/2 黑色	良	ハケ	ハケ	無	有	内面に赤色顔料付着 朱か		168	3	

図版番号	構造名	袋番号	器種	部位	口徑()復元	器高	胎土	焼成	外面調整		内面調整		黒斑	煤	備考	図No.番号
									上部から記入	上部から記入	上部から記入	上部から記入				
33図 23	T5-3 SD-133	133	甕	胸部	不明	不明	黒色	良好	ナデ-ハケ	ナデ	無	有	ベンガラ付着		168 4	
34図 1	T5-3 SD-133	523	壺	胸部	不明	不明	にぶい黃橙色 10YR7/2	良好	ハケ-L字状貼付突帶	ハケ	無	無			143 3	
34図 2	T5-3 SD-133	518	壺	胸部	不明	不明	浅黃橙色 10YR8/3	良好	ハケ-ナデ-L字状貼付突帶	ハケ	無	無			143 4	
34図 3	T5-3 SD-133	513	ジョッキ	口縁-胴部	不明	不明	にぶい黃橙色 10YR7/3	良好	ナデ	ナデ-ハケ	無	無			142 1	
34図 4	T5-3 SD-133	514	ジョッキ	胸部-底部	不明 底(80)	不明	灰黄色 2.5YR7/2	良好	ナデ	ナデ-ハケ	無	無			142 2	
34図 5	T5-3 SD-133	513	ミニチュア 高杯	脚部	不明	不明	浅黃橙色 10YR8/3	精良	ナデ-ハケ	シボリ	有	無			139 3	
34図 10	T5-3 排土	565	壺	ほぼ完形	(10.7)	11.9	にぶい黃橙色 7.5YR7/4	良好	ナデ-ハケ-ナデ	ヘラミガキ-ナデ	有	有			108 3	
34図 11	T5-3	563	壺	口縁-胴部	11.0	不明	にぶい黃橙色 10YR7/2	良好	ナデ-ハケ-ハケ	ナデ-指押さえ後ナデ-ハケ-ハラ	有	有	焼が付着し剥離、壊として使用か		108 2	
34図 12	T5-3	562	小型甕	完形	11.8	15.0	にぶい黃橙色 10YR6/3	不良	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ-ナデ	有	無			108 1	
34図 13	T5-3-括	-	甕	口縁-胴部	(21.0)	不明	褐灰色 7.5YR4/1	良好	ナデ	ナデ-ハケ	有	有			111 1	
34図 14	T5-3-括	-	器台	口縁-底部	11.6	17.1	にぶい黃橙色 10YR7/3	良好	ナデ-ハケ後ナデ-ハケ- ハケ後ナデ	ハケ-指調整後ハケ	有	無	底部に布目痕あり		107 1	
34図 15	T5-2 重機掘削中	435	ジョッキ	口縁-胴部	不明	不明	にぶい橙色 7.5YR7/4	良好	ナデ-ハケ-ヘラミガキ	ナデ-ハケ	無	無	丁寧な仕上り		95 7	
34図 16	T5-3 包含層	479	ジョッキ	底	不明 底(15.8)	10YR7/3	にぶい黃橙色 10YR7/2	良好	タタキ後ハケ	ハケ-ナデ	無	無	貼付円文の径2.8cm		109 3	
34図 17	T5-3	479	壺	胸部	不明	不明	にぶい黃橙色 10YR7/2	良好	ナデ-後輪描文	ナデ	無	無	109 2			
34図 18	T5-1 重機掘削中	433	壺	破片	不明	不明	灰黄色 10YR6/2	良	ハケ	ハケ	有	無			90 1	
34図 19	T5-2 検出中	114	甕	胸部	不明	不明	灰白色 10YR8/2	良好	ナデ	ナデ	無	有	ベンガラ付着		167 5	
34図 20	T5-2 検出中	-	甕	胸部	不明	不明	黒褐色 10YR8/2	良好	ハケ	ハケ	無	有	朱付着		167 7	
34図 21	T5-2 検出中	444	不明	破片	不明	不明	明赤褐色 2.5YR5/6	良	摩滅している為不明瞭	摩滅している為不明瞭	無	無	内外面にベンガラ付着		95 5	
34図 22	T5-2 検出中	114	甕	胸部	不明	不明	灰白色 10YR8/1	良好	ナデ	ハケ	無	無	ベンガラ付着		167 6	
34図 23	T5-3 検出中	-	紡錘車	ほぼ完形	5.0×4.7	不明	-	-	-	-	-	-	重さ19.7g		157 3	
34図 24	T5-2 重機掘削中	435	匙状土製品	把手	不明	不明	浅黃橙色 10YR8/3 橙色	良	良好	指調整	無	無			95 8	
34図 26	T5-3 包含層	491	环	口縁-底部	(14.8)	不明	5YR6/6	良好	ナデ-ハラケズリ	ナデ	無	有			107 3	
34図 27	T5-3 包含層	490	环	口縁-底部	(16.0)	不明	にぶい橙色 7.5YR7/4	良好	ナデ-ハラケズリ	ナデ	無	無			107 2	
35図 1	SD-143上層	535	壺	口縁-底部	16.6	30.9	にぶい黃橙色 10YR7/3	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ヘラケズリ	有	無	内外面に煤付着		152 1	

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	上部から記入	内面調整	上部から記入	黒斑	煤	備考	図No.番号
35図 2	T5-3 SD-143上層	532	壺	口縁-胴部	(19.0)	不明	灰白色	良好	ナデ-タタキ後ハケ	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	無	全体に摩滅	153 1
35図 3	T5-3 SD-143下層	542	壺	胴部-底部	不明	不明	にぶい黄橙色	良好	ナデ	ハケ-ナデ	ハケ-ナデ	無	無		159 3
35図 4	T5-3 SD-143上層	537	壺	口縁-胴部	15.9	不明	10YR6/3 浅黄橙色	良好	ナデ-ハケ後ナデタタキ後ハケ	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	有	有		148 2
35図 5	T5-3 SD-143 北壁	545	壺	口縁-頸部	16.5	不明	10YR8/3 浅黄橙色	良好	ハケ-ナデ-ミガキ	ナデ	ナデ	有	有		162 1
35図 6	T5-3 SD-143上層	533	壺	口縁部	(28.0)	不明	灰白色	良好	ナデ	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	無		153 2
35図 7	T5-3 SD-143 北壁	576	壺	口縁-頸部	25.0	不明	10YR8/2 灰白色	良好	ナデ-貼付突帶	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	有	有		164 1
35図 8	T5-3 SD-143 北壁	577	壺	口縁-底部	20.0	37.0	2.5YR8/3 淡黄色	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	無	胸部に穿孔	163 1
35図 9	T5-3 SD-143上層	-	二重口縁壺	口縁-底部	28.0	68.0	2.5YR8/3 淡黄色	良好	ナデ-三角突帶-斜格子文-ナデ-ハケ 斜格子文ハケ-ヘラケズリ	ナデ-ハケ-ヘラケズリ	ナデ-ハケ-ヘラケズリ	有	無	口縁部内面に煤付着	158 1
36図 1	T5-3 SD-143上層	537	小型甕	口縁-胴部	(12.0)	不明	灰褐色	良好	ナデ-タタキ後ハケ-ヘラ	ナデ	ナデ-ハケ	有	有		148 3
36図 2	T5-3 SD-143上層	532	甕	頸部-胴部	(14.0)	不明	黄橙色	良	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	有	器壁が薄くもろい	151 2
36図 3	T5-3 SD-143上層	539	甕	口縁-底部	(14.2)	18.2	10YR8/1 灰白色	良好	ナデ-タタキ後ハケ-ヘラ	ナデ-タタキ後ハケ-ヘラ	ナデ-タタキ後ハケ-ヘラ	有	無	体部は卵型 器壁が薄い	146 1
36図 4	T5-3 SD-143上層	531	甕	頸部-胴部	(14.0)	不明	10YR7/2 にぶい黄橙色	良	ナデ-タタキ後ハケ?	ナデ-タタキ後ハケ?	ナデ-タタキ後ハケ?	無	有		151 1
36図 5	T5-3 SD-143上層	537	甕	口縁-胴部	(15.8)	不明	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	ナデ-タタキ後ハケ	ナデ-タタキ後ハケ	ナデ-タタキ後ハケ	無	有		149 2
36図 6	T5-3 SD-143上層	539	甕	口縁-胴部	(15.0)	不明	10YR8/1 灰白色	良	ナデ-タタキ後ハケ	ナデ-タタキ後ハケ	ナデ-タタキ後ハケ	有	有	肩部に吹き零れの痕あり	147 1
36図 7	T5-3 SD-143上層	540	甕	口縁-胴部	(15.6)	不明	7.5YR7/4 にぶい黄橙色	良	ナデ-タタキ後ハケ	ナデ-タタキ後ハケ	ナデ-タタキ後ハケ	有	無		147 2
36図 8	T5-3 SD-143上層	537	甕	口縁-胴部	(15.6)	不明	10YR7/3 にぶい橙色	良	ナデ-ハケ-ヘラケズリ	ナデ-ハケ-ヘラケズリ	ナデ-ハケ-ヘラケズリ	無	有	刺突文6個	148 1
36図 9	T5-3 SD-143上層	535	甕	口縁-胴部	(15.8)	不明	7.5YR7/3 にぶい橙色	良	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	有	肩部にハケの先端を突き当てる、4ヶ所残る	149 1
36図 10	T5-3 SD-143上層	533	甕	頸部-胴部	(16.0)	不明	2.5YR7/2 灰黄色	良	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	無		151 3
36図 11	T5-3 SD-143 北壁	545	甕	口縁-頸部	(17.5)	不明	2.5YR8/1 灰白色	良	ナデ-ハケ-タタキ後ハケ	ナデ-ハケ-タタキ後ハケ	ナデ-ハケ-タタキ後ハケ	無	有		162 2
36図 12	T5-3 SD-143下層	542	脚台付甕	胴部-脚部	不明	底(13.0)	にぶい黄橙色	良	ナデ-ハケ-ナデ	ナデ-ハケ-ナデ	ナデ-ハケ-ナデ	摩滅	ハケ		159 2
36図 13	T5-3 SD-143下層	542	脚台付甕	脚部-脚部	不明	底(11.0)	10YR6/2 灰黄褐色	良	ナデ-ハケ-タタキ後ハケ	ナデ-ハケ-タタキ後ハケ	ナデ-ハケ-タタキ後ハケ	摩滅	ハケ	ハケ-妙型ナデ	159 1
36図 14	T5-3 SD-143	537	甕	口縁-胴部	(15.8)	不明	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	ナデ-タタキ-タタキ後ハケ	ナデ-タタキ-タタキ後ハケ	ナデ-タタキ-タタキ後ハケ	有	無	出土地が溝の上層、北壁とまだがる	146 2
36図 15	T5-3 SD-143上層	534	甕	肩部-胴部	(不明)	不明	灰白色	良	ハケ-刺突文	ハケ-刺突文	ハケ-刺突文	無	有	肩部に刺突文5個	150 1
36図 16	T5-3 SD-143上層	534	甕	頸部-胴部	(不明)	不明	7.5YR8/3 浅黄橙色	良好	ナデ-ハケ-波状文	ナデ-ハケ-波状文	ナデ-ハケ-波状文	有	無	肩部にごく浅い波状文	150 2

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外面調整		内面調整		黒斑	煤	備考	図No.番号		
									上部から記入	上部から記入	上部から記入	上部から記入						
37図 1	T5-3	539	鉢	口縁-底部	(10.8)	5.3	灰黄褐色	良好	ナデ-ハケ	ハケ-ナデ	有	無	156	2				
37図 2	T5-3	536	鉢	完形	10.2	6.3	にぶい橙色	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ヘラ調整	有	無	155	2	口縁部外面に植物の痕跡			
37図 3	T5-3	539	鉢	口縁-胴部	(13.4)	不明	灰白色	良好	ナデ-ハケ	ナデ	有	無	156	4				
37図 4	T5-3	537	鉢	頸部-胴部	不明	不明	橙色	良	ナデ-ハケ-ナデ	ナデ	有	無	155	1	やや摩滅			
37図 5	T5-3	537	鉢	口縁-胴部	(13.6)	不明	にぶい橙色	良好	ヘラミガキ	ナデ	無	無	155	3				
37図 6	SD-143上層	539	合付鉢	口縁-胴部	(15.8)	不明	灰白色	良好	ナデ-ヘラミガキ	ナデ-ヘラミガキ	有	無	156	3				
37図 7	T5-3	575	脚台付甕	完形	15.8	19.8	淡黄色	良	摩滅	摩滅	ハケ-ミガキ-ナデ-ナデ	有	無	164	2			
37図 8	T5-3	543	高壺	口縁-底部	19.5	15.0	明赤褐色	精良	摩滅	ヘラミガキ-ナデ-ナデ	ヘラミガキ-ナデ-ナデ	無	無	161	1	脚部に穿孔4個		
37図 9	T5-3	533	高壺	壺部	21.0	不明	橙色	良	良	ナデ-ハケ-ナデ	摩滅	ヘラミガキ	有	無	154	1		
37図 10	SD-143下層	542	高壺	口縁-壺部	(33.8)	不明	浅黄橙色	良	ナデ	ナデ	無	無	160	1				
37図 11	T5-3	535	手づくね	口縁-底部	不明	不明	暗灰色	良	良好	指調整	有	無	155	5				
37図 12	SD-143上層	538	ミニチュア鉢	完形	6.6	23-26	浅黄橙色	良好	ナデ	ナデ	有	無	156	1				
38図 1	T5-3	SK-136	502	器台	裾部	不明	橙色	良好	ハケ-ナデ	ハケ-ナデ-ナデ	無	無	101	5				
38図 2	T5-3	SK-136	502	壺	肩部	不明	にぶい赤褐色	良好	梯文-ハケ	ハケ	無	無	101	6				
38図 3	T5-3	SK-136	502	ミニチュア	口縁-底部	7.0	4.0	10YR8/2	ナデ-ヘラ	ナデ-ヘラ-ナデ	無	無	101	4				
38図 4	T5-3	P-137	506	甕	口縁部	不明	不明	にぶい橙色	良好	ナデ	ナデ	有	無	105	1			
38図 5	T5-3	SK-138	498	壺	口縁部	不明	不明	浅黄橙色	良好	刻目-ハケ	ハケ	無	無	103	3			
38図 6	T5-3	SK-138	498	甕	口縁部	(17.4)	不明	にぶい橙色	良好	ナデ	ナデ	無	無	103	2			
38図 7	T5-3	SK-138	498	甕	口縁-肩部	(21.4)	不明	灰白色	良	ナデ	ナデ-ヘラケズリ	無	無	103	1			
38図 8	T5-3	SK-138	503	合付鉢	底部脚部	不明	不明	にぶい黄橙色	良好	ハケ	ナデ-ヘラ	無	無	103	4	脚部に穿孔		
38図 9	T5-3	SK-145	505	鉢	口縁-体部	(13.6)	不明	浅黄橙色	良好	ナデ	ナデ-ヘラミガキ	有	無	104	1			
38図 10	T5-3	SD-147	507	ミニチュア	口縁-底部	(6.4)	不明	にぶい黄橙色	良好	指押さえ	無	無	157	1				
38図 11	T5-3	P-150	-	甕	胴部	不明	不明	灰褐色	良	ナデ	ナデ	無	有	ベンガラ付着	168	2		
38図 12	T5-3	P-155	556	ミニチュア	口縁-胴部	(6.6)	不明	にぶい黄橙色	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	有	105	5			

図版番号	遺構名	袋番号	器番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外面調整		内部調整		黒斑	煤	備考	図No.番号
										上部から記入	上部から記入	ナデ	ナデ				
38図 13	T5-3 P-152	553	甕	口縁部	不明	不明	にぶい黄橙色	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	無	無	105	2
38図 14	T5-3 P-152	553	甕	口縁部	不明	不明	にぶい黄橙色	良	良好	ナデ	ナデ	無	有	無	無	105	3
38図 15	T5-3 P-152	553	匙状土製品	把手	不明	不明	橙色	良	良好	ナデ	指調整	有	無	無	無	105	4
38図 16	T5-3 SK-162	572	甕	口縁部	不明	不明	黒褐色	良	良好	ナデ	ナデ	無	有	無	無	104	2
39図 1	T-6 P-160	570	壺	底部	不明	不明	灰白色	良	不良	ハケ	ハケ	無	無	無	無	170	1
39図 2	T-6 P-161	571	甕	口縁部	不明	不明	浅黄橙色	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	無	無	170	2
39図 3	T-6 検出中	573	高环	口縁-頸部	不明	不明	浅黄橙色	良	良好	ナデ	ナデ	有	無	有	無	171	1
39図 4	T-6 検出中	573	高环か	脚部	底(16.8)	不明	灰黄褐色	良	良好	ハケ-ナデ	ナデ	無	無	無	無	170	3
39図 5	T-6 検出中	573	壺	底部	底(12.3)	不明	にぶい黄褐色	良	不良	ハケ	ハケ	有	無	有	無	171	2
39図 7	立会249東端	566	甕	口縁-胴部	(14.4)	不明	橙色	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	無	無	無	110	1
39図 8	立会249東端	566	合付鉢	口縁-底部	(13.4)	不明	5YR6/6	精良	良好	ナデ	ナデ	無	無	無	無	110	3
39図 9	立会249東端	566	环	底部-脚部	不明	にぶい橙色	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	無	無	110	4	
39図 10	立会249東端	566	甕	胴部-底部	底(3.9)	不明	明赤褐色	良	良好	ハケ-ナデ	ハケ	有	無	孔径0.5cm	有	110	2
39図 11	立会250西半	567	壺	肩部	不明	不明	にぶい黄橙色	良	良好	ナデ後スタンプ	ナデハケ	有	無	有	無	110	5

平成9年度 8工区

図版番号	遺構名	袋番号	器番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外面調整		内部調整		黒斑	煤	備考	図No.番号
										上部から記入	上部から記入	ナデ	ナデ				
45図 1	溝上層	116	壺	口縁-頸部	不明	不明	暗灰色	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ	有	無	無	無	6	1
45図 2	溝上層	117	壺	底部	底6.7	不明	明褐色	良	良好	ハケ-ナデ	ハケ	無	無	無	無	7	2
45図 3	溝上層	116	甕	口縁-頸部	(13.0)	不明	にぶい黄橙色	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	有	無	有	無	6	2
45図 4	溝上層	116	甕	口縁-頸部	(18.4)	不明	浅黄橙色	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	有	有	無	6	3
45図 5	溝上層	117	甕	口縁-頸部	(19.6)	不明	にぶい黄橙色	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	無	無	無	6	4
45図 6	溝上層	117	甕	肩部	不明	不明	褐灰色	良	良好	ハケ	ハケ	有	有	内面に赤色顔料付着	有	7	1
45図 7	溝上層	117	高环	口縁-頸部	不明	不明	浅黄色	良	良好	ナデ	ナデ	有	無	有	無	7	3

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外面調整		内面調整		備考	図No.番号
									上部から記入	上部から記入	上部から記入	黒斑		
45図 8	溝上層	117	鉢	口縁-全体部	(14.6)	不明	浅黄橙色	良	良好	ナデ	ナデ-かへラミギキ	無	無	7 4
45図 9	溝下層	118	鉢	口縁-胴部	(15.4)	不明	にぶい黄橙色 10YR7/3	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ	無	無	5 1
45図 10	溝下層	119	台付鉢か	頭部-胴部	不明	不明	浅黄橙色	良	良好	ナデ-ハケ後櫛描波状文-ナデ	ナデ	無	無	5 2
45図 11	溝下層	121	器台か	裾部	不明(8.8)	不明	にぶい黄橙色 10YR7/2	良	良好	ハケ-タタキ	ハケ	有	無 古代か	5 5
45図 12	溝下層	121	台付鉢	底部-脚部	不明	不明	にぶい黄橙色 10YR7/4	良	良好	ハケ後ナデ	ナデ-ハケ	無	無	5 3
45図 13	溝下層	120	手づくね 小型器台	裾部	不明底(3.8)	不明	にぶい黄橙色 7.5YR7/4	良	良好	指調整	指調整	無	無	5 4
45図 14	溝	P-31.32 P-10	壺	口縁-底部	(12.4)	40.1	灰白色 7.5YR8/2	良	良好	ナデ-ハケ-タタキ後ハケ-ハケ	ハケ	有	無 接合した3個体を図上復元 底部に穿孔	1 1
45図 15	溝	80	壺	口縁部	(21.6)	不明	灰褐色 7.5YR5/2	良	良好	ナケ後ナデ-ハケ ナデ-工具押圧-ハケ-	ハケ	有	無 植状工具で中から外に向けて施文	2 4
45図 16	溝	95	甕	口縁-胴部	(14.6)	不明	にぶい橙色 7.5YR7/3	良	良好	タタキ後ハケ	ハケ	無	有	2 1
45図 17	溝	P-85	甕	口縁-頸部	(27.0)	不明	浅黄橙色 7.5YR8/3	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	有 固く焼き締まる	2 2
45図 18	溝	115	壺	胴部	不明	不明	にぶい黄橙色 10YR7/4	良	良好	ナデ後櫛描文	ナデ	無	無 免田式土器文様に類似、胎土は異なる	8 3
45図 19	溝	88	壺	肩部	不明	不明	浅黄橙色 10YR8/4	良	良好	ハケ後櫛描波状文-貼付円文	ハケ	無	無 波状文後貼付円文	3 4
45図 20	溝	89	甕	口縁-頸部	不明	不明	明褐色 7.5YR7/2	良	良好	ナデ-ハケ	ハケ後ナデ-ハケ	無	有	3 2
45図 21	溝	115	壺	口縁-頸部	不明	不明	にぶい橙色 7.5YR7/3	良	良好	ハケ-ナデ	ハケ	無	有	8 1
45図 22	溝	115	器台	口縁部	(9.4)	不明	にぶい褐色 7.5YR6/3	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ	無	無	8 2
45図 23	溝	89	高壺	壺部	(22.8)	不明	灰白色 7.5YR8/2	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ	無	無	4 2
45図 24	溝	P-82	脚台付甕	脚部	底8.2	不明	にぶい黄橙色 10YR7/2	良	良好	ハケ-指押さえ-ナデ	ナデ-ハケ	有	無 ウがむ	2 3
45図 25	溝	89	脚台付甕	脚部	底13.4	不明	にぶい黄橙色 10YR7/2	良	良好	ハケ-ナデ	ナデ	有	無	3 1
45図 26	溝	96	台付鉢	脚部	底(14.8)	不明	浅黄橙色 10YR8/3	良	良好	ナデ-ナデ	ヘラケスリ-ハケ-ナデ	無	無 有 固く焼き締まる	4 1
46図 1	溝	76	台付鉢か	壺部	不明	不明	黒褐色 7.5YR3/1	良	良好	ナデ-刻目	ハケ	無	有 有 固く焼き締まる	4 5
46図 2	溝下層	-	台付鉢か	壺部	不明	不明	にぶい黄橙色 10YR7/2	良	良好	ナデ-ハケ後ナデ	ナデ	有	無 有 固く焼き締まる	9 3
46図 4	遺構外	112	小型甕	口縁-胴部	(12.6)	不明	にぶい橙色 7.5YR7/3	良	良好	ナデ-ハケ後ナデ	ナデ	有	無 固く焼き締まる	10 2
46図 5	遺構外	P-3	甕	口縁-胴部	(14.6)	不明	にぶい橙色 7.5YR7/3	良	良好	ナデ-ハケ-ナデ	ナデ-ハケ	無	有	10 1
46図 6	遺構外	P-28	甕	口縁-胴部	(16.2)	不明	にぶい橙色 7.5YR6/4	良	良好	ナデ-ハケ-剥離	ナデ-ハケ	有	有	10 1

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外面調整		内部調整		備考	図No.番号		
									上部から記入	上部から記入	上部から記入	上部から記入				
46図 7	遺構外	P-60	甕	口縁-頸部	(39.6)	不明	[に]ぶい黄橙色	良	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	有	無	固く焼き締まる	12 4		
46図 8	遺構外	P-3	脚台付甕	脚部	底	不明	[に]ぶい黄橙色	良	ナデ-ハケ	ナデ-砂型ハケ	有	無	頭部突起部に工具による押圧	11 1		
46図 9	遺構外	P-43	脚台付甕	脚部	底	12.9	不明	10YR7/3	良	ナデ-ハケ	ナデ-砂型ハケ	有	無			
46図 10	遺構外	P-16	脚台付甕	脚部	底	12.3	不明	5YR6/8	良	良好	ハケ-ナデ	有	無	割れた後煤付着	11 3	
46図 11	遺構外	P-11	壺	ほぼ完形	10.7	11.4	10YR7/4	良	良好	ナデ-ハケ後ナデ-ナデ	ハケ	有	有		11 2	
46図 12	遺構外	P-65	壺	口縁-胴部	(9.8)	不明	[に]ぶい黄橙色	良	良好	ナデ-ハケ後ナデ-ナデ	ナデ	有	有		12 1	
46図 13	遺構外	P-36	台付鉢	底部-脚部	底	9.3	不明	10YR7/3	良	良好	ナデ	ナデ	有	有		12 3
46図 14	遺構外	112	鉢	口縁-体部	不明	不明	[に]ぶい橙色	良	良好	ナデ	ナデ	有	有		12 2	
46図 15	遺構外	P-19	高杯	柱部	不明	不明	明赤褐色	良	良好	ナデ	ナデ	有	有		9 4	
46図 16	遺構外	P-42	高杯	柱部	不明	不明	浅黄橙色	良	良好	ヘラミガキ-ハケ	ヘラ調整	無	無	被熱により全体赤変	13 1	
46図 17	遺構外	110	甕か	胴部	不明	不明	明赤褐色	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	穿孔四個	13 2	
46図 18	遺構外	109	土錠	破片	3.2×3.4	-	2.5YR5/6	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	内外面にベンガラ付着	9 2	
46図 19	遺構外	P-1	皿	口縁-底部	15.3	17.0	灰色	5Y5/1	良	良好	ナデ	ナデ	有	重さ30.8g	9 1	
												無	無		13 3	

平成9年度 5工区

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外面調整		内部調整		備考	図No.番号		
									上部から記入	上部から記入	上部から記入	上部から記入				
46図 22	116-3番地南	5	甕	口縁-胴部	(13.6)	不明	[に]ぶい橙色	良	良好	ナデ-タキ-タキ後ナデ	ナデ-タキ-タキ後ナデ	ナデ-ハケ-ヘラケスリ	無	無	4 1	
46図 23	119番地南	-	壺	口縁部	(16.2)	不明	浅黄橙色	良	良	ナデ-ハケ	ナデ	有	無	摩滅が著しい	1 2	
46図 24	119番地南	7	壺	口縁-胴部	(13.6)	不明	10YR8/3	良	良	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	有	無	摩滅が著しい	1 1	
46図 25	119番地南	-	甕	口縁-肩部	(20.2)	不明	浅黄橙色	良	良	摩滅 タキ-ナデ	ナデ	無	無	摩滅が著しい	1 3	
46図 26	119番地南	-	鉢	口縁-底部	(13.8)	5.2	灰色	7.5YR8/1	良	不良	ナデ-ハケ	ハケ	有	無	摩滅が著しい	1 4
47図 1	963番地	45	壺	口縁部	不明	不明	[に]ぶい黄橙色	良好	良好	ナデ-刻目-ハケ	ナデ	無	無		2 3	
47図 2	963番地	45	壺	底部	(不明)	不明	[に]ぶい黄橙色	良	良好	ハケ-ナデ	ハケ	無	有	底部に煤付着	2 1	
47図 4	963番地	45	甕	口縁-肩部	(18.6)	不明	[に]ぶい黄橙色	良好	良好	ナデ-ハケ	ナデ	無	有		2 4	

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外部調整上部から記入	内面調整上部から記入	黒斑	煤	備考	図No.番号
47図 5	963番地	45	甕	口縁-肩部	(20.6)	不明	にぶい黄橙色 10YR7/4	良好	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	有		2 2
47図 6	963番地	45	脚台付甕	脚部	不明 底(15.2)	不明	浅黄橙色 10YR8/3	良好	タキ	ハケ-ナデ	有	無		3 1

平成11年度 31工区

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外部調整上部から記入	内面調整上部から記入	黒斑	煤	備考	図No.番号
47図 3	センター北	11	壺	頸部-肩部	(不明)	不明	灰白色	良好	ハケ-ナデ	ハケ	有	無	固く焼き継まる	2 1
47図 7	センター南	38	壺	口縁-頸部	(13.0)	不明	にぶい黄橙色 10YR7/4	良好	ナデ	ナデ-ハケ	無	無	頭部突起に工具による押圧	1 2
47図 8	センター南	37	脚台付甕	底部-脚部	不明 底(10.8)	不明	にぶい黄橙色 10YR7/3	良好	ハケ-ナデ	ハケ-ナデ-砂型ナデ	有	無		1 1
47図 9	センター南	21	杯	高台	不明 底(9.0)	不明	にぶい赤褐色 2.5YR4/3	良好	ナデ	ナデ	無	無	割れた後煤付着	1 3

平成12年度 8工区

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外部調整上部から記入	内面調整上部から記入	黒斑	煤	備考	図No.番号
47図 10	4~5区 溝	5	二重口縁壺	口縁-肩部	17.0	不明	灰白色	良好	2.5YR8/2	ナデ-ハケ-刺穴文-ナデ	ナデ	無	口縁部に鋸齒状文 頸部に刺突文	1 1
47図 11	4~5区 溝	6	壺	口縁-頸部	(24.0)	不明	灰白色	良好	10YR8/1	刻目-ナデ-刻目	ナデ-ハケ	無	無	1 2
47図 12	4~5区 溝	6	甕	口縁-肩部	(13.5)	不明	浅黄橙色	良好	10YR8/3	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	無	3 1
47図 13	4~5区 溝	4	脚台付甕	底部-脚部	不明 底(10.0)	不明	にぶい橙色	良	2.5YR6/4	摩滅	ナデ-ハケ	ナデ	被熱により一部赤変	3 4
47図 14	4~5区 溝	6	壺	胴部	不明	不明	灰白色	良好	2.5YR8/2	ナデ-ハケ	ナデ	無	外面部ガラ付着	3 2
47図 15	4~5区 溝	5	高坏	坏部	(28.0)	不明	灰白色	良	10YR8/2	ナデ-ハケ	ナデ	無	全体に摩滅	2 1
47図 16	4~5区 溝	6	高坏	脚部	不明 底(15.0)	不明	にぶい黄橙色	良好	10YR7/2	ヘラケスリ-ナデ	有	無	穿孔4回 脚内面に煤付着	2 2
47図 17	5~6区	7	壺	口縁部	(22.0)	不明	橙色	良好	5YR6/6	ナデ-ハケ	ナデ	無	無	5 2
47図 18	5~6区	9	甕	口縁-肩部	(21.5)	不明	褐灰色	良好	5YR6/1	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	有	有	4 1
47図 19	5~6区	7	壺	底部	不明 底(14.0)	不明	浅黄橙色	良好	10YR8/3	ナデ	ナデ	有	底部に葉脈跡	4 2
47図 20	5~6区	7	壺	底部	不明 底(8.5)	不明	にぶい黄橙色	良	10YR7/2	ハケ	摩滅	無	底部にもハケ施す	4 3
47図 21	5~6区	7	鉢	脚部	不明 底(10.8)	不明	灰白色	良好	10YR8/2	ナデ-ハケ	ナデ-ハケ	無	指押さえ-ハケ-ナデ	5 1

図版番号	遺構名	袋番号	器種	部位	口径()復元	器高	胎土	焼成	外面調整		内面調整		備考	図No.	番号	
									上部から記入	上部	黒斑	煤				
47図 23	6~7区	12	脚台付鉢	体部	(12.0)	不明	灰白色 2.5YR8/1	良	良	摩滅 ハケ	摩滅 ナデ	無	無	5	3	
47図 24	6~7区	12	壺	口縁部	24.0	不明	浅黄橙色 10YR8/3	良	良	ナデ-ハケ	ナデ	無	無	5	4	
48図 1	7~8区	15	高环	口縁部	(22.0)	不明	灰白色 10YR8/1	良好	良	ナデ-ハケ-ナデ-ハケ	ナデ	有	無	7	1	
48図 2	7~8区	14	甕	口縁・胸部	(18.5)	不明	灰白色 10YR8/1	良	良好	ナデ-ハケ-ナデ-ハケ	ハケ	無	有	6	1	
48図 3	7~8区	15	甕	口縁・胸部	(20.0)	不明	にぶい黄橙色 10YR7/4	良	良好	ナデ-ハケ	ハケ	有	無	6	2	
48図 4	7~8区	15	甕棺	脚部	底 10.0	不明	にぶい黄橙色 10YR7/3	良	良好	ハケ-ナデ	砂型ナデ	無	無	6	4	
48図 5	7~8区	14	脚台付甕	脚部	底 12.0	不明	にぶい橙色 7.5YR7/4	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ	無	有	6	3	
48図 6	7~8区	19	壺	胸部・底部	不明	不明	灰白色 10YR8/2	精良	良好	ナデ	ナデ-ハケ-指押さえ	有	無	丁寧な仕上げ	7	2
48図 7	7~8区	19	鉢	口縁・底部	(16.0)	8.4	灰白色 10YR7/1	良	良	タタキ後ハケ	ナデ	有	無	7	3	
48図 8	7~8区	14	鉢	口縁・底部	(21.0)	7.5	浅黄橙色 10YR8/3	良	良好	ナデ-ハケ	ナデ	無	有	7	4	
48図 9	8~9区	16	壺	底部	底 6.8	不明	赤色 10R4/6	良	良	ハケ	ハケ-ナデ	無	無	被熱により全体赤変	8	2
48図 10	8~9区	16	器台	中間	不明	不明	にぶい橙色 7.5YR7/4	良	良好	樹脂直線文-ハケ後ヘラガキ	ナデ-ハケ	無	無	長方形の透孔	8	1
48図 11	8~9区	16	高环	脚部	底(12.4)	不明	灰白色 5YR8/2	良	良	ナデ-ハケ-ナデ	ナデ-ハケ-ナデ	無	有	被熱により全体赤変	8	3
48図 12	9~10区	16	(須恵器)	口縁・底部	(11.0)	3.6	灰白色 N7/	不良	軟質	ナデ	ナデ	無	無	9	2	
48図 13	9~10区	17	鉢	頸部・底部	(不明)	不明	灰白色 10YR8/2	良	良好	摩滅 ハケ	ナデ	無	無	9	1	

図版	番号	遺構名	番号	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	図No	枝番
平成16年度 第52次調査											
39図	6	T-6 SK-162	Fe-52	鉋	15.4	1.6	1.1	23.8	柄に木片付着	169	4
39図	12	T-6	Fe-53	刀子か	3.5	1.2	0.2	4.2		113	2
40図	1	T-1 SD-4	Fe-2	刀子か	8.2	0.9	0.5	7.1	完形	172	2
40図	2	T-1 SD-4	Fe-1	鉄鎌	5.6	1.3	0.2	5.0	完形	172	1
40図	3	T-1 SD-4	Fe-3	不明	2.7	3.3	0.5	10.0		172	3
40図	4	T-2 SD-15	Fe-6	鉋	4.6	1.0	0.3	3.7		172	6
40図	5	T-2 SD-15	Fe-7	鉄鎌	7.3	1.9	0.4	10.5	ほぼ完形	172	7
40図	6	T-2 SD-15	Fe-4	鉄片	1.0	3.0	0.2	2.2		172	4
40図	7	T-2 SD-15	Fe-9	不明	4.1	1.3	0.5	4.5	欠損なし	172	9
40図	8	T-2 SD-15	Fe-10	不明	3.5	0.6	0.4	2.0	欠損なし	172	10
40図	9	T-2 SD-15	Fe-8	不明	2.3	0.9	0.2	1.7	欠損なし	172	8
40図	10	T-2 SD-15	Fe-11	不明	2.0	0.8	0.6	0.7		172	11
40図	11	T-2包含層	Fe-5	鉄片	3.0	4.0	1.2	34.7		172	5
40図	12	T-3 P-26	Fe-14	不明	3.0	1.2	0.6	3.0	欠損なし	172	14
40図	13	T-3 1G	Fe-13	鎌か	4.3	1.6	0.3	5.2		172	13
40図	14	T-3 1G	Fe-12	不明	2.8	1.4	0.3	1.7		172	12
40図	15	T4-2 SD-65	Fe-16	刀子か	3.2	1.3	0.3	3.5		172	16
40図	16	T4-2 SD-65	Fe-17	鉄鎌	3.2	0.7	0.4	3.5		172	17
40図	17	T4-2 SH66	Fe-20	手鎌か	1.9	4.5	0.3	4.7		172	20
40図	18	T4-2 SH66	Fe-21	手鎌か	2.0	1.0	0.4	1.2		172	21
40図	19	T4-2 SH68	Fe-19	不明	2.1	3.1	0.8	7.2		172	19
40図	20	T4-2 P-91	Fe-23	釘か	3.0	1.9	1.2	6.5		172	23
40図	21	T4-3 SH70	Fe-22	不明	2.1	1.0	0.7	3.7		172	22
40図	22	T4-3 SK-92	Fe-24	不明	2.0	3.6	0.5	9.2		172	24
40図	23	T4-2	Fe-15	不明	1.3	2.2	0.4	1.7		172	15
41図	1	T-5-3	Fe-50	刀子か	4.3	1.7	0.2	6.1		169	2
41図	2	T-5-3	Fe-50	刀子か	4.8	1.6	0.2	8.7		169	1
41図	3	T-5-3 SD-133	Fe-45	刀子	2.5	1.2	0.15	1.6	先端と本体を大半欠く	112	3
41図	4	T-5-3 SD-133	Fe-46	手鎌	3.9	9.2	0.3	68.5	完形	112	4
41図	5	T-5-3 SD-133	Fe-50	鉄鎌	4.2	2.0	0.3	9.2		169	3
41図	6	T-5-3 SD-133	Fe-42-1	鉄鎌か	5.5	1.7	0.6	8.0		173	16
41図	7	T-5-3 SD-133	Fe-35	鉄片	2.7	0.5	0.4	1.2		173	9
41図	8	T-5-3 SD-133	Fe-36	鉄片	1.8	0.4	0.4	0.5		173	10
41図	9	T-5-3 SD-133	Fe-30	鉄片	2.9	0.9	0.3	3.7		173	4
41図	10	T-5-3 SD-133	Fe-31	鉄片	1.8	1.0	0.2	1.2		173	5
41図	11	T-5-3 SD-133	Fe-32	鉄片	1.5	0.8	0.8	1.2		173	6
41図	12	T-5-3 SD-133	Fe-33	鉄片	1.8	1.5	0.7	1.7		173	7
41図	13	T-5-3 SD-133	Fe-34	鉄片	2.1	1.1	0.9	2.0		173	8
41図	14	T-5-3 SD-133	Fe-37	鉄片	2.4	2.1	1.3	6.0		173	11
41図	15	T-5-3 SD-133	Fe-29	鉄片	2.5	1.6	0.9	12.2	土器に接着、重量は土器を含む	173	3
41図	16	T-5-3 SD-133	Fe-39	鉄片	1.7	1.3	0.4	1.5		173	13
41図	17	T-5-3 SD-133	Fe-40	鉄片	1.4	1.1	0.5	0.7		173	14
41図	18	T-5-3 SD-133	Fe-41	鉄片	2.2	2.2	0.8	5.5		173	15
41図	19	T-5-3 SD-133	Fe-42-21	鉄片	2.2	1.4	0.4	1.5		173	17

図版	番号	遺構名	番号	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	図No	枝番
41図	20	T-5-3 SD-133	Fe-42-3	鉄片	2.6	1.2	0.7	2.2		173	18
41図	21	T-5-3 SD-138	-	鉄片	2.7	2.7	10.8	10.8		113	1
41図	22	T-5-3 SD-138	Fe-43-1	鉄片	3.0	1.3	1.0	5.5		173	19
41図	23	T-5-3 SD-138	Fe-43-2	鉄片	1.7	1.0	0.8	1.7		173	20
41図	24	T-5-3 SD-138	Fe-38	不明	6.0	1.5	1.6	15.5		173	12
41図	25	T-5-3 SD-144	Fe-43	不明	2.9	2.0	1.0	9.8		112	6
41図	26	T-5-3 SD-144	Fe-44	鉄塊	2.8	2.5	2.1	28.0	非製品	112	5
41図	27	T-5-3 SD-146	Fe-44	鉄鎌	6.2	2.4	0.5	10.5		173	21
41図	28	T-5-3 SK-147	Fe-47	鉄鎌基部か	2.4	0.6	0.3	1.1		112	1
41図	29	T-5-3 P-152	Fe-48	鉄鎌基部か	3.5	1.1	0.65	4.7		112	7
41図	30	T-5-3 P-153	Fe-51	刀子	6.5	1.5	0.3	10.2	先端と茎を欠く	112	2
41図	31	T5-3	Fe-26	不明	6.5	2.0	0.9	40.5		172	26

平成12年度 8工区

47図	22	6~7区	-	鉄鎌	6.0	1.0	0.5	6.5		5	5
-----	----	------	---	----	-----	-----	-----	-----	--	---	---

平成15年度 第51次調査

48図	15	3Tr 2層	-	鉄片	3.3	1.8	0.3	5.6		1	1
48図	16	4Tr 2号溝	Fe-1	鉄片	2.7	2.4	0.5	11.7		1	2
48図	17	4Tr 1号溝	Fe-1	鉄片	3.3	2.5	10.0	23.1		1	3
48図	18	4Tr 1号溝	Fe-2	鉄片	2.1	2.0	1.1	15.0		1	4
48図	19	4Tr 1号溝	Fe-3	鉄片	5.7	3.9	1.0	67.2		1	5

図版	番号	遺構名	番号	器種・部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	図No	枝番
----	----	-----	----	-------	--------	-------	--------	-------	----	-----	----

平成16年度 第52次調査

11図	18	T-1 SD-4	-	石錐	9.0	7.7	5.6	472.0	花崗岩か 周囲に幅1cm程度の溝を巡らせる 熱を受けて一面だけが弾ける、 他3面は滑々として握りやすい	39	6
18図	12	T-3 SK-35	267	砥石か	10.7	6.6	6.1	663.2		58	1
24図	31	T-4-2 SD-66	372	石包丁	3.5	3.5	0.7	19.7		70	4
24図	32	T4-2 SH-68	-	ガラス玉	0.5	0.5	0.3	-	穴の径0.15 ゆがむ	172	27
34図	6	T-5-3 SD-133	529	擦石	18.5	7.8	1.4	487.0	結晶片岩か 石錐として再利用か	144	1
34図	7	T-5-3 SD-133	512	台石	18.5	7.8	1.4	472.0	火を受けた痕跡あり、支脚として 使用か	145	1
34図	8	T-5-3 SD-133	514	砥石	4.1	4.6	0.6	79.6		145	2
34図	9	T-5-3 SD-133	486	剥片	4.1	4.6	0.6	14.8	サヌカイト	144	2
34図	25	T-5-2重機掘削中	435	砥石	11.9	5.2	2.1	330.0	砂岩	95	6
37図	13	T-5-3 SD-143	546	石剣	8.0	3.4	1.4	37.0		165	1
37図	14	T-5-3 SD-143下層	542	砥石	6.8	4.3	5.2	240.5		160	2
37図	15	T-5-3 SD-143	531	砥石	5.0	4.0	1.4	24.5	砂岩	157	2
37図	16	T-5-3 SD-143	-	石錐	12.0	4.5	3.5	1.04	花崗岩	166	1

平成9年度 8工区

46図	3	溝	115	石錐か	8.2	9.8	1.6	186.8	円礫	8	4
46図	21	遺構外	111	石匙か	3.4	5.1	0.8	15.2	サヌカイト	9	5

平成9年度 8工区

46図	20	方88	3	砥石	6.1	62	1.8	149.8	砂岩	4	2
-----	----	-----	---	----	-----	----	-----	-------	----	---	---

平成15年度 第49次調査

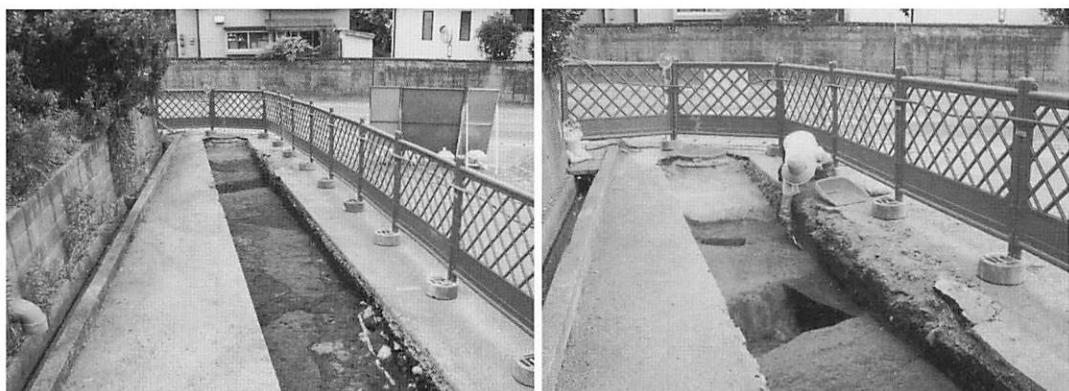
48図	14	方146 B-1区	-	石杵	-	-	-	-		-	-
-----	----	--------------	---	----	---	---	---	---	--	---	---

写 真 図 版



1. T-1 全景 (南から)

2. T-1 全景 (北から)



3. T-1 南端検出 (北から)

4. T-1 溝 SD-1 (北から)



5. T-1 溝 SD-1 完掘 (北東から)

6. T-1 溝 SD-1 土器出土 (北東から)

図版2 第52次調査1 トレンチ (T-1) 溝 SD-4



1. T-1 溝 SD-4 全景 (南東から)

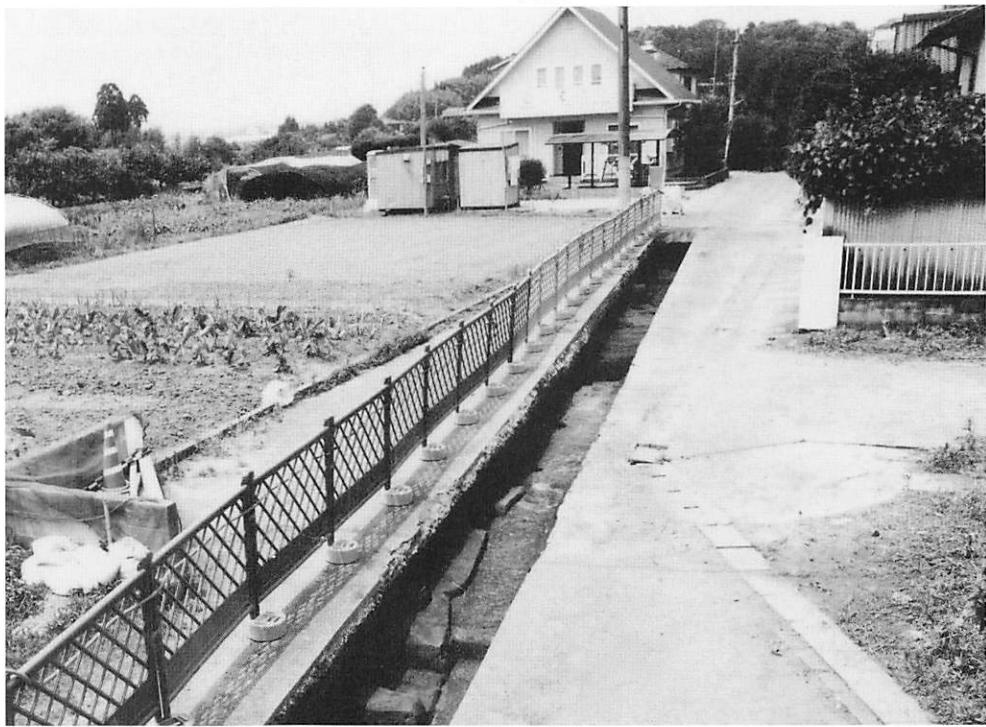


2. T-1 溝 SD-4 西壁 (北東から)



3. T-2 溝 SD-4 遺物出土 (南東から)

図版3 第52次調査2トレンチ (T-2)



1. T-2 全景 (南から)



2. T-2 全景 (北から)



3. T-2 北端検出 (南東から)



4. T-2 北端検出 (北から)

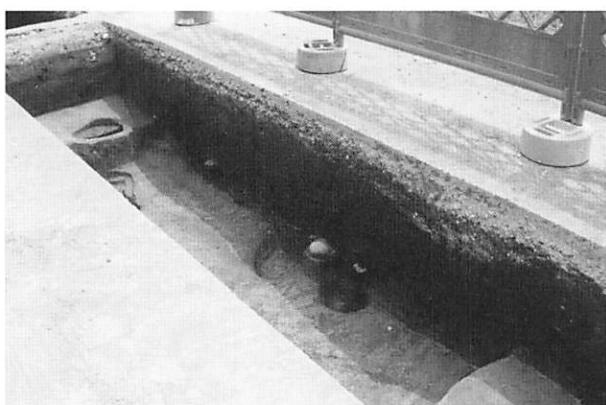
図版4 第52次調査2トレンチ(T-2)



1. T-2 土坑 SK-6 (北東から)



2. T-2 住居 SH-7 土器出土
(北東から)



3. T-2 住居 SH-7 (北東から)

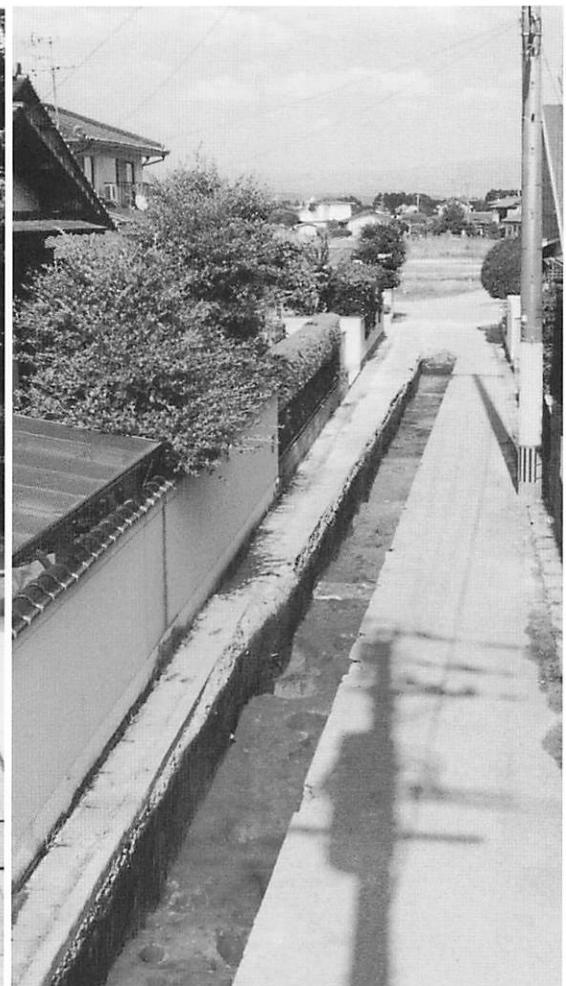


4. T-2 炉 SX-204 断面 (北東から)

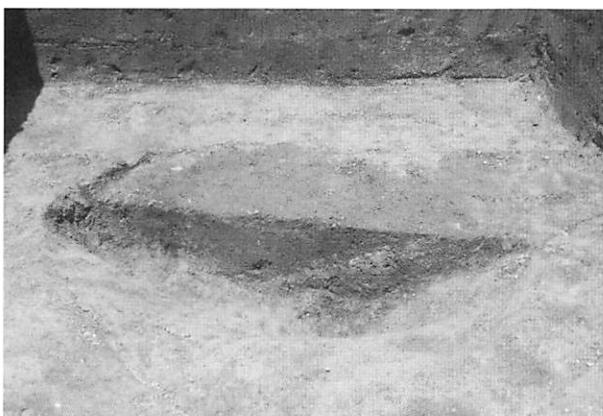
図版5 第52次調査3 トレンチ (T-3)



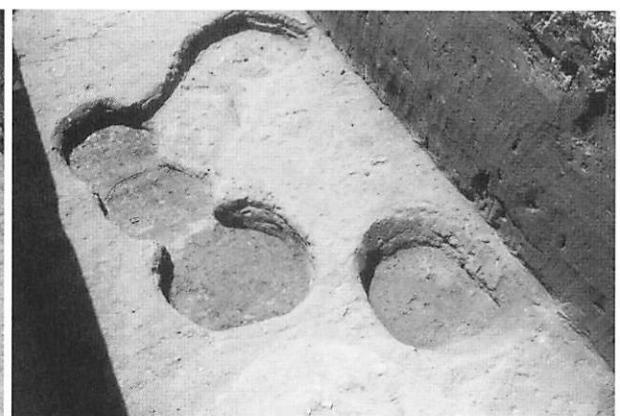
1. T-3 全景 (東から)



2. T-3 全景 (西から)



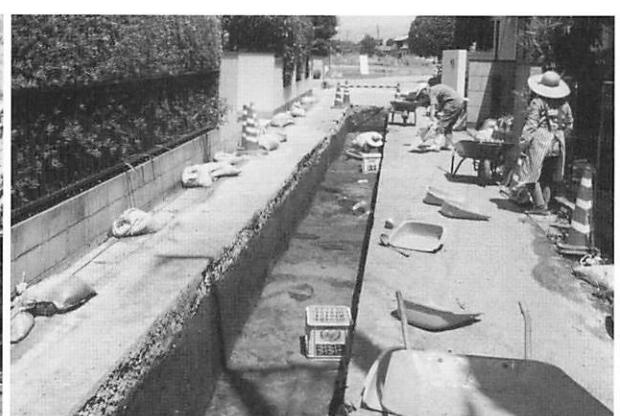
3. T-3 土坑 SK-14 断面 (東から)



4. T-3 柱穴 PIT-42 ~ 44 検出 (南東から)

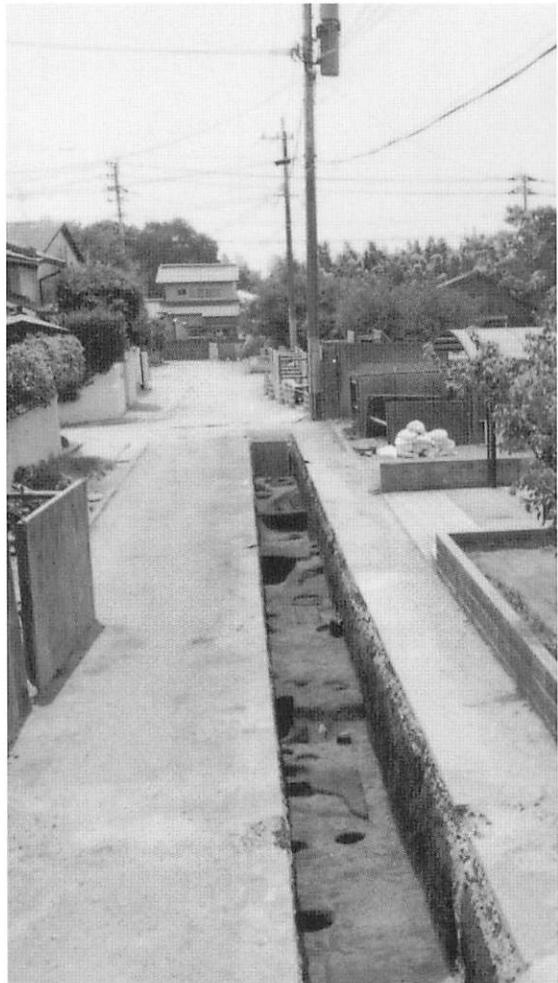


5. T-2 土坑 SK-24 ~ 25 完掘 (南東から)

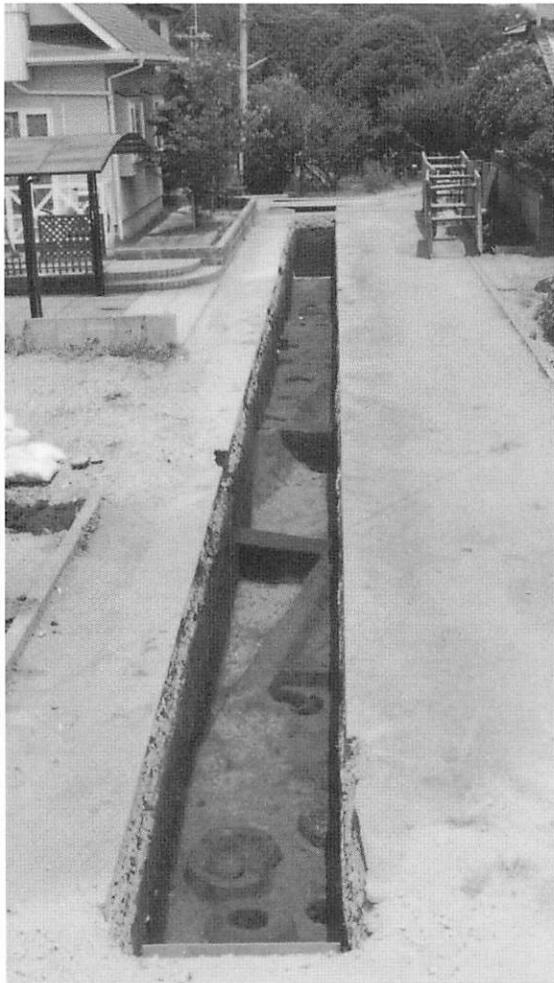


6. T-3 作業風景

図版6 第52次調査4 トレンチ (T-4)



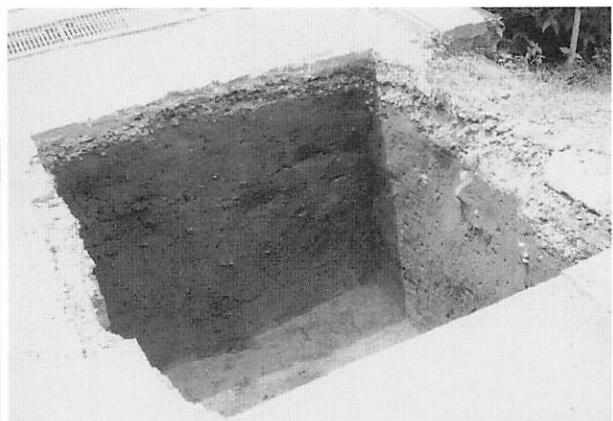
1. T4-2 全景 (北から)



2. T4-2 全景 (南から)



3. T4-1 完掘 (南東から)



4. T4-1 西壁 (南東から)



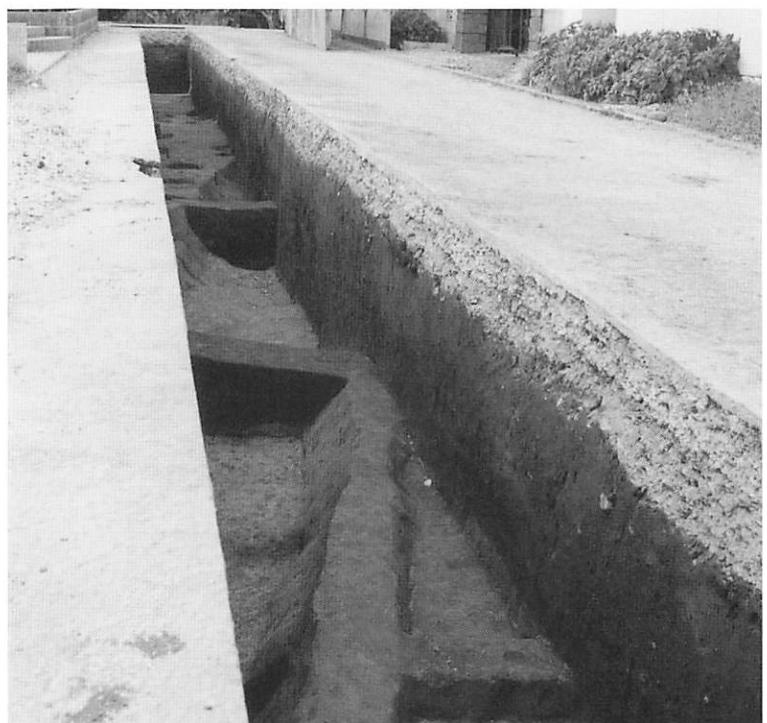
5. T4-3 完掘 (南西から)



6. T4-3 土坑 SK-92 (南西から)



1. T4-2 溝 SD-65 (北東から) 手前が 11m セクション



2. T4-2 溝 SD-65 (南西から) 手前が 7m セクション



3. T4-2 溝 SD-65 11m セクション南壁 (南西から)

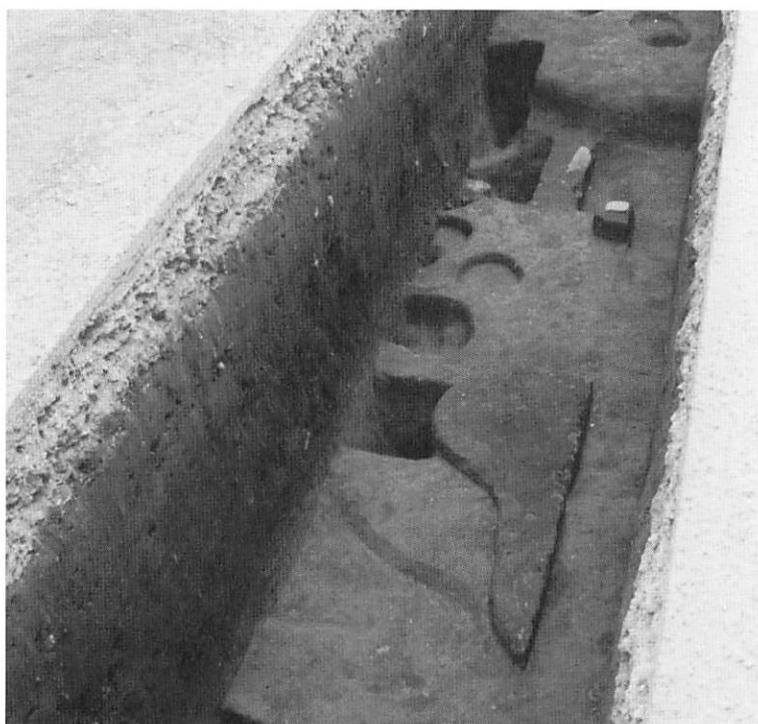


4. T4-2 溝 SD-65 7m セクション南壁 (南西から)

図版8 第52次調査4トレンチ (T4-2)



1. T4-2 土坑 SK-67 (南から)



2. T4-2 住居 SH-68 と炉 (南東から)



3. T4-2 住居 SH-61 (北東から)

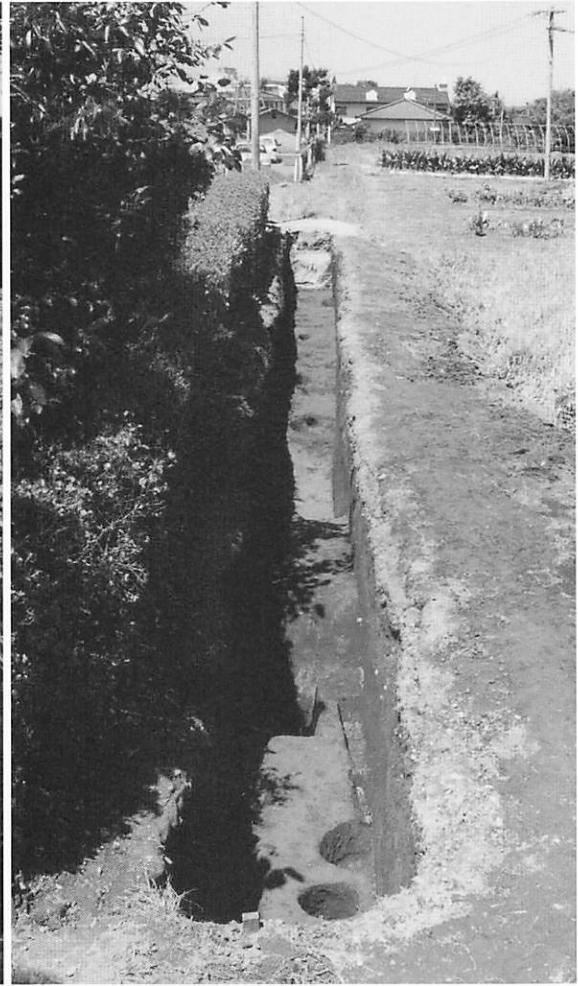


4. T4-2 住居 SH-70 東断面 (南西から)

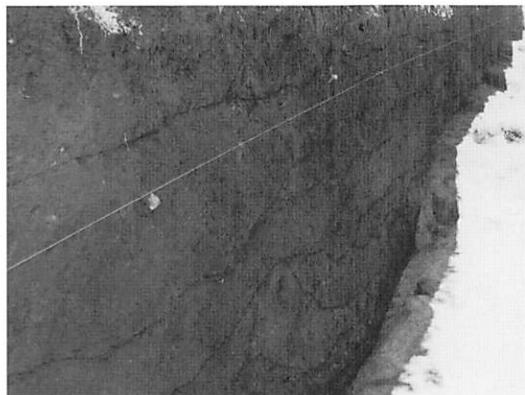
図版9 第52次調査5トレンチ (T5-1・2)



1. T5-2 全景 (西から)



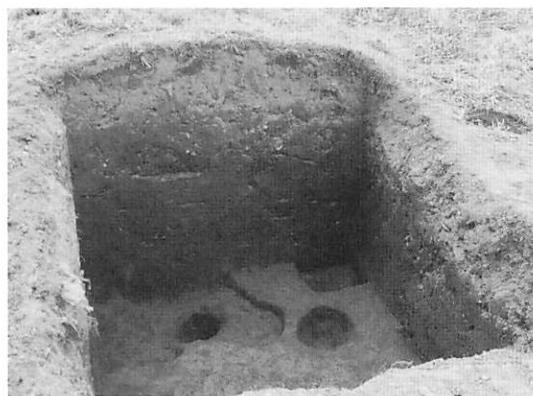
2. T5-2 全景 (東から)



3. T5-2 溝 SD-114 (北東から)



4. T5-2 溝 SD-119 (東から)



5. T5-1 全景 (東から)



6. T5-1 検出作業 (南西から)

図版10 第52次調査5トレンチ (T5-3)



1. T5-3 全景 (西から)



2. T5-3 全景 (東から)



3. T5-3 土坑 SK-132 (北西から)



4. T5-3 溝 SD-143 (東から)



5. T5-3 溝 SD-133 (北西から)



6. T5-3 東端付近 (東から)



1. T-6 全景 (東から)



2. T-6 南壁 (北から)

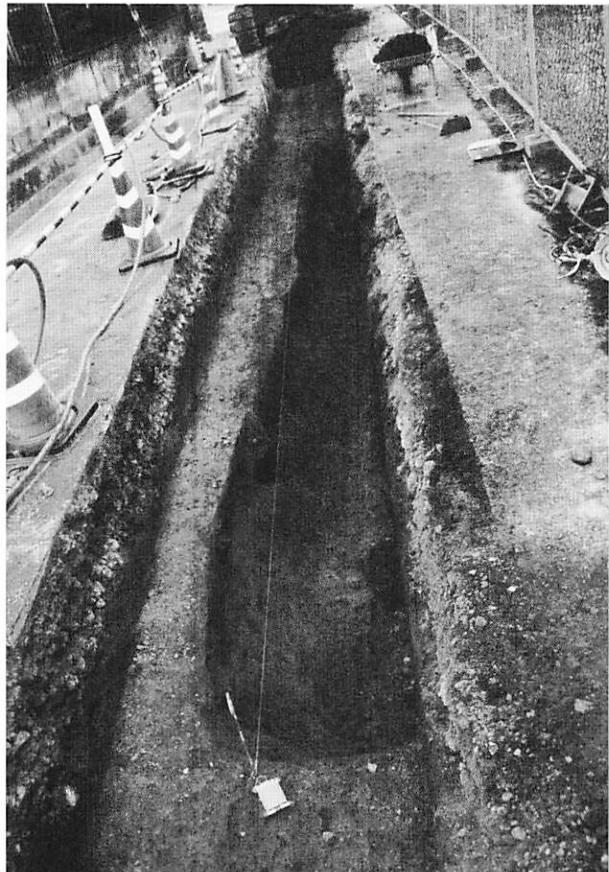


3. 248工区立会 (南から)



4. 248工区立会 (北から)

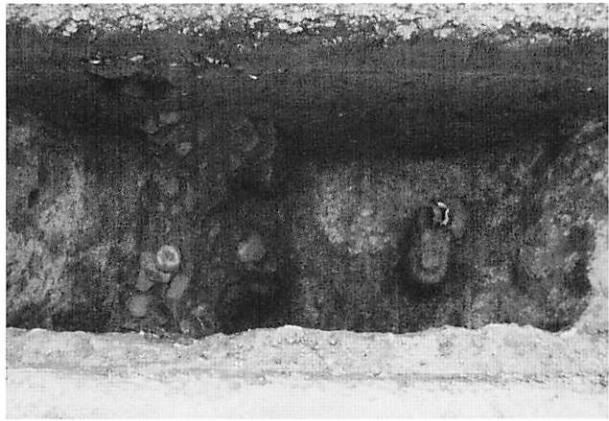
図版12 平成9年度8工区・5工区



1. 8工区T-1溝 (12.5m付近、西から)



2. 8工区T-2柱穴 (30m付近、東から)



3. 8工区T-2 1号溝 (68m付近、北から)



4. 8工区T-1作業風景 (東から)



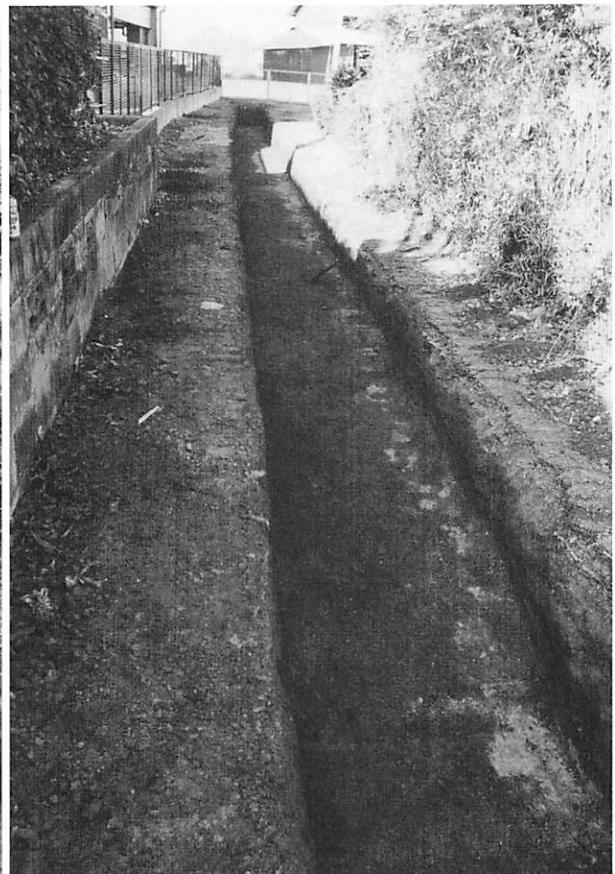
5. 5工区立坑掘削 (132番地付近、南から)



6. 5工区立坑掘削 (110-2番地付近、南西から)



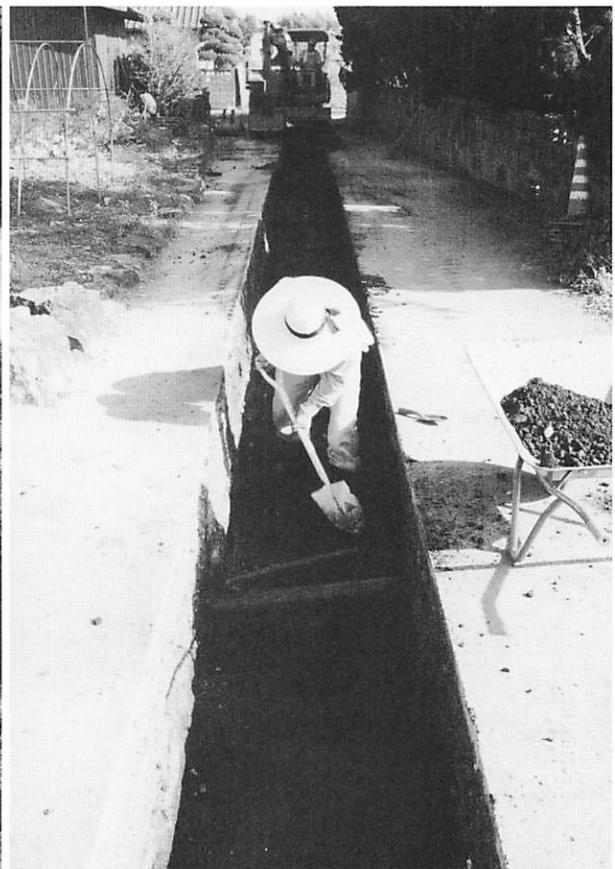
1. 31 工区検出作業（北側、南東から）



2. 31 工区検出（北側、南東から）



3. 31 工区溝（北側、南東から）



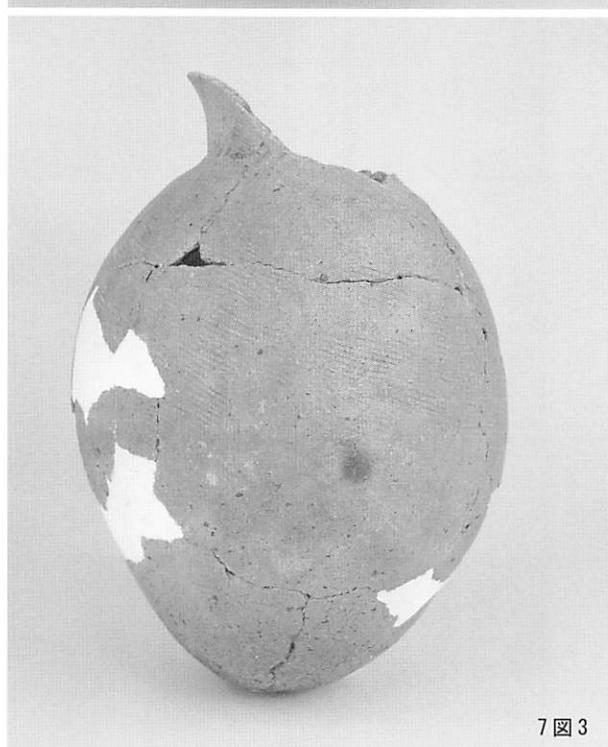
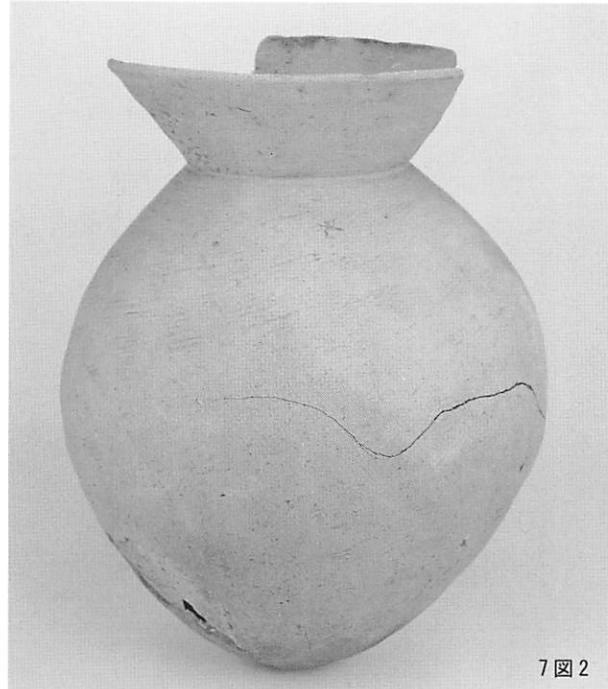
4. 31 工区検出作業（南側、北東から）

図版14 第52次調査出土遺物 (1 トレンチ溝 SD-1・SD-4)

T-1, SD-1

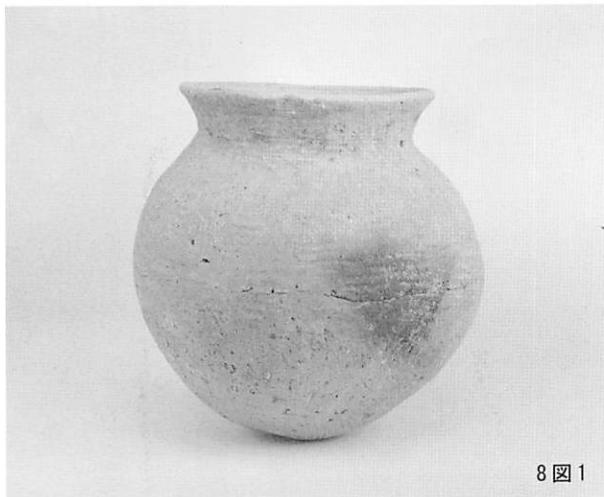


T-1, SD-4



6図5

図版 15 第 52 次調査出土遺物 (1 トレンチ溝 SD-4)



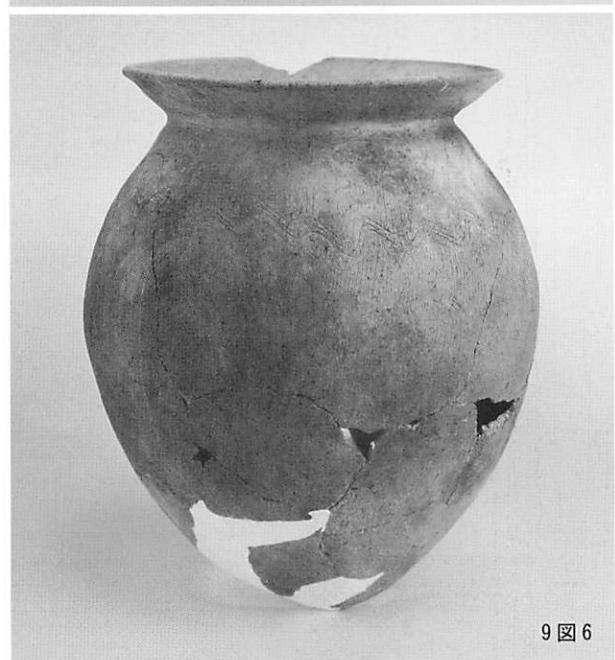
8図1



8図11



8図3



9図6



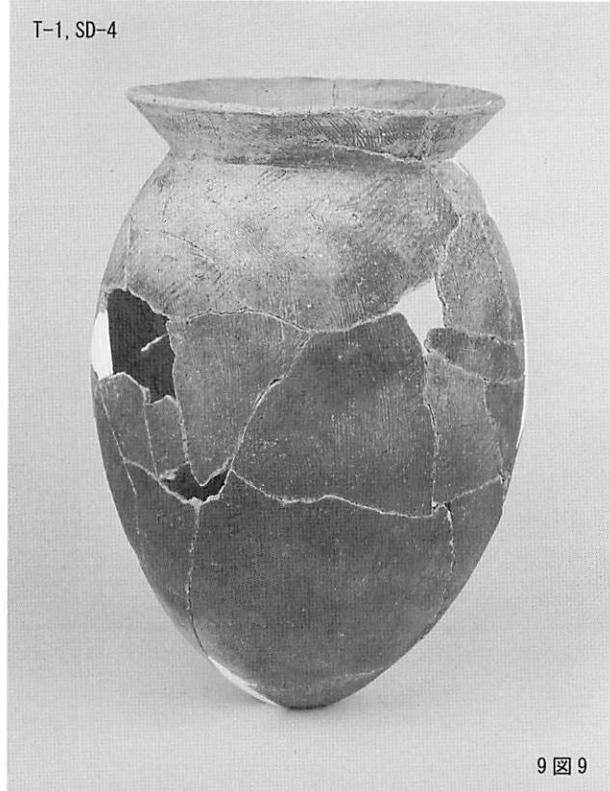
8図4



9図8

図版16 第52次調査出土遺物 (1・2・3・4トレンチ)

T-1, SD-4



T-2, SH-7



T-3



T4-2, SK-67



22図16

22図19

23図1

22図17

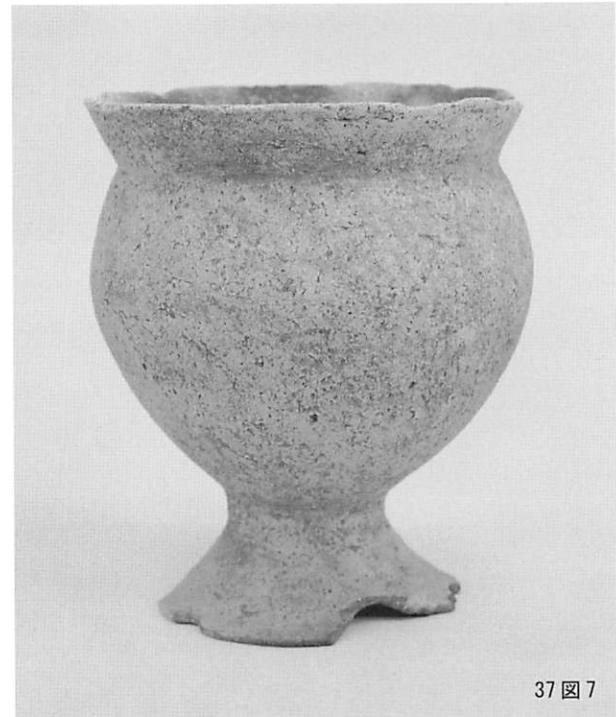
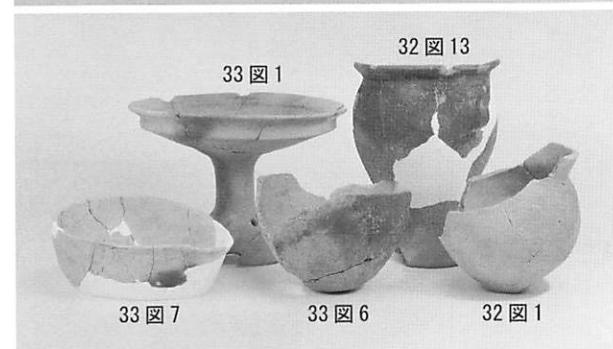
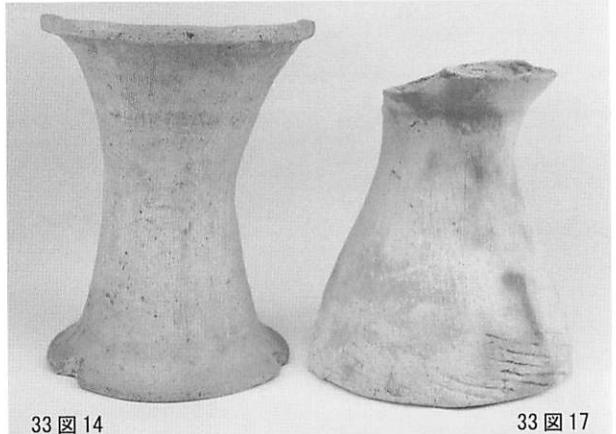
23図5

23図2

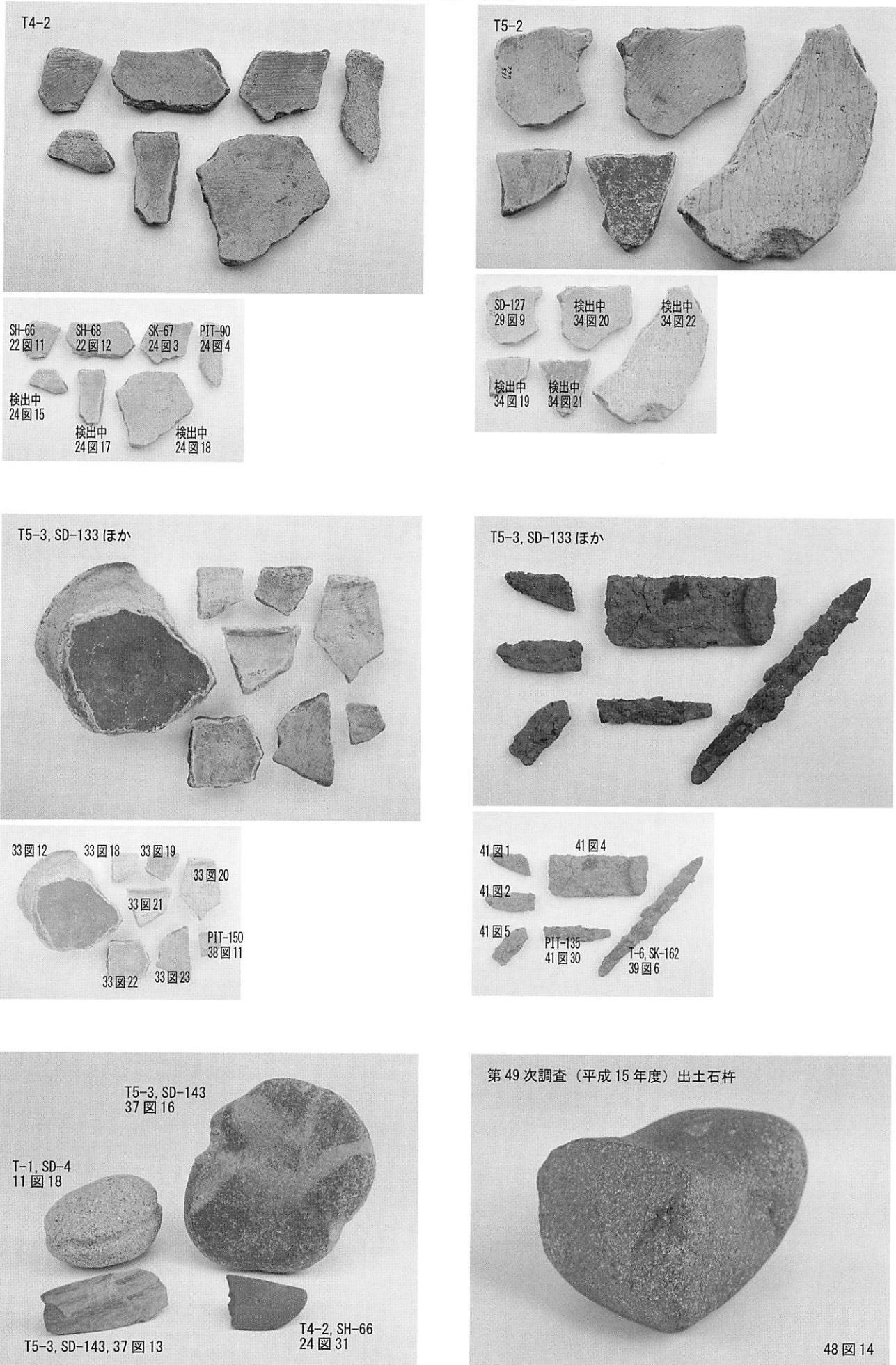
22図4

23図3

図版17 第52次調査出土遺物 (5トレンチ溝SD-133・134)



図版 18 第 52・49 次調査出土遺物（赤色顔料付着土器・鉄器・石器）



報告書抄録

ふりがな	かとうだ ひがしばる いせき
書名	方保田東原遺跡12
副書名	都市計画（公共下水道）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	山鹿市文化財調査報告書
シリーズ番号	第10集
編著者名	宮崎 歩
編集機関	山鹿市教育委員会事務局教育部文化課
所在地	〒861-0382熊本県山鹿市方保田128（出土文化財管理センター） 電話0968-46-5512
発行年月日	2009年3月31日

所収遺跡	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
方保田 東原 (52次)	熊本県山鹿市 方保田字東原 21番地先	43208 -179	32° 59'	130° 43' 53"	2004/6/14～ 2004/10/6	271m ²	下水道 工事

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
方保田東原 第52次調査 (平成16年度2工区)	集落	弥生後期後半 ～古墳初頭	住居11 土坑13 溝11	土器(弥生土器、古式土師器、須 恵器、土師器)528.9kg 鉄製品(56点) 赤色顔料関連遺物 (朱・ベンガラ付着土器片23点)
平成9年度5・8工区				
平成11年度31工区				
平成12年度8工区				

要約
下水道工事に伴う発掘調査…第52次調査（平成16年度2工区）；幅約1m、延長223m。調査区幅員狭小のため遺構の判断、掘削、記録が困難であった。搅乱されるも遺構・遺物は豊富で弥生後期後半～古墳初頭が中心。住居は調査区北部に多いが時期など内容の詳細は不明。溝はほとんど南北方向をとり調査区西部で多重、居住域の西側を区画するものか。SD-143は南北で延長確認、最長200m以上の可能性。在地土器と少量の搬入土器・鉄製品などが出土した。
下水道工事に伴う立会い…平成9年度5工区；市道の地下推進立坑。県道下のマンホールで溝断面を確認。9年度8工区；ほぼ南北の溝（延長不明）、土坑など。11年度31工区；溝、土坑。第11次調査方形周溝墓の北延長か。12年度8工区；北東方向の溝（東の第41次3号溝と接続か）。

山鹿市文化財調査報告書 第10集
方保田東原遺跡12

平成21年3月31日

編 集 山鹿市教育委員会事務局教育部文化課

〒861-0382山鹿市方保田128

(山鹿市出土文化財管理センター内)

発 行 山鹿市教育委員会

〒861-0501山鹿市山鹿1026-2

印 刷 株式会社 大和印刷所

仕様 印刷 オフセット

規格 A4版

組版 電子組版 本文横組み2段(21字50行)、14級明朝体

製版 カラー図版 200線4色

モノクロ図版 200線1色

製本 無線綴じ

用紙 表紙 アートポスト220kg/m²

見返し 色上質 特厚口

カラー図版 アート110kg/m²

本文 マットアート90kg/m²

正誤表

『方保田東原遺跡12』 山鹿市文化財調査報告書 第10集 熊本県山鹿市教育委員会2009年

本文中

頁	左右	行 図番	誤	正
2		2 図	11年度8工区 (P.49参照 9年度8工区の南西部	12年度8工区
10		29 行	土製円盤の一部(15図11・12)	土製円盤の一部(15図10・11)
10		45 行	短頸壺(15図10)が出土。	短頸壺(15図9)が出土。
21	右	8 行	顔料は朱か。	顔料はベンガラと思われる。
23		34 行	鉄器(40図16・17)がある。	鉄器(40図15・16)がある。
44	右	19・20行	ヤリガンナ基部(40図3)、鎌(40図4)と	ヤリガンナ基部(40図4)、鎌(40図5)と
45		39 図 6	(図中に出土地未記載)	SK-162
46		40 図 20	PIT-92	PIT-91
47		41 図 18	T-5-3 SD-133	T-5-3 SD-138

遺物観察表

頁	左右	行 図番	誤	正
62		7 図 5	黒斑 有 煤 無	黒斑 無 煤 有
64		11 図 4	袋番号 9	袋番号 91
64		14 図 8	脚部のみ記載	下表と差し替え
65		15 図 4	備考 穿孔4個	削除
65		15 図 5	備考 空欄	備考 穿孔4個
65		15 図 6	備考 口縁内面に貼付円文	削除
65		15 図 7	備考 空欄	備考 口縁内面に貼付円文
66		18 図 16	遺構名 T-3 P-42 部位 破片	遺構名 T-3 P-44 部位 ほぼ完形
66		18 図 3	図No 40 番号1	図No 56 番号2
66		18 図 4	図No 43 番号1	図No 56 番号3
66		18 図 5	図No 44 番号2	図No 56 番号4
66		18 図 6	図No 44 番号1	図No 53 番号1
66		18 図 7	図No 47 番号1	図No 60 番号1
66		18 図 8	図No 43 番号2	図No 60 番号2
66		18 図 9	図No 48 番号3	図No 59 番号3
66		18 図 10	図No 44 番号3	図No 59 番号4
66		18 図 11	図No 48 番号1	図No 61 番号1
66		18 図 13	図No 50 番号4	図No 59 番号5
66		18 図 14	図No 50 番号3	図No 56 番号5
66		18 図 15	図No 59 番号1	図No 57 番号1
66		18 図 16	図No 52 番号1	図No 53 番号2
66		18 図 17	図No 52 番号2	図No 61 番号2
66		18 図 18	図No 48 番号4	図No 58 番号2
66		18 図 19	図No 52 番号4	図No 58 番号3
66		18 図 20	図No 48 番号2	図No 61 番号3
66		18 図 21	図No 48 番号6	図No 61 番号4
66		18 図 22	図No 48 番号5	図No 63 番号2
66		18 図 23	図No 50 番号2	図No 63 番号1
66		19 図 1	図No 50 番号1	図No 62 番号2
66		19 図 2	図No 52 番号3	図No 62 番号4
66		19 図 3	図No 56 番号1	図No 54 番号3
66		19 図 4	図No 59 番号2	図No 55 番号3
67		22 図 11	遺構名 T4-2 SD-65	遺構名 T4-2 SH-66
67		22 図 12	遺構名 T4-2 SD-65	遺構名 T4-2 SH-68
69		24 図 6	袋番号 1	袋番号 420
75		35 図 1	煤 無	煤 有
75		35 図 9	煤 無	煤 有
77		38 図 10	遺構名 T5-3 SD-147	遺構名 T5-3 P-147
80		46 図 19	器高17.0	器高1.7

遺物観察表

頁	左右	行 図番	誤	正
80・81		47 図 1~6	963番地	平成11年度 31工区(北)
81		47 図 7	備考 頸部突帯に工具による押圧	削除
81		47 図 8	煤 無	煤 有
83		39 図 6	厚さ1.1	厚さ0.4
83		40 図 23	T-4-2	T-4-2 包含層
83		41 図 1・2	T-5-3	T-5-3 SD-133
83		41 図 18	T-5-3 SD-133	T-5-3 SD-138
84		41 図 21	厚さ10.8	厚さ0.3
84		41 図 31	T-5-3	T-5-3 包含層
84		48 図 17	厚さ10.0	厚さ1.0
84		24 図 31	長さ3.5 重量19.7	長さ5.3 重量197.0
84		34 図 7	長さ18.5 幅7.8 厚さ1.4 重量472.0	長さ19.2 幅15.7 厚さ9.0 重量4720.0
84		34 図 8	厚さ0.6	厚さ0.6~2.1
84		37 図 16	長さ12.0 幅4.5 重量1.04	長さ14.5 幅12.0 重量1040.0
84		46 図 20	幅62	幅6.2
84		48 図 14	空欄箇所	長さ13.1 幅7.9 厚さ7.0 重量1160.0 備考 ベンガラ付着

差し替え表

図番号	遺構名	取上 げ番 号	器種	部位	口径 ()は 復元	器高	色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	黒斑	煤	備考	図No.	番号
14図8	T-2 SH-7	166 167	甕	胴部下位を 欠く	(17.8)	不明	灰白色 10YR8/2	良好	良好	ナデ-タタキ後ハケ- ナデ	ナデ-ハケ-摩滅し ている為不明瞭- ナデ	有	無		51	1・2

文化財調査報告の電子書籍の末尾に挿入する奥付

この電子書籍は、『山鹿市文化財調査報告第 10 集 方保田東原遺跡 12』を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

なお、平成 17 年(2005)に山鹿市、鹿北町、菊鹿町、鹿本町、鹿央町が合併し山鹿市となりました。調査記録及び出土遺物は、山鹿市教育委員会が保管しています。

書名:山鹿市文化財調査報告第 10 集 方保田東原遺跡 12

発行:山鹿市教育委員会

〒861-0592 熊本県山鹿市山鹿 987 番 3

電話: 0968-43-1651

URL:<https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日:2025 年6月 19 日